美通遺跡（みとおしいせき）B区

一般国道139号（都留バイパス）建設に伴う発掘調査報告書

2011.3

山梨県教育委員会
国土交通省　関東地方整備局

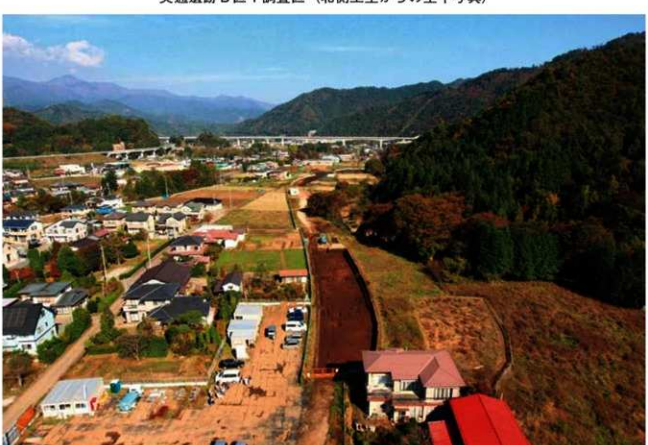
美通遺跡（みとおしいせき）B区

一般国道139号（都留バイパス）建設に伴う発掘調査報告書

2011.3

山梨県教育委員会
国土交通省　関東地方整備局

美通遺跡Ｂ区１調査区（北側上空からの空中写真）



美通遺跡Ｂ区３調査区（南側上空からの空中写真）

B区１　１号住居跡出土土器

B区１　１号住居跡出土土器（石囲い炉内出土）

B区１　１号住居跡出土土器

B区２　２号住居跡出土土器

B区３　19号土坑出土土器

B区３　13号土坑出土土器

B区４　出土土器

B区４　２号住居跡出土土器（浅鉢）

イノシシ形装飾（浅鉢口縁部左側）

イノシシ形装飾（浅鉢口縁部右側）

B区４　９号土坑出土土器

B区４　17 号土坑出土土器

美通遺跡Ｂ区のあらまし

美通遺跡は、山梨県都留市井倉地内にある遺跡です。国道 139 号線（都留バイパス）の建設工事に伴って、平成 20 年から 22 年の 3 年にわたり発掘調査が行われました。

美通遺跡の発掘調査は、都留バイパスの建設予定地内の南北約 600 ｍの区間で行われ、調査区が南側からＡ区、Ｂ区、Ｃ区に分かれています。さらに、Ｂ区の中も調査が行われた年度などによって、北側からＢ区１～４に分かれています。ここではＢ区の各区ごとに発掘調査の主な成果を紹介します。

美通遺跡Ｂ区１の調査

Ｂ区１調査区は、ほとんどの部分が猿橋溶岩によって覆われていました。猿橋溶岩は約 8,000 年前に富士山から流れてきた溶岩で、大月市猿橋まで流れています。溶岩のない北東側の地点から、縄文時代中期後半（約 4,000 年前）の住居跡などが発見されました。

平らな石を敷いた敷石住居と呼ばれる住居跡です。住居跡の中からは壺の形をした土器がまるで置かれていたような状態で出土しました。

美通遺跡B区２の調査

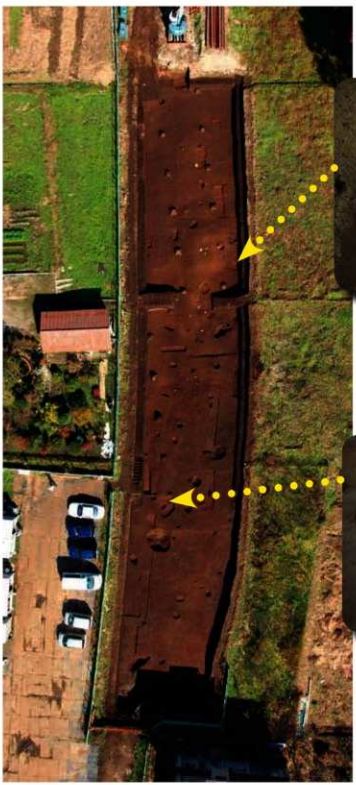
B区２調査区は、B区１調査区から南へ約 75 m離れた地区になります。B区１とB区２の間には、猿橋溶岩が流れており、B区２の北側でもその一部が確認されました。B区２からは、縄文時代前期中葉（約 5,500 年前）や前期後半（約 5,200 年前）、中期後半（約 4,000 年前）の住居跡や穴に大量の石が詰め込まれた集石土坑（しゅうせきどこう）が発見されました。集石土坑はB区１やB区３でも発見されています。

縄文時代前期中葉の竪穴住居跡です。中央に床面が焼けた炉の跡があります。

集石土坑は、石蒸し料理をした跡ではないかと考えられています。この土坑（穴）の中からは大量の石とともに炭が見つかりました。炭の年代測定を行ったところ、縄文時代前期後半頃との結果が出ました。

美通遺跡B区３の調査

B区３調査区は、B区２調査区の南側に接した地区です。B区３からは、縄文時代前期中葉（約５，５００年前）の土坑墓や地面に石を集めた集石遺構、縄文時代前期末（約5,000年前）の住居跡などが発見されました。



B区３　２面19号土坑

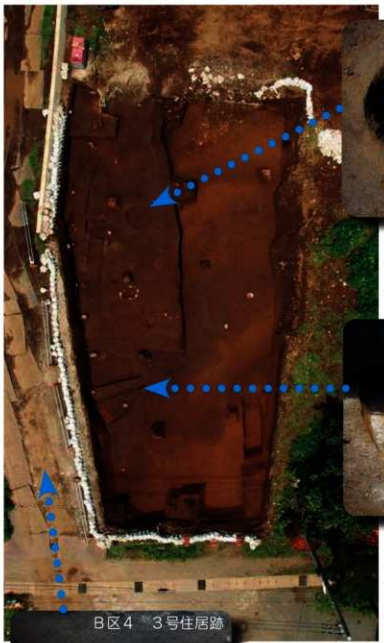
土坑墓はお墓の跡です。土坑の中からは大きな土器が押しつぶされた状態で出土しました。この土器は縄文時代前期中葉に作られた釈迦堂Ｚ３式土器と呼ばれる山梨県独特の土器です。

B区３　２面13号土坑

土坑の中央から埋められた縄文時代前期末の土器が出土しました。この時期には、土器を埋めて住居跡の炉とすることが多いので、この土坑も住居跡である可能性があります。

美通遺跡B区４の調査

B区４調査区は、B区３調査区に南側にあたり、B区の一番南側に位置しています。B区４からは、縄文時代中期中葉（約 4,500 年前）の住居跡や、弥生時代前期（約 2,100 年前）の土坑墓（どこうぼ）などが発見されました。



弥生時代前期の土坑墓（お墓の跡）です。土坑の中からは甕形（かめがた）の土器とともに鏃（やじり）などの石器が出土しました。

縄文時代中期中葉の住居跡です。住居跡は西側の調査区外へ広がっています。床面の細い溝は土の堆積状況を観察するために掘ったものです。

西側の工事用道路の下からも、縄文時代中期中葉の住居跡が発見されました。住居跡の床面から火を使った痕跡である焼土（しょうど）が見つかりました。

序　文

本書は、一般国道139号（都留バイパス）の建設工事に伴い、平成20年度から22年度にかけて発掘調査を行った美通遺跡B区の調査報告書です。

美通遺跡は、都留市井倉地内に位置しており、遺跡の中を通過する都留バイパス南北約600ｍのルート上を、南側からA区、B区、C区の３地区に分けて調査を行いました。

調査の結果、B区からは、縄文時代早期後半～前期初頭の焼土遺構や集石土坑、前期中葉の竪穴住居跡や土坑、集石遺構、前期後半の竪穴住居跡や集石土坑、土坑、前期末の竪穴住居跡や土坑、中期中葉の竪穴住居跡や土坑、中期後半の竪穴住居跡（敷石住居）、弥生時代前期の土坑などを発見しました。また、B区の北側では、約8,000年前に流出したとされる猿橋溶岩を確認しています。

縄文時代前期中葉の土坑からは、釈迦堂Ｚ３式の土器が出土し、上層に集石が見られる土坑も検出しました。また、縄文時代中期中葉の住居跡からは土偶の足部が、中期後半の敷石住居からは曽利Ⅳ式の壺形土器が出土し、弥生時代前期の土坑からは、甕形土器とともに石鏃や打製石斧が出土するなど、各時期における祭祀行為や葬送儀礼を研究する上で、貴重な資料となる発見がありました。

美通遺跡は、既に存在が確認されていた周知の遺跡であり、周辺から採取された遺物によって、異なる時期の遺跡が複数存在する複合遺跡であることが推測されていました。今回の発掘調査において、B区からは、縄文時代早期から中期、弥生時代前期、さらにA区、C区からは、奈良・平安時代の遺構や遺物を検出しており、部分的ではありますが、美通遺跡における各時期の変遷過程が明らかになりました。

別冊となる「美通遺跡A・C区」の調査報告書（2011.3刊行）とともに、本報告書が、遺跡周辺および本県の歴史・文化財に関する学習や研究において、貢献できれば幸いに思います。

最後に、国土交通省 関東地方整備局をはじめ、調査にあたって御協力いただいた関係者、関係機関に厚くお礼を申し上げます。

２０１１年３月

山梨県埋蔵文化財センター
所長　小野正文

例　言

1　本書は、山梨県都留市井倉に存在する美通遺跡B区の発掘調査報告書である。
2　本書は、国道139号（都留バイパス）建設に伴う事前調査であり、国土交通省 関東地方整備局より山梨県教育委員会が委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが調査を実施したものである。
3　発掘調査および整理作業は山梨県埋蔵文化財センターが行った。担当者は第１章第５節に記載する。
4　本書の執筆は第１章、第３章第１・２節、第３章第３節のB区１～３、第５章を依田幸浩、第２章を塩谷風季、第３章第３節のB区４部分を笠原みゆきが執筆した。また、第４章をパリノ・サーヴェイ株式会社の報告書から転載した。本書の編集は依田幸浩が行った。
5　発掘調査・整理作業および本書の刊行にあたり、自然化学分析をパリノ・サーヴェイ株式会社に、石器実測図の作成・トレースおよび石器観察表作成を株式会社アルカに、測量基準点を昭和測量株式会社に、遺跡の空中写真撮影および写真測量・図化を株式会社シン技術コンサルと株式会社東京航業研究所に、一部の遺物の写真撮影をスタジオトータルアイに委託した。
6　遺跡における遺構等の写真については、B区１・２（平成20年度）を三田村美彦・田口明子・堀込紀行・正木季洋、B区３（平成21年度）を石井 明・依田幸浩、B区４（平成22年度）を笠原みゆき・石井 明・堀込紀行が撮影した。遺物の写真は、依田・スタジオトータルアイが撮影し、実測を委託した石器については、株式会社アルカ撮影の写真を使用した。また、遺跡の空中写真は株式会社シン技術コンサル（B区１．２）、株式会社東京航業研究所（B区３・４）撮影の写真を使用した。
7　本書に係る記録図面、写真、出土遺物等は山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
8　調査にあたり、次の方々からご教示・ご協力をいただいた。記して謝意を表する。（順不同、敬称略）
上杉　陽　内山　高　櫛原功一　奥水達司　篠原　武　杉本悠樹　都築恵美子　新津みどり　野崎　進
平山尚言　福田正人　森屋雅幸　矢野久幸

凡　例

1　遺構・遺物図面の縮尺は図中に示した。
2　住居跡や土坑などの遺構番号は、B区１・２では通し番号となっており、B区３・４では各区ごとに順次付したものである。
3　調査区内には世界測地系座標に基づく５m四方のグリッドを設定しており、全体図（第２図）におけるX・Y軸延長線上の数字は座標線の数値である。よって南北のグリッド線および図中の北印は真北を指す。
4　遺物図版中のドットマークや出土遺物に付した番号は、遺物図版の番号に対応している。
5　遺構断面図の左側基点に付した数字は標高（m）を表す。
6　遺構図版中の★マークは炭素14年代測定の試料とした炭化材の採取地点を示す。
7　遺構図版中に用いたスクリーントーンが表す内容は以下のとおりである。
：焼土、酸化土壌　：炭化物・炭化材、炭化土壌
8　遺物図版中の断面に用いたスクリーントーンが示す内容は以下のとおりである。
：繊維土器　：須恵器
9　遺物観察表の括弧つき数値は推定値である。

目　次

巻頭写真図版
あらまし
序文
例言・凡例
目次

第１章　調査の経緯と概要
第１節　調査に至る経緯 ・・・・・・ 1
第２節　調査の目的と課題 ・・・・・・ 1
第３節　発掘調査の経過 ・・・・・・ 1
第４節　室内調査等の経過 ・・・・・・ 2
第５節　調査組織 ・・・・・・ 3

第２章　遺跡周辺の環境と歴史
第１節　地理的環境 ・・・・・・ 4
第２節　歴史的環境 ・・・・・・ 4

第３章　調査の方法と成果
第１節　発掘調査の方法 ・・・・・・ 8
第２節　基本層位 ・・・・・・ 8
第３節　発見された遺構と遺物 ・・・・・・ 9
遺構図版 ・・・・・・ 23
遺物図版 ・・・・・・ 68
土坑・ピット一覧表 ・・・・・・ 120
溝状遺構一覧表 ・・・・・・ 122
土器・土製品観察表 ・・・・・・ 123
石器観察表 ・・・・・・ 140

第４章　自然化学分析
第１節　美通遺跡（Ｂ区１・Ｂ区２）の自然化学分析 ・・・・・・ 143
第２節　美通遺跡（Ｂ区３）の自然化学分析 ・・・・・・ 147
第３節　美通遺跡（Ｂ区４）の自然化学分析 ・・・・・・ 155

第５章　総括 ・・・・・・ 163

写真図版 ・・・・・・ 167

図版目次

第1図　美通遺跡と周辺の遺跡位置図 ・・・・・・・・・ 6
第2図　美通遺跡B区全体図 ・・・・・・・・・・・ 21・22
第3図　調査区位置図 ・・・・・・・・・・・・・・ 21・22
第4図　B区1　全体図（1） ・・・・・・・・・・・・ 23
第5図　B区1　全体図（2） ・・・・・・・・・・・・ 24
第6図　B区1　1号住居跡（1） ・・・・・・・・・・ 25
第7図　B区1　1号住居跡（2） ・・・・・・・・・・ 26
第8図　B区1　1・5号集石土坑、1・3・4号土坑 ・ 27
第9図　B区1　26～30・34～36号土坑、1～5号土坑 ・ 28
第10図　B区1　調査区西壁セクション（2号土坑） ・・ 29
第11図　B区1　調査区北・東壁セクション（4・5号土坑、
36号～38号土坑）、調査区西壁セクション・ 30
第12図　B区2　全体図（1） ・・・・・・・・・・・・ 31
第13図　B区2　全体図（2） ・・・・・・・・・・・・ 32
第14図　B区2　2号住居跡 ・・・・・・・・・・・・ 33
第15図　B区2　3号住居跡 ・・・・・・・・・・・・ 34
第16図　B区2　4号住居跡 ・・・・・・・・・・・・ 35
第17図　B区2　2号集石土坑 ・・・・・・・・・・・ 36
第18図　B区2　3・4号集石土坑 ・・・・・・・・・ 37
第19図　B区2　6・7号集石土坑、5～8号土坑 ・・・ 38
第20図　B区2　9～16号土坑 ・・・・・・・・・・・ 39
第21図　B区2　17～25・31～33・39号土坑 ・・・・・ 40
第22図　B区2　40～45号土坑 ・・・・・・・・・・・ 41
第23図　B区2　46・47・49・50号土坑、6号焼土、1号溝 ・ 42
第24図　B区3　全体図（1） ・・・・・・・・・・・・ 43
第25図　B区3　全体図（2） ・・・・・・・・・・・・ 44
第26図　B区3　全体図（3） ・・・・・・・・・・・・ 45
第27図　B区3　全体図（4） ・・・・・・・・・・・・ 46
第28図　B区3　1画1号集石土坑、1号集石（1） ・・ 47
第29図　B区3　1画1号集石（2）、2号集石、
3号集石（1） ・・・・・・・・・・・・ 48
第30図　B区3　1画3号集石（2）、4号集石 ・・・・ 49
第31図　B区3　1画5号集石、1～3号土坑 ・・・・・ 50
第32図　B区3　1画1・3号ピット、焼土遺構、
遺物出土状況、礫検出状況 ・・・・・ 51
第33図　B区3　2画1号住居跡、1～3号土坑 ・・・・ 52
第34図　B区3　2画4～8号土坑 ・・・・・・・・・・ 53
第35図　B区3　2画9～12号土坑、13号土坑（1） ・・ 54
第36図　B区3　2画13号土坑（2）、14・15号土坑 ・・ 55
第37図　B区3　2画16～19号土坑 ・・・・・・・・・ 56
第38図　B区3　2画20～26号土坑、9号ピット ・・・・ 57
第39図　B区3　2画5～8・10・11号ピット ・・・・・ 58
第40図　B区3　1号溝状遺構 ・・・・・・・・・・・・ 59
第41図　B区4　全体図 ・・・・・・・・・・・・・・・ 60
第42図　B区4　1・2号住居跡、1号焼土、2号焼土 ・ 61
第43図　B区4　1～4・6・7・10号土坑、1号溝、
1号ピット ・・・・・・・・・・・・ 62
第44図　B区4　5・8・11・12・14号土坑、10号溝 ・・ 63
第45図　B区4　9・13・22号土坑、5・8号溝 ・・・・ 64
第46図　B区4　9号土坑 ・・・・・・・・・・・・・・ 65
第47図　B区4　17・18号土坑 ・・・・・・・・・・・ 66
第48図　B区4　15・16・20号土坑、4号ピット、
2～4・6・7・11・12号溝 ・・・・・ 67
第49図　B区1　出土遺物（1号住居跡） ・・・・・・・ 68
第50図　B区1　出土遺物（1号住居跡、1号集石土坑） ・ 69
第51図　B区1　出土遺物（4・35号土坑、5号焼土、
遺構外） ・・・・・・・・・・・・・ 70
第52図　B区1　出土遺物（遺構外） ・・・・・・・・・ 71
第53図　B区1　出土遺物（遺構外） ・・・・・・・・・ 72
第54図　B区2　出土遺物（2・3号住居跡） ・・・・・ 73
第55図　B区2　出土遺物（4号住居跡、4号集石土坑、
1号溝、遺構外） ・・・・・・・・・・ 74
第56図　B区2　出土遺物（遺構外） ・・・・・・・・・ 75
第57図　B区2　出土遺物（遺構外） ・・・・・・・・・ 76
第58図　B区3　出土遺物（1画集石） ・・・・・・・・ 77
第59図　B区3　出土遺物（1画3・4号集石） ・・・・ 78
第60図　B区3　出土遺物（1画4・5号集石） ・・・・ 79
第61図　B区3　出土遺物（1画5号集石、焼土遺構、
遺物出土状況） ・・・・・・・・・・ 80
第62図　B区3　出土遺物（2画1号住居跡、3～6号土坑）
・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
第63図　B区3　出土遺物（2画8・9・11号土坑） ・・ 82
第64図　B区3　出土遺物（2画13号土坑） ・・・・・・ 83
第65図　B区3　出土遺物（2画13～18号土坑） ・・・・ 84
第66図　B区3　出土遺物（2画19・20号土坑、遺構外） ・ 85
第67図　B区3　出土遺物（遺構外） ・・・・・・・・・ 86
第68図　B区3　出土遺物（遺構外） ・・・・・・・・・ 87
第69図　B区3　出土遺物（遺構外） ・・・・・・・・・ 88
第70図　B区3　出土遺物（遺構外） ・・・・・・・・・ 89
第71図　B区3　出土遺物（遺構外） ・・・・・・・・・ 90
第72図　B区3　出土遺物（遺構外） ・・・・・・・・・ 91
第73図　B区3　出土遺物（遺構外） ・・・・・・・・・ 92
第74図　B区4　出土遺物（1号住居跡） ・・・・・・・ 93
第75図　B区4　出土遺物（2号住居跡） ・・・・・・・ 94
第76図　B区4　出土遺物（3号住居跡） ・・・・・・・ 95
第77図　B区4　出土遺物（3・5・8・9号土坑） ・・ 96
第78図　B区4　出土遺物（9・13～15・17号土坑） ・・ 97
第79図　B区4　出土遺物（17・18号土坑） ・・・・・・ 98
第80図　B区4　出土遺物（18～21号土坑、1号焼土） ・ 99
第81図　B区4　出土遺物（1・2・5～7・10・11号溝、
遺構外） ・・・・・・・・・・・・・ 100
第82図　B区4　出土遺物（遺構外） ・・・・・・・・・ 101
第83図　B区4　出土遺物（遺構外） ・・・・・・・・・ 102
第84図　B区4　出土遺物（遺構外） ・・・・・・・・・ 103
第85図　B区4　出土遺物（遺構外） ・・・・・・・・・ 104
第86図　B区4　出土遺物（遺構外） ・・・・・・・・・ 105
第87図　石鏃 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 106
第88図　石鏃・石匙 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 107
第89図　削器・打製石斧 ・・・・・・・・・・・・・・ 108
第90図　打製石斧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
第91図　打製石斧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110
第92図　打製石斧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
第93図　打製石斧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 112
第94図　打製石斧・礫器 ・・・・・・・・・・・・・・ 113
第95図　礫器・摩製石斧未製品 ・・・・・・・・・・・ 114
第96図　石錘・異形石器・石皿・石錘・敲石・棲磨石・磨石
・・・・・・・・・・・・・・・・・ 115
第97図　磨石 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 116
第98図　棲磨石 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 117
第99図　台石 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118
第100図　石柱 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119
第101図　美通遺跡B区の時期別遺構・遺物分布 ・・・・ 165

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

美通遺跡は山梨県都留市井倉地内に存在する縄文時代の集落跡として周知されている遺跡である。遺跡は桂川の支流である菅野川と朝日川に挟まれた台地上に位置している。昭和11年の耕地整理の際に多量の土器片が採取され、本発掘調査以前までは、耕地整理が行われた地点を中心に菅野川の右岸周辺が遺跡の範囲として設定されていた。

今回の調査は、都留バイパス（一般国道139号）建設工事に伴う発掘調査である。都留バイパスは都留市十日市場から井倉地内を通過し田野倉に至る２車線道路として整備が進められている。井倉地内における都留バイパスのルートが美通遺跡に隣接していることから、平成19年度に工事予定地内を対象とした美通遺跡の範囲および埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査が行われた。この試掘調査の際に南側からＡ区、Ｂ区が設定された。試掘調査の結果、Ｂ区内で縄文時代の敷石住居跡、Ａ区内で奈良時代の竪穴住居跡が確認されたため、本調査を実施することとなった。また、美通遺跡の範囲が菅野川右岸から朝日川左岸の台地上一帯に修正された。

第２節　調査の目的と課題

美通遺跡は縄文時代の集落跡として周知されている遺跡であるが、本格的な発掘調査が行われるのは今回が初めてである。遺跡周辺では縄文時代早期から後期にかけての土器片などが採取されており、異なる時期の遺構や遺物が存在する複合遺跡であることが想定されていた。試掘調査においても縄文時代の敷石住居跡や奈良時代の竪穴住居跡などが確認されたことから、これらの遺構・遺物を記録保存することを目的とする。また、遺跡周辺における集落の変遷過程を解明するための資料として、各時期の遺構・遺物の分布状況を捉えることを課題とする。

第３節　発掘調査の経過

平成20年度（Ｂ区１・２の発掘調査）

本調査に先立ち、平成20年９月10日に国土交通省、学術文化財課、道路工事施工業者、埋蔵文化財センターの４者で、調査範囲・調査工程の確認、調査区およびプレハブ等設置場所の環境整備などについて現地協議を行った。

本調査は平成20年10月16日から開始した。10月16日から10月20日まで、Ｂ区１の表土剥ぎ作業を重機を用いて行った。Ｂ区１は調査区の大半が猿橋溶岩に覆われていたため、溶岩直上の表土は人力によって除去した。10月27日から30日までＢ区２の表土剥ぎ作業を重機を用いて行った。また、測量基準杭・ベンチマークの設置をＢ区１で10月26日、Ｂ区２で11月20日までに終了している。これらの作業に平行して、Ｂ区１・Ｂ区２両区で人力による遺構確認、遺構精査、遺物・遺構の測量などの作業を行い、平成21年１月15日に調査を終了した。また、各区の遺構精査完了に合わせてラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行っており、Ｂ区１は11月20日と12月18日に、Ｂ区２は12月26日に実施した。

当初は、平成20年度中にＢ区３調査区までの発掘調査を終了する予定であったが、想定された数を上回る遺構が発見されたため、平成20年11月19日に行われた協議においてＢ区３の発掘調査を翌年に繰り越すこととなった。

平成21年度（Ｂ区３の発掘調査）

Ｂ区３の本調査に先立ち、平成21年４月28日に国土交通省、学術文化財課、埋蔵文化財センターの３者で、５月20日には道路工事施工業者を加えた４者で、調査範囲・工程の確認、調査区およびプレハブ等設置場所の環境整備などについて現地協議を行った。

本調査は平成21年８月３日から開始した。重機による表土剥ぎ作業を８月３日から21日まで行った。人力によ

る遺構確認、遺構精査、遺物・遺構の測量などを10月30日まで行い、調査を終了した。また、表土剥ぎ作業の進捗状況に合わせて測量基準杭・ベンチマークの設置を段階的に行い、８月25日に設置を完了している。空中写真撮影は10月30日に行った。

平成22年度（B区４の発掘調査）

B区内に存在していた未買収地の取得が完了したことを受け、B区４として本調査を行った。

本調査に先立ち、平成22年４月８日に国土交通省、学術文化財課、道路工事施工業者、埋蔵文化財センターの４者で調査範囲・工程の確認、調査区および調査区を迂回する工事用道路等の環境整備などについて現地協議を行った。また、平成22年４月27日には国土交通省、道路工事施工業者、埋蔵文化財センターの３者で工事用道路の設置位置の確認などについて現地協議を行った。

本調査は平成22年５月27日から開始した。重機による表土剥ぎ作業を５月27日から６月２日まで行った。人力による遺構確認、遺構精査、遺物・遺構の測量などを７月27日まで行い、７月30日までに機材等の撤収を終え、調査を終了した。測量基準杭・ベンチマークの設置は６月３日に完了している。また、空中写真撮影を７月26日に行った。

なお、８月17・18日には工事用道路部分の掘削工事に伴う立会調査を行った。

第４節　室内調査等の経過

室内調査は、平成20年度にB区１・２の基礎的整理作業（平成21年１月７日～３月24日）、平成21年度にB区３の基礎的整理作業（平成22年１月日～３月26日）、平成22年度にB区４の基礎的整理作業とB区１～４の本格的整理作業（平成22年６月１日～平成23年２月16日）を行った。

各年度の作業内容は、平成20年度にB区１・２出土遺物の水洗・注記・接合作業および図面整理、平成21年度にB区３出土遺物の水洗・注記・接合作業および図面整理、平成22年度にB区４出土遺物の水洗・注記・接合作業、採取土壌の水洗選別、図面整理、B区１～４の遺物実測、遺構・遺物実測図のトレース、遺物・遺構・写真図版作成等を行った。報告書の刊行は平成23年３月25日となった。

また、整理作業の段階で抽出した各資料について、平成21年度には、自然化学分析として炭化材の炭素14年代測定・同定（B区３採取試料）、土壌の微細物分析・土壌理化学分析（B区３採取試料）、平成22年度には、石器の実測・トレース、遺物写真撮影、自然化学分析として炭化材の炭素14年代測定・同定（B区１・２・４採取試料）、土壌の理化学分析（B区４採取試料）、遺構から出土した赤色物質のX線回析分析（B区４採取試料）の業務委託を行った。

美通遺跡B区発掘調査に係る法的手続きおよび報告事項

（平成20年度）

・平成20年10月　文化財保護法第99条第２項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長へ提出

　文書番号　文書名：教埋文第462号 埋蔵文化財発掘調査の実施・報告について

・平成21年１月　文化財保護法第100条第２項に埋蔵文化財の発見通知を山梨県教育委員会教育長へ提出し、大月警察署への提出を依頼

　文書番号　文書名：教埋文第655号 埋蔵文化財の発見について

・平成20年１月　発掘調査結果報告を山梨県教育委員会教育長へ提出

　文書番号　文書名：教埋文第667号 都留バイパス建設事業に伴う発掘調査終了報告について

・平成21年３月　実績報告書を山梨県教育委員会教育長へ提出

　文書番号　文書名：教埋文第684号 美通遺跡Bの実績報告書の提出について

（平成21年度）

・平成21年６月　文化財保護法第99条第２項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長へ提出

文書番号　文書名：教埋文第254号 都留バイパス建設に伴う美通遺跡の発掘調査報告・実施について

・平成22年１月　文化財保護法第100条第２項に埋蔵文化財の発見通知を山梨県教育委員会教育長へ提出し、大月警察署への提出を依頼

文書番号　文書名：教埋文第254号-1 埋蔵文化財の発見について

・平成22年１月　発掘調査結果報告を山梨県教育委員会教育長へ提出

文書番号　文書名：教埋文第758号 都留バイパス建設事業に伴う発掘調査終了報告について

・平成22年３月　実績報告書を山梨県教育委員会教育長へ提出

文書番号　文書名：教埋文第889号 実績報告書の提出について

（平成22年度）

・平成22年５月　文化財保護法第99条第２項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長へ提出

文書番号　文書名：教埋文第138号 都留バイパス建設に伴う美通遺跡の発掘調査報告・実施について

・平成22年８月　文化財保護法第100条第２項に埋蔵文化財の発見通知を山梨県教育委員会教育長へ提出し、大月警察署への提出を依頼

文書番号　文書名：教埋文第138号-1 埋蔵文化財の発見について

・平成22年８月　発掘調査結果報告を山梨県教育委員会教育長へ提出

文書番号　文書名：教埋文第138号-3 都留バイパス建設事業に伴う発掘調査結果について

第５節　調査組織

調査主体　山梨県教育委員会

調査機関　山梨県埋蔵文化財センター

所　長　新津　健（平成20年度）　小野正文（平成21・22年度）

次　長　小野正文（平成20年度）　渡辺晶夫（平成20・21年度）　平賀孝雄（平成22年度）

調査課長　小林広和（平成20年度）　出月洋文（平成21・22年度）

調査担当者　B区１・２（平成20年度）　三田村美彦　田口明子　堀込紀行　正木季洋

B区３（平成21年度）　石井　明　依田幸浩

B区４（平成22年度）　笠原みゆき　石井　明　堀込紀行　塩谷風季

作業員

発掘調査　赤塚美弥子　阿佐美博資　天野美津子　飯寄　倖　石井　昇　石倉千春　井上健治　入倉大東　大友由貴　岡　美幸　奥秋　豪　奥脇ちよ　奥脇光夫　斧田文夫　小林昭子　小林清子　小林正彦　佐藤あさ子　佐藤　専　志村　均　鈴木英夫　高尾和美　椿　孝二　遠木常久　中野猪一郎　野表達雄　前田　章　三井孝明　武藤美子　村野貴恵子　森田晋二　渡辺めぐみ　渡邊洋一

整理作業　荒木昭彦　垣内律子　小池美保子　小林としみ　坂本幸江　佐藤あけみ　田中一秋　田中初子　千野富子　中川美千子　新津多恵　宮下真樹子　渡辺麗子

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

美通遺跡は、山梨県都留市井倉地内に位置している。美通遺跡は河岸段丘上に立地しており、遺跡東側に朝日川が、遺跡西側に菅野川が流れ、美通遺跡北側で桂川に合流している。

都留市は山梨県東部にある郡内地域に位置しており、地理的環境が甲府市などを含む山梨県中西部の国中地域とは大きく異なる。山梨県東部地域の地形は、山地と山間を流れる河川の開析が形成した平地に大別でき、山地が大半を占める。都留市もやはり山地が多くの面積を占め、平地は少ない。これらの特徴は郡内地域共通の特徴であり、美通遺跡周辺の地理的環境も同様である。

都留市域の中央部北西寄りに、富士五湖の1つ山中湖を水源とする桂川が流下している。桂川は大月市内で東流する笹子川と合流し、神奈川県内で相模川となって相模湾へと注ぐ。美通遺跡は桂川支流の朝日川の左岸に位置し、標高およそ413～418ｍ、北に緩やかに傾斜する河岸段丘面に立地している。また桂川とその支流域には河岸段丘が発達しており、美通遺跡の北方には桂川流域の河岸段丘では最大級の平坦地である大原台地がある。
美通遺跡を含む桂川流域は、河川による洗掘や磨食などの地形を変化させる作用を強く受けた地域である。
更新世からの地形形成過程を概観すると、都留市は日本列島を南北に分断する中央地溝帯と呼ばれるフォッサ・マグナの中央部に位置しており、隆起帯と沈降帯が繰り返す場となった。やがて全体として隆起を続けて、4～3万年前以降になると、特に激しく隆起し、極めて急峻な山地と渓谷が形成された。

山梨県東部地域のもう1つの特徴として、都留市南側に立地する富士山を起源とする火山灰が厚く堆積した地域であり、火山泥流や溶岩などからの影響を大きく受けていることが挙げられる。また火山灰は富士山を起源のものだけではなく広域火山灰も認められている。都留市内でも約8,000年前に流出したとされる猿橋溶岩が確認されている。桂川を流下した猿橋溶岩は大月市猿橋まで達しており、桂川流域に大きな影響を与えたと考えられている。

第２節　歴史的環境

都留市内における埋蔵文化財に係わる調査・報告は、郷土史研究家や大学の研究室によって戦前から行われている。大月市出身の仁科義男は東京帝国大学教授坪井正五郎博士を介し、明治41年東京人類学会に加わり「甲州考古余滴」という論文を著したが、本格的な学術調査を行うには至らなかった。

大正期に入ると、富士吉田市出身で教諭の羽田一成が南都留郡の考古学事情を「甲斐通信」と題し、『考古学雑誌』巻16、17、18の3回にわたり遺跡、遺物を紹介している。

昭和期には羽田一成は国史講習会の『甲斐史壇』昭和元年正月号に「神社と石器との関係」と題して、南都留郡下の石棒、石器などが神格化された地名を発表した。昭和3年には仁科義男と羽田一成が東京帝国大学編『日本石器時代人民遺物発見地名表第5版』に南北都留郡下の遺跡として、仁科が44ヶ所、羽田が76ヶ所を報告しており、これらの報告は戦後の遺跡調査の基盤となった。

都留市内出土の遺構・遺物についての学術的報告を戦後最初に行ったのが山本寿々雄である。昭和27年法能天神山から耕作中に敷石遺構が発見され、山本は甲府第一高等学校郷土研究部考古班の応援を得て調査を行い、その成果を『日本考古学年報』No.5で調査概要を報告した。

昭和39年9月には都留市教育委員会が発掘主体者となり、同市の遺物包含地である古川渡地区の発掘調査を実施した。遺構の大部分は桂川の出水によって削り取られ流失したあとであったが、県下初の地方公共団体による考古調査であり、文化財保護法施行以来地方団体が行った最初の事例として評価されている。
美通遺跡北側の中谷遺跡（第１図No.24）からは、昭和47年の都留文科大学考古学研究会による調査によって配石遺構内出土の耳飾りをつけた土偶が出土し、昭和52年と53年の2回にわたり東京国立博物館の特別展覧会に特別出品された。

美通遺跡南西側にある生出山山頂遺跡（No.36）は昭和52年に採石工事の拡大に伴い、遺跡破壊のおそれがあるため都留市教育委員会が日本大学考古学研究会の応援を得て発掘調査を実施し、すでに削平された地点からは弥生土器片や平安時代の遺物を採集し、その付近からは縄文時代早期の住居1軒を発掘する成果を上げた。

山梨県教育委員会によって昭和37年に実施された「埋蔵文化財包含地調査」では34ヶ所の遺跡が報告され、昭和46年に再度実施した「山梨県埋蔵文化財包含地分布調査」では都留市内全域を踏査し、57ヶ所の遺跡を確認、登録した。また、昭和56年に刊行された『全国遺跡地図　山梨県』では都留市内において、60ヶ所の遺跡が報告された。都留市教育委員会の遺跡一覧データによると、現在では、都留市内に82ヶ所の遺跡が登録されている。

美通遺跡の周辺にある遺跡としては、直近の遺跡として北側に縄文時代・奈良時代・平安時代の散布地である前ヶ久保遺跡（No.33）が確認されている。また、九鬼Ⅰ遺跡（No.31）は縄文時代・奈良時代・平安時代の散布地で、九鬼Ⅱ遺跡（No.32）は縄文時代前期・中期・後期・平安時代・近世の遺物が確認され、縄文時代と思われる竪穴住居1軒、平安時代及びそれ以降の住居跡14軒が検出されている。

さらに北には桂川の河岸段丘で最大級の平坦地である大原台地がある。大原台地周辺の集落跡としては、中谷遺跡（No.24）、大原中溝遺跡（No.25）、中溝遺跡（No.26）などがある。中谷遺跡は桂川に注ぐ高川が近くに流れ、調査は第3次に渡り合わせて縄文時代後期・晩期の住居8軒や配石遺構、土偶などが検出された。大原台地中央部に立地する中溝遺跡では縄文時代早期末と中期中葉の住居6軒の集落跡が検出されている。

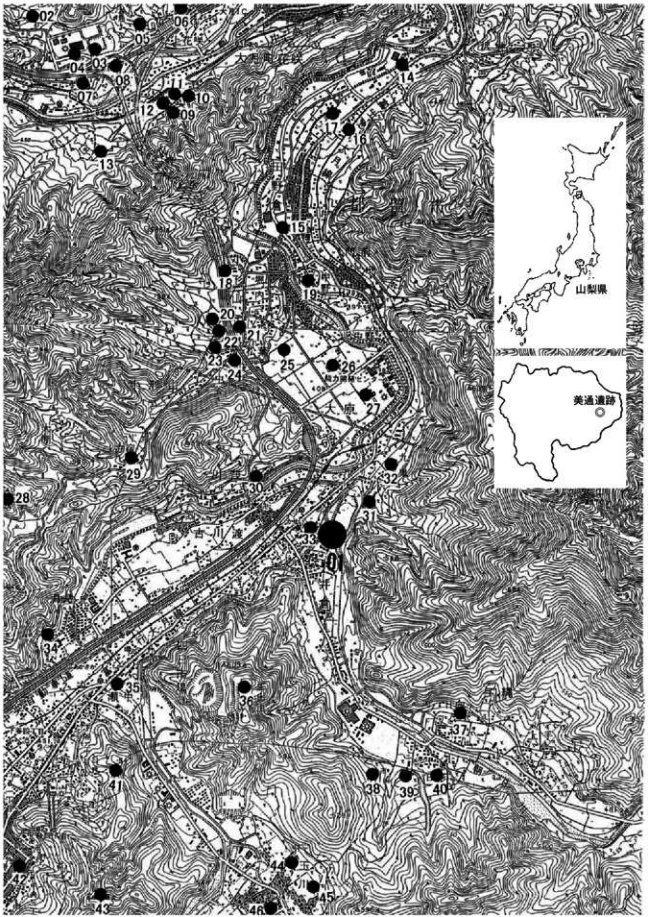
美通遺跡の南、生出山東南部に連なる斜面に天正寺遺跡（No.38）、またその周辺に日影松原遺跡（No.39）、与縄日向遺跡（No.37）、城館跡のある与縄城跡（No.40）がある。天正寺遺跡では縄文時代の土坑、弥生時代中期の住居が1軒、中世以降の畑跡が検出されている。

美通遺跡北側で朝日川・桂川に合流する菅野川の右岸と生出山南西部に挟まれるような位置に玉川遺跡（No.44）、玉川金山遺跡（No.45）、宮原遺跡（No.46）がある。玉川遺跡は縄文時代と古墳時代の散布地であり、宮原遺跡は縄文時代の散布地である。玉川金山遺跡は縄文時代早期の住居1軒と奈良時代の竪穴住居8軒と掘立柱建物跡3軒、中世～近世の墓坑が検出された集落跡である。

都留市内においては、河川流域周辺の平坦地を中心に遺跡が分布する傾向が見られる。美通遺跡周辺においても、周知の遺跡に加えて、菅野川や朝日川周辺の平坦地を中心に、まだ確認されていない無数の遺跡が地中に眠っているものと考えられる。

参考文献

都留市教育委員会　1973　『中谷遺跡』
都留市教育委員会　1981　『中溝遺跡』
都留市教育委員会　1981　『中谷・宮脇遺跡』
都留市教育委員会　1986　『都留市史』　資料編　地史・考古
山梨県　1998　『山梨県史』　資料編1　原始・古代1　考古（遺跡）
山梨県　1999　『山梨県史』　資料編2　原始・古代2　考古（遺構・遺物）
山梨県　2004　『山梨県史』　通史編1　原始・古代1
山梨県教育委員会　1975　『山梨県中央道埋蔵文化財包含地発掘調査報告書－大月市地内2－』
山梨県教育委員会　1995　『中溝・揚久保遺跡』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告第115集
山梨県教育委員会　1995　『中谷遺跡』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告第116集
山梨県教育委員会　1996　『九鬼Ⅱ遺跡』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告第118集
山梨県教育委員会　1999　『原平遺跡』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告第160集
山梨県教育委員会　2007　『天正寺遺跡』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告第248集
山梨県教育委員会　2009　『玉川金山遺跡』　山梨県埋蔵文化財センター調査報告第261集



第１図　美通遺跡と周辺の遺跡位置図　（S=1/25,000）

第１表　周辺の遺跡一覧表

No.	遺　跡　名	種　別	時　　代
01	美通遺跡	集落跡	縄文
02	錵神遺跡	散布地	縄文
03	原平A遺跡	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安・中世・近世
04	原平B遺跡	集落跡	縄文・弥生・奈良・平安・中世・近世
05	西ノ上A遺跡	散布地	縄文・平安
06	後林遺跡	土坑群	縄文
07	前沢内屋敷遺跡	古墳	古墳
08	坂田古墳	古墳	古墳
09	遅郷１遺跡	散布地	縄文
10	遅郷２遺跡	散布地	縄文
11	遅郷３遺跡	散布地	縄文
12	遅郷４遺跡	散布地	縄文
13	幸ノ田遺跡	散布地	縄文
14	堰遺跡	散布地	縄文
15	横道A遺跡	散布地	縄文
16	下門原遺跡	散布地	縄文
17	横道B遺跡	散布地	縄文
18	下畑本郷遺跡	散布地	縄文
19	足ノ口遺跡	散布地	縄文
20	下畑下原遺跡	散布地	縄文
21	寺門B遺跡	散布地	縄文
22	宮脇遺跡	散布地	縄文・平安
23	中谷入遺跡	散布地	縄文・平安
24	中谷遺跡	集落跡	縄文・古墳・奈良
25	大原中溝遺跡	集落跡	縄文・古墳
26	中溝遺跡	集落跡	縄文
27	沖大原遺跡	散布地	縄文
28	大日影遺跡	散布地	縄文・平安
29	古谷戸遺跡	散布地	縄文
30	亀石遺跡	散布地	縄文・平安
31	九鬼Ⅰ遺跡	散布地	縄文・奈良・平安
32	九鬼Ⅱ遺跡	集落跡	縄文・平安
33	前ヶ久保遺跡	散布地	縄文・奈良・平安
34	横吹遺跡	散布地	縄文
35	山梨遺跡	散布地	縄文
36	生出山山頂遺跡	集落跡	縄文・弥生・平安
37	与縄目向遺跡	散布地	縄文
38	天正寺遺跡	集落跡	縄文・弥生・中世
39	目影松原遺跡	散布地	縄文
40	与縄城跡	城館跡	中世
41	深田遺跡	散布地	縄文・古墳
42	谷村城	城館跡	中世
43	谷村の烽火台	城館跡	中世
44	玉川遺跡	散布地	縄文・古墳
45	玉川金山遺跡	集落跡	縄文・奈良・中世
46	宮原遺跡	散布地	縄文

第３章　調査の方法と成果

第１節　発掘調査の方法

１．調査区の設定

調査区は溶岩の分布状況や調査年度の違いから４地点に分かれる。北側からB区１、B区２、B区３、B区４となる（第２・３図）。B区１とB区２は平成20年度に本調査が実施された区間である。調査区の間は試掘調査によって猿橋溶岩の流入による溶岩帯となっていることが確認されたため、本調査は実施しなかった。B区３は平成21年度に本調査が実施された区間である。B区４は平成22年度に未買収地の取得を受けて本調査が実施された区間である。

各調査区の規模は、B区１が南北約40ｍ・東西約13～20ｍで550㎡、B区２が南北約33ｍ・東西約13～16ｍで470㎡、B区３が南北約76ｍ・東西約11～13ｍで1,200㎡、B区４が南北約27ｍ・東西約15ｍで400㎡、B区全体の面積は2,620㎡となる。

各調査区内には壁面崩落防止のために段差を設け、安全面に配慮した。また、B区３では同時期に調査を行ったC区への通路として調査区西側の一部を確保し、調査区内を横断していた赤道用の通路を設けた。

２．調査グリッドの設定

発掘調査に伴い、調査区内に世界測地系座標に基づく５ｍ四方のグリッドを設定した。調査区の南北方向に北からアラビア数字で１・２・３・・、東西方向に東からアルファベットの大文字でＡ・Ｂ・Ｃ‥の順（Ｚ以降はAA・AB・・）で記号を付け、それぞれが交差する地点をA-1グリッド、B-1グリッドのように表す。美通遺跡全体で調査グリッドを統一しているため、B区はAA～AJ-45～96グリッドの中に位置する。

※B区１・２の調査時点では統一グリッドが設定されていなかったため、本報告書作成に伴い調査時の設定グリッドを統一グリッドに変換した。

３．表土層の除去

重機を用いて表土を遺構確認面または遺物包含層まで除去した。B区１の溶岩帯部分は溶岩の起伏により重機だけでは十分に表土を除去できなかったため、残った表土は人力で取り除いた。各区とも下層の遺物包含層および遺構確認面までは人力で精査を行いながら掘り下げた。

４．表土層除去後の調査

表土層除去後は、人力で遺構確認面の精査を行い、発見された遺構については、土層観察用のベルトを設けるか、半裁をして掘削した。各遺構については、平面図・土層断面図などを作成し、出土遺物の位置を記録した。調査の進捗状況および発見された遺構や遺物の状況は、小型一眼レフカメラやデジタルカメラで撮影した。また、B区３の調査区全体図の作成には、空中写真撮影による測量・図化を行った。

第２節　基本層位

美通遺跡B区では、猿橋溶岩の流入による溶岩帯を除いて、縄文時代から現代まで非常に安定した土壌の堆積が見られた。調査区域は水田地帯であったため、現地表下にはにぶい黄褐色土の耕作土と水田の床土が認められる。床土から下層は赤色・黒色スコリアを含む暗褐色～黒色土が100～150cmほど堆積しており、スコリアの色調・粒径・含有量などで細分される。B区１～B区４までほぼ同様の堆積状況を示すが、上杉陽氏に協力・助言を頂いたB区１の土層断面図（第11図調査区北・東壁セクション、調査区西壁セクション）がもっとも細分されている。さらに下層は褐色～黄褐色ロームの地山となる。地山までの深さはB区１からB区3にかけて徐々に浅くなり、Ｂ４区の南側で再び深くなる。検出された各時代の遺物包含層を大別すると、地山直上の赤色・黒色スコリアを２～10%ほど含む黒褐色粘質土が縄文時代早～前期の遺物包含層、その上層の赤色・黒色スコリアを10～30%ほど含む粘性の弱い暗褐色～黒褐色土が縄文時代中期の遺物包含層、さらに上層の赤色スコリアを15～30%、黒色スコリア３～10%ほど含む粘性の弱い黒褐色土が弥生時代前期の遺物包含層となる。

第３節　発見された遺構と遺物

１．B区１

B区１は調査区の大半が猿橋溶岩に覆われていた。猿橋溶岩は約8,000年前の富士山の噴火によって形成され、大月市猿橋まで達する溶岩流である。猿橋溶岩は縄状溶岩の形状などから調査区の南西側から北東側へ流れていた状況が窺える。調査区の北側で溶岩の範囲が狭まり、東側一帯と西側の一部で遺構確認面となる地山を確認し、東側から縄文時代早期末～前期初頭の集石土坑２基、縄文時代早期～中期後半の土坑11基、焼土遺構５基、縄文時代中期後半の敷石住居跡１軒を発見した。さらに、調査区壁面の断面観察により、遺構確認面より上層に位置する土坑３基を確認した。また、遺構外出土遺物では、縄文時代早期後半～中期後半の土器・石器が出土した。

※ B区１とB区２の遺構番号は通し番号となっており、特に集石土坑と土坑の番号は相前後する。

（１）住居跡

１号住居跡（第６・７図）

位置　B区１調査区の北東側、AA・AB-48グリッドに位置する。

形状・規模　長軸約４ｍ、短軸3.6ｍの楕円形となる敷石住居跡である。住居跡の中央やや西側を、南北方向に試掘トレンチが入るため、南北の竪穴壁面が失われているが、床面は残存していた。遺構確認面から床面までの深さは約45cmで、壁はやや開きながら立ち上がる。敷石は約10～40cm大の凝灰岩を主体とした扁平な礫を南壁付近から中央やや北寄りの炉にかけて、ほぼ長方形の範囲に敷いている。

柱穴・ピット　ほぼ東西南北に１基ずつ、４基のピットを検出した。いずれも平面形は長軸約25～30cmとほぼ同じ規模であるが、深さはそれぞれ異なり、ピット１：46cm、ピット２：12cm、ピット３：31cm、ピット４：17cmである。

炉　竪穴の中央やや北寄りから石囲い埋甕炉を検出した。東側に長軸52cmの細長い礫を配し、北側と西側に石囲いが残る。石囲いの中には底部を欠いた浅鉢（第49図３）が埋設されていた。埋甕炉内から検出した炭化材の年代測定・樹種同定を行い、年代測定が4,205±20yrBP、樹種同定がクリとの結果が出ている。

その他の施設　敷石の南西端、南壁付近（住居入口部か）に方形の石囲いが設けられる。石囲いの中からは土器片が出土しており、埋甕が埋設されていたと考えられる。また、敷石を取り去り、掘り方を検出した結果、南壁と北壁に沿って周溝状の窪みを検出した。

遺物出土状況　北壁付近の床面から縄文中期後半（曽利Ⅳ式）の壺形土器（第49図１）が出土した。南側の方形石囲いと炉を結ぶ直線上に位置するよう意図的に置かれたものと考えられ、祭祀行為の痕跡である可能性も考えられる。この他に、竪穴覆土中から縄文時代前期中葉、前期後半の土器片（第49図・50図）が出土した。

炭化材・焼土　竪穴覆土からは大量の炭化材が検出された。炭化材の中には焼土も含まれていた。上屋が焼失したものと考えれる。炭化材の樹種同定を行い、落葉広葉樹のクリやキハダとの結果が出ている。

時期　縄文時代中期後半（曽利Ⅳ式期か）

（２）集石土坑（２～４・６号集石土坑はB区２）

１号集石土坑（第８図）

位置　１号住居跡の南側、AB-49グリッドに位置する。

形状・規模　南北方向に入る試掘トレンチによって西側の3分の2ほどの上部が失われているため、検出した平面形は不整形となる。残存する状態での規模は、長軸130cm、短軸120cm。断面はＶ字状ですり鉢状に壁面が立ち上がる。遺構確認面からの深さは約85cm。試掘トレンチの境目にあたる壁面部分にピット状の窪みがある。

検出状況　集石は凝灰岩を主体とした礫で構成され、土坑の検出面から底部まで詰め込まれていた。土坑壁面との間には土壌の堆積が認められた。礫の大きさは最大23cmで、10cm前後のものが大半を占める。

石材　検出した集石の総数534点中、凝灰岩が317点（59.4%）、溶岩が85点（15.9%）、斑れい岩が79点（14.8%）、砂岩が48点（8.8%）、花崗岩が２点、ひん岩が２点、安山岩が１点、頁岩が１点である。

遺物出土状況　土坑底面付近から縄文時代前期初頭（下吉井式）の深鉢の口縁部（第50図１・２）が出土した。土坑上面からは縄文時代前期後半（諸磯ｂ式）の土器片（第50図３）も出土した。

時期　縄文時代前期初頭（下吉井式期）

５号集石土坑（第８図）

位置　B区１調査区北東端部のAA-46グリッドに位置する。

形状・規模　やや不整な楕円形となる。断面系は底面が丸く、壁面は緩やかに立ち上がる。長軸79cm、短軸63cm、深さ17cm。

検出状況　溶岩を主体とした礫が土坑上部を中心に平面的に詰め込まれていた。土坑の下層には微量の炭化材を含む黒褐色土が堆積していた。炭化材の年代測定・樹種同定を行い、年代測定が6,475±25yrBP、樹種同定がケンポナシ属との結果が出ている。

石材　検出した集石の総数86点中、溶岩が70点（81.4%）、凝灰岩が13点（15.1%）、砂岩が３点である。

時期　縄文時代早期末か

（３）土坑（５～25・31～33・39～50号土坑はB区２）

B区１から検出した土坑（第８～９図）は、不整形・小規模のものが多く、遺物もほとんど出土しなかったため、時期および性格を判断することは難しい。遺構確認面から検出した土坑は、検出した土層レベルや土坑周辺の出土遺物などから縄文時代早期後半～中期後半に比定されるが、中には遺構確認面よりも上層から掘り込まれた該期以降の土坑も含まれていると考えられる。調査区壁面の観察において断面を確認した土坑（２・37・38号土坑）については、おおよそ古代以降のものと推測される。土坑の分布状況としてはAA・AB・49グリッドに小規模の土坑が集中する傾向が見られる。各土坑の詳細については第２表を参照されたい。

（４）焼土遺構

１号焼土（第９図）

位置　B区１調査区の東壁付近、AB・49グリッドに位置する。下層から３号焼土遺構を検出した。

形状・規模　長軸20cm、短軸12cmほどの範囲で焼土を検出した。

検出状況　焼土は確認面に薄く分布しており、厚さは３cmほどである。

時期　不明（縄文時代早期後半～中期後半か）

２号焼土（第９図）

位置　１号焼土遺構の東側、AA・49グリッドに位置する。B区１調査区の東壁に接している。

形状・規模　焼土が調査区の東壁際から調査区外に広がっているため、全体の規模は不明である。検出範囲内における焼土の最大幅は21cm。

検出状況　焼土は確認面から最大で７cmほどの厚みがある。

時期　不明（縄文時代早期後半～中期後半か）

３号焼土（第９図）

位置　１号焼土遺構の下層から検出した。AB・49グリッドに位置する。

形状・規模　焼土範囲の平面形はひょうたん形で、長軸57cm、短軸10～31cm。

検出状況　焼土は黒褐色土と混ざって検出され、４～７cmほどの厚さで堆積していた。

時期　不明（縄文時代早期後半～中期後半か）

４号焼土（第９・11図）

位置　B区１調査区の北東コーナー、AA・46グリッドに位置する。北東コーナーに接している。下層から５号焼土遺構を検出した。

形状・規模　焼土が調査区の北東コーナーから調査区外に広がっていたため、全体の規模は不明である。検出範囲内における焼土の最大幅は34cm。

検出状況　焼土は北東コーナー際から調査区の内側に向かってなだらかに傾斜する形で検出された。調査区壁面

の断面観察（第11図）において、焼土と焼土ブロックを含む黒褐色土が20cmほどの厚さで堆積する状況が認められた。

時期　不明（縄文時代前期～中期後半か）

５号焼土（第９・11図）

位置　４号焼土遺構の下層から検出した。AA－46グリッドに位置する。４号焼土遺構と同様に調査区北東コーナーに接している。

形状・規模　４号焼土遺構と同様に焼土が北東コーナーから調査区外に広がっていたため、全体の規模は不明である。検出範囲は４号焼土遺構よりも広く、焼土の最大幅は69cm。

検出状況　調査区壁面の断面観察（第11図）において、焼土と焼土ブロックを含む黒褐色土が22cmほどの厚さで堆積する状況が認められた。

遺物出土状況　焼土を含む黒褐色土の中から縄文時代早期（判ノ木山西タイプ）の深鉢口縁部破片（第51図１・２）が出土した。

時期　縄文時代早期

２．B区２

B区２はB区１から南へ約75m下った地点に位置する。B区１からB区２の間は猿橋溶岩で覆われていることが試掘調査によって確認されており、B区２においても調査区の北側に猿橋溶岩が見られる。B区２から南側は溶岩がほとんど見られず、スコリアを含む安定した土壌が堆積している。B区２からは縄文時代前期中葉～前期後半の竪穴住居跡２軒、縄文時代中期後半の敷石住居跡１軒、縄文時代前期～中期後半の集石土坑５基、土坑31基、焼土遺構１基、時期不明の溝状遺構などを発見した。さらに、調査区壁面の断面観察により、遺構確認面より上層に位置する土坑５基を確認した。また、遺構外出土遺物では、縄文時代前期中葉から中期後半の土器・石器が出土した。

※ B区１とB区２の遺構番号は通し番号となっており、特に集石土坑と土坑の番号は相前後する。

（１）住居跡（１号住居跡はB区１）

２号住居跡（第14図）

位置　B区２の西壁中央付近、AE・AF－71・72グリッドに位置する。

形状・規模　西側の一部が調査区外に延びるが、平面形は楕円形になると考えられる。長軸不明、短軸5.2m。竪穴の深さは11cmで、壁は緩やかに立ち上がり、東側では壁の立ち上がりが不鮮明となる。北西側で23号土坑と重複し、切られている。南北方向に試掘トレンチが入り、竪穴壁面の一部が失われているが、床面までは達していない。

柱穴・ピット　10基のピットを検出したが、形状・規模・位置ともにばらつきがあり、いずれも柱穴と認定するのは難しい。ピット10では上層から30cm大の礫を検出した。周辺にも礫が見られる。

炉　竪穴のほぼ中央で焼土化した床面を検出した。地床炉になると考えられる。焼土の範囲は長軸35cm、短軸27cmで、焼土の下からは焼土ブロックを含む褐色土を覆土とした深さ８cmほどの窪みを検出した。

遺物出土状況　床面やや上層から縄文時代前期中葉（黒浜式・釈迦堂Ｚ３式）の土器片（第54図１～５）が出土した。ピット10の上層からも黒浜式土器（第54図６）が出土した。また、23号土坑部分や覆土上層から縄文時代前期後半（諸磯b式）の土器が出土しており、有孔浅鉢（第54図12）も23号土坑の南側覆土上層から出土した。

炭化材　南西側の床面から炭化材を検出した。樹種同定を行い、ケンポナシ属との結果が出ている。

時期　縄文時代前期中葉か

３号住居跡（第15図）

位置　調査区の東壁やや北側付近、AC・AD－71・72グリッドに位置する。

形状・規模　竪穴の立ち上がりを南西側で検出したが、その他の部分では地山と竪穴覆土との判別が困難で、立

ち上がりを確認できなかったため、規模は不明である。調査区東壁の断面観察において竪穴の掘り込みが見られることから、調査区外に延びることを確認した。竪穴の深さは約40cmで、壁は緩やかに立ち上がる。竪穴の南側で溶岩帯が見られる。南西側の竪穴内で２号集石土坑、南西壁部分で47号土坑と重複し、切られている。

柱穴・ピット　４基のピットを検出した。深さは、ピット１が23cm、ピット２が14cm、ピット３が27cmで、ピット１の北東側から検出したピットが24cmである。

炉　ピット１の南東側で焼土化した床面を検出した。地床炉になると考えられる。焼土の範囲はほぼ40cm四方に収まる。焼土の下からは焼土ブロックを含む黒褐色土を置土とした深さ４cmほどの窪みを検出した。

遺物出土状況　遺物は南側の溶岩帯から縄文時代前期後半（諸磯ａ式）の土器片（第54図１）が１点出土したのみである。

時期　縄文時代前期後半か

４号住居跡（第16図）

位置　調査区の西壁北側付近、AE・AF－70グリッドに位置する。

形状・規模　長軸3.6ｍほどの楕円形になると推測される敷石住居跡である。西側が調査区の西壁に接し、調査区外に延びる。南東側で３号集石土坑と重複している。また、上層からは１号溝が検出されている。竪穴の深さは25cmで、壁はやや開きながら立ち上がる。敷石は10～40cm大の礫が竪穴の壁面を廻るように配置されているが、竪穴の中央付近はまばらである。壁面付近の礫には床面から10～20cmほど浮いた状態で検出される部分も見られる。

柱穴・ピット　確認されなかった。

炉　中央から検出した礫が石囲い状に並ぶ。北東側には長さ63cmの細長い礫が置かれ、東側から南側にかけて礫が並んでいた。囲いの中を精査したが焼土は検出されなかった。

遺物出土状況　礫の間などから縄文時代中期後半（曽利Ⅳ式か）の土器片（第55図）が出土した。土器片の中には広口壺の口縁部分（第55図３）も見られる。この他に縄文時代前期末の土器片も出土している。また、礫の中からは加工が施された石柱（第100図S74）が出土した。

時期　縄文時代中期後半（曽利Ⅳ式か）

（２）集石土坑（１・５号集石土坑はB区１）

２号集石土坑（第17図）

位置　３号住居跡の竪穴内、AD－71・72グリッドに位置する。

形状・規模　平面は不整円となる。断面は上部がなだらかに広がるが、中央部分でやや急勾配となり、一段深く掘られている。長軸126cm、短軸121cm、深さ60cm。

検出状況　凝灰岩を主体とした５～20cm大の礫が土坑上部から底部まで詰め込まれていた。断面からは礫層の間に土壌の堆積が認められる。土坑壁面からは炭化材を検出した。炭化材の年代測定行い5,080±25yrBPとの結果が出ている。

石材　検出した礫の総数730点中、凝灰岩が598点（81.9%）、斑れい岩が52点（7.1%）、砂岩が44点（6.0%）、花崗岩が17点（2.3%）、溶岩が11点（1.5%）、安山岩が６点、ひん岩が2点である。

時期　縄文時代前期後半か

３号集石土坑（第18図）

位置　４号住居跡の南東で重複している。AE・AF－70・71グリッドに位置する。

形状・規模　東側が試掘トレンチによって失われているため、平面形状は不明であるが、やや不整な円形もしくは楕円形になると推定される。断面は底面が平らで、壁面はやや開きながら立ち上がる。遺構確認面からの深さは16cm。

検出状況　凝灰岩を主体とした１～30cm大の礫が敷き詰めるよう大量に詰め込まれていた。

石材　検出した礫の総数2,457中、凝灰岩が2,121点（86.3%）、溶岩が167点（6.8%）、砂岩が128点（5.2%）、

斑れい岩が33点（0.3%）、花崗岩が７点、安山岩が１点。

時期　不明（縄文時代前期か）

４号集石土坑（第18図）

位置　調査区の南西側、AE - 74グリッドに位置する。

形状・規模　長軸方向の西側が試掘トレンチによって失われているため、平面形状は不明である。断面は湾曲したＶ字状で北東側がやや一段深くなる。短軸95cm、深さ44cm。

検出状況　凝灰岩を主体とした２～25cm大の礫が土坑上部から底部まで詰め込まれていた。礫の大きさは下層になるほど小さくなり、土坑底部付近では２～５cm大の礫が敷き詰めたような状態で検出された。礫の間には比較的多量の土壌が堆積しており、微量ながら炭化材が混入していた。

石材　検出した礫の総数351点中、凝灰岩が315点（89.7%）、溶岩が14点（3.9%）、砂岩が14点（3.9%）、斑れい岩が８点である。

時期　不明（縄文時代前期か）

６号集石土坑（第19図）

位置　４号集石土坑の北側、AE - 73グリッドに位置する。

形状・規模　やや不整な楕円形となる。断面は掘り込みが浅く、中央部がやや窪んでなだらかに立ち上がる。長軸81cm、短軸70cm、深さ18cm。

検出状況　凝灰岩を主体とした５～30cm大の礫を平面的に詰め込む。４号集石土坑とは対照的に、土坑底面に扁平で大径の礫が敷かれ、上部の中央周辺に小径の礫が見られる。

石材　検出した礫の総数150点中、凝灰岩が145点（96.7%）、砂岩が４点、斑れい岩が１点である。

時期　不明（縄文時代前期か）

７号集石土坑（第19図）

位置　６号集石土坑の南側、AE - 73グリッドに位置する。

形状・規模　平面は不整形、断面は底部中央が盛り上がり、壁面は開きながら立ち上がる。長軸51cm、短軸39cm、深さ11cm。

検出状況　凝灰岩を主体とした５～15cm大の礫が詰め込まれていた。

石材　検出した礫の総数25点中、凝灰岩23点（92%）、斑れい岩２点である。

時期　不明（縄文時代前期か）

（３）土坑（１～４・26～30・34～38号土坑はB区１）

B区２から検出した土坑（第19～23図）はB区１に比べると比較的大型のものが多くなる。しかし、B区１と同様に遺物はほとんど出土せず、時期および性格を判断することは難しい。遺構確認面から検出した土坑は、土層レベルや周辺の出土遺物などから縄文時代前期中葉～中期後半に比定されるが、中には遺構確認面よりも上層から掘り込まれた該期以降の土坑も含まれると考えられる。調査区壁面の断面観察によって確認した遺構確認面よりも上部に位置する土坑（22・40～42・44号土坑）については、おおよそ古代以降のものと推測される。各土坑の詳細については第２表を参照されたい。

（４）焼土遺構（１～５号焼土遺構はB区１）

６号焼土（第23図）

位置　４号集石土坑の北側、AE - 73・74グリッドに位置する。

形状・規模　西側を削剥されているため全体の形状は不明であるが、最大幅60cmほどの範囲で焼土を検出した。

検出状況　焼土は極暗褐色土・黒褐色土と混ざって検出され、11cmの厚さで堆積していた。

時期　不明（縄文時代前期か）

（5）溝状遺構

1号溝（第23図）

位置　4号住居跡の上層、AF－70グリッドに位置する。

形状・規模　4号住居跡の西側範囲を確認するために、調査区西壁を拡張した際に確認されたため、拡張した範囲でのみ平面で検出した。幅約75cm、深さ約50cmで東西方向に延びる。

遺物出土状況　覆土中から陶器片、縄文土器片（中期）、鉄釘などが出土した。

時期　不明（古代以降）

3．B区3

B区3はB区2の南側に位置する。B区3では、現地表下約130cmの地点で黒色～暗褐色粘土層を掘り込み赤色スコリアを多く含む暗褐色シルトを覆土として形成する土坑・ピット等を検出した。この層位を1面とし、住居跡などを検出したさらに40cmほど下層の褐色～暗黄褐色ローム層を2面として調査を行った。遺構番号はB区3調査区で独立しており、1面1号～、2面1号～となる。

B区3からは、1面で縄文時代前期中葉の集石遺構4基、縄文時代前期後半の集石土坑1基、縄文時代前期後半の焼土遺構1基、時期不明（縄文時代前期以降）の集石遺構1基、土坑3基、ピット3基を発見し、2面で縄文時代前期中葉の土坑8基、縄文時代前期末の竪穴住居跡1軒、土坑1基、時期不明（縄文時代前期中葉～前期末か）の土坑17基、ピット11基を発見した。また、遺構外出土遺物では、縄文時代前期中葉～中期中葉の土器・石器が出土した。

（1）1面集石土坑

1面1号集石土坑（第28図）

位置　B区3調査区南側のAF-86グリッドに位置する。

形状・規模　土坑の形状は平面不整形で、断面は底面が平らで壁面がやや開いて立ち上がる。長軸158cm、短軸96cm、深さ46cm。

検出状況　検出面において、集石とともに炭化物を検出した。炭化物は土坑内部からも検出され、礫の隙間に暗褐色土に混ざって堆積していた。礫は5～15cm大の凝灰岩を主体とし、少量の溶岩も認められた。土坑内部の4地点から採取した炭化材の年代測定（A・D地点）・樹種同定（A～D地点）を行い、年代測定がA地点で5,095±25yrBP、D地点で5,050±25yrBP、樹種同定がA・B地点でヤマグワ、C・D地点でクリとの結果となった。

時期　縄文時代前期後半か

（2）1面集石遺構

1面1号集石（第28・29図）

位置　B区3調査区南側のAG・AF-85・86グリッドに位置する。下層から2面13号土坑を検出した。

形状・規模・検出状況　約2m四方の範囲に分布する集石を検出した。凝灰岩を主体とした5～20cm大の礫がややまばらにまとまっている。集石を検出した層位から約10cm下層で2面13号土坑を検出した。出土遺物の時期が同じであることから、2面13号土坑の上層部分にあたる可能性が高い。

遺物出土状況　集石とともに縄文時代前期末の深鉢口縁部破片（第58図1・2）や底部破片（15）などが出土した。

時期　縄文時代前期末

1面2号集石（第29図）

位置　B区3調査区の西壁中央付近のAG-84グリッドに位置する。

形状・規模・検出状況　長さ約70cmの細長い礫とその周辺に集まる7～15cm大の礫を検出した。細長い礫は軸が東西方向に向き、西側に傾く状態で検出した。西側の同軸上にも礫が見られる。この他の礫は細長い礫の南側に固まって検出された。集石の下層から土坑などの遺構は検出されなかった。遺物は出土しなかった。

時期　不明

１面３号集石（第29・30図）

位置　B区３調査区ほぼ中央のAF-84グリッドに位置する。下層から２面11号土坑を検出した。

形状・規模・検出状況　長さ約50cmの細長い礫と長さ約30cmの礫が軸を南北方向に向けた状態で検出された。２つの礫の周囲には５cm前後の小礫が数点見られる。遺体の埋葬に関わる遺構の可能性も考えられたため、細長い礫の下層を中心に土壌を採取し、リン酸・カルシウム・腐植含量の分析を行ったが、埋葬行為を証明するような結果は出なかった。集石の検出面から約10cm下層で２面11号土坑を検出した。出土遺物の時期が同じであり、２面11号土坑の上層部分にあたる可能性が高い。

遺物出土状況　２つの礫周辺から縄文時代前期中葉（釈迦堂Z3式・黒浜式）の土器片（第59図）が出土した。

時期　縄文時代前期中葉（釈迦堂Z3・黒浜式期）

１面４号集石（第30図）

位置　B区３調査区西壁北側付近のAF-78・79グリッドに位置する。

形状・規模・検出状況　礫の集中する範囲は南北方向に約７ｍ。東西方向の範囲は西側が調査区の外側に延びるため不明であるが、試掘トレンチを挟んだ東側にも礫がまばらに見られる。集石の中心部に最も礫が集中しており、ほぼ20cm以下の凝灰岩を主体としている。集石の中央やや北寄りからは長さ76cmほどの礫を検出した。軸は北西－南東方向を向いている。集石の下層から土坑などの遺構は検出されなかった。

遺物出土状況　集石の周辺や礫の下層から縄文時代前期中葉（釈迦堂Z3式・黒浜式）の土器片（第59・60図）が出土した。

時期　縄文時代前期中葉（釈迦堂Z3・黒浜式期）

１面５号集石（第31図）

位置　B区３調査区北側のAD・AE-77・78グリッドに位置する。

形状・規模・検出状況　礫の集中する範囲は南北方向に約3.5ｍ、東西方向に約３ｍである。10cm前後の礫がまとまって検出されたが全体的にまばらである。集石の下層からは焼土と炭化物が混入した土壌が検出され、最下層では深さ10cmほどのいびつな窪みを検出した。窪みの北側では焼土が検出された。また、南側の窪みが途切れる部分からは長さ50cm、幅40cmほどの扁平な礫を検出した。

遺物出土状況　集石の周囲から磨石（第97図S65・66）や縄文時代前期中葉（釈迦堂Z3式・黒浜式）の土器片（第60・61図）が出土した。集石上層から多く出土する傾向が見られた。

時期　縄文時代前期中葉（釈迦堂Z3・黒浜式期）

この他に、１面からは大型の平石や丸石が単独もしくは小礫を伴って検出された（第32図１面礫検出状況１～３）。いずれも加工痕の見られない自然石であるが、調査区内は大型の礫を含まない安定した土壌が堆積していることから、何らかの作業や祭祀行為などを目的として人為的に配置した痕跡ではないかと考えられる。

（３）１面土坑（第31図）

B区３調査区の１面からは３基の土坑を検出した。１・２号土坑の覆土からは、表面が磨耗した縄文時代中期と考えられる土器の小破片が出土し、土坑の覆土から底面にかけて、10～35cm大の礫を検出したが、時期を特定できるような遺物は出土しなかった。各土坑の詳細については第２表を参照されたい。

（４）１面ピット（第32図）

B区３調査区の１面からは３基のピットを発見した。いずれも遺物を伴わないため時期は不明であるが、検出面の層位や周辺の出土遺物からおおよそ縄文時代前期～中期頃のものと考えられる。各ピットの詳細については第２表を参照されたい。

（５）１面焼土遺構（第32図）

B区３調査区北西側のAF-77グリッドから焼土と炭化物を検出した。焼土は南北３ｍ、東西２ｍほどの範囲に点在しており、焼土と同じレベルから縄文時代前期後半（諸磯b式）の浅鉢（第61図１）が出土した。焼土周辺や下層から土坑などの遺構は検出されなかった。

（6）2面住居跡

2面1号住居跡（第33図）

位置　B区3調査区南西端のAH-90グリッドに位置する。

形状・規模　南西側で竪穴壁面の立ち上がりが消え、南東側が調査区の外側に延びているため、正確な形状は不明であるが、ほぼ円形になると考えられる。竪穴の深さは東側で18cmほどで、壁はやや開きながら立ち上がる。南西側では床面が次第に高くなり、壁の立ち上がりが不鮮明となる。北側の壁面に接して不整形の細長い窪みを検出したが、掘り込みが浅く、断面形状も起伏があり、風倒木痕の類ではないかと考えられる。

柱穴・ピット　南東側の調査区壁際からピットを検出した。長軸55cm、短軸39cm、深さ15cmのややいびつな楕円形で、断面は外側に開くU字形である。

炉　竪穴のほぼ中央になると推定される地点で焼土化した床面を検出した。地床炉になると考えられる。床面は7～12cmほどの厚さで焼土化していた。

遺物出土状況　縄文時代前期末の土器片が出土した。北壁際からは磨石（第97図S68）が出土した。遺物は非常に少なく、土器は小破片のものばかりであった。

時期　縄文時代前期末

（7）2面土坑　※記載のない土坑の詳細については第2表を参照されたい。

2面6号土坑（第34図）

位置　B区3調査区西壁南側付近のAG-86・87グリッドに位置する。

形状・規模　平面は不整形、断面は所々凹凸のあるV字形である。長軸340cm、短軸298cm、深さ72cm。

検出状況　南西側の壁面から炭化材を検出した。炭化材には少量の焼土ブロックが混ざる。炭化材の年代測定を行い、5,085±25yrBPとの結果が出ている。

遺物出土状況　覆土中から縄文時代前期中葉～後半の土器片が出土した。

2面8号土坑（第34図）

位置　B区3調査区ほぼ中央のAE-82グリッドに位置する。

形状・規模　東側の上部を試掘トレンチで削られている。平面はやや不整な円形で、断面は底面が平らで壁面が緩やかに立ち上がる。長軸77cm、短軸76cm、深さ15cm。

遺物出土状況　土坑上部から縄文時代前期中葉（釈迦堂Z3式）の深鉢口縁部（第63図1）が出土した。

時期　縄文時代前期中葉（釈迦堂Z3式期）

2面11号土坑（第35図）

位置　B区3調査区ほぼ中央のAF-84グリッドに位置する。上層で1面3号集石を検出した。

形状・規模　平面円形で、断面は上部がやや広がるU字形である。長軸75cm、短軸64cm、深さ37cm。

遺物出土状況　北側の土坑壁面上部に沿うように縄文時代前期中葉（釈迦堂Z3式）の深鉢口縁部（第63図1・2）が出土した。

時期　縄文時代前期中葉（釈迦堂Z3式期）

2面13号土坑（第35・36図）

位置　B区3調査区南側のAG・AF-85・86グリッドに位置する。上層で1面1号集石を検出した。

形状・規模　平面不整形で、断面は底面が平らな竪穴状となり、壁面はやや開きながら立ち上がる。北東側で一段深くなり、別の土坑が存在する可能性も考えられるが、断面観察で切り合う状況は確認されなかった。長軸273cm、短軸220cm、深さ24cm（土坑中央付近）・35cm（北東側）。

検出状況・遺物出土状況　土坑の覆土には5～20cm大の礫が含まれ、北東側の一段深くなる部分により多く分布する傾向が見られた。礫とともに縄文時代前期末の土器片が出土した。東壁付近の床面からは台石（第99図S72）が出土した。台石の半分は北東側の落ち込みにかかっているが、平らな状態で出土している。土坑中央やや西寄りの床面に縄文時代前期末の深鉢（第64図1）が埋設されていた。深鉢は口縁部の一部と底部を欠損し

ていた。深鉢内部に堆積する土壌に焼土や炭化物は認められなかった。深鉢内部の土壌と土坑覆土の土壌を採取し、リン酸・カルシウム・腐植含量の分析を行ったが、動物性遺体の痕跡は認められなかった。土坑の形状が竪穴状であることから、埋設された深鉢を埋甕炉とする住居跡である可能性も考えられる。

時期　縄文時代前期末

２面16号土坑（第37図）

位置　B区３調査区中央西寄りのAF-82グリッドに位置する。

形状・規模　平面は楕円形で、南東側に多少突出する。断面は箱形であるが、西側で立ち上がりが弱くなる。

遺物出土状況　東側の土坑壁面に沿って縄文時代前期中葉（黒浜式）の深鉢底部（第65図１）が出土した。

時期　縄文時代前期中葉（黒浜式期）

２面19号土坑（第37図）

位置　B区３調査区やや北寄りの東壁付近、AD-80グリッドに位置する。

形状・規模　平面はややいびつな楕円形で、断面は底面が広く壁面は緩やかに立ち上がるが、検出面よりもさらに上層から掘り込まれていると考えられる。長軸134cm、短軸102cm、深さ14cm。

遺物検出状況　縄文時代前期中葉（釈迦堂Z3式）の深鉢（第66図１）が押しつぶされた状態で出土した。口縁部が南側を向いている。深鉢は口縁部の一部と底部を欠いている。深鉢とともに長さ47cmと38cmの細長い礫が並んで検出された。土坑底部付近からも長さ35cmの礫が検出された。

時期　縄文時代前期中葉（釈迦堂Z3式期）

２面26号土坑（第38図）

位置　B区３調査区中央やや東寄りのAE-82・83グリッドに位置する。

形状・規模　平面はやや楕円形で、断面は袋状に内部が広がる。長軸84cm、短軸73cm、深さ31cm。

検出状況　底面付近で10～20cm大の溶岩を検出した。土坑覆土を採取し、微細物分析を行ったが、土層中層（B地点）からイネ科とヒエ近似種が各１個確認されたのみであった。

時期　不明（縄文時代前期か）

（８）２面ピット（第39図）

B区３調査区の２面からは11基のピットが発見された。いずれも遺物を伴わないが、検出面の層位や周囲の出土遺物からおおむね縄文時代前期中葉～前期末の遺構と推定される。２面６・７号ピットは２面13号土坑（住居跡か）の北側に位置し、13号土坑に付随するピットである可能性も考えられる。また、２面10号ピットは10～25cm大の扁平な礫が壁面を囲むように検出されており、縄文時代早期に見られる屋外炉である可能性も考えられる。各ピットの詳細は第２表を参照されたい。

（９）溝状遺構

１号溝状遺構（第40図）

位置　B区３調査区のほぼ中央、AD～AG・81～83グリッド地点を東西に横切る。

形状・規模　調査区を東西に横断して入る状況が調査区壁面で確認された。耕作土の下層から掘り込まれており、溝壁面の上部は南北両側で撹乱状の新たな掘り込みに切られている。幅は450cm以上あり、深さは約140cmである。

遺物出土状況　調査区西壁の溝状遺構覆土部分から陶器の小破片が出土した。

時期　不明

４．B区４

B区４は、B区３の南側、A区とB区の境に位置する。B区３と同様、縄文時代の遺構・遺物の発見が予測されていたが、約80cm表土剥ぎを行った時点で、弥生時代の遺物が検出でき、円形の土坑や溝状遺構が確認出きた。そこで、調査を行った結果、平安時代以降の遺構とともに、弥生時代の遺構３基が検出できた。美通遺跡全体を通して、弥生時代の遺構を検出したのは初めてで、とても貴重な資料となった。また、縄文時代中期の住居

跡３軒が検出されるなど、最終調査で得たものは大きかった。

（１）住居跡

１号住居跡（第42図）

位置　AH・AI-93グリッド

形状・規模　掘り方は確認できず、石囲い炉と土器の検出状況によって推定した南北約４m・東西約３mの楕円形である。柱穴などは確認されなかったが、推定範囲の南東隅に焼土の広がりと、南西隅に深鉢型土器が検出された。発掘調査時には、別の遺構として扱っていたが、整理作業の段階で、１号住居跡としてまとめることにした。深鉢形土器はやや斜めになっているが、正位の状態で埋まっていたため、埋甕の可能性もある。

炉　長軸110cm・短軸80cmの大きさで、20cm×10cmほどの礫を使っている。東側半分には礫が無く、抜かれてしまったのか、元々無かったのかは判断できなかった。焼土は薄く、長期に使われた形跡が薄いものであった。

遺物出土状況　炉の周辺から縄文時代井戸尻３式土器（第74図１～８）が出土している。また、炉から100cm南西側で、深鉢形土器（第83図18）が出土した。埋甕の可能性もある。この土器の周囲から打製石斧が３点出土している。（S49・50・51）。

時期　出土した深鉢形土器と、その同レベルの縄文土器片から、縄文中期中葉（井戸尻３式期）の時期といえる。

２号住居跡（第42図）

位置　AI-93・94グリッド

形状・規模　南北約５m・東西約4.8mのほぼ円形である。１号住居跡の南西に位置する。掘り方が明確になるまえから、覆土中に炭化材が沢山検出され、この部分を考慮すれば、住居の深さは30cmほどとなる。掘り方がはっきり確認できたときは、幅20cmほどの炭化材の帯がドーナツ状に巡る様子が伺えたほど、炭化材が多く検出された。明確な炉も柱穴も確認できなかったが、中心より100cmほど南東方向に焼土の広がる部分が検出されたため、この辺りが炉ではないかと考えている。壁際には、特に炭化材が集中し、大きめな材の検出もあった。このことから、この住居は火災にあったものと推測される。

炉　明確に炉と確認できなかったが、焼土の集中する場所が炉と考えられる。しかし、石囲いではなく地床炉である。長軸約60cm・短軸約60cmの大きさである。

遺物出土状況　遺物は少なかったが、住居跡中央に設置したセクションベルトの最下層から土偶の足（第75図７）が検出された。また、中心より西側の床面に近い部分から口縁部1/3を欠いた浅鉢形土器（第75図６）が検出された。この土器の口縁部には、イノシシをモチーフにした装飾が施されている。

時期　イノシシをモチーフにした浅鉢形土器から、縄文時代中期中葉（井戸尻３式期）の時期と考えられる。

３号住居跡（第41図）

位置　AJ-94・95グリッド

形状・規模　調査期間中、工事用道路として利用されていた部分で、調査終了後、確認調査をおこなった。南北約３m、東西約１mで、西側2/3が調査区外となる。住居跡東端を調査したに過ぎないが、壁際で炭化材の集中する部分が検出された。移植で平らに削るとプチプチと弾ける感触があるほど、炭化物が集中していて、分析をした結果、そのほとんどがクルミの破片であることがわかった。このクルミと一緒に手のひら半分ほどの礫が集中していて、これらは焼けているようであった。しかし、周辺に焼土は見られなかった。柱穴などは確認できなかった。

遺物出土状況　住居跡周辺では、ほぼ１個体分の土器なども出土しているが、かなり強い粘土質土壌に覆われていて、土器自体も脆い状態での検出が多かった。住居内の遺物では、復元可能な土器・手のひら大の破片など、他の２軒の住居跡に比べると遺物が多かった。そのほとんどが、周辺の土器と同じ、井戸尻式期のものであった。

時代　検出された遺物から、縄文時代中期中葉（井戸尻３式期）の時期と考えられる。

（2）土坑

土坑は23基検出した。その内、９・17・18号土坑は弥生時代、20号土坑は縄文時代の遺構で、遺物も多く出土しているため文章で示す。その他は第２表を参照されたい。

９号土坑（第45・46図）

位置　AG-92グリッド

形状・規模　長軸150cm・短軸135cm・深さ64cmで、平面ほぼ円形を呈して断面袋状となる土坑である。最初は長軸115cm・短軸88cmの範囲に遺物が10点ほどみられた状態であった。これを全体25cmほど掘り下げると、大きめの土器片と大きめの礫・打製石斧などが面的に検出された。

遺物出土状況　土坑内全体に遺物が出土する。確認面から25cmほど掘り下げた状態でもっとも大きな土器片が出土した。このほか、同じ層から打製石斧も出土している。遺物の取り上げは、ほぼ全点ドットであり、土器は細かい破片までほぼ取り上げ、326点におよぶ。このほか、炭化材が33点、石類は67点となった。炭化材は、肉眼でもクルミとわかる大型の破片なども出土している。細かい炭化材の検出を考え、土壌は、ほぼ持ち帰り、水洗選別をおこなったが、クルミと木材以外炭化物は、検出されなかった。

時期　出土した炭化材から炭素年代測定をおこなったところ、弥生時代前期末から中期初頭頃の結果がでた。弥生時代前期に作られる条痕文土器がたくさん検出されたことと照らし合わせて、この時期を与えておく。

17号土坑（第47図）

位置　AG-90・91グリッド

形状・規模　長軸180cm・短軸85cm・深さ48cmで、遺構の1/2強が壁面に入る。断面袋状である。

遺物出土状況　土坑全体に遺物が出土する（第78図１～５、第79図６～13）。遺物の取り上げは、９号土坑同様ほぼ全点ドットであり、土器は細かい破片も含め170点におよぶ。このほか、炭化材７点、石類は26点となった。炭化材は、肉眼でもクルミとわかる大型の破片なども出土している。床面直上から口縁部に刻みをもつ条痕文の甕の破片を検出し、確認面を30cm掘り下げた位置から石鏃１点が、床面に近い位置から礫器が１点出土している。

時期　出土した土器片から、９号土坑と同じ、弥生時代前期末から中期初頭頃のものと考える。

18号土坑（第47図）

位置　AG-90・91グリッド

形状・規模　長軸153cm・短軸85cm・深さ55cmで、遺構の1/2が壁面に入る。断面袋状である。

遺物出土状況　土坑全体に遺物が出土する。遺物の取り上げは、９号土坑同様ほぼ全点ドットであり、土器は細かい破片も含め34点におよぶ。このほか、炭化材10点、石類は21点となった。床面直上で、条痕文の甕の破片と打製石斧が出土した。

時期　出土した土器片から、９・17号土坑と同じ、弥生時代前期末から中期初頭頃のものと考える。

20号土坑（第48図）

位置　AI-92グリッド

形状・規模　長軸76cm、短軸40cm、深さ10cmで、手の平大の縄文土器片がまとまって出土した。

遺物出土状況　第80図１～３の土器が重なり合うように出土していたが、１個体分に接合できるような資料ではなかった。

時期　出土した遺物から、縄文時代中期中葉（井戸尻式期）と推測される。

（3）集石遺構

１号集石

位置　AI-91グリッド

形状・規模　手の平半分ほどの礫が集中する。その範囲は長軸50cm・短軸30cmで、掘り方などは明確にはわからなかった。集石の周囲には人頭大の礫が点在し、集石を含む広範囲で黒色土の広がりがみられた。

遺物出土状況　土器などの遺物は、出土していない。

時期　周囲の土層の観察から、集石は縄文時代の遺構と考えられるが、細かい時期は断定できなかった。

２号集石（第42図）

位置　AI-92グリッド

形状・規模　長軸35cm・短軸30cm、深さ10cmほどで、１号住居跡の炉から、北東約100cmのところに位置する。平面で、手の平半分ほどの礫に混ざって打製石斧が出土したため２号集石とした。１号住居跡からは、打製石斧の検出が多めで、19点出土した内の5点となる。

遺物出土状況　土器は出土していないが、礫に混ざって打製石斧が出土している。砂岩性の打製石斧は、長さ12cm・幅5cmである。

時期　１号住居跡と近接していてレベルなども同じ層位であるため、縄文時代中期中葉の時期が妥当といえる。

３号集石

位置　AI-91グリッド

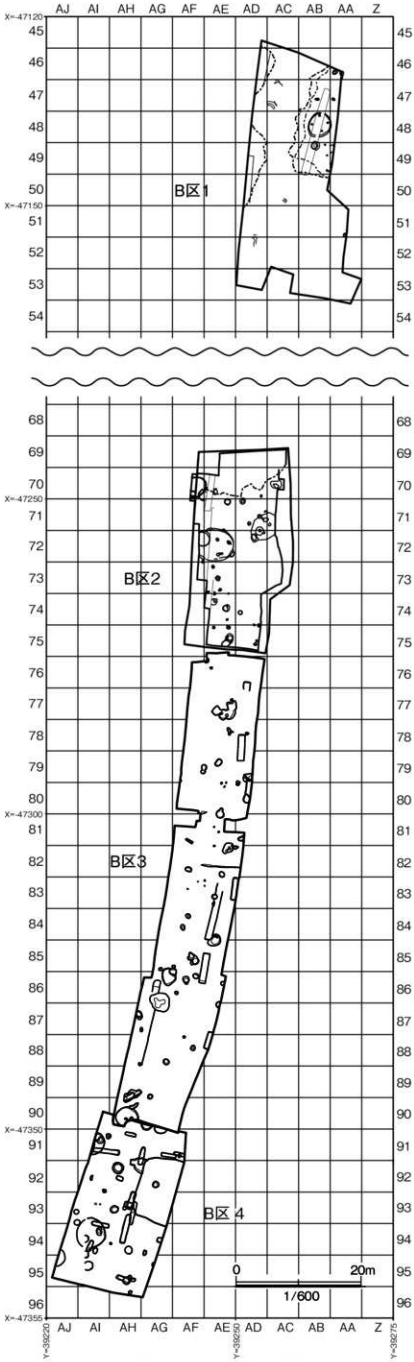
形状・規模　１号集石周辺に広がる礫などを掘削していく段階で検出された。他の調査区で確認されている集石土坑のようすとは違い、１号集積同様、手の平半分ほどの礫がそこに置かれたような状態であった。調査区のなかで、礫がまとまって出土する状況は、ほとんど無いため、集石遺構として調査をおこなった。

遺物出土状況　土器などは出土していない。礫のみである。

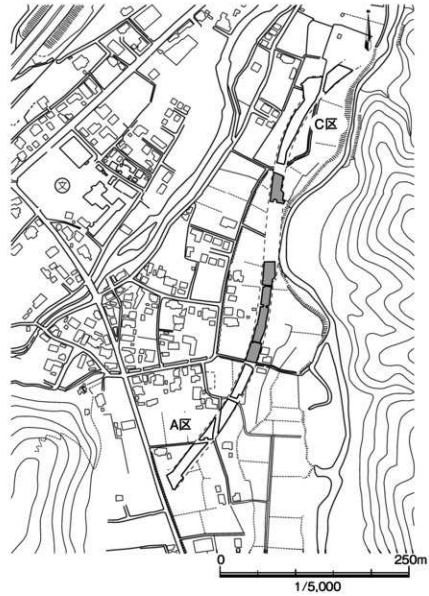
時期　周囲の土層の観察から、集石は縄文時代の遺構と考えられるが、細かい時期は断定できなかった。

（４）溝状遺構

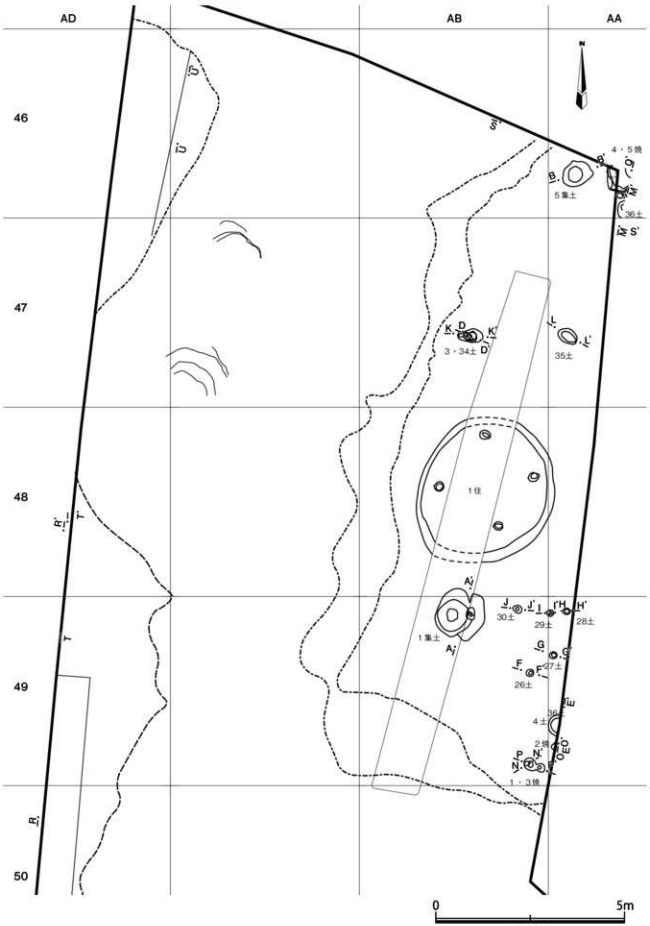
溝状遺構は、12条検出した。いずれも出土遺物は少量で、異なる時代の土器や陶器の小破片が同じ遺構から出土する状況から、周辺から混入した遺物である可能性が高く、時期や性格を特定することは難しい。各溝状遺構の詳細は第３表を参照されたい。



第2図　美通遺跡B区全体図

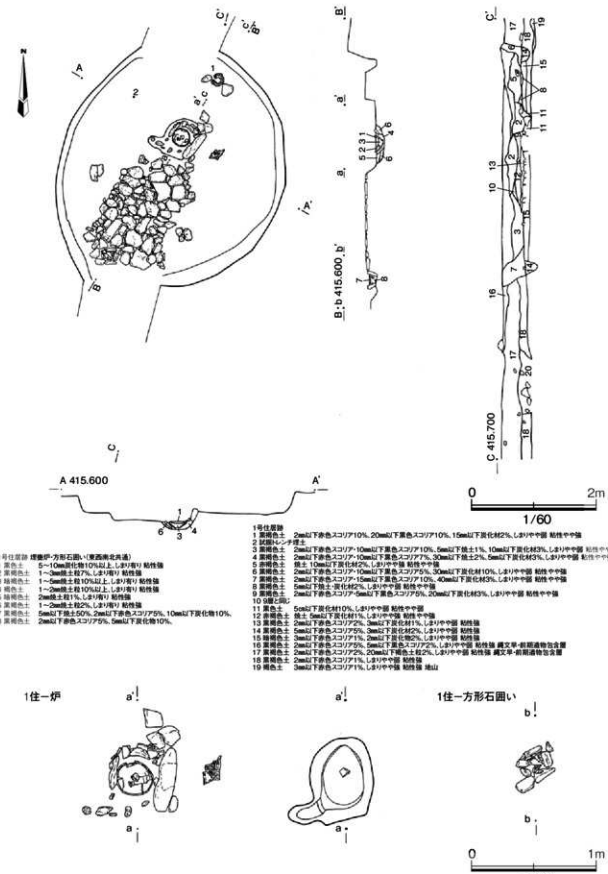


第3図　調査区位置図

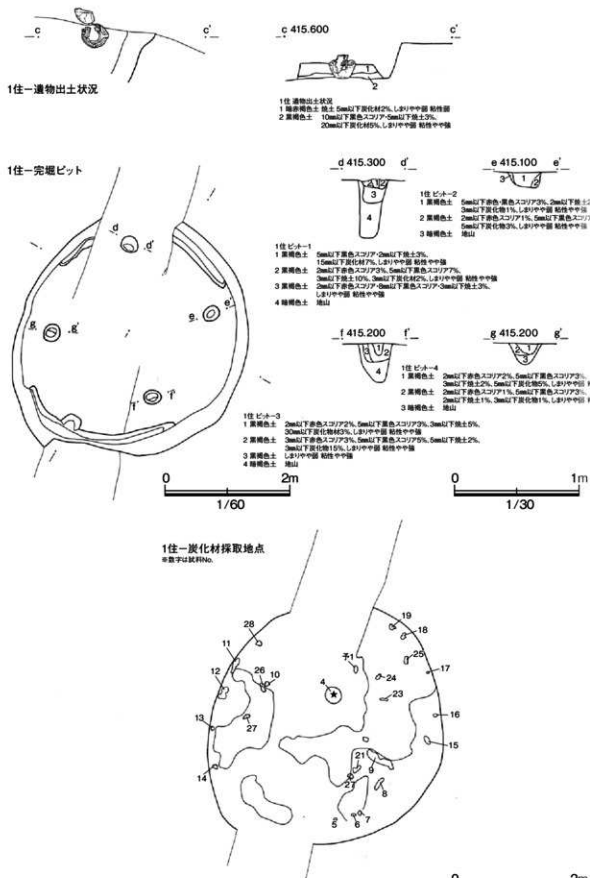

AD
AB
AA
46
47
48
49
50
N
4・5焼
5集土
36土
3・34土
35土
1住
1集土
30土
29土
28土
27土
26土
4土
2焼
1・3焼
0
5m
1/100

第４図　B区１　全体図（１）

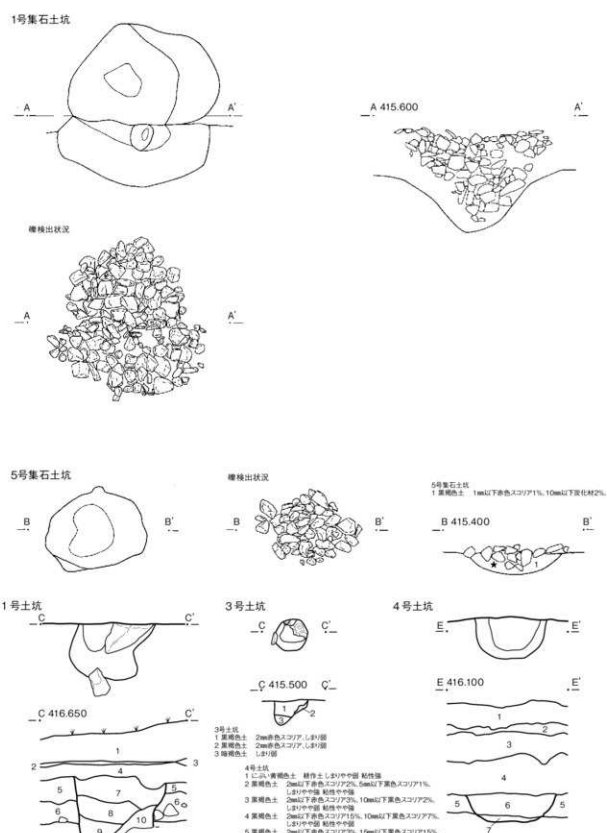
第5図　B区1　全体図（2）



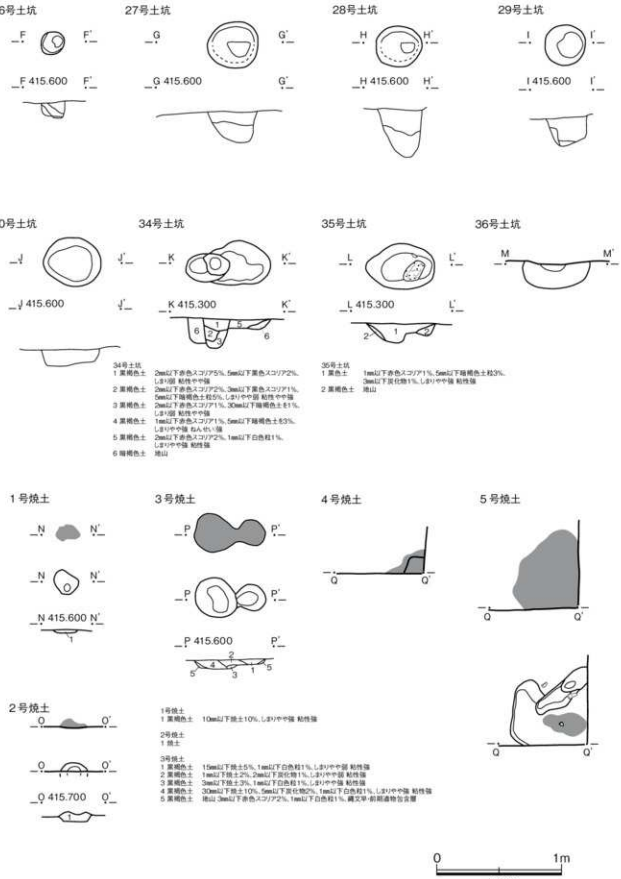
第６図　B区１　１号住居跡（１）



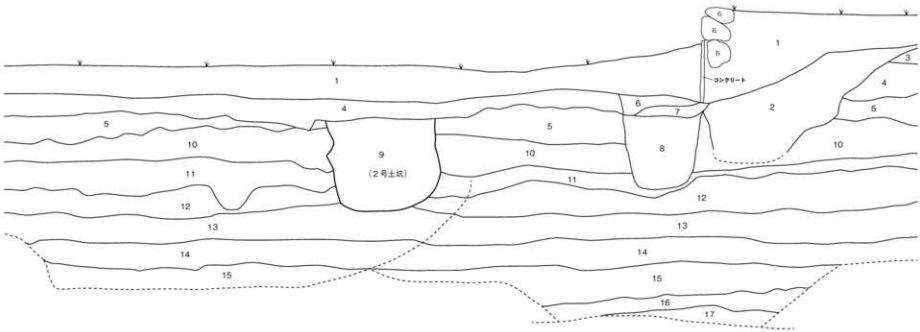
第７図　B区１　１号住居跡（２）



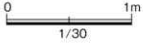
第8図　B区1　1・5集石土坑、1・3・4号土坑



第９図　B区１　26～30・34～36号土坑、１～５号焼土

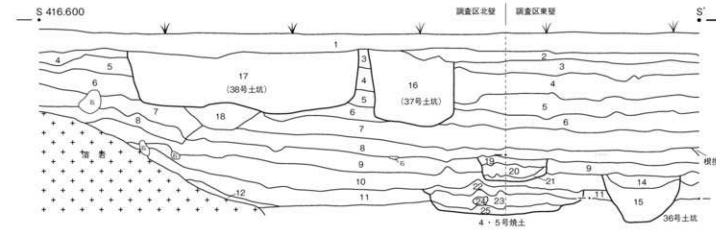


B区1 調査区西壁・2号土坑
1 にぶい黄褐色土　緋作土しまりやや弱 粘性強
2 黒褐色土　　腐乱
3 黒褐色土　　2mm以下赤色スコリア2%、5mm以下黒色スコリア1%、しまりやや強 粘性やや強
4 黒褐色土　　2mm以下赤色スコリア3%、10mm以下黒色スコリア2%、しまりやや弱 粘性やや強
5 黒褐色土　　2mm以下赤色スコリア2%、15mm以下黒色スコリア3%、50mm以下褐色土粒2%、しまり弱 粘性やや弱
6 黒褐色土　　腐乱
7 にぶい黄褐色土　腐乱
8 暗褐色土　　腐乱
9 黒褐色土　　5mm以下赤色スコリア1%、10mm以下黒色スコリア5%、60mm以下褐色土粒5%、しまり弱 粘性やや弱
10 褐色土　　10mm以下黒褐色土ツぶき1%、しまり弱 粘性やや弱
11 黒褐色土　　2mm以下赤色スコリア5%、5mm以下黒色スコリア2%、しまりやや弱 粘性やや弱
12 黒褐色土　　2mm以下赤色スコリア15%、10mm以下黒色スコリア7%、しまりやや強 粘性やや弱
13 黒褐色土　　2mm以下赤色スコリア3%、15mm以下黒色スコリア15%、20mm以下褐色土粒2%、5mm以下炭化材1%、しまりやや弱 粘性やや弱 縄文中期遺物包含層
14 黒褐色土　　2mm以下赤色スコリア3%、10mm以下黒色スコリア10%、30mm以下褐色土粒1%、しまりやや弱 粘性やや弱 縄文中期遺物包含層
15 黒褐色土　　2mm以下赤色スコリア3%、20mm以下黒色スコリア7%、しまりやや弱 粘性やや弱
16 黒褐色土　　2mm以下赤色スコリア3%、20mm以下黒色スコリア7%、しまりやや強 粘性強 縄文早・前期遺物包含層
17 黒褐色土　　2mm以下赤色スコリア2%、10mm以下黒色スコリア3%、しまりやや強 粘性強 縄文早・前期遺物包含層



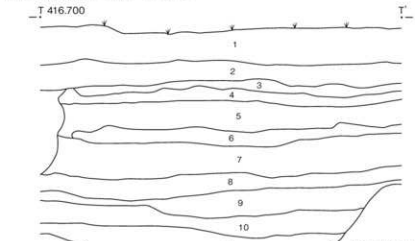
第10図　B区1　調査区西壁セクション（2号土坑）

B区１ 調査区北壁・東壁セクション



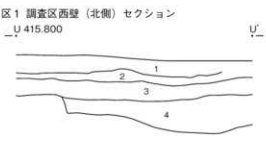
BS1 調査区北壁・東壁、36～38号土坑、4・5号焼土
1 暗褐色土　3mm以下赤色スコリア3%、しまり弱 粘性強
2 暗褐色土　5mm以下赤色スコリア3%、しまりやや弱 粘性強
3 黒褐色土　5mm以下赤色スコリア15%、5mm以下黒色スコリア5%、50mm以下暗褐色土粒7%、しまり弱 粘性やや弱
4 黒褐色土　3mm以下赤色スコリア20%、5mm以下黒色スコリア5%、しまり弱 粘性やや弱
5 黒褐色土　5mm以下赤色スコリア10%、20mm以下黒色スコリア15%、80mm以下暗褐色土粒5%、しまりやや弱 粘性やや弱
6 黒褐色土　2mm以下赤色スコリア7%、15mm以下黒色スコリア20%、30mm以下暗褐色土粒3%、しまりやや弱 粘性やや弱
7 黒褐色土　3mm以下赤色スコリア7%、10mm以下黒色スコリア15%、10cm以下暗褐色土粒3%、しまりやや弱 粘性やや弱
8 黒褐色土　2mm以下赤色スコリア5%、5mm以下黒色スコリア5%、しまりやや弱 粘性やや弱
9 黒褐色土　3mm以下赤色スコリア3%、5mm以下黒色スコリア1%、しまりやや弱 粘性強
10 黒褐色土　5mm以下赤色スコリア2%、しまりやや弱 粘性強
11 黒褐色土　2mm以下赤色スコリア1%、1mm以下白色粒1%、しまりやや弱 粘性強
12 黒褐色土　2mm以下白色粒1%、しまりやや弱 粘性強
13 暗褐色土　1mm以下白色粒1%、しまり強 粘性強
14 黒褐色土　36号土坑　2mm以下赤色スコリア5mm以下焼土3%、しまり弱 粘性強
15 黒褐色土　36号土坑　1mm以下赤色スコリア1%、5mm以下暗褐色土粒2%、しまり弱 粘性強
16 暗褐色土　5mm以下赤色スコリア・10mm以下黒色スコリア10%、20mm以下橙色2%、しまり弱 粘性やや弱
17 暗褐色土　5mm以下赤色スコリア7%、5mm以下黒色スコリア10%、15mm以下橙色2%、しまり弱 粘性やや弱
18 暗褐色土　2mm以下赤色スコリア5%、20mm以下黒色スコリア7%、10mm以下橙色1%、10mm以下黒褐色土粒2%、しまり弱 粘性やや弱
19 黒褐色土　4号焼土　5mm以下焼土3%、しまり弱 粘性やや弱
20 極暗赤褐色土　4号焼土　焼土 3mm以下炭化物1%、しまりやや弱 粘性やや弱
21 黒褐色土　4号焼土　5mm以下焼土5%、2mm以下炭化物2%、しまり弱 粘性強
22 黒褐色土　5号焼土　30mm以下焼土5%、しまり弱 粘性強
23 暗赤褐色土　5号焼土 焼土 10mm以下黒褐色土粒2%、しまりやや弱 粘性強
24 暗赤褐色土　5号焼土 焼土 しまりやや弱 粘性強
25 黒褐色土　5号焼土　5mm以下焼土3%、しまり弱 粘性強

B区１ 調査区西壁（南側）セクション



BS1 調査区西壁土壌採取地点（南側）
1 黒褐色土　15mm以下赤色スコリア7%
2 黒褐色土　5mm以下赤色スコリア5%
3 暗褐色土　3mm以下赤色スコリア3%
4 暗褐色土　2mm以下赤色スコリア3%
5 暗褐色土　2mm以下赤色スコリア3%
6 黒褐色土　3mm以下赤色スコリア20%、10mm以下黒色スコリア3%、大変スコリア
7 黒褐色土　5mm以下赤色スコリア15%、5mm以下黒色スコリア5%
8 黒褐色土　5mm以下赤色スコリア10%、15mm以下黒色スコリア15%
9 黒褐色土　2mm以下赤色スコリア3%、15mm以下黒色スコリア15%
10 黒褐色土　3mm以下赤色スコリア5%、20mm以下黒色スコリア20%
11 黒褐色土　4mm以下赤色スコリア3%、8mm以下黒色スコリア7%

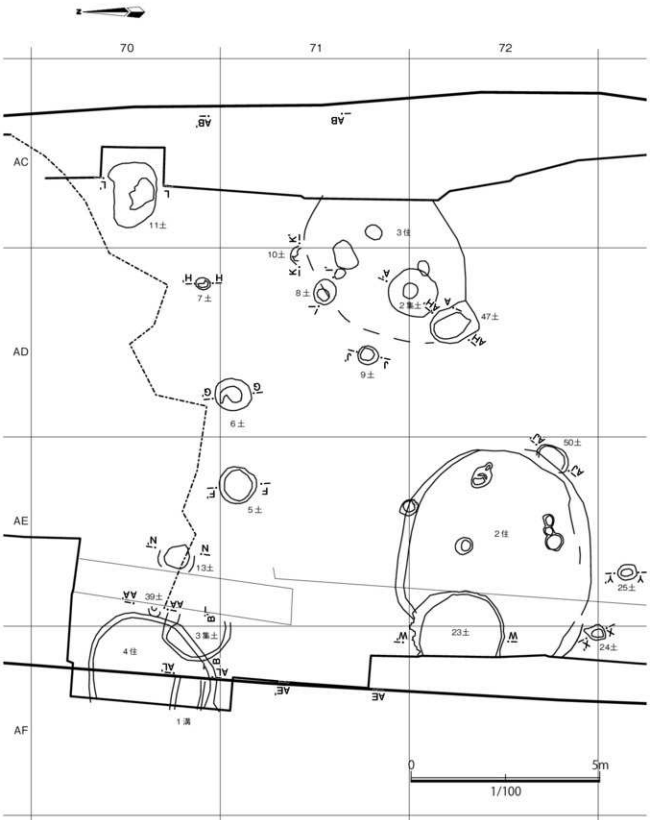
B区１ 調査区西壁（北側）セクション



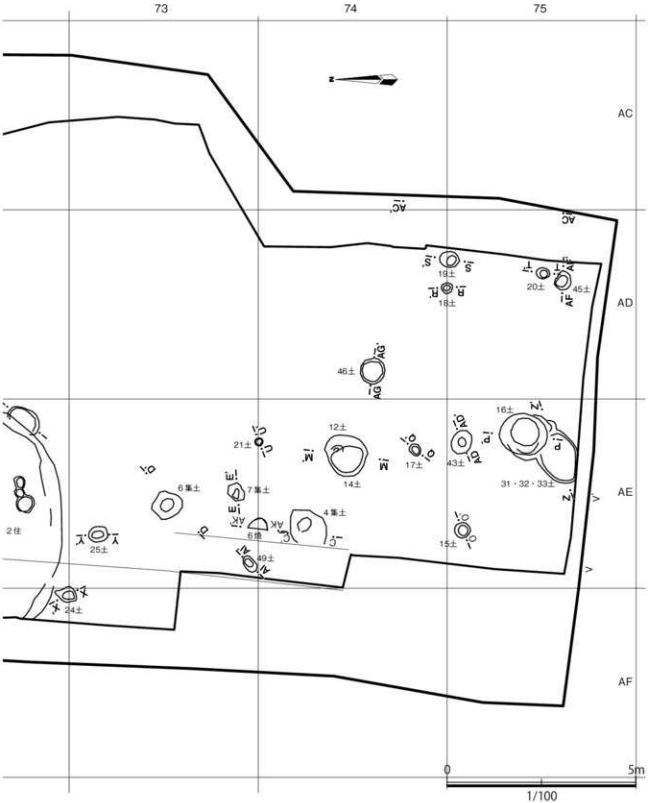
BS1 調査区西壁土壌採取地点（北側）
1 黒褐色土　1mm以下赤色スコリア3%、5mm以下黒色スコリア5%、
2 黒褐色土　1mm以下赤色スコリア2%、5mm以下黒色スコリア2%、
3 黒褐色土　3mm以下赤色スコリア1%、
4 黒褐色土　1mm以下赤色スコリア1%、

0　1m
1/30

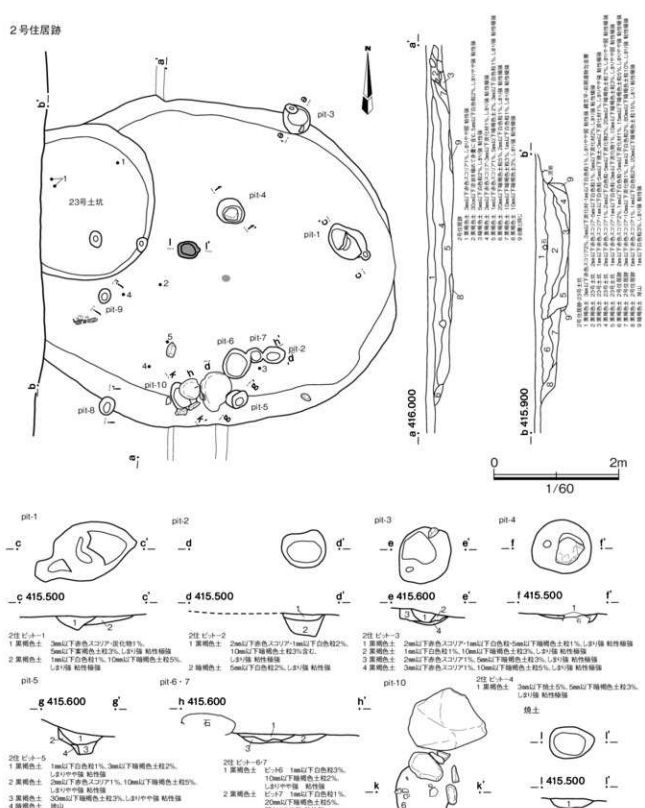
第11図　B区１　調査区北・東壁セクション（４・５号焼土、36～38号土坑）、調査区西壁土壌採取地点セクション



第12図　B区２　全体図（１）

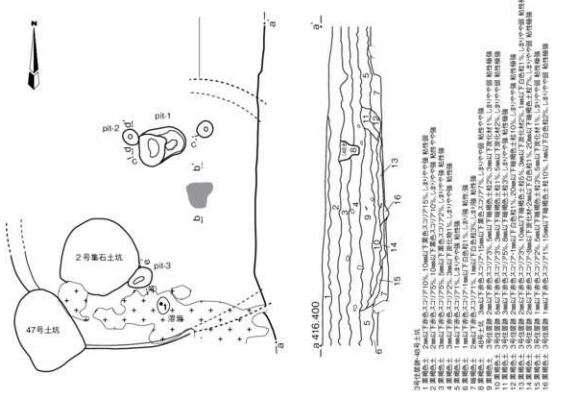


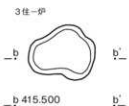
第13図　B区２　全体図（２）



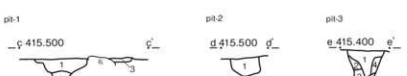
第14図　B区２　２号住居跡

3号住居跡





3住 炉
1 黒褐色土　50mm以下焼土5%、2mm以下白色粒2%、
3mm以下炭化材1%、しまり弱 粘性強



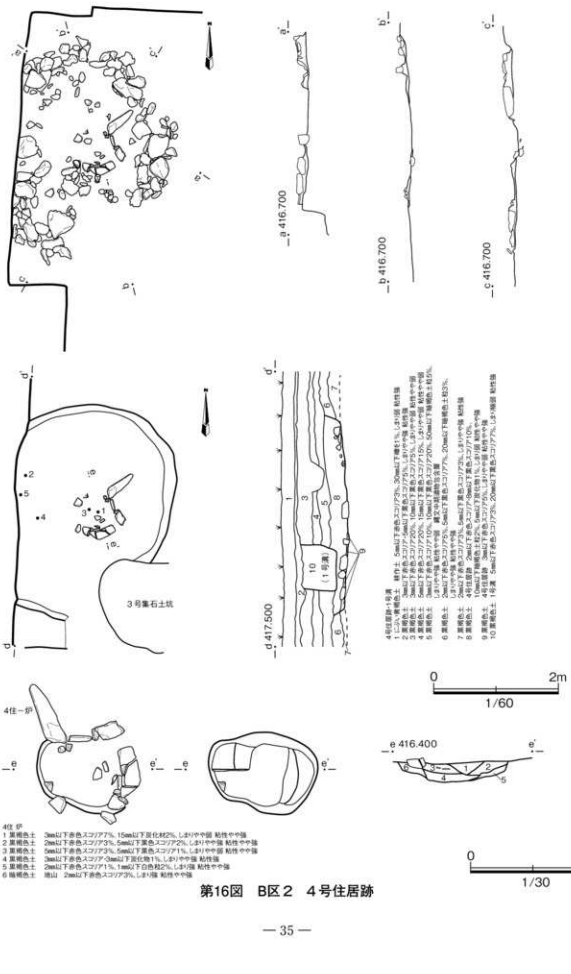
3住 ピット1
1 黒褐色土　1mm以下赤色スコリア・2mm以下炭化材1%、
2 黒褐色土　2mm以下赤色スコリア1%、20mm以下暗褐色土粒5%、
1mm以下白色粒1%、
3 黒褐色土　3mm以下赤色スコリア3%、2mm以下白色粒2%、
ゆいずれも しまりやや強 粘性強

3住 ピット2
1 黒褐色土　3mm以下赤色スコリア2%、
10mm以下暗褐色土粒3%、
しまりやや強 粘性強

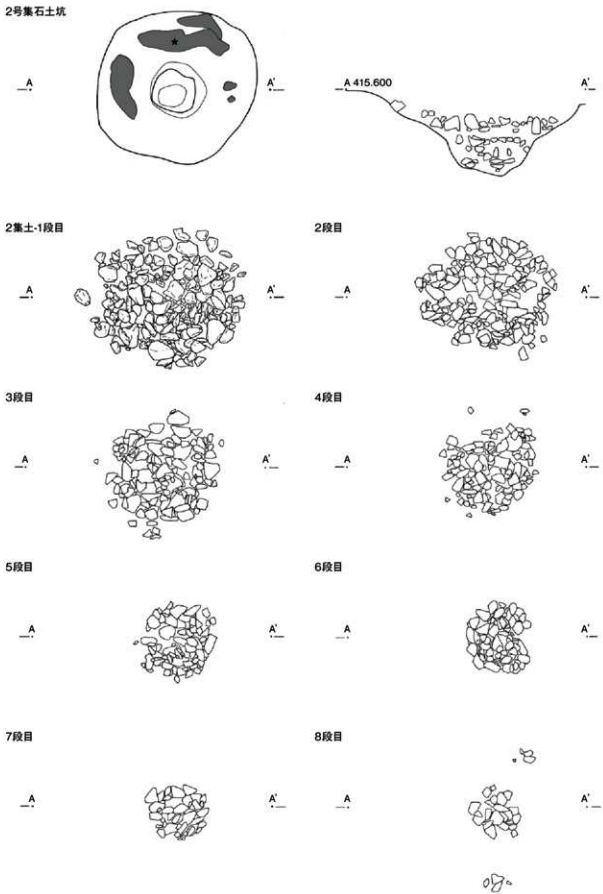
3住 ピット3
1 黒褐色土　2mm以下赤色スコリア・10mm以下暗褐色土粒3%、3mm以下炭化物2%、
しまりやや強 粘性強
2 黒褐色土　1mm以下赤色スコリア1%、30mm以下暗褐色土粒15%、しまりやや強 粘性強
3 黒褐色土　5mm以下炭化物1%、40mm以下暗褐色土粒10%、しまりやや強 粘性強
4 黒褐色土　2mm以下スコリア1%、10mm以下暗褐色土粒15%、しまりやや強 粘性強
5 黒褐色土　1mm以下赤色スコリア2%、30mm以下暗褐色土粒5%、しまりやや強 粘性強

0　1m
1/30

第15図　B区2　3号住居跡

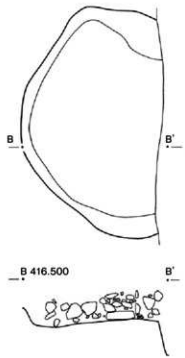


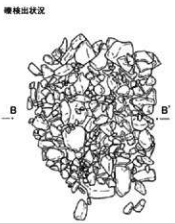
第16図　B区２　４号住居跡



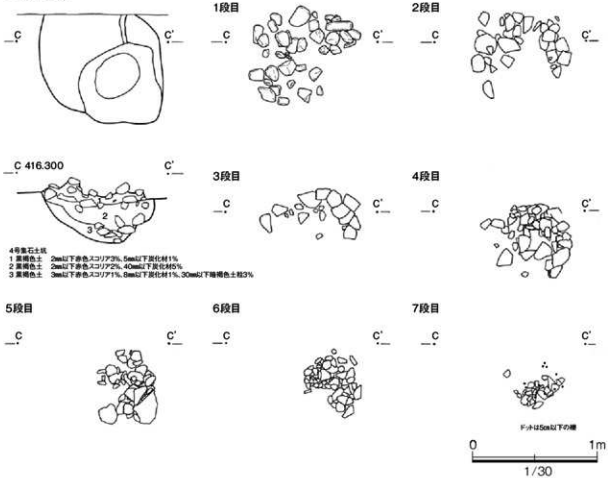
第17図　B区２　２号集石土坑

3号集石土坑

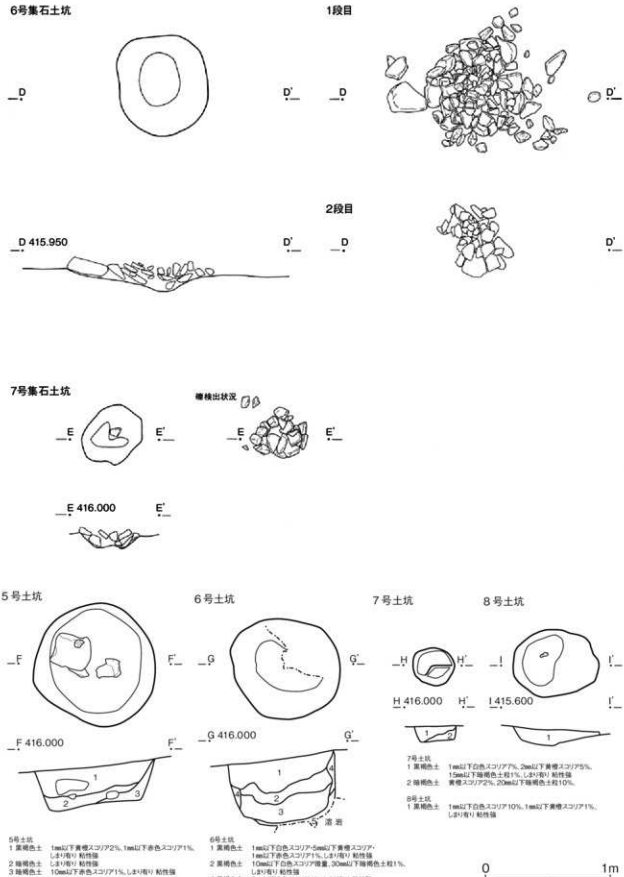




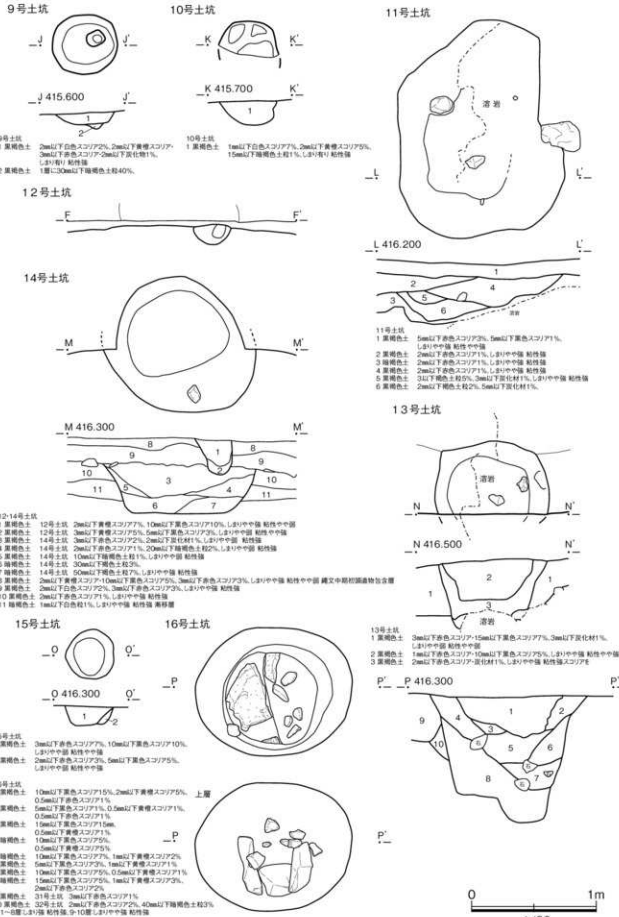
4号集石土坑



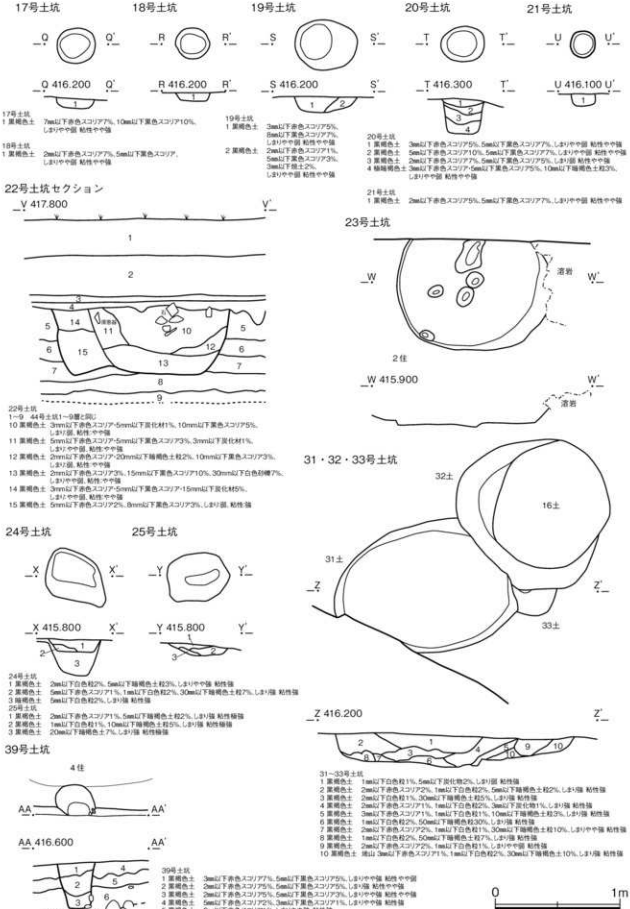
第18図　B区２　３・４号集石土坑



第19図　B区２　６・７号集石土坑、５～８号土坑

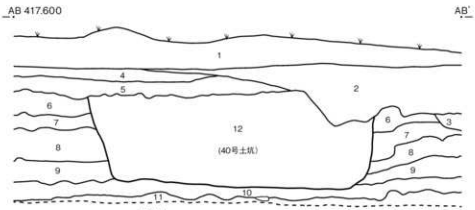


第20図　B区２　９～16号土坑



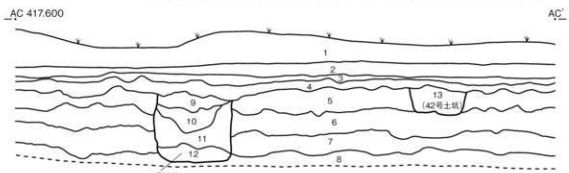
第21図　B区2　17～25・31～33・39号土坑

40号土坑セクション



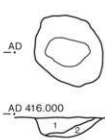
40号土坑
1 暗褐色土　3mm以下赤色スコリア3%、2mm以下褐2%、しまり弱 粘性強
2 暗褐色土　3mm以下赤色スコリア2%、15mm以下褐1%、しまり弱 粘性やや強
3 黒褐色土　2mm以下赤色スコリア5%、50mm以下暗褐色土粒15%、しまり弱 粘性やや強
4 黒褐色土　2mm以下赤色スコリア3%、10mm以下暗褐色土粒3%、しまりやや強 粘性やや弱
5 黒褐色土　3mm以下赤色スコリア5%、5mm以下黒色スコリア2%、50mm以下暗褐色土粒5%、しまりやや強 粘性やや弱
6 黒褐色土　2mm以下赤色スコリア5%、5mm以下黒色スコリア3%、25mm以下暗褐色土粒2%、しまりやや強 粘性やや弱
7 黒褐色土　3mm以下赤色スコリア10%、5mm以下黒色スコリア3%、10mm以下暗褐色土粒10%、しまりやや弱 粘性やや弱
8 黒褐色土　3mm以下赤色スコリア20%、10mm以下黒色スコリア5%、しまりやや強 粘性やや弱
9 黒褐色土　5mm以下赤色スコリア20%、8mm以下黒色スコリア10%、しまりやや強 粘性やや弱
10 黒褐色土 2mm以下赤色スコリア10%、10mm以下黒色スコリア15%、しまりやや強 粘性やや弱
11 黒褐色土 2mm以下赤色スコリア5%、10mm以下黒色スコリア10%、しまりやや強 粘性やや弱
12 黒褐色土　40号土坑　5mm以下赤色スコリア5%、15mm以下黒色スコリア7%、20mm以下暗褐色土粒3%、3mm以下炭化物1%、しまり弱 粘性強

41・42号土坑セクション



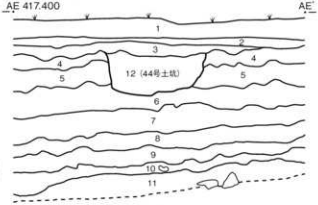
41-42号土坑
1 暗褐色土　3mm以下赤色スコリア3%、2mm以下褐2%、しまり弱 粘性強
2 暗褐色土　2mm以下赤色スコリア2%、しまりやや弱 粘性強
3 黒褐色土　2mm以下赤色スコリア5%、5mm以下黒色スコリア3%、20mm以下暗褐色土粒2%、しまりやや弱 粘性やや弱
4 黒褐色土　3mm以下赤色スコリア10%、5mm以下黒色スコリア3%、10mm以下暗褐色土粒10%、しまりやや弱 粘性やや弱
5 黒褐色土　3mm以下赤色スコリア20%、10mm以下黒色スコリア5%、しまりやや強 粘性やや弱
6 黒褐色土　5mm以下赤色スコリア20%、8mm以下黒色スコリア10%、しまりやや強 粘性やや弱
7 黒褐色土　2mm以下赤色スコリア10%、10mm以下黒色スコリア15%、しまりやや強 粘性やや弱
8 黒褐色土　2mm以下赤色スコリア5%、10mm以下黒色スコリア10%、しまりやや強 粘性やや弱
9 黒褐色土　41号土坑　2mm以下赤色スコリア7%、5mm以下黒色スコリア3%、しまり弱 粘性やや弱
10 黒褐色土 41号土坑　2mm以下赤色スコリア7%、5mm以下黒色スコリア5%、しまり弱 粘性やや弱
11 黒褐色土 41号土坑　3mm以下赤色スコリア5%、8mm以下黒色スコリア7%、しまり弱 粘性やや弱
12 黒褐色土 41号土坑　3mm以下赤色スコリア3%、5mm以下黒色スコリア5%、しまり弱 粘性やや弱

43号土坑



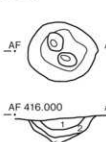
43号土坑
1 黒褐色土　3mm以下黄褐色土粒1%、しまり強 粘性強
2 暗色土　5mm以下黄褐色土粒2%、しまり強 粘性強

44号土坑セクション



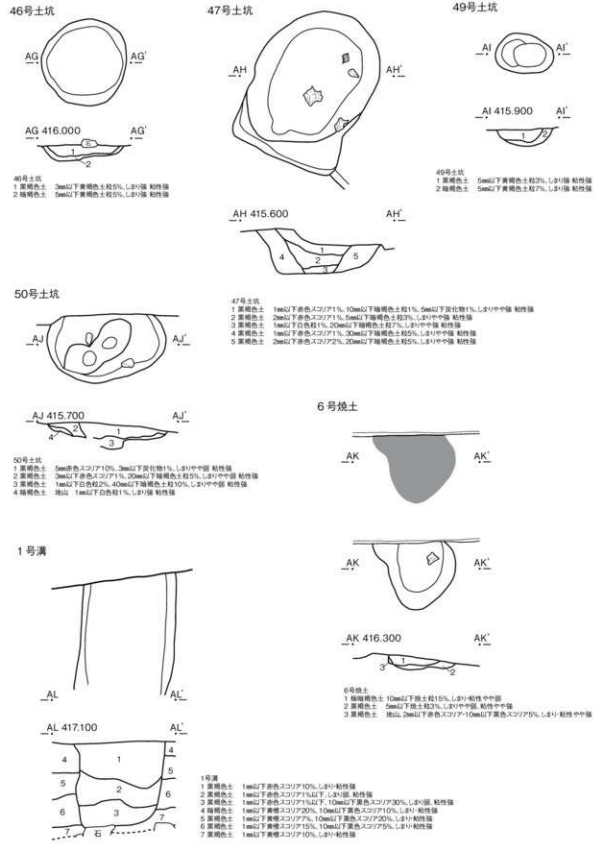
44号土坑
1 にぶい黄褐色土　耕作土　5mm以下赤色スコリア3%、30mm以下褐色1%、しまり弱 粘性強
2 暗褐色土　耕作土　5mm以下赤色スコリア3%、しまり強 粘性やや弱
3 黒褐色土　5mm以下赤色スコリア5%、しまりやや強 粘性やや弱
4 黒褐色土　3mm以下赤色スコリア5mm以下黒色スコリア5%、しまりやや強 粘性強
5 黒褐色土　3mm以下赤色スコリア20%、10mm以下黒色スコリア5%、しまりやや強 粘性やや弱
6 黒褐色土　5mm以下赤色スコリア20%、15mm以下黒色スコリア15%、しまりやや強 粘性やや弱
7 黒褐色土　3mm以下赤色スコリア10%、10mm以下黒色スコリア20%、50mm以下暗褐色土粒5%、しまりやや強 粘性やや弱　縄文中期遺物包含層
8 黒褐色土　2mm以下赤色スコリア5%、10mm以下黒色スコリア10%、しまりやや強 粘性やや弱
9 黒褐色土　2mm以下赤色スコリア5%、5mm以下黒色スコリア7%、20mm以下暗褐色土粒3%、しまりやや強 粘性やや強
10 黒褐色土 2mm以下赤色スコリア3%、5mm以下黒色スコリア3%、しまりやや強 粘性強
11 黒褐色土 2mm以下赤色スコリア2%
12 黒褐色土 44号土坑　2mm以下赤色スコリア5%、10mm以下黒色スコリア3%、5mm以下炭化物1%、しまり弱 粘性強

45号土坑



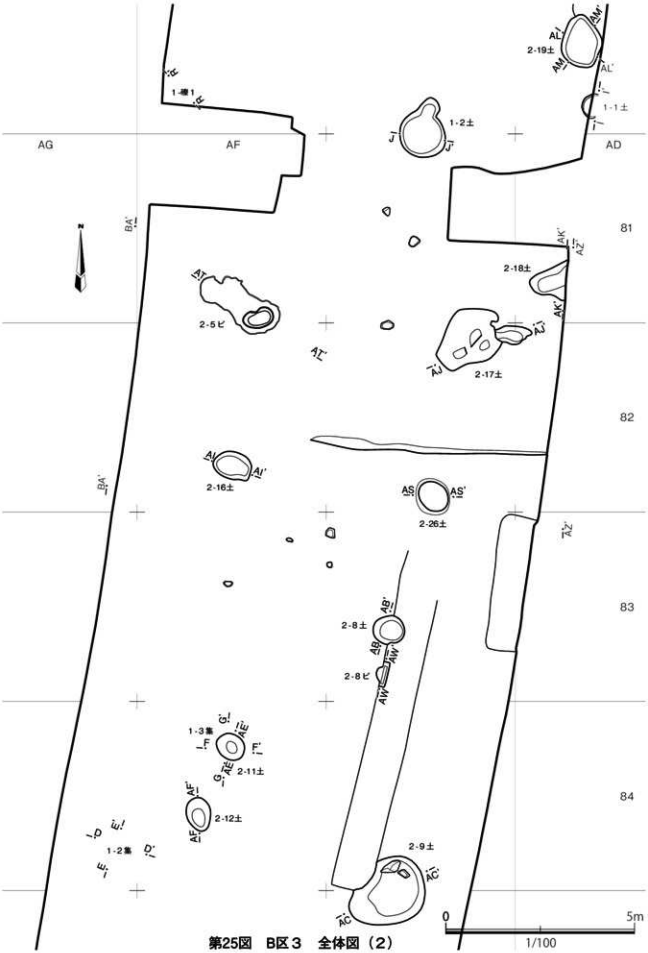
45号土坑
1 黒褐色土　2mm以下黄褐色土粒1%、しまり強 粘性強
2 暗褐色土　3mm以下黄褐色土粒2%、しまり強 粘性強
3 暗褐色土　5mm以下黄褐色土粒5%、しまり強 粘性強

第22図　B区２　40~45号土坑

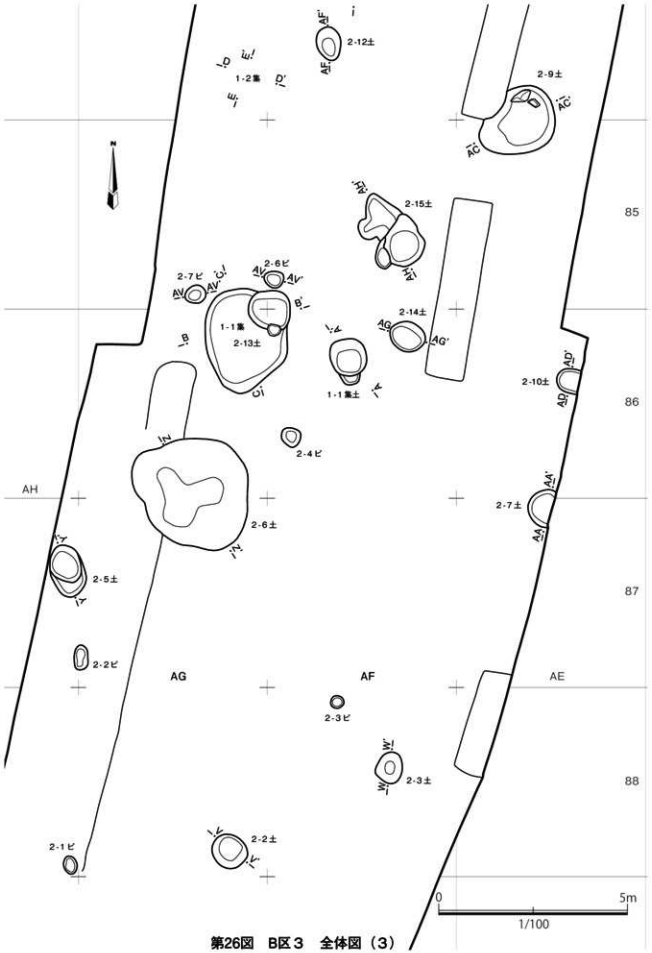


第23図　B区２　46・47・49・50号土坑・６号焼土・１号溝

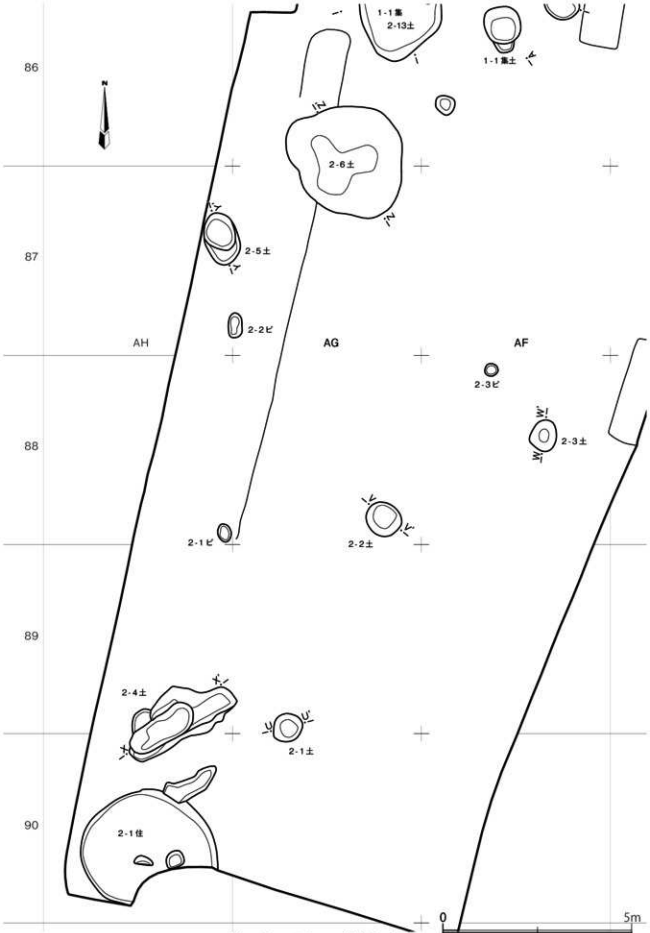
第24図　B区３　全体図（１）



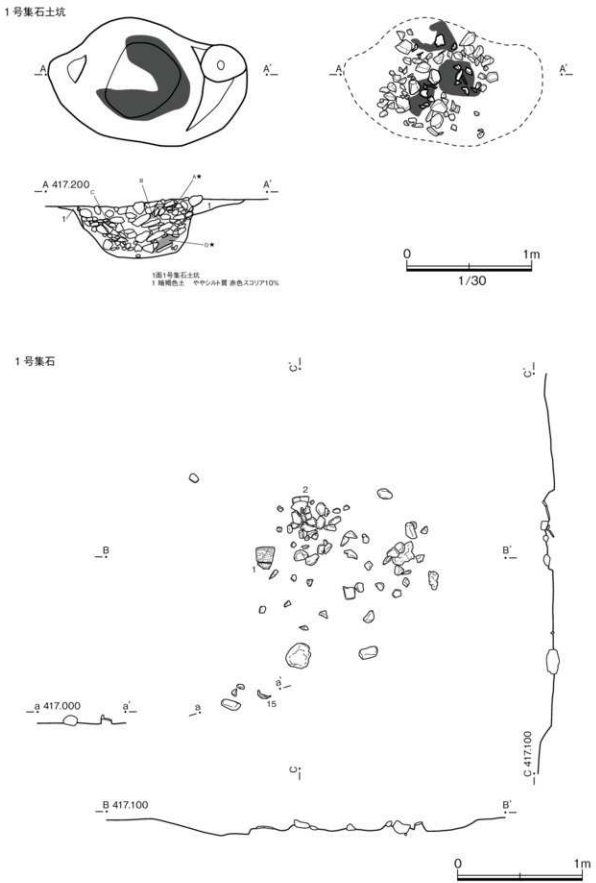
第25図　B区３　全体図（２）



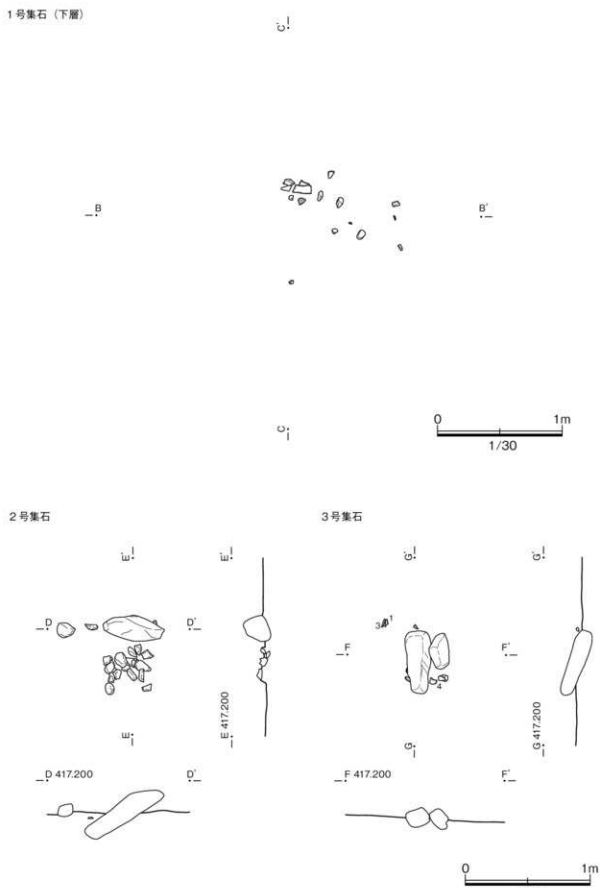
第26図　B区３　全体図（３）



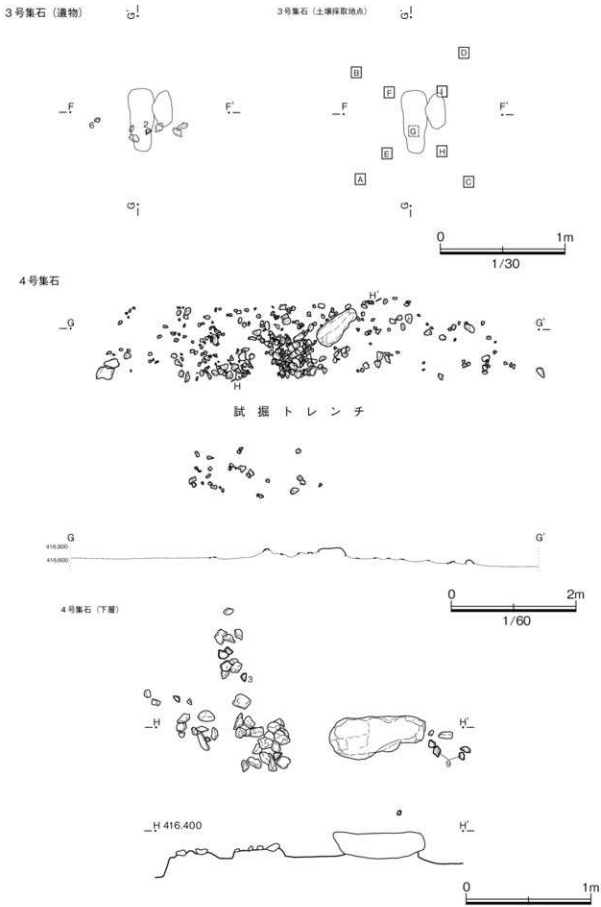
第27図　B区３　全体図（４）



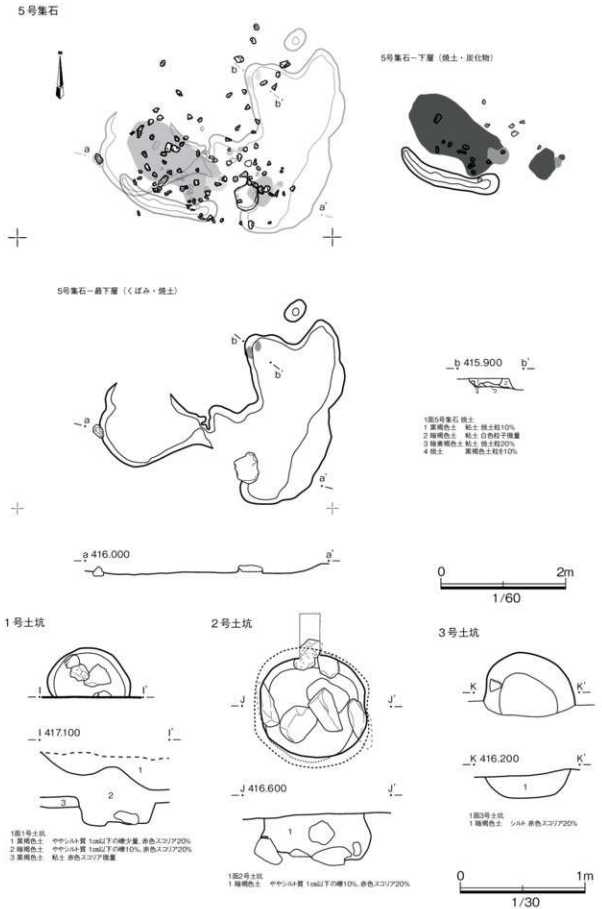
第28図　B区３　１面１号集石土坑・１号集石（１）



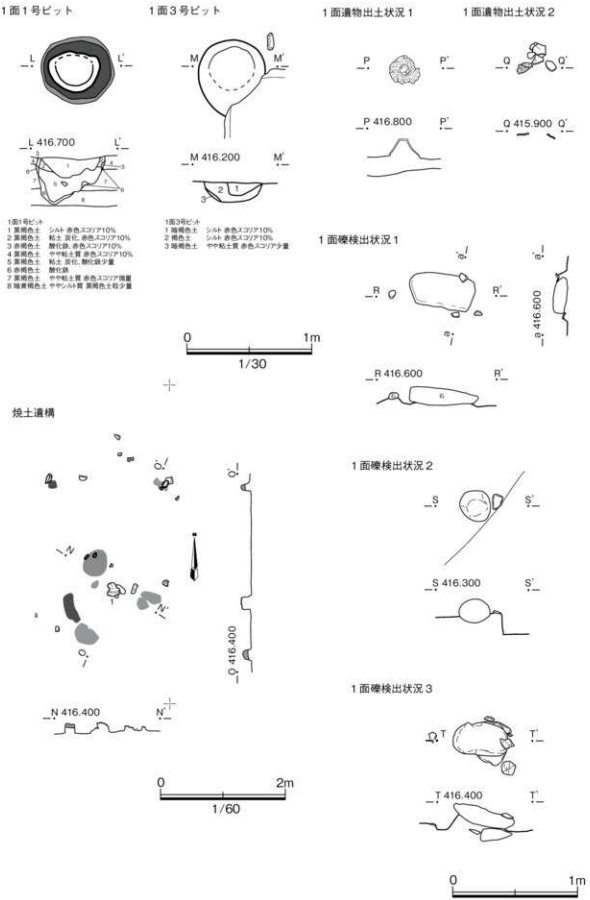
第29図　B区３　１面１号集石（２）、２号集石、３号集石（１）



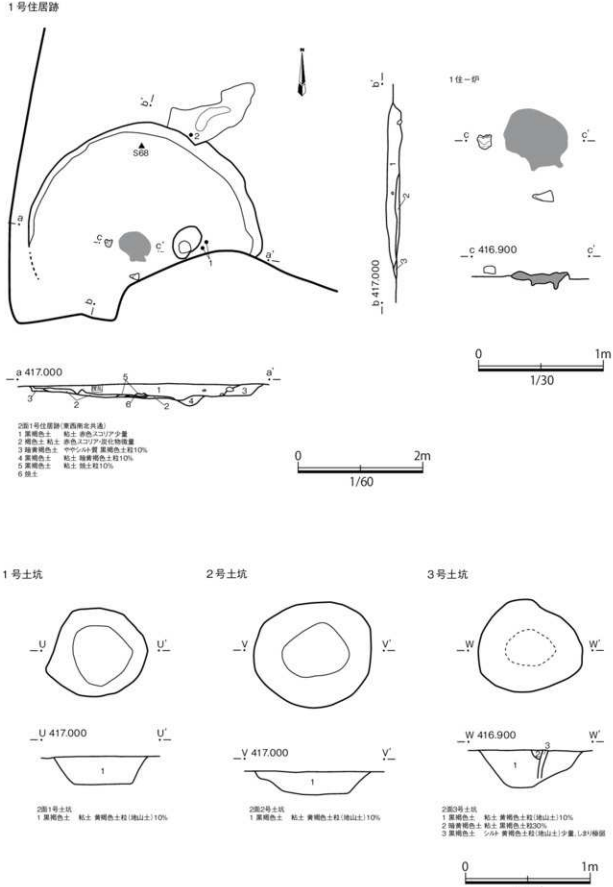
第30図　B区３　１面３号集石（２）・４号集石



第31図　B区３　１面５号集石、１～3号土坑



第32図　B区３　１面１・３号ピット、焼土遺構、遺物出土状況、礫検出状況



2面1号住居跡(東西南北共通)
1 黒褐色土　粘土 赤色スコリア少量
2 褐色土 粘土 赤色スコリア・炭化物微量
3 暗黄褐色土 ややシルト質 黒褐色土粒10%
4 黒褐色土　粘土 暗黄褐色土粒10%
5 黒褐色土　粘土 地土粒10%
6 地土

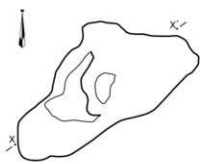
2面1号土坑
1 黒褐色土　粘土 黄褐色土粒(地山土)10%

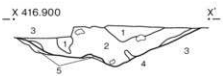
2面2号土坑
1 黒褐色土　粘土 黄褐色土粒(地山土)10%

2面3号土坑
1 黒褐色土　粘土 黄褐色土粒(地山土)10%
2 暗黄褐色土 粘土 黒褐色土粒30%
3 黒褐色土　シルト 黄褐色土粒(地山土)少量、しまり極弱

第33図　B区3　2面1号住居跡、1～3号土坑

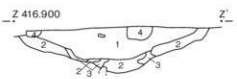
4号土坑





2面4号土坑
1 暗褐色土　ややシルト質 赤色スコリア少量、炭化物微量
2 黒褐色土　やや粘土質 赤色スコリア微量
3 暗黄褐色土　やや粘土質 黒褐色土粒30%
4 黄褐色土　やや砂質 黒褐色土粒10%
5 暗黄褐色土　やや粘土質 地山

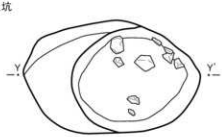
6号土坑



2面6号土坑
1 黄褐色土　やや砂質 10cm以下礫少量
2 黒褐色土　粘土 黄褐色土粒20%、炭化材少量
3 黄褐色土　やや粘土質 黒褐色土粒少量
4 暗褐色土　やや砂質 黄褐色土粒5 10%

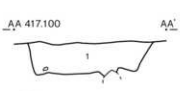
0　2m
1/60

5号土坑



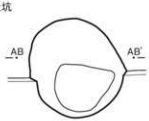
2面5号土坑
1 黒褐色土　粘土 黄褐色土粒10%
2 黒褐色土　粘土 炭化物微量
3 黒褐色土　粘土 黄褐色土粒20%
4 暗黄褐色土 やや粘土質 地山

7号土坑



2面7号土坑
1 黒褐色土　やや粘土質 赤色スコリア-5mm以下白色砂礫微量

8号土坑

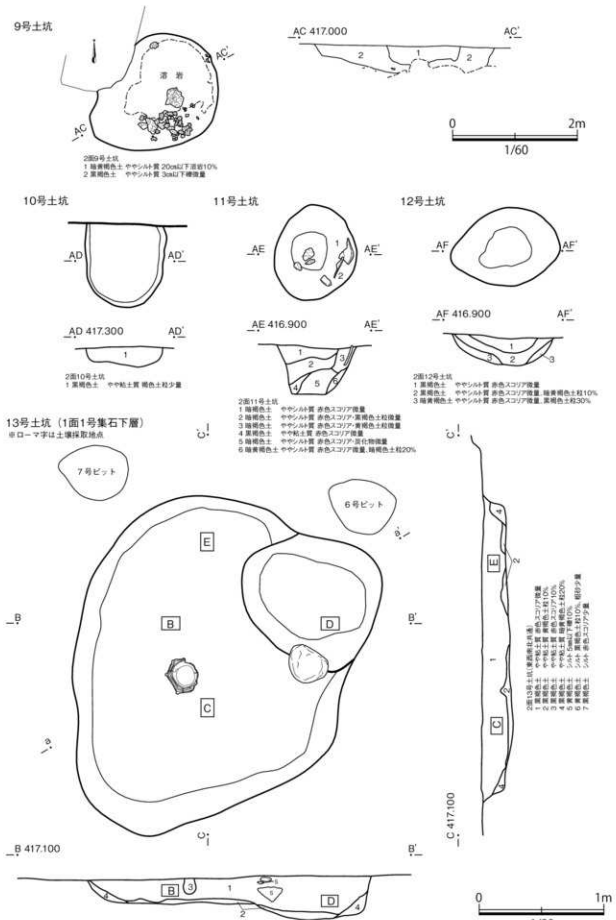


上層

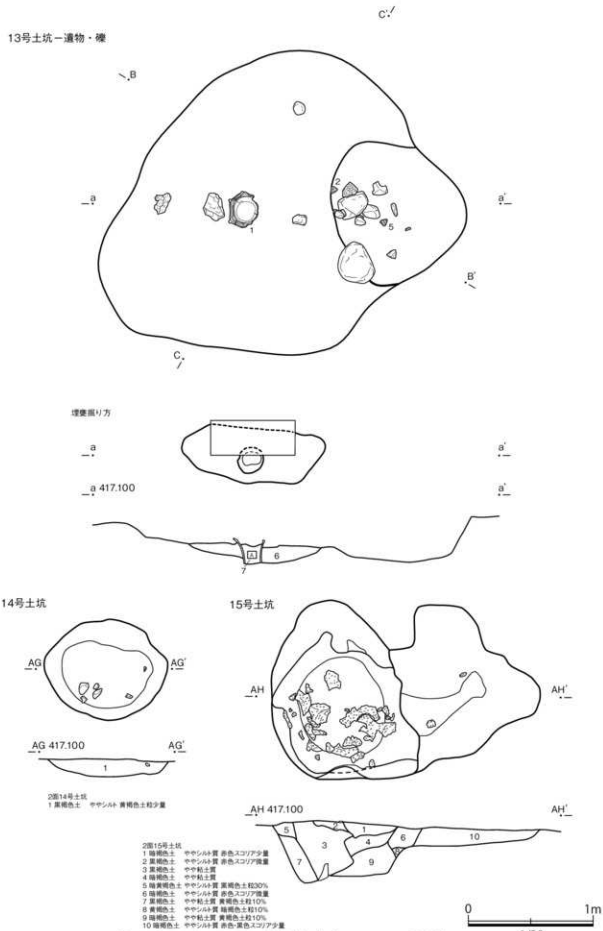
2面8号土坑
1 暗褐色土　やや粘土質
2 暗黄褐色土 ややシルト質 暗褐色土粒20%

0　1m
1/30

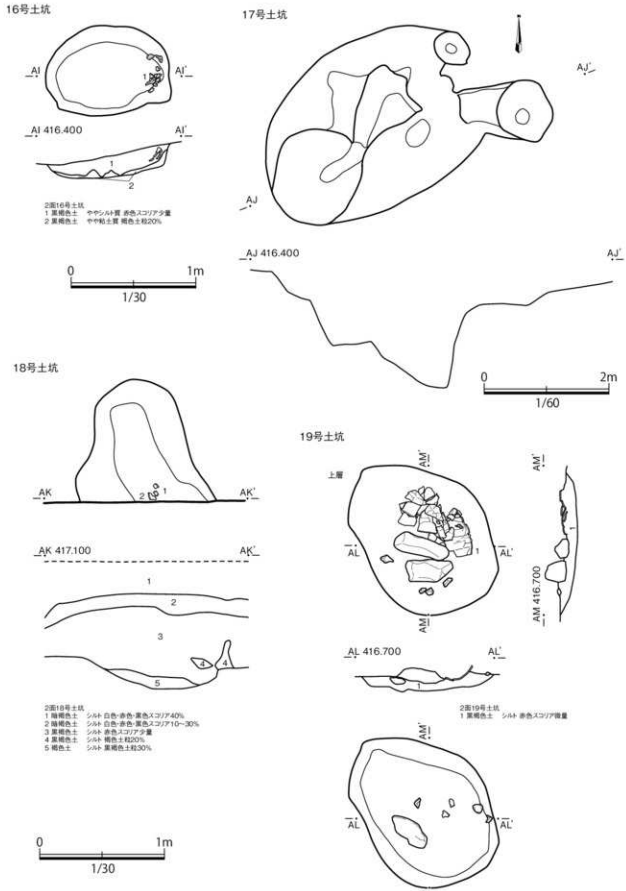
第34図　B区3　2面4～8号土坑



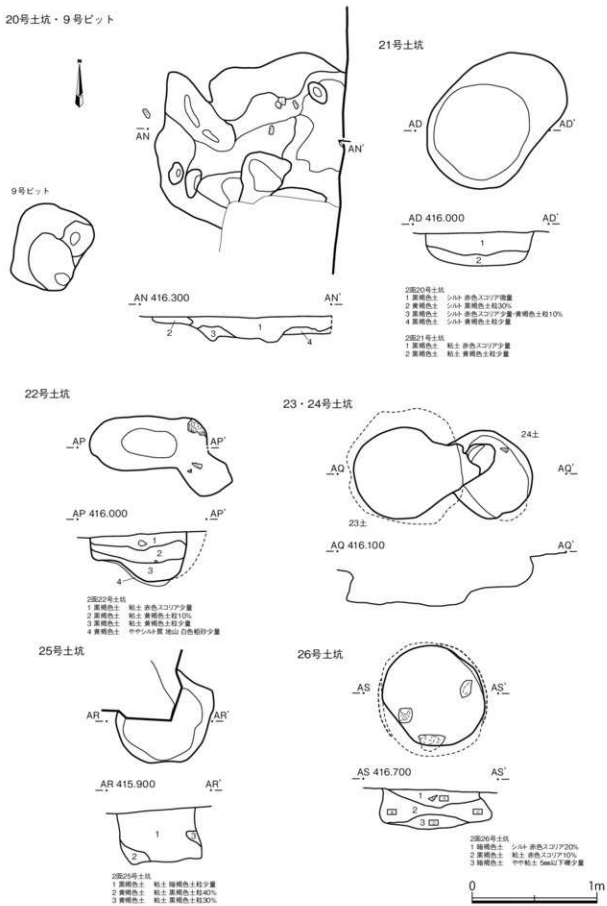
第35図　B区３　２面９～12号土坑、13号土坑（１）



第36図　B区3　2面13号土坑（2）、14・15号土坑

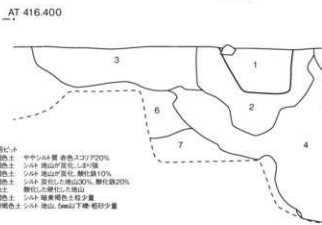


第37図　B区３　２面16～19号土坑



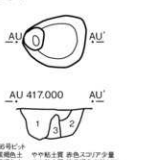
第38図　B区３　２面20～26号土坑、９号ピット

5号ピット



2図5号ピット
1 暗褐色土　ややシルト質 赤色スコリア20%
2 黒褐色土　シルト 地山ﾌﾞﾛｯｸ化、しまり強
3 黒褐色土　シルト 地山ﾌﾞﾛｯｸ化、酸化鉄10%
4 黒褐色土　シルト 炭化した地山30%、酸化鉄20%
5 橙色土　酸化した硬化した地山
6 黒褐色土　シルト 暗黄褐色土粒少量
7 暗黄褐色土 シルト 地山、fasci下層・粗砂少量

6号ピット

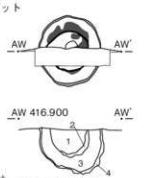


2図6号ピット
1 黒褐色土　やや粘土質 赤色スコリア少量
2 黒褐色土　やや粘土質 暗黄褐色土粒10%
3 暗黄褐色土 シルト 黒褐色土粒10%、粗砂少量

7号ピット

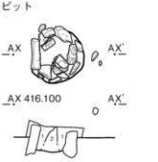
2図7号ピット
1 黒褐色土　やや粘土質 赤色スコリア微量
2 暗黄褐色土 ややシルト質 黒褐色土粒10%

8号ピット



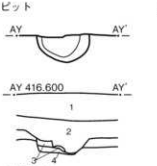
2図8号ピット
1 暗褐色土　ややシルト質 赤色スコリア20%
2 黒褐色土　シルト 炭化、しまり強
3 暗黄褐色土 シルト 炭化した地山30%、酸化した地山少量、しまり強
4 橙色土　酸化して硬化した地山

10号ピット

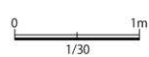


2図10号ピット
1 黒褐色土　粘土 赤色スコリア微量
2 褐色土　シルト 白色粗砂微量

11号ピット

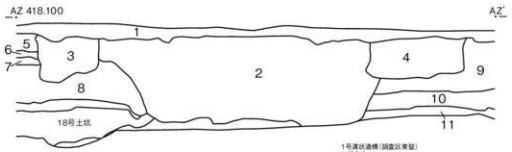


2図11号ピット
1 黒褐色土　粘土 赤色スコリア少量
2 黒褐色土　粘土 橙色土粒微量
3 暗褐色土　粘土 黒褐色土・黄褐色土粒少量
4 暗褐色土　粘土



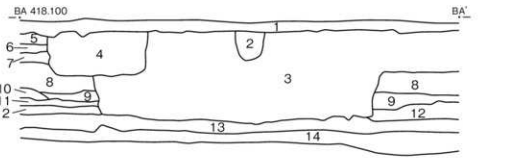
第39図　B区３　２面５～８・10･11号ピット

1号溝状遺構（調査区東壁セクション）



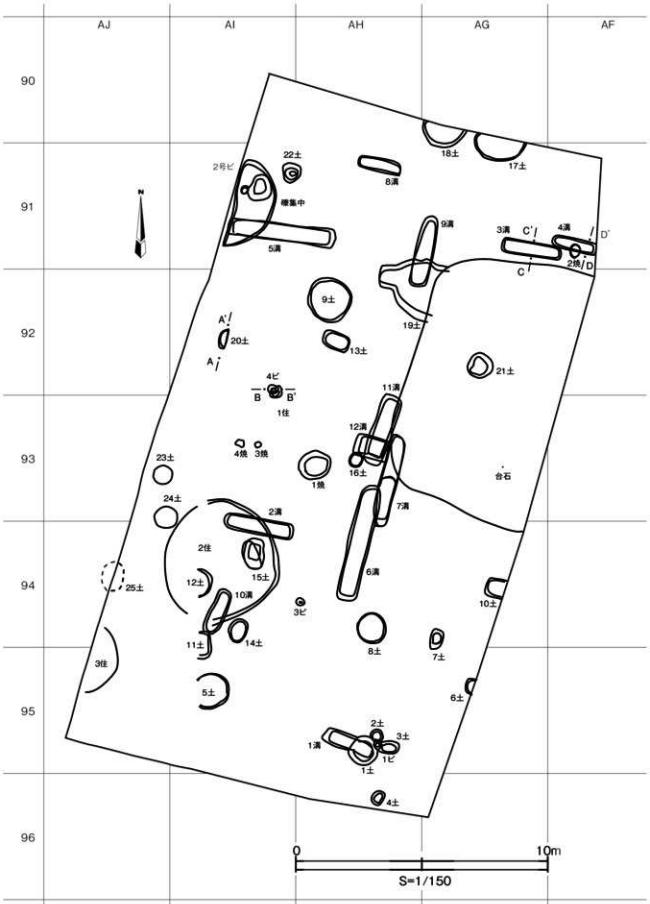
1号溝状遺構（調査区東壁）
1 耕作土
2 黒褐色土　シルト 赤色・黒色スコリア10%
3 黒褐色土　シルト 赤色・黒色スコリア・砕作土粒少量
4 黒褐色土　シルト 赤色・黒色スコリア・暗黄褐色土粒10%
5 黒褐色土　シルト 赤色・黒色スコリア少量
6 褐色土　シルト 赤色スコリア20%
7 黒褐色土　シルト 赤色スコリア10%、黒色スコリア少量
8 黒褐色土　シルト 赤色・黒色スコリア30%
9 黒褐色土　シルト 赤色・黒色スコリア20%
10 黒褐色土　粘土 赤色スコリア微量
11 暗褐色土　粘土 一部で溶岩が現れる

1号溝状遺構（調査区西壁セクション）

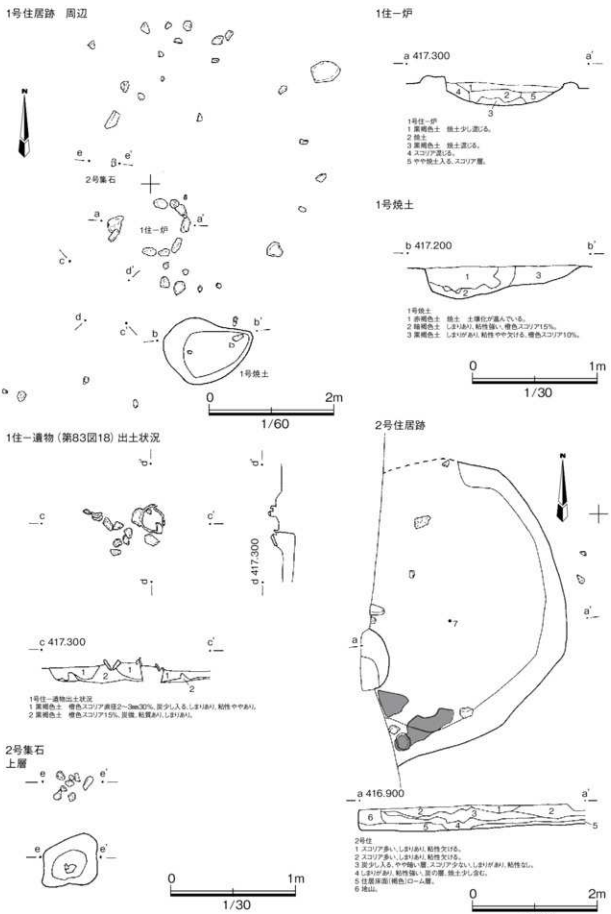


1号溝状遺構（調査区西壁）
1 耕作土
2 暗褐色土　シルト 赤色・黒色スコリア少量
3 黒褐色土　シルト 赤色スコリア少量、黒色スコリア10%
4 黒褐色土　シルト 赤色・黒色スコリア・暗黄褐色土粒30%
5 黒褐色土　シルト 赤色・黒色スコリア微量
6 黒褐色土　シルト 赤色スコリア微量
7 黒褐色土　シルト 赤色・黒色スコリア少量
8 黒褐色土　シルト 赤色・黒色スコリア30%
9 褐色土　ややシルト質 赤色・黒色スコリア10%
10 暗褐色土　ややシルト質 赤色・黒色スコリア10%
11 暗褐色土　粘土 赤色スコリア10%、黒色スコリア微量
12 黒褐色土　粘土 赤色スコリア少量
13 黒褐色土　粘土 赤色スコリア微量
14 暗黄褐色土　粘土 地山(2面遺構確認面)

第40図　B区３　１号溝状遺構

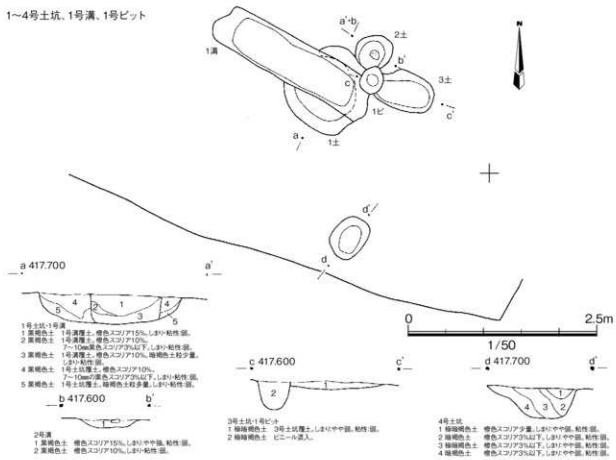

AJ
AI
AH
AG
AF
90
91
92
93
94
95
96
N
2号ピ
22土
8溝
18土
17土
礫集中
5溝
9溝
3溝
C'
4溝
D'
2焼
C
D
9土
19土
A'
20土
A
13土
21土
4ピ
B
B'
1住
11溝
12溝
4焼
3焼
16土
1焼
23土
24土
2溝
7溝
台石
2住
25土
12土
15土
6溝
10溝
3ピ
10土
11土
14土
8土
7土
3住
5土
6土
2土
3土
1溝
1ピ
1土
4土
0
10m
S=1/150

第41図　B区4　全体図

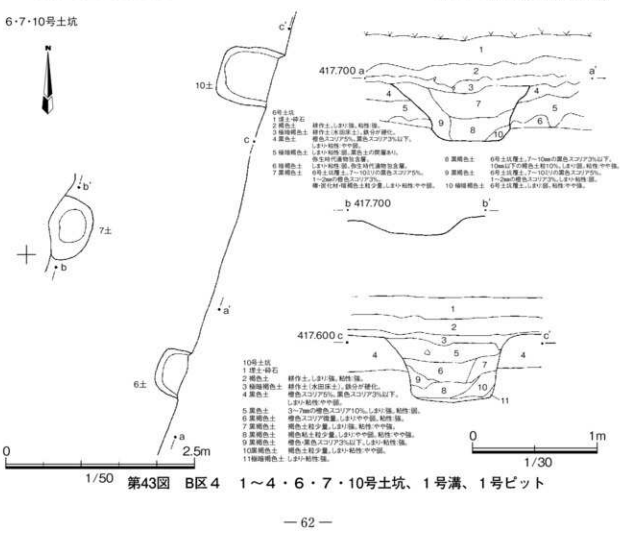


第42図　B区４　１・２号住居跡、１号焼土、２号集石

1～4号土坑、1号溝、1号ピット

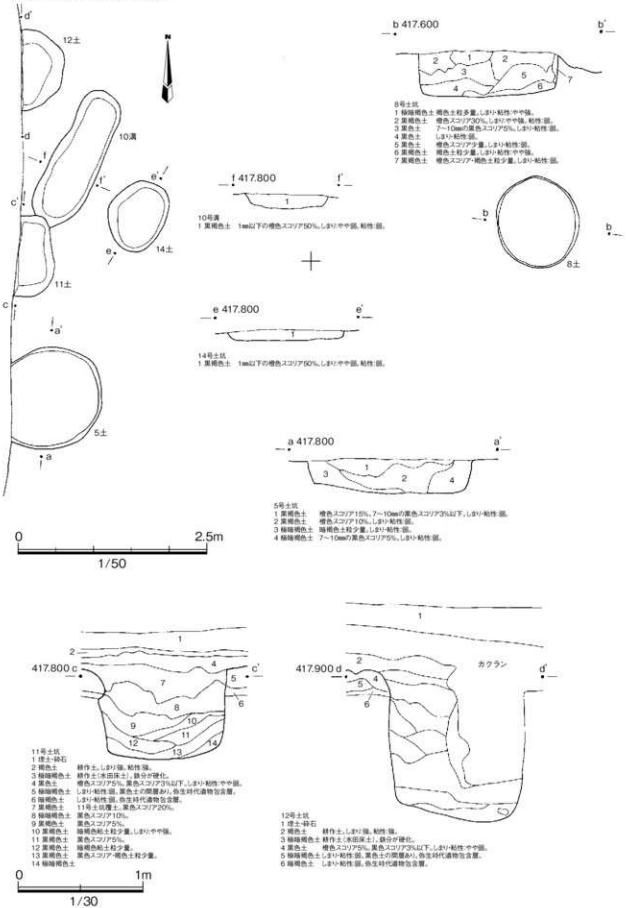

1溝
1土
2土
3土
1ピ
a 417.700
a'
b 417.600
b'
c 417.600
c'
d 417.700
d'
0
2.5m
1/50
1号土坑・1号溝
1 黒褐色土　1号溝覆土、橙色スコリア15%、しまり・粘性:弱。
2 黒褐色土　1号溝覆土、橙色スコリア10%、
　7～10cm黒色スコリア3%以下、しまり・粘性:弱。
3 黒褐色土　1号溝覆土、橙色スコリア10%、暗褐色土粒少量、
　しまり・粘性:弱。
4 黒褐色土　1号土坑覆土、橙色スコリア10%、
　7～10cm黒色スコリア3%以下、しまり・粘性:弱。
5 黒褐色土　1号土坑覆土、暗褐色土粒多量、しまり・粘性:弱。
2号溝
1 黒褐色土　橙色スコリア15%、しまりやや強、粘性:弱。
2 黒褐色土　橙色スコリア10%、しまり・粘性:弱。
3号土坑・1号ピット
1 暗褐褐色土　3号土坑覆土、しまりやや弱、粘性:弱。
2 暗褐褐色土　ピニール混入。
4号土坑
1 暗褐褐色土　橙色スコリア少量、しまりやや強、粘性:弱。
2 暗褐色土　橙色スコリア3%以下、しまりやや弱、粘性:弱。
3 暗褐褐色土　橙色スコリア3%以下、しまりやや弱、粘性:弱。
4 暗褐褐色土　橙色スコリア3%以下、しまりやや弱、粘性:弱。

6・7・10号土坑

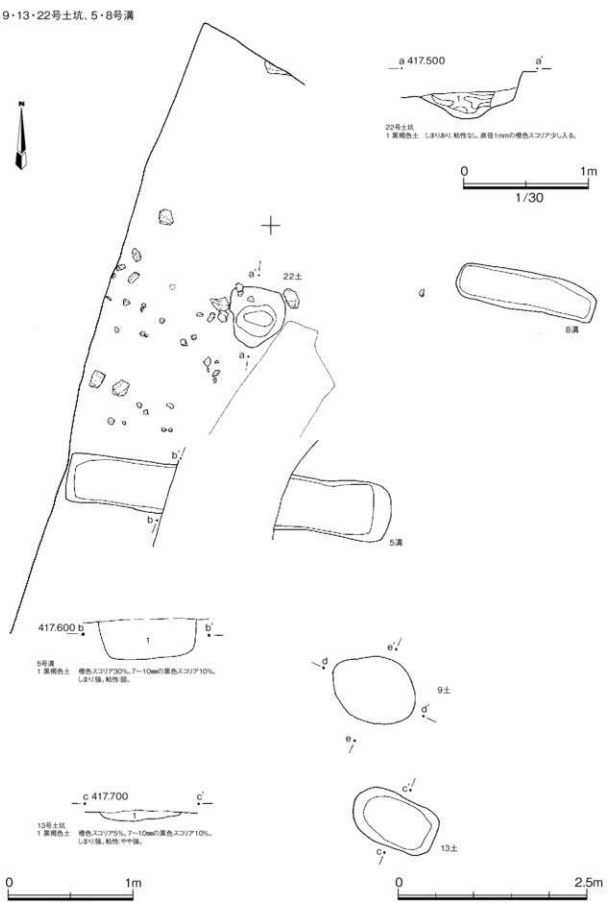


第43図　B区4　1～4・6・7・10号土坑、1号溝、1号ピット

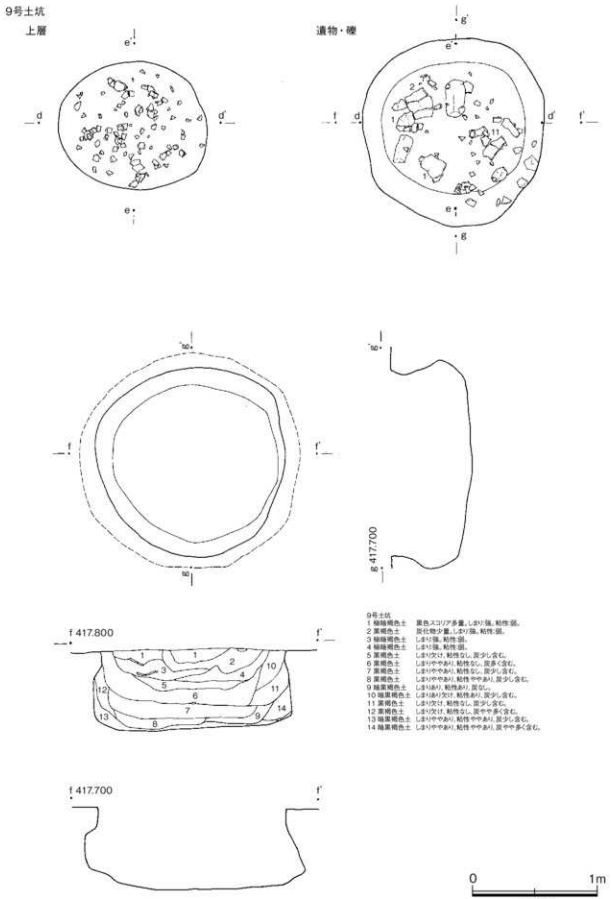
5・8・11・12・14号土坑、10号溝



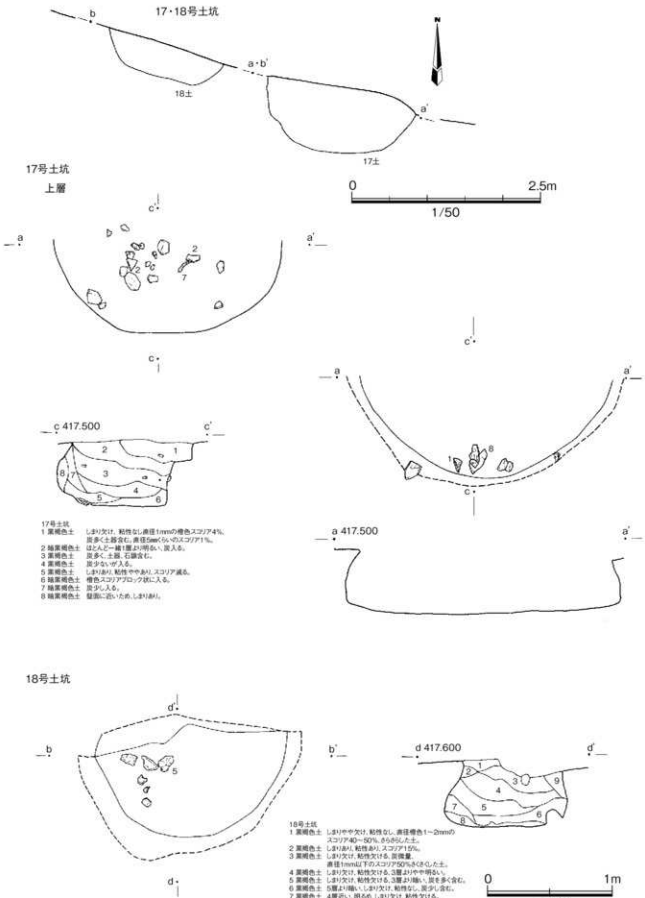
第44図　B区4　5・8・11・12・14号土坑、10号溝



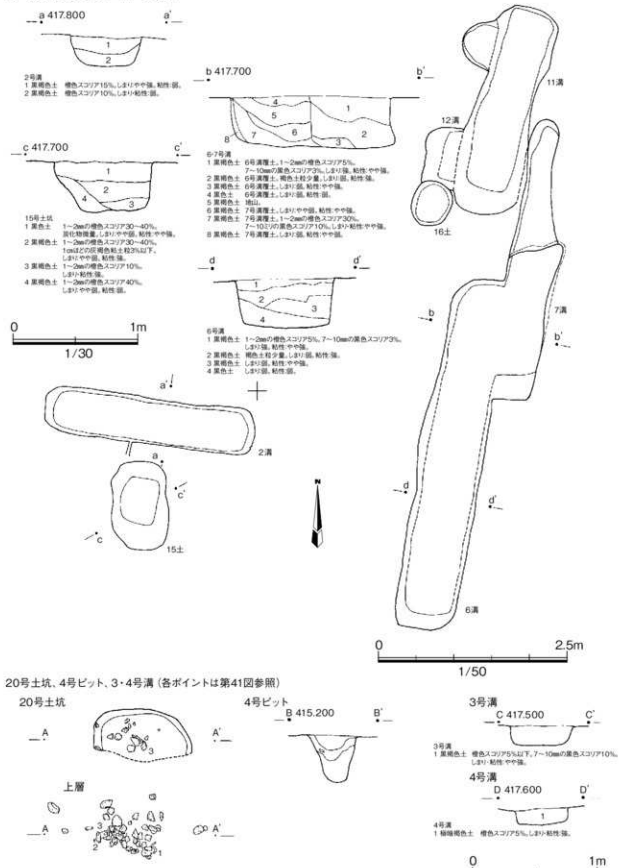
第45図　B区４　９・13・22号土坑、５・８号溝



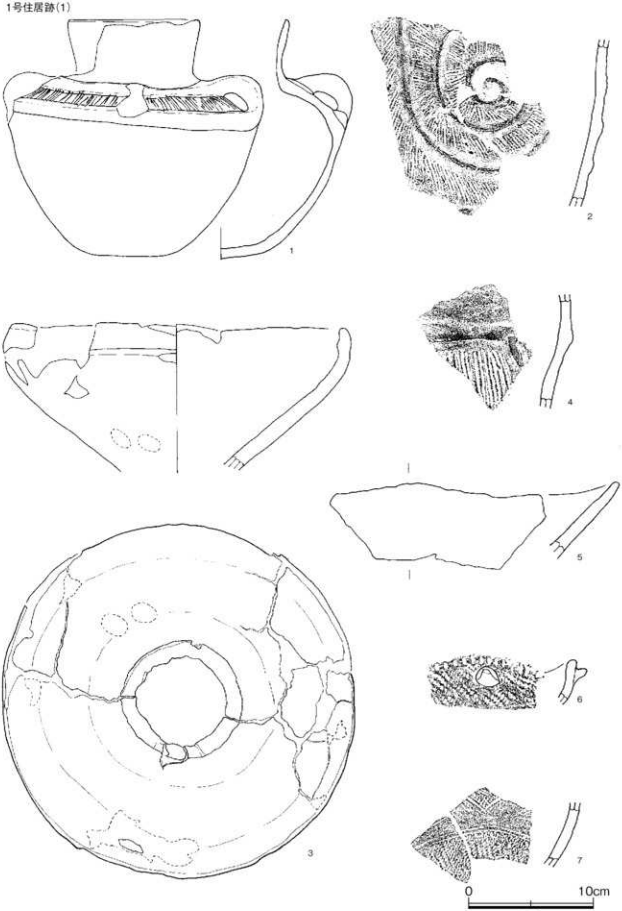
第46図　B区４　９号土坑



第47図　B区4　17・18号土坑

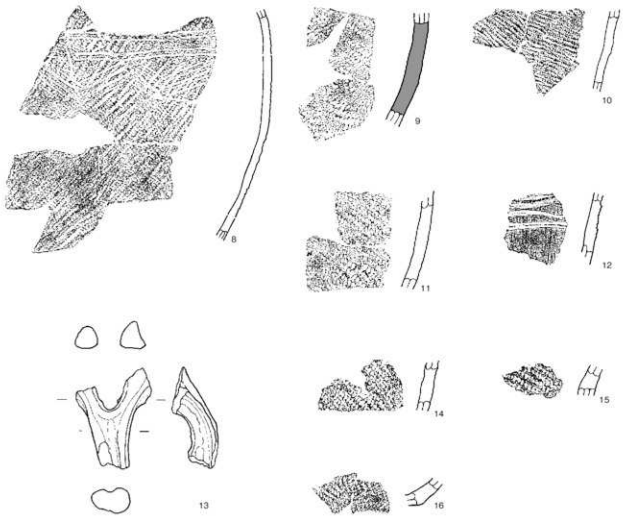


第48図　B区4　15・16・20号土坑、4号ピット、2～4・6・7・11・12号溝

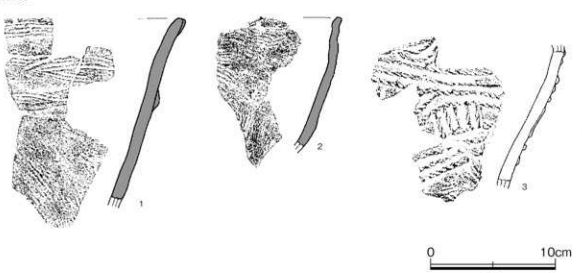


第49図　B区１　出土遺物（１号住居跡）

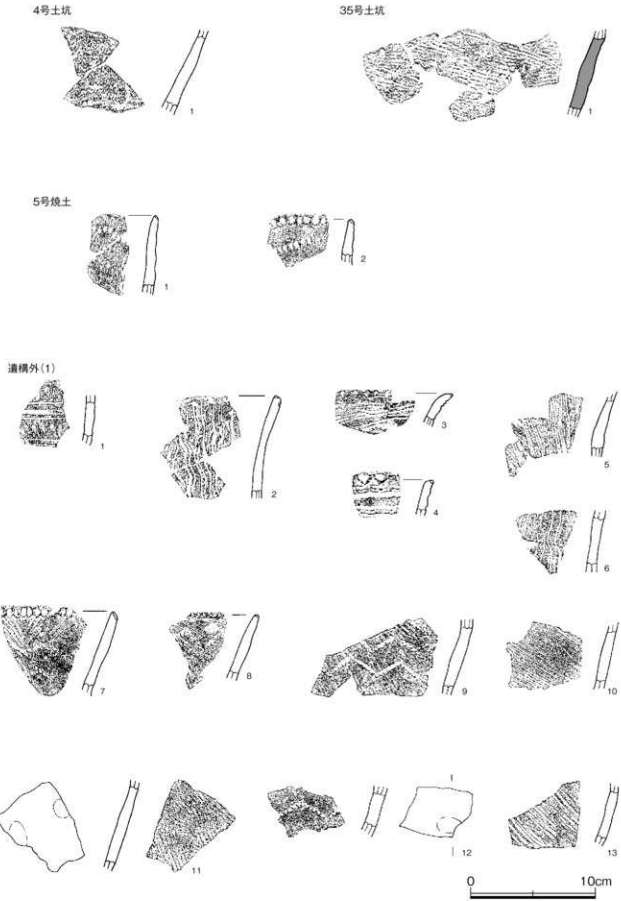
1号住居跡(2)



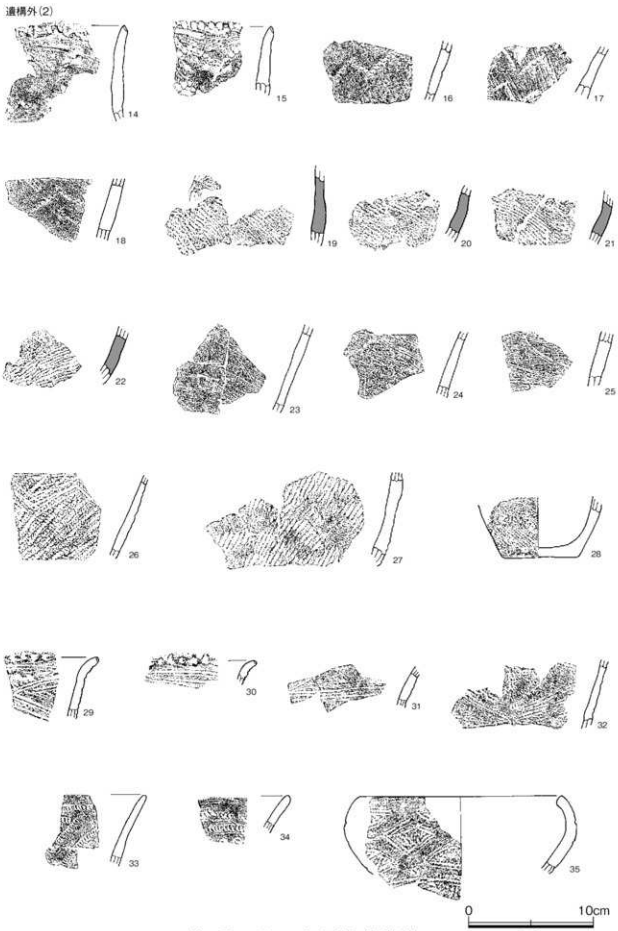
1号集石土坑



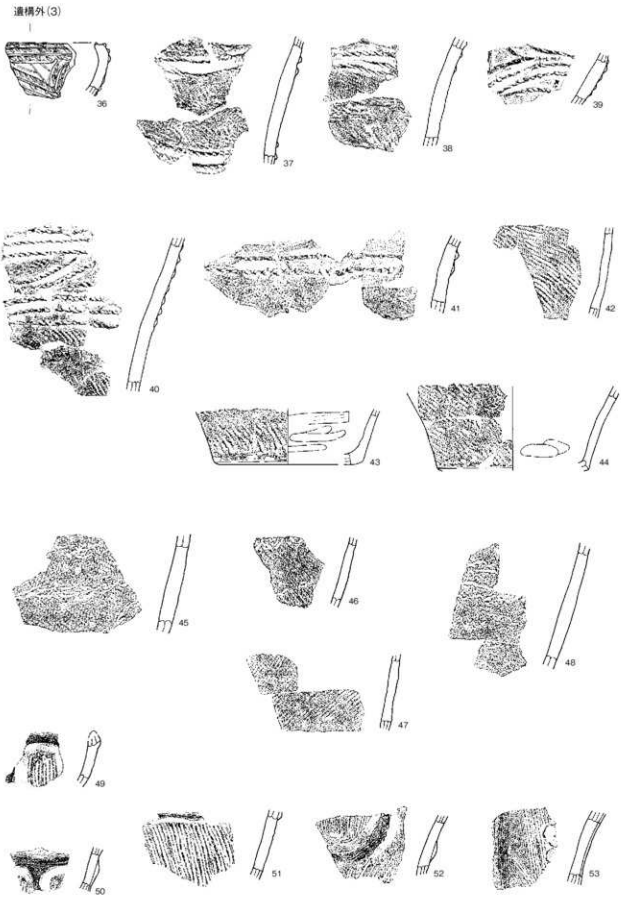
第50図　B区１　出土遺物（１号住居跡、１棟集石土坑）



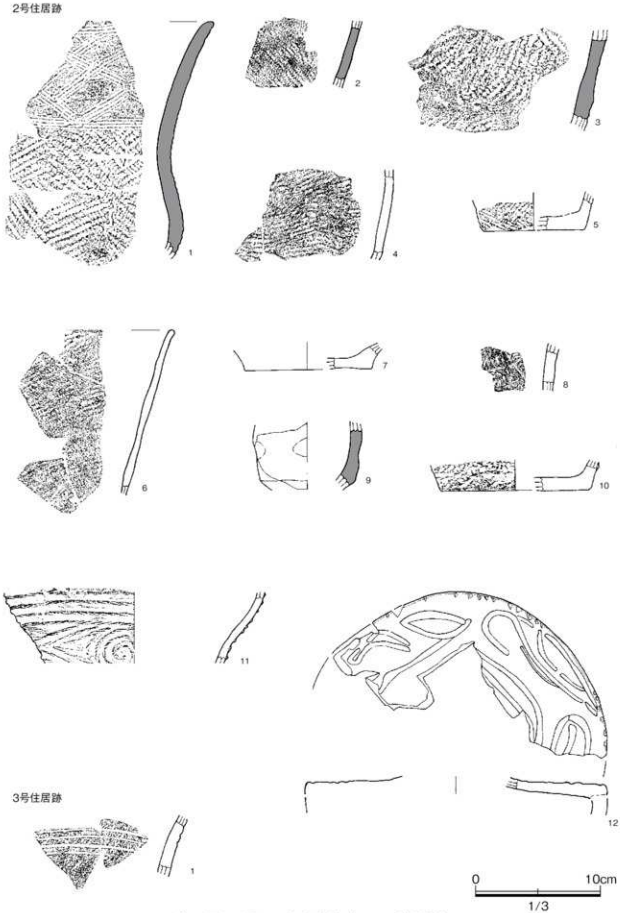
第51図　B区１　出土遺物（４・35号土坑、５号焼土、遺構外）



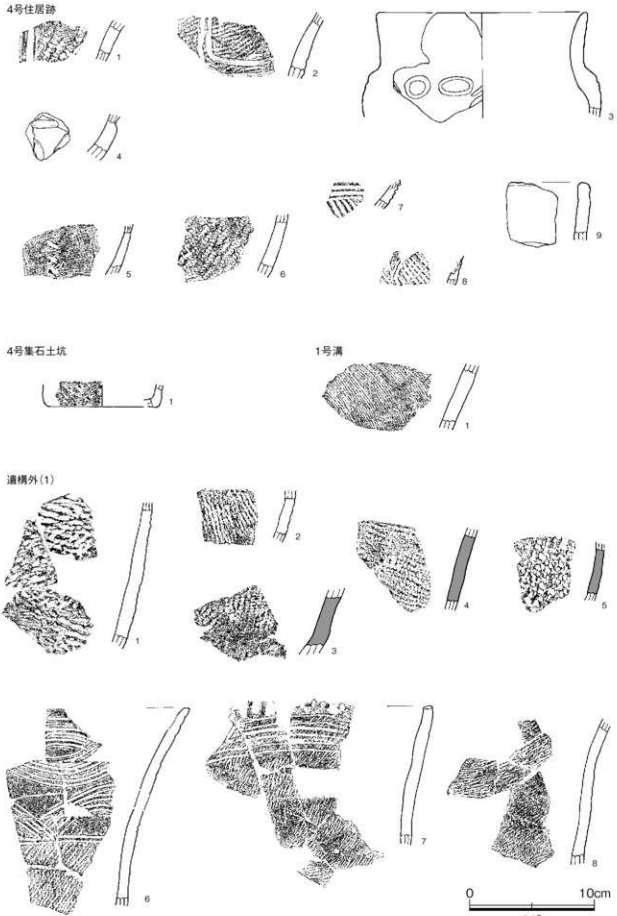
第52図　B区１　出土遺物（遺構外）



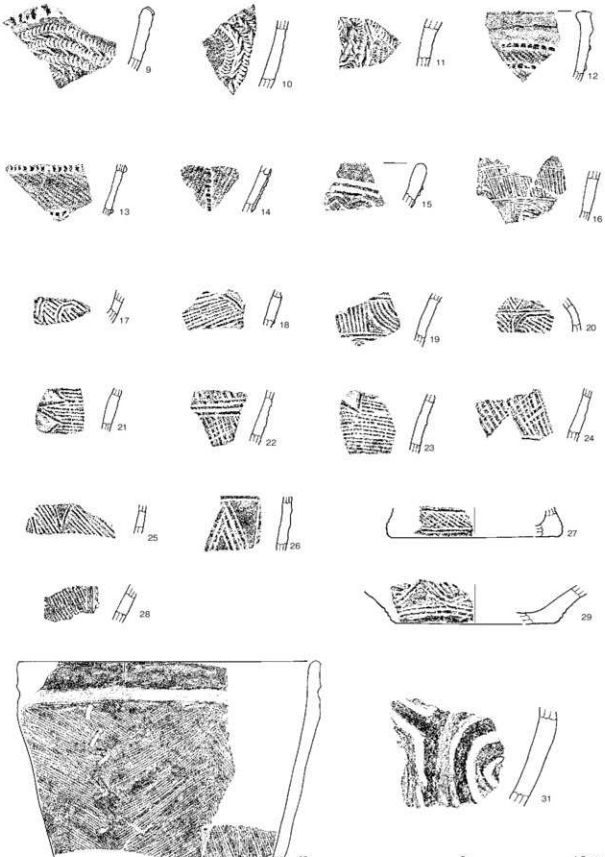
第53図　B区１　出土遺物（遺構外）



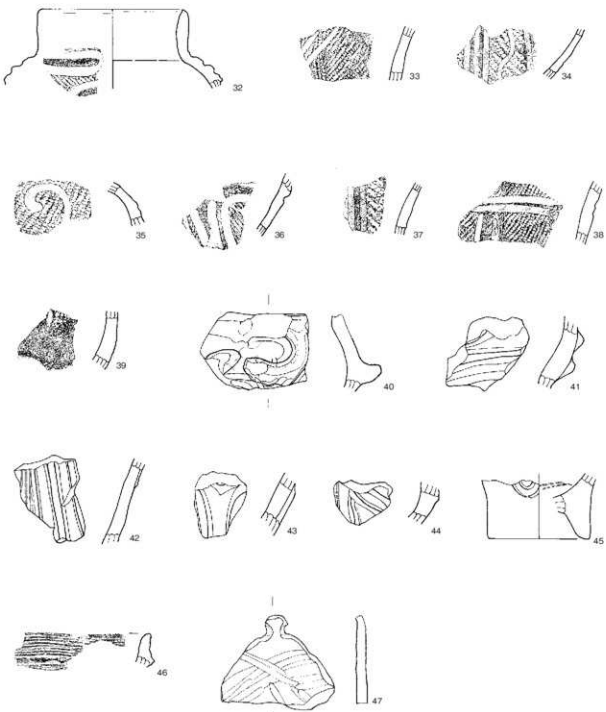
第54図　B区２　出土遺物（２・３住居跡）



第55図　B区２　出土遺物（４号住居跡、４号集石土坑、１号溝、遺構外）

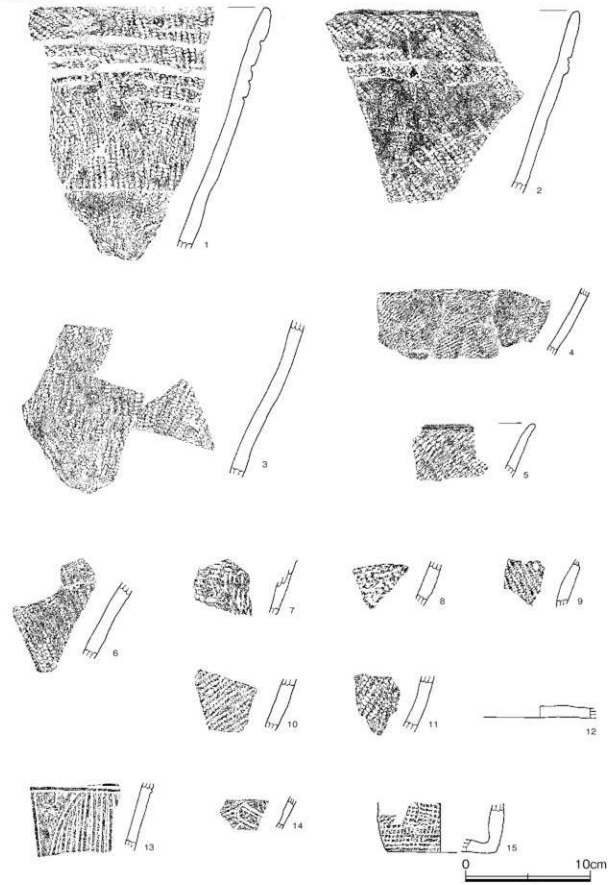


第56図　B区２　出土遺物（遺構外）



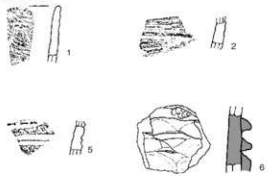
第57図　B区２　出土遺物（遺構外）

1面1号集石

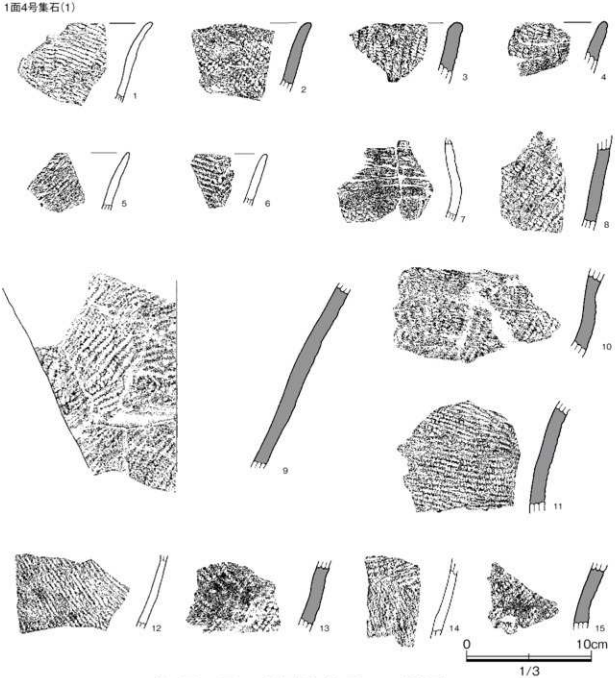


第58図　B区３　出土遺物（１面１号集石）

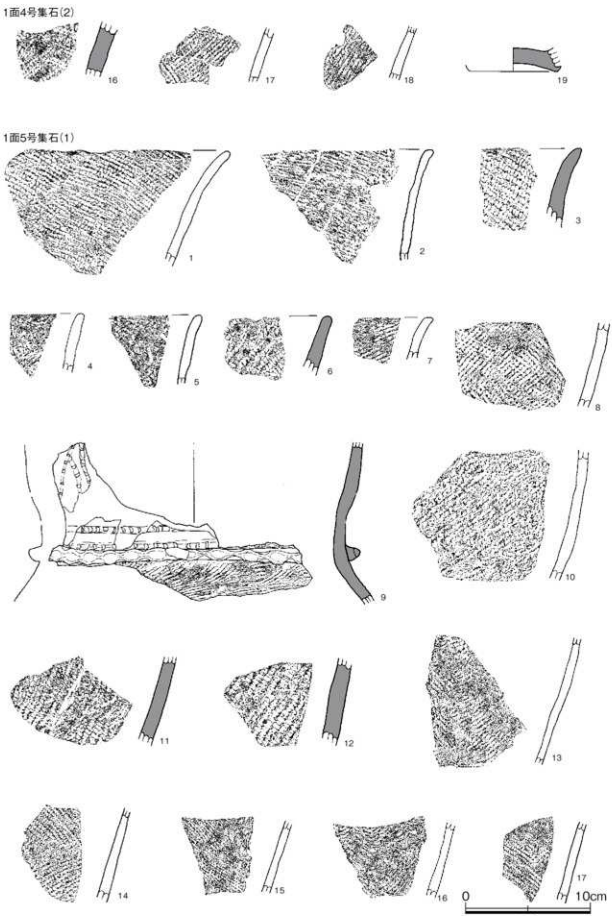
1面3号集石



1面4号集石(1)

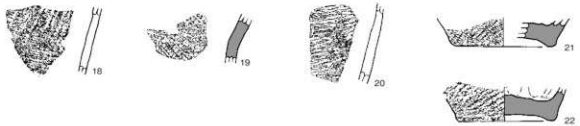


第59図　B区３　出土遺物（１面３・４号集石）

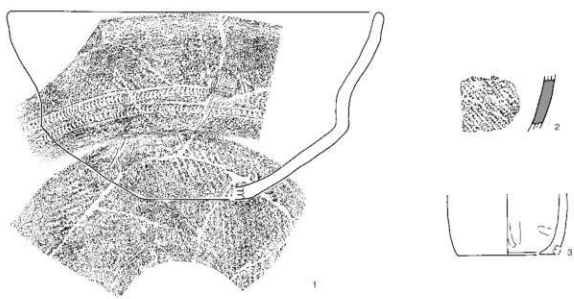


第60図　B区３　出土遺物（１面４・５号集石）

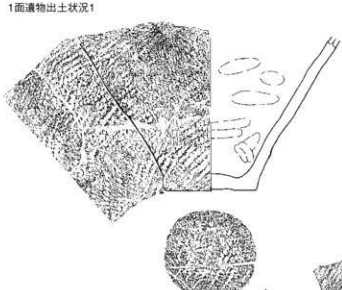
1面5号集石(2)



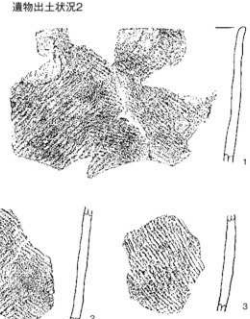
1面焼土遺構



1面遺物出土状況1

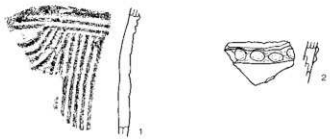


遺物出土状況2



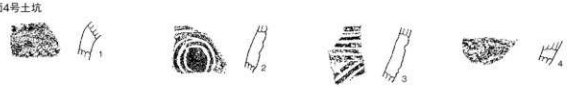
第61図　B区３　出土遺物（１面５号集石、焼土遺構、遺物出土状況）

2面1号住居跡



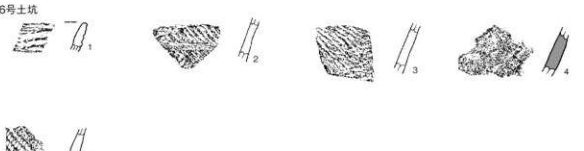
2面3号土坑

2面4号土坑



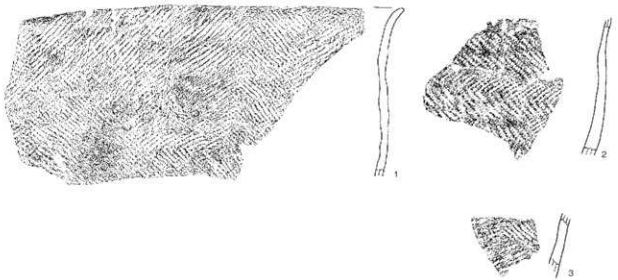
2面5号土坑

2面6号土坑



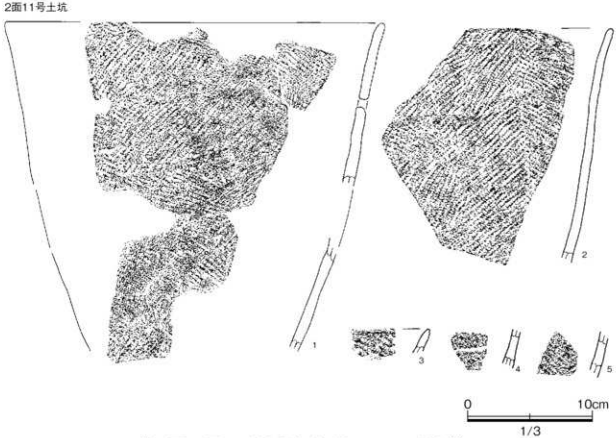
第62図　B区３　出土遺物（２面１号住居跡、３～６号土坑）

2面8号土坑



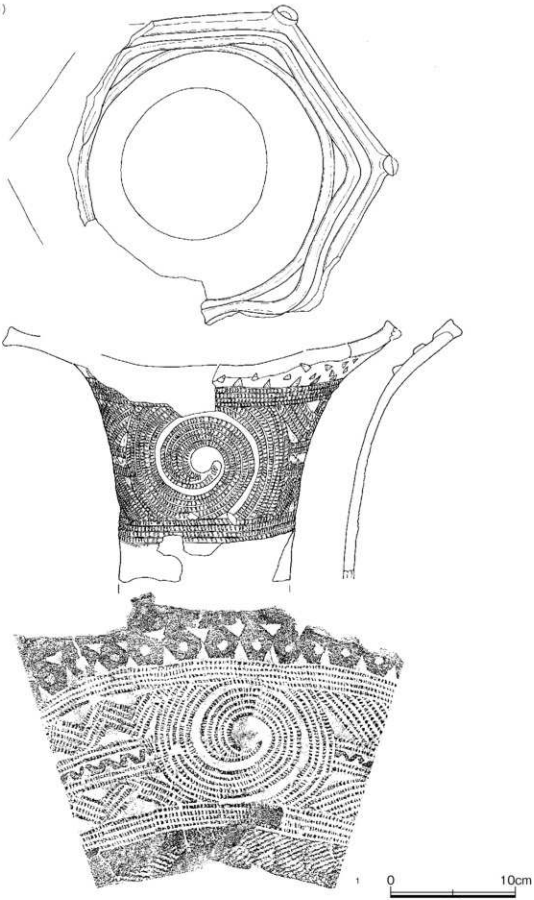
2面9号土坑

2面11号土坑



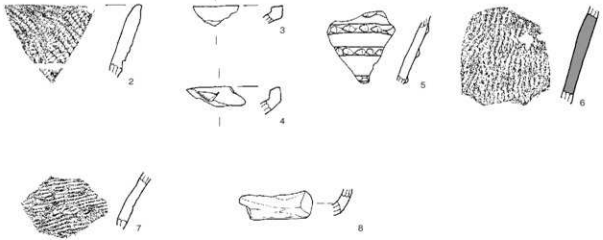
第63図　B区３　出土遺物（２面８・９・11号土坑）

2面13号土坑(1)



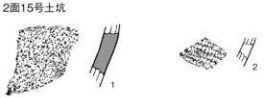
第64図　B区３　出土遺物（２面13号土坑）

2面13号土坑(2)

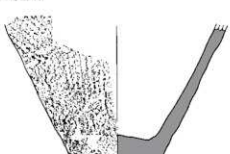


2面14号土坑

2面15号土坑



2面16号土坑

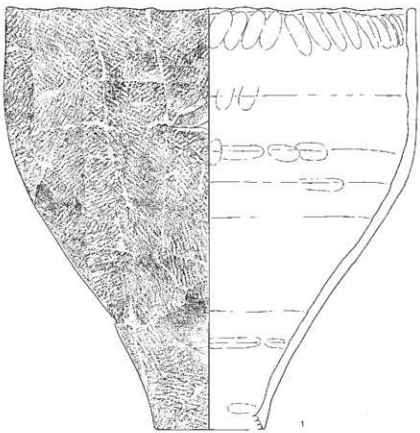


2面17号土坑

2面18号土坑

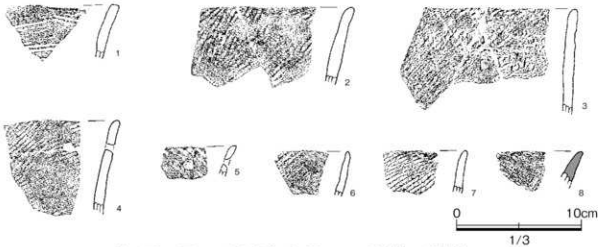
第65図　B区３　出土遺物（２面13～18号土坑）

2面19号土坑

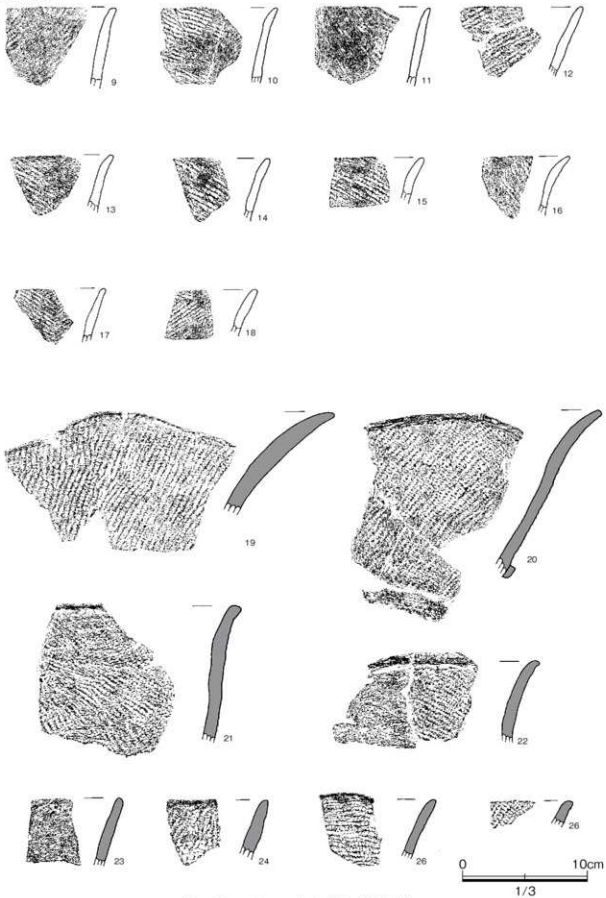


2面20土坑

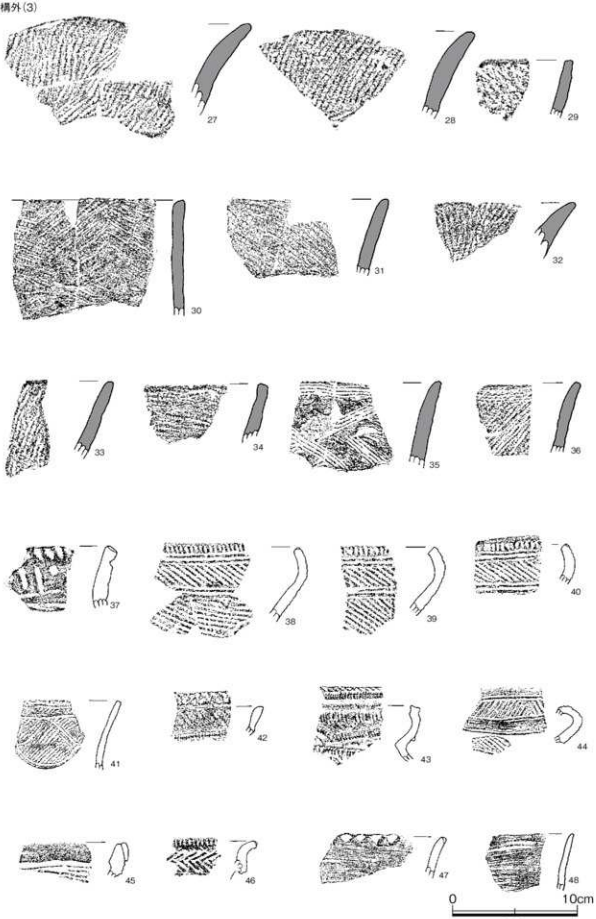
遺構外(1)



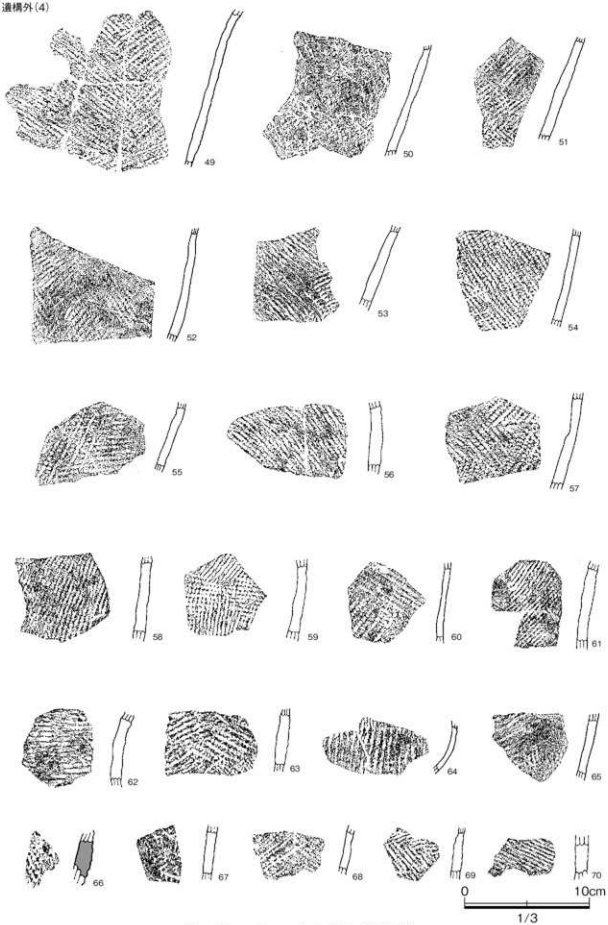
第66図　B区３　出土遺物（２面19・20号土坑、遺構外）



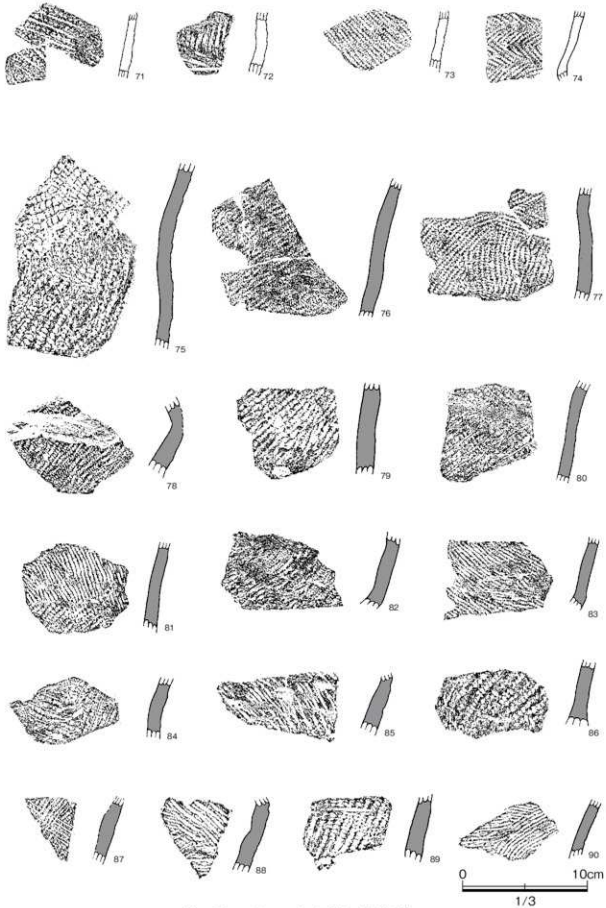
第67図　B区３　出土遺物（遺構外）



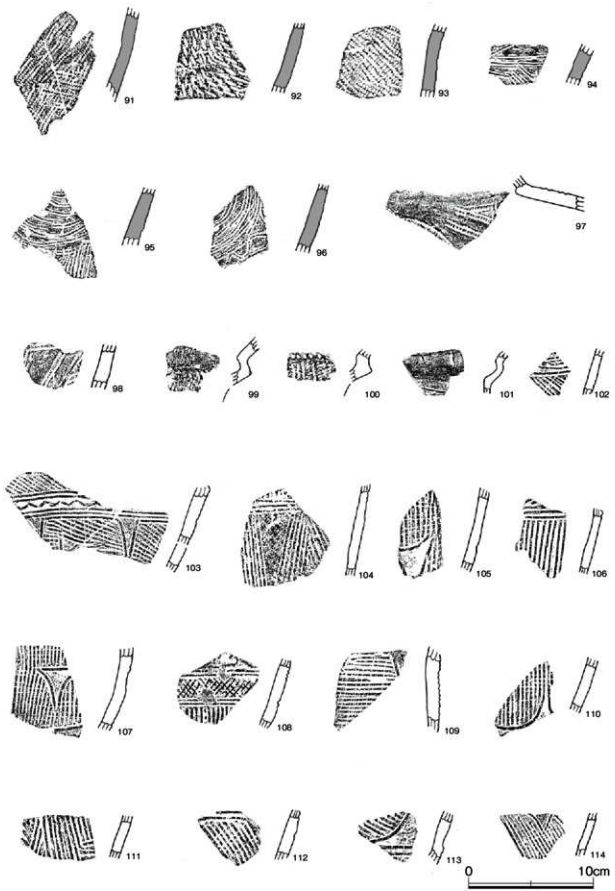
第68図　B区３　出土遺物（遺構外）



第69図　B区３　出土遺物（遺構外）

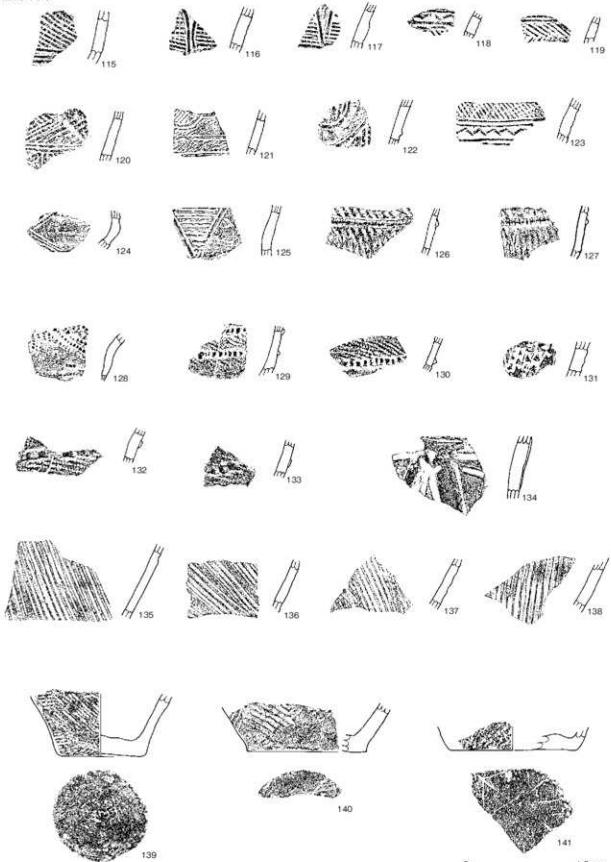


第70図　B区３　出土遺物（遺構外）

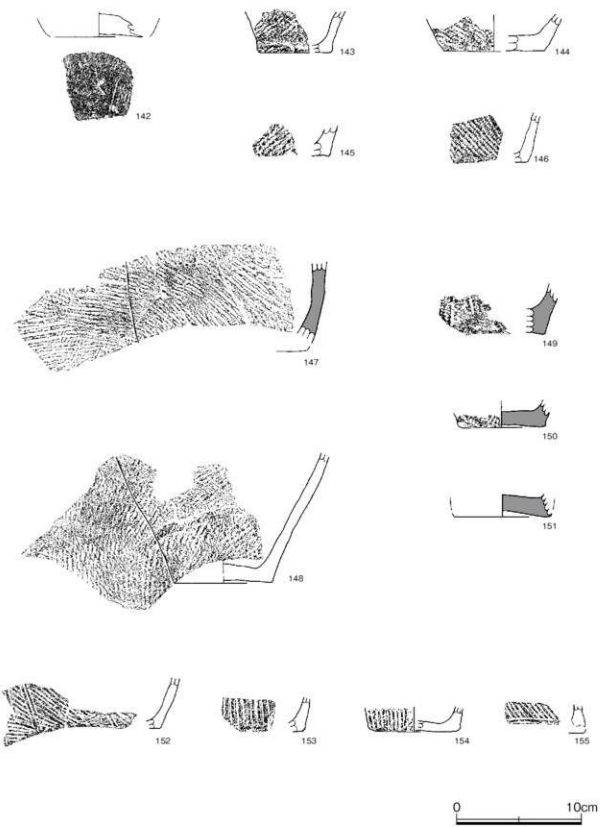


第71図　B区３　出土遺物（遺構外）

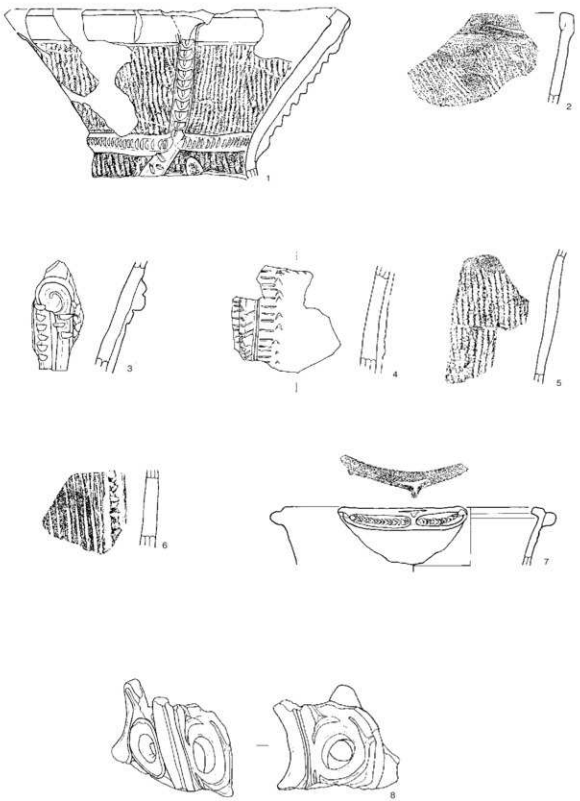
遺構外(7)



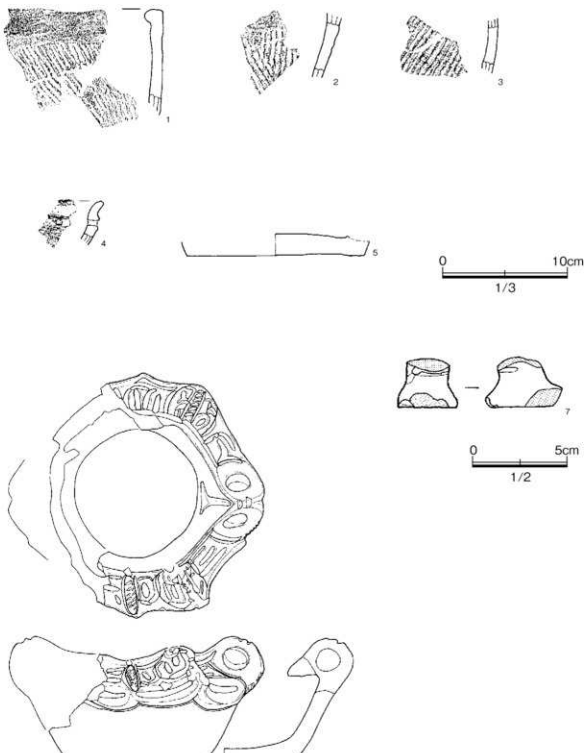
第72図　B区３　出土遺物（遺構外）



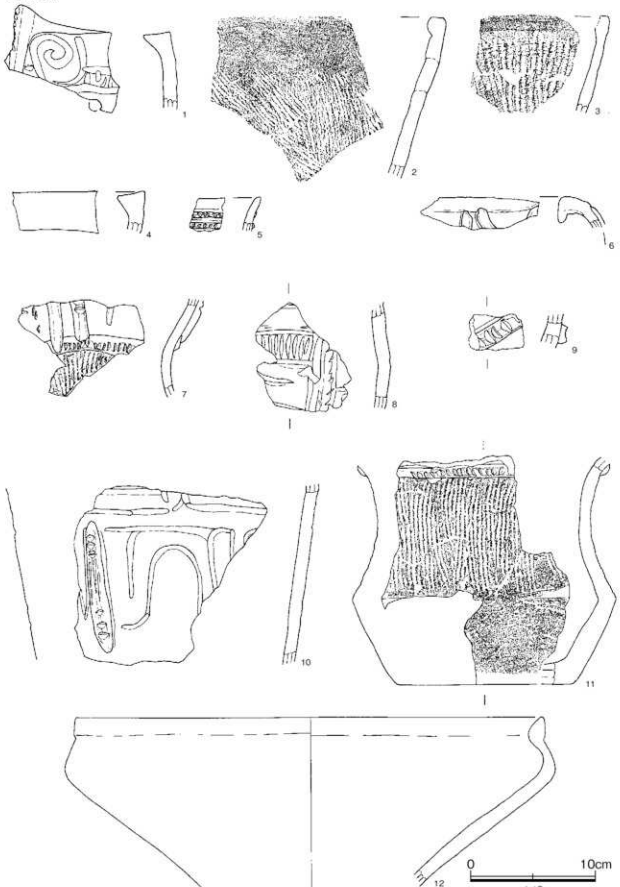
第73図　B区３　出土遺物（遺構外）



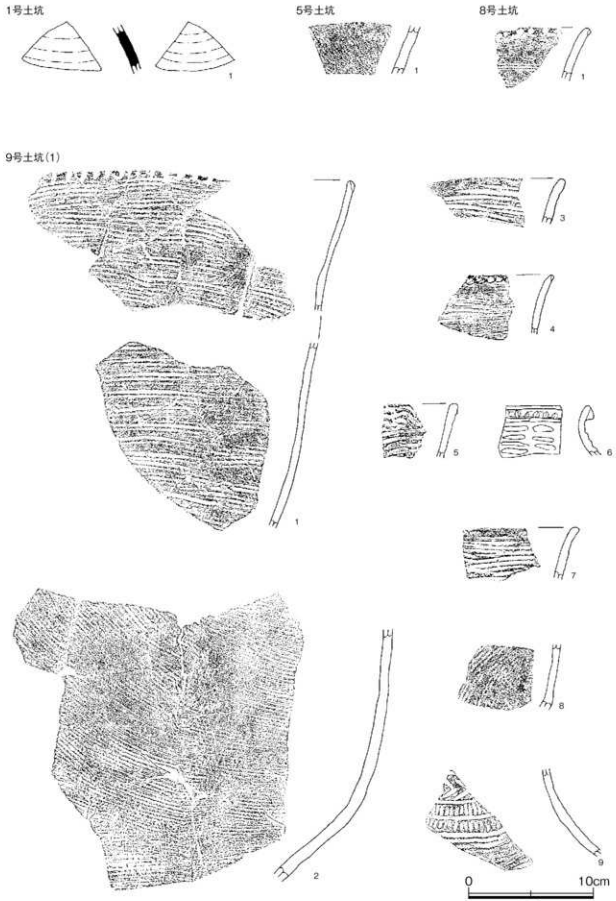
第74図　B区４　出土遺物（１号住居跡）



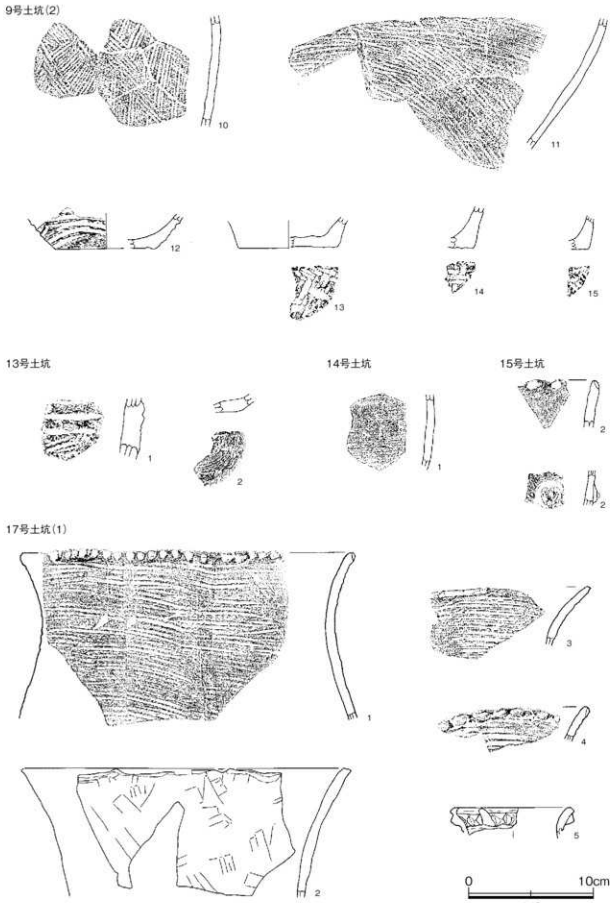
第75図　B区４　出土遺物（２号住居跡）



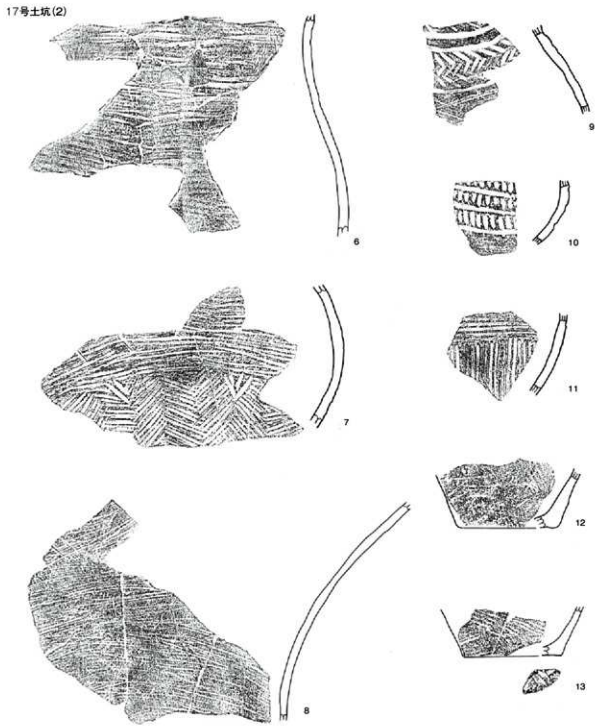
第76図　B区４　出土遺物（３号住居跡）



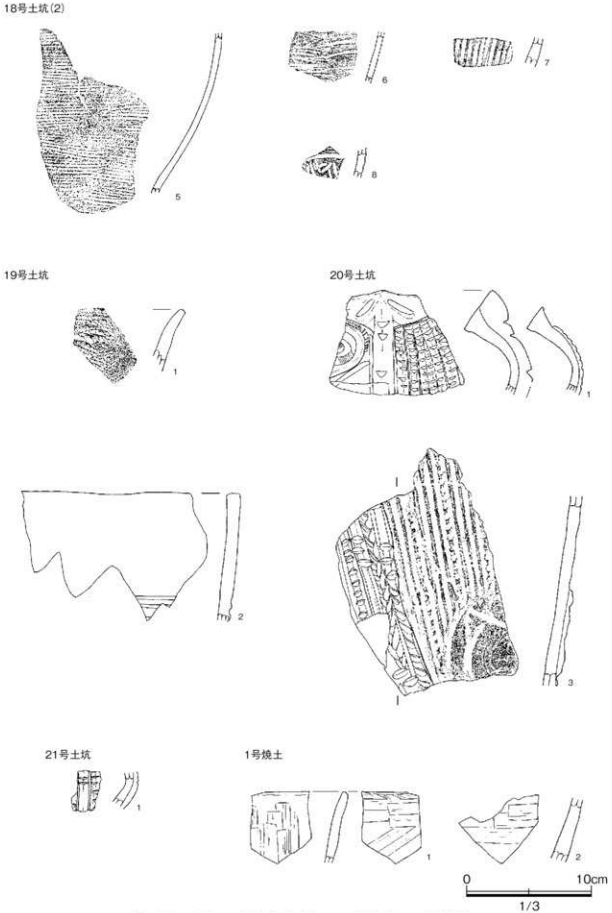
第77図　B区４　出土遺物（３・５・８・９号土坑）



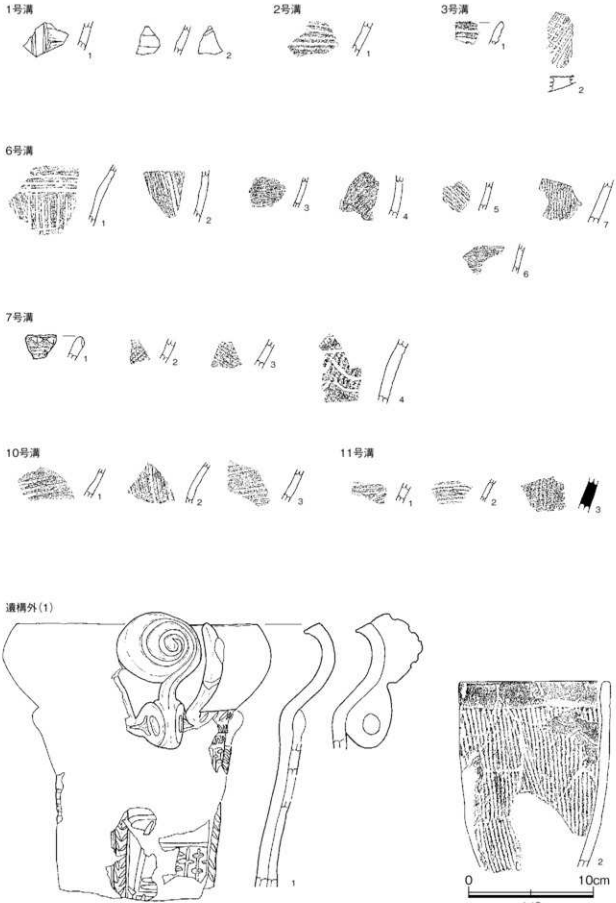
第78図　B区４　出土遺物（９・13～15・17号土坑）



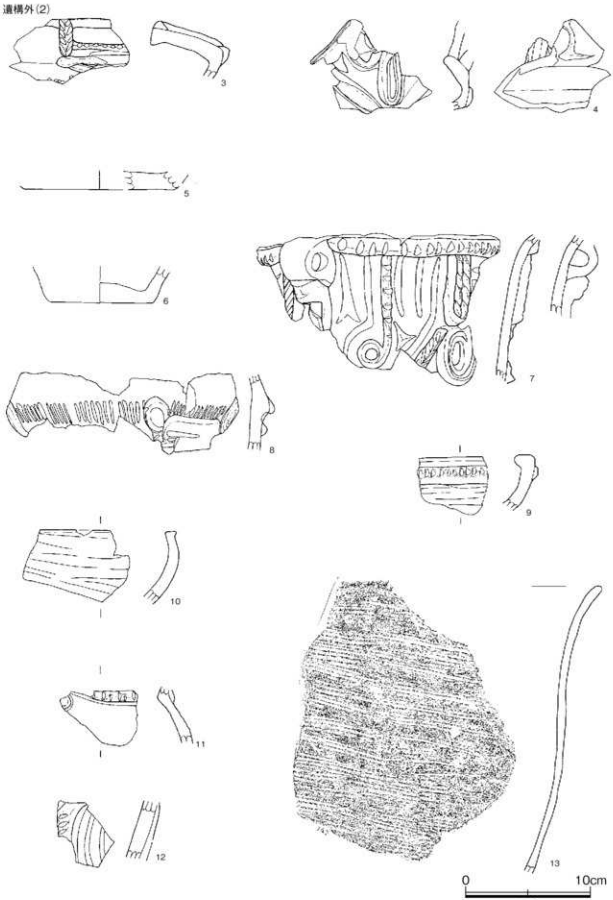
第78図　B区４　出土遺物（17・18号土坑）



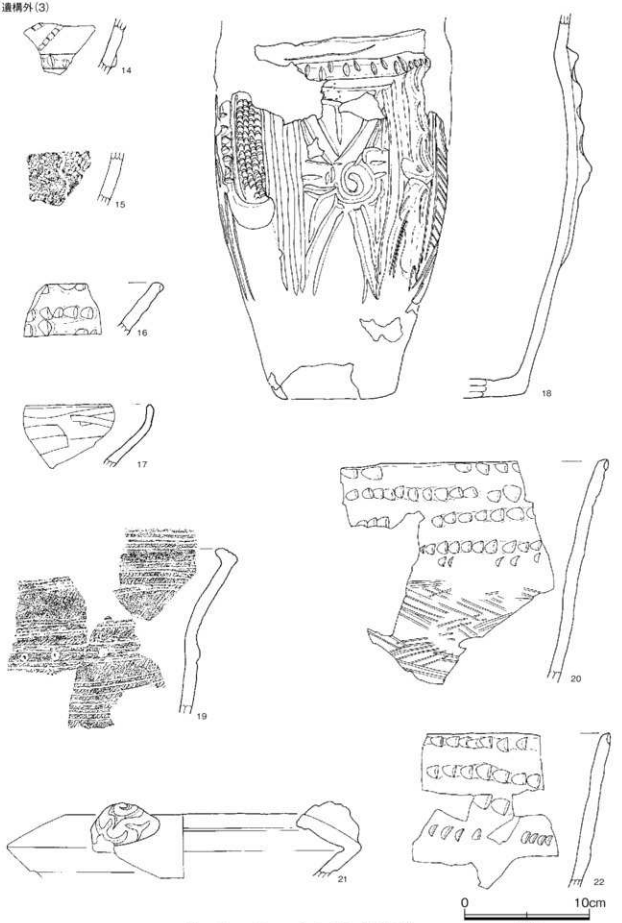
第80図　B区４　出土遺物（18～21号土坑、１号焼土）



第81図　B区4　出土遺物（1～3・6・7・10号溝、遺構外）

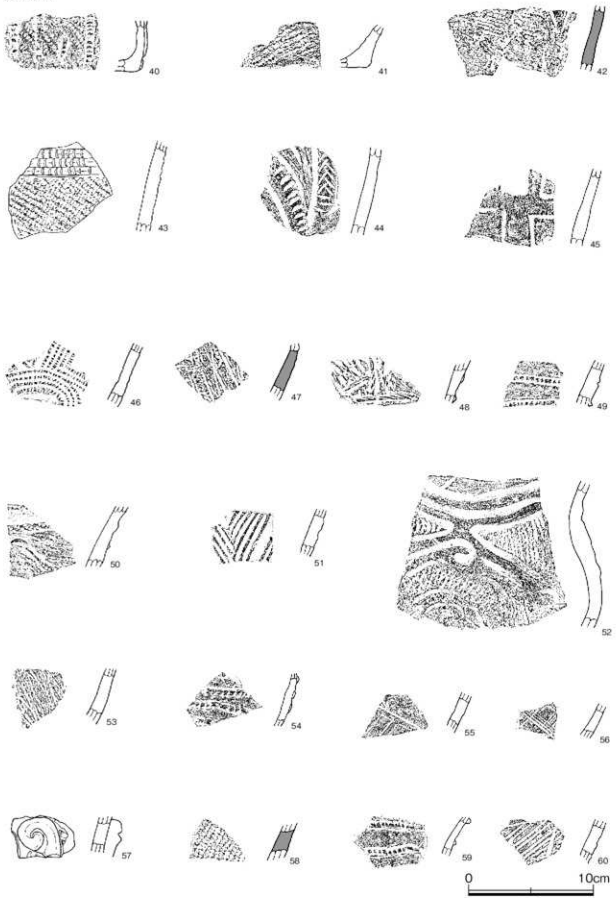


第82図　B区４　出土遺物（遺構外）

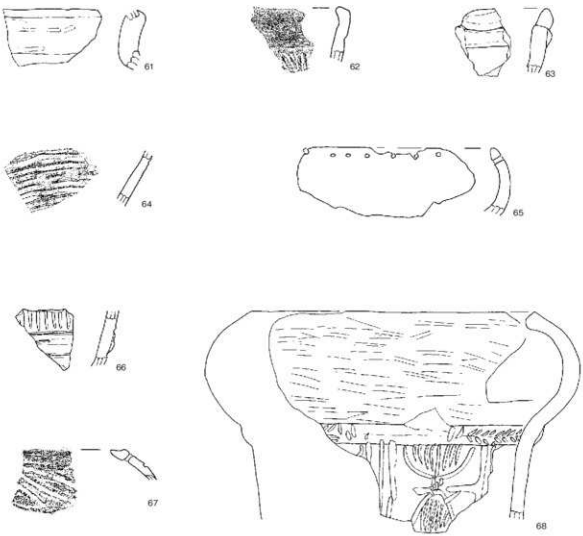


第83図　B区４　出土遺物（遺構外）

第84図　B区４　出土遺物（遺構外）

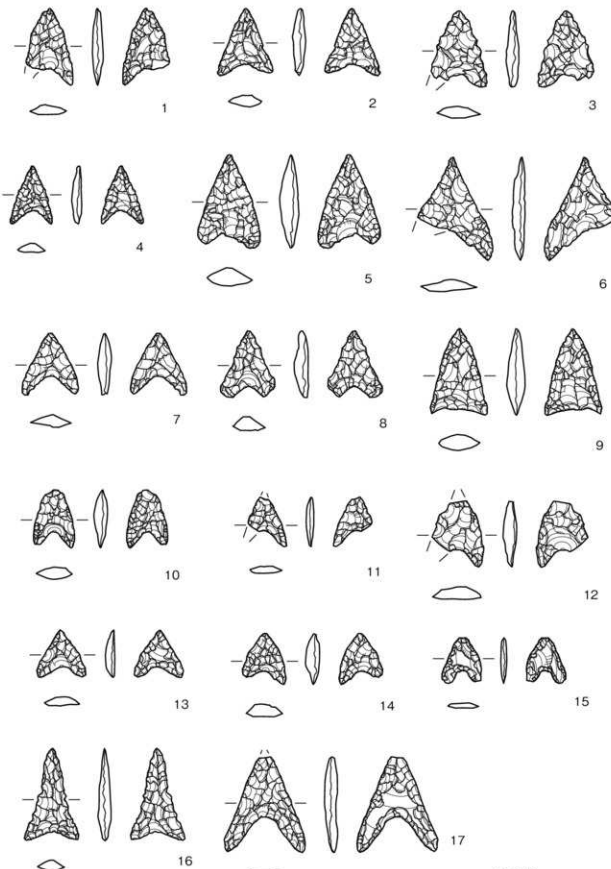


第85図　B区４　出土遺物（遺構外）

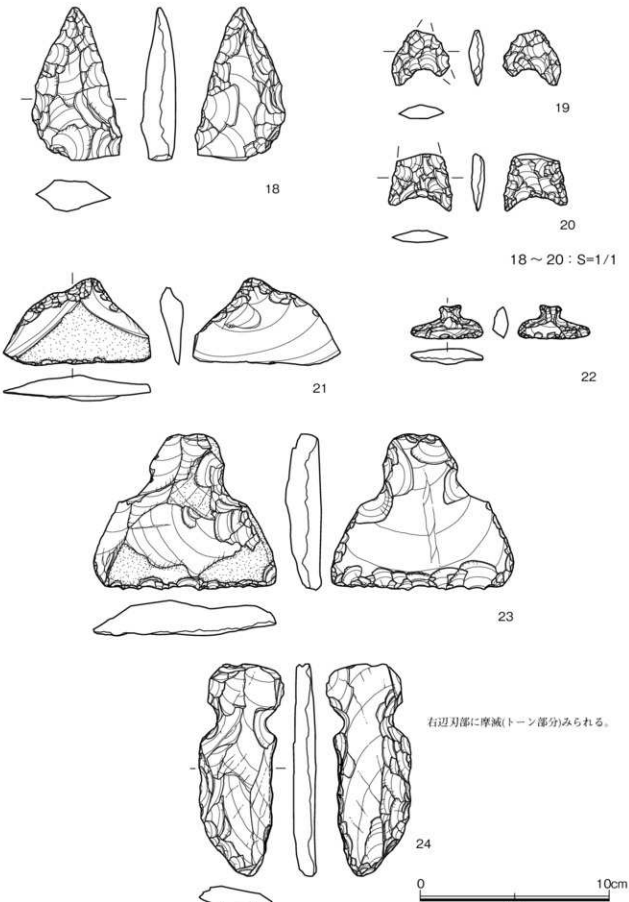


0 10cm
1/3

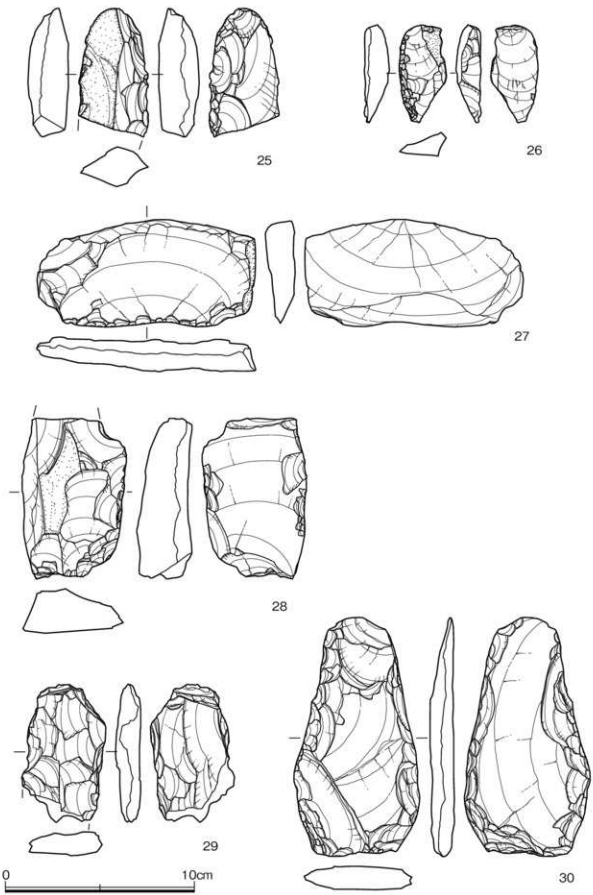
第86図　B区４　出土遺物（遺構外）



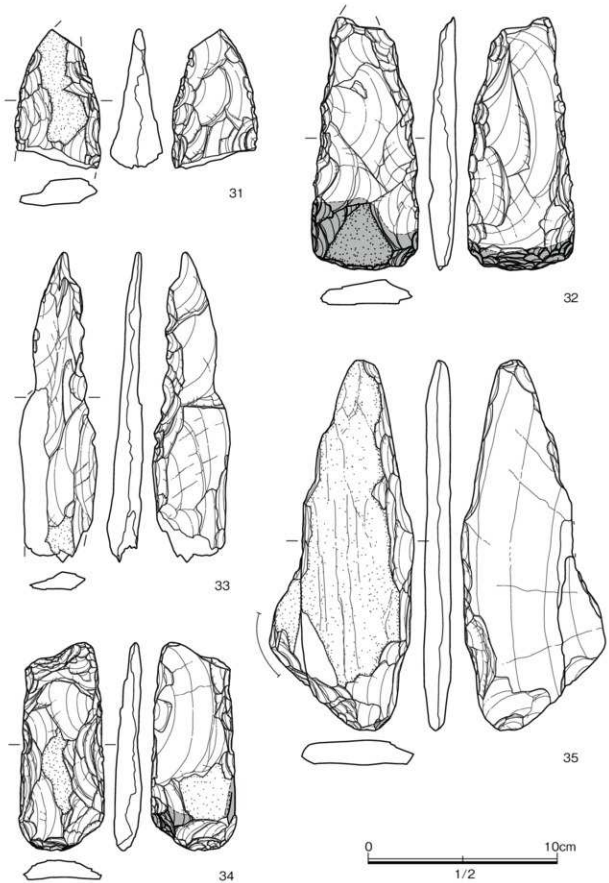
第87図　石鏃（1～4：B区2 2号住、5：B区4 4号住、6・7：B区2 遺構外、8：B区3 焼土、9～14：B区3 遺構外、15：B区4 3号住、16：B区4 17号土、17：B区4 遺構外）



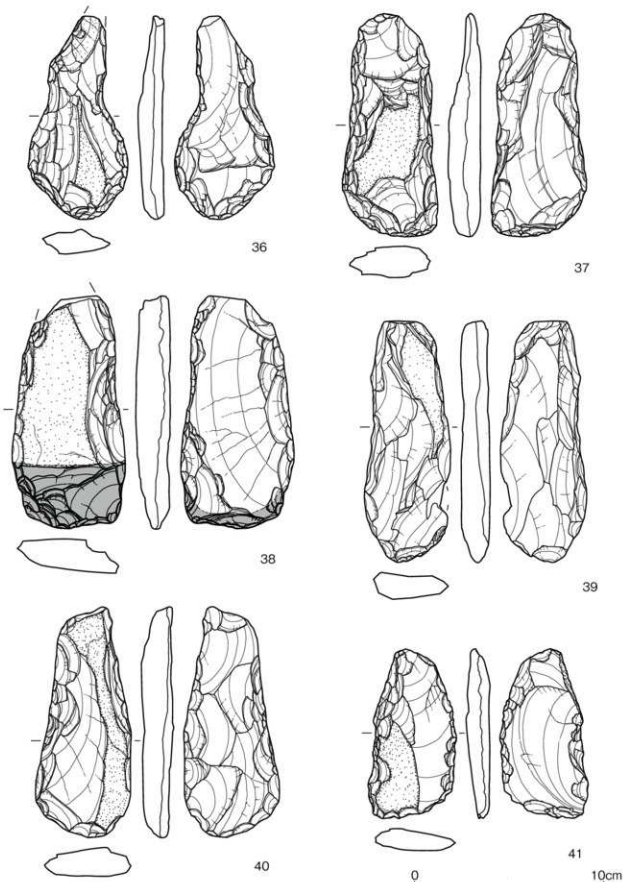
第88図　石鏃（18～20：B区4 遺構外）・石匙（21：B区2 2号住、22：B区2 遺構外、23：B区4 2号住、24：B区4 3号住）



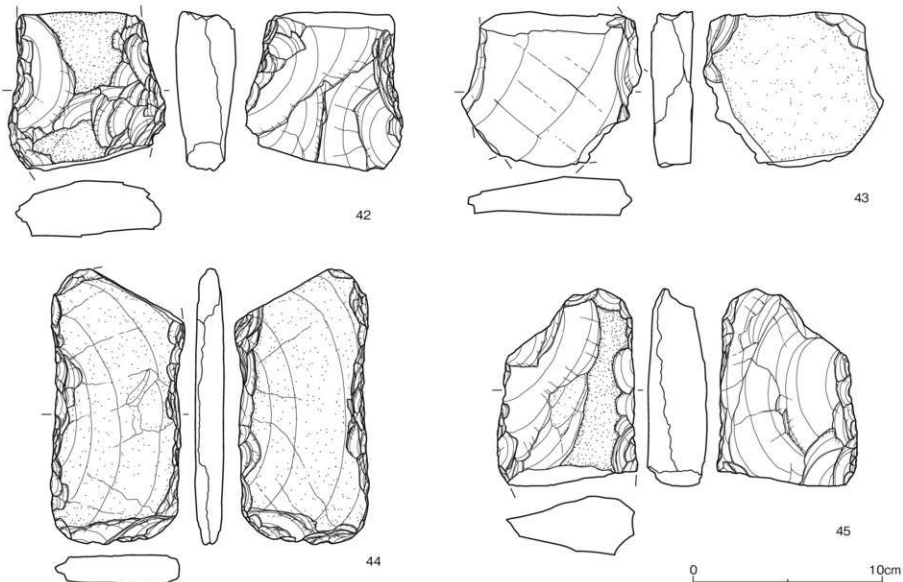
第89図　削器（25：B区1 1号住、26・27：B区3 遺構外、28：B区4 2号住）・打製石斧（29：B区1 1号住、30：B区2 遺構外）



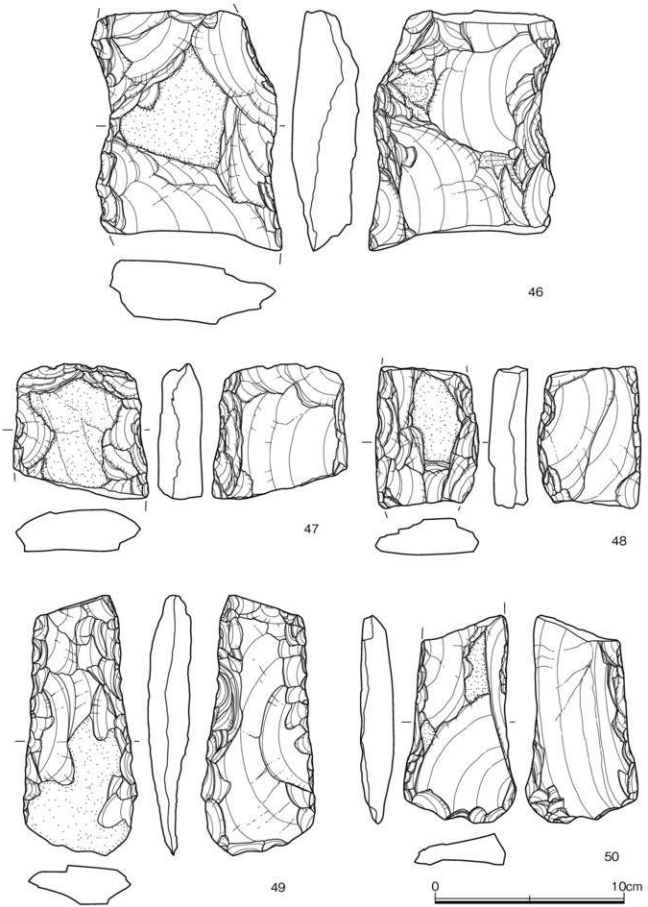
第90図　打製石斧（31～35：B区2 遺構外）



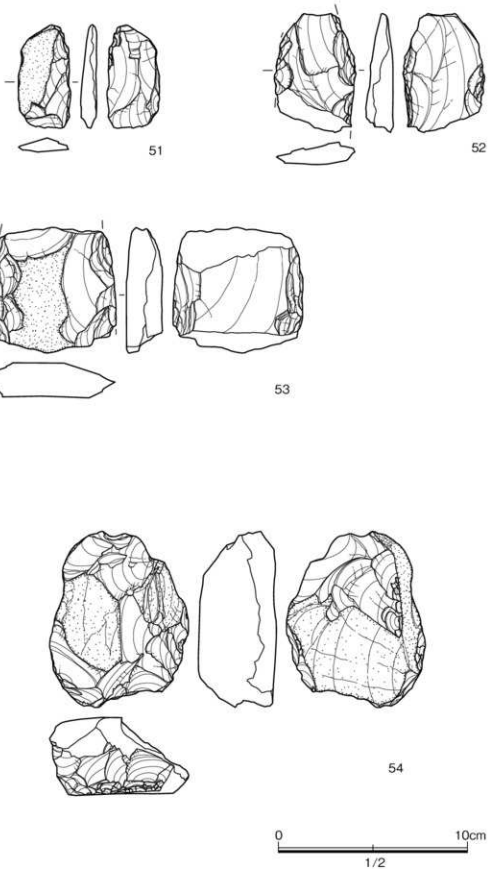
第91図　打製石斧（36：B区3 1号集石、37・38：B区3 遺構外、39：B区4 1号住、40：B区4 2号集石、41：B区4 3号住）



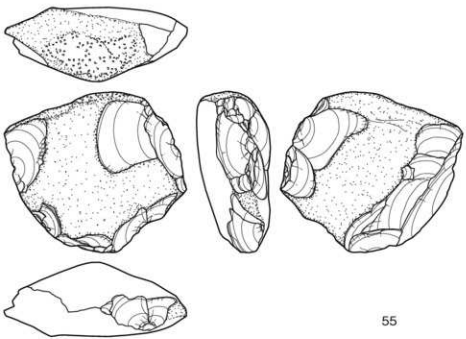
第92図　打製石斧（42～45：B区4 9号土）

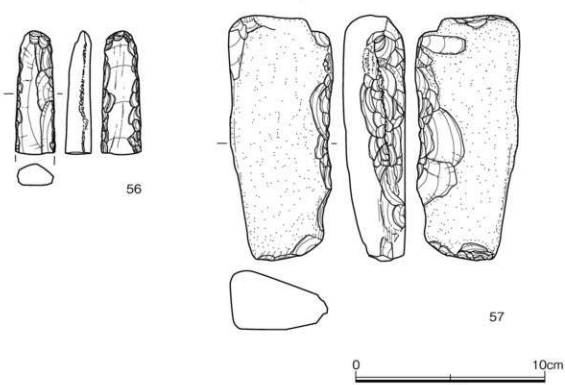


第93図　打製石斧（46：B区4 18号土、47：B区4 7号溝、48～50：B区4 遺構外）

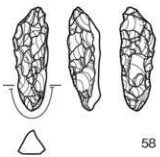


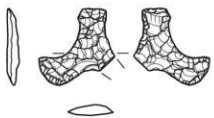
第94図　打製石斧（51～53：B区4 遺構外）・礫器（54：B区4 3号住）



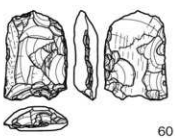


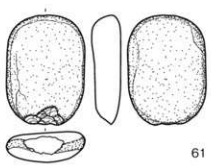
第95図　礫器（55：B区4 17号土）・摩製石斧未製品（56・57：B区4 2号住）

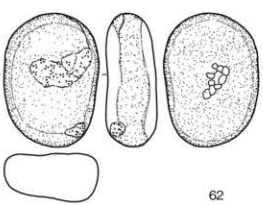


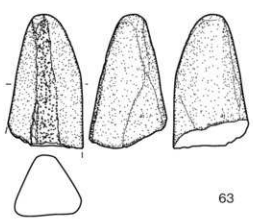


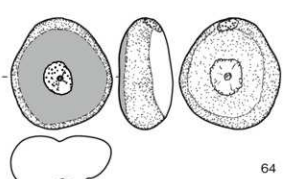
58・59：S=1/1



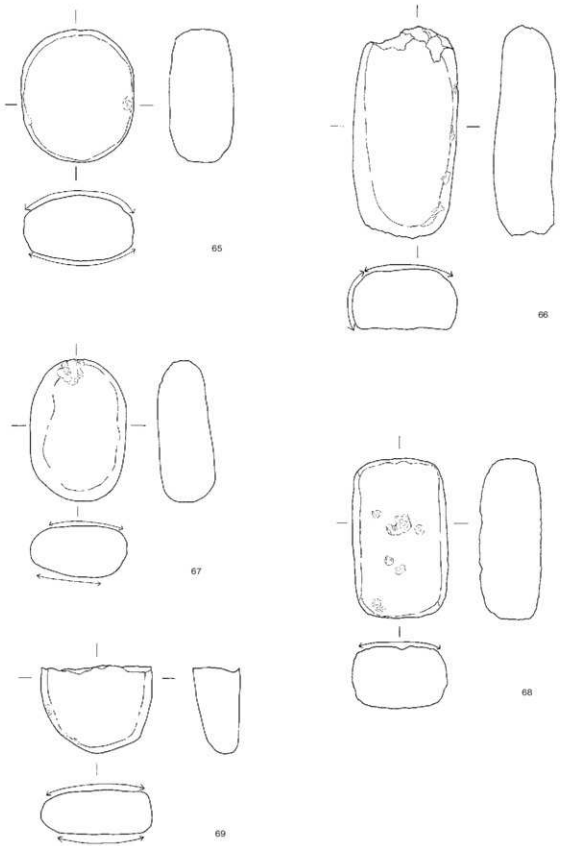




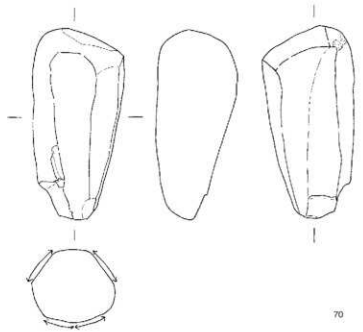


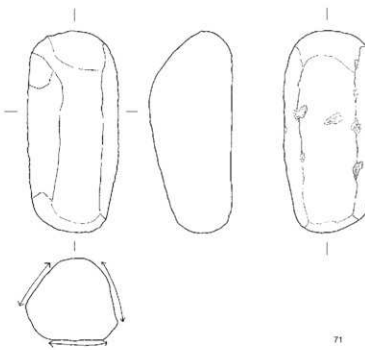


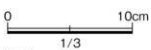
第96図　石錐（58：B区4 9号土）・異形石器（59：B区3 遺構外）・石箆（60：B区4 3号住）・石錘（61：B区4 15号土）・敲石（62：B区4 1号住）・稜磨石（63：B区4 3号住）・磨石（64：B区4 遺構外）



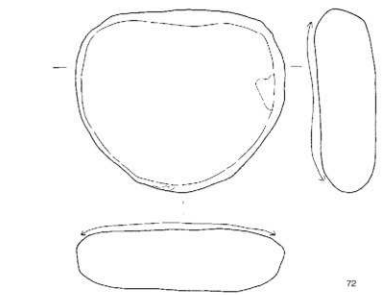
第97図　磨石（65・66：B区３　５号集石、67：B区３　焼土、68：B区３　１号住、69：B区３　遺構外）

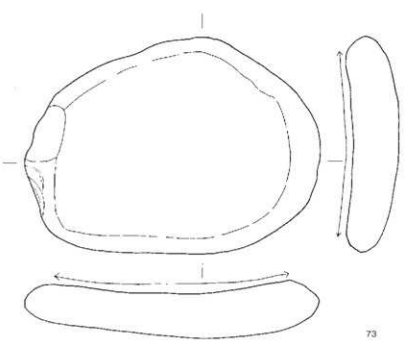






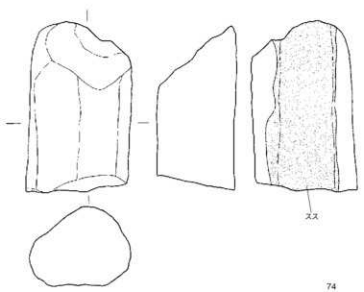
第98図　稜磨石（70：B区２　２号住、71：B区３　遺構外）





0 10cm
1/3

第99図　台石（72：B区３　13号土、73：B区４　遺構外）



0 10cm
1/3

第100図　石柱（74：B区２　４号住）

第２表　土坑・ビット一覧表

調査区	遺構名	位置（ｸﾞﾘｯﾄﾞ）	平面形	断面	長軸cm	短軸cm	深さcm	時期	備考
B区１	1号土坑	AA－51・52	－	箱形	72	－	15	－（縄文か）	
B区１	2号土坑	AD－49	－	U字形	42	－	37	古代以降	調査区壁面
B区１	3号土坑	AB－47	円形	不整形	25	25	18	－（縄文か）	
B区１	4号土坑	AA－49	－	U字形	55	－	22	－（縄文か）	
B区２	5号土坑	AE－71	円形	箱形	97	94	30	－（縄文か）	
B区２	6号土坑	AD－70・71	円形	U字形	83	78	52	－（縄文か）	
B区２	7号土坑	AD－70	円形	箱形	32	30	12	－（縄文か）	
B区２	8号土坑	AD－71	楕円形	不整形	67	52	12	－（縄文か）	3号住と重複
B区２	9号土坑	AD－71	円形	不整形	51	47	13	－（縄文か）	
B区２	10号土坑	AC・AD－71	－	U字形	44	－	18	－（縄文か）	
B区２	11号土坑	AC－70	不整形	不整形	171	127	21	－（縄文か）	
B区２	12号土坑	AE－74	－	U字形	29	－	27	－（縄文か）	
B区２	13号土坑	AE－70	－	箱形	89	－	44	－（縄文か）	
B区２	14号土坑	AE－74	－	箱形	118	－	38	－（縄文か）	
B区２	15号土坑	AE－75	円形	箱形	38	38	15	－（縄文か）	
B区２	16号土坑	AE－75	円形	U字形	122	100	98	－（縄文か）	
B区２	17号土坑	AE－74	円形	箱形	30	28	7	－（縄文か）	
B区２	18号土坑	AD－74・75	円形	箱形	27	25	7	－（縄文か）	
B区２	19号土坑	AD－74・75	楕円形	U字形	49	39	13	－（縄文か）	
B区２	20号土坑	AD－75	楕円形	箱形	34	27	27	－（縄文か）	
B区２	21号土坑	AE－73・74	円形	箱形	19	21	9	－（縄文か）	
B区２	22号土坑	AE－75	－	U字形	111	－	54	古代以降	調査区壁面
B区２	23号土坑	AE・AF－72	－	箱形	115	－	16	縄文前期後半	諸磯b式
B区２	24号土坑	AF－72・73	不整形	箱形	43	38	28	－（縄文か）	
B区２	25号土坑	AE－73	楕円形	不整形	49	37	9	－（縄文か）	
B区１	26号土坑	AB－49	円形	箱形	18	18	13	－（縄文か）	
B区１	27号土坑	AA－49	円形	U字形	20	18	12	－（縄文か）	
B区１	28号土坑	AA－49	円形	U字形	18	16	18	－（縄文か）	
B区１	29号土坑	AA・AB－49	円形	U字形	16	16	11	－（縄文か）	
B区１	30号土坑	AB－49	円形	箱形	23	19	6	－（縄文か）	
B区２	31号土坑	AE－75	楕円形	U字形	143	102	25	－（縄文か）	
B区２	32号土坑	AE－75	－	－	－	－	－	－（縄文か）	16・31・32土と重複
B区２	33号土坑	AE－75	－	－	－	－	13	－（縄文か）	31・32土と重複
B区１	34号土坑	AB－47	楕円形	不整形	－	34	23	－（縄文か）	
B区１	35号土坑	AA－47	楕円形	不整形	54	35	15	－（縄文か）	
B区１	36号土坑	AA－49	－	U字形	51	－	19	－（縄文か）	
B区１	37号土坑	AA－46	－	箱形	65	－	54	古代以降	調査区壁面
B区１	38号土坑	AA・AB－46	－	箱形	182	－	48	古代以降	調査区壁面
B区２	39号土坑	AE－70	－	箱形	－	30	26	－（縄文か）	
B区２	40号土坑	AC－71	－	箱形	73	－	73	古代以降	調査区壁面
B区２	41号土坑	AC－75	－	箱形	59	－	53	古代以降	調査区壁面
B区２	42号土坑	AC－74・75	－	箱形	44	－	20	古代以降	調査区壁面
B区２	43号土坑	AE－75	楕円形	U字形	63	47	15	－（縄文か）	
B区２	44号土坑	AF－71	－	箱形	77	－	30	古代以降	調査区壁面
B区２	45号土坑	AD－75	楕円形	不整形	55	46	20	－（縄文か）	
B区２	46号土坑	AD－74	円形	不整形	68	67	12	－（縄文か）	

調査区	遺構名	位置（ｸﾞﾘｯﾄﾞ）	平面形	断面	長軸cm	短軸cm	深さcm	時期	備考
B区２	47号土坑	AD－72	不整形	不整形	125	91	35	－（縄文か）	３号住と重複
B区２	48号土坑	AC－71	－	V字形	16	－	15	－（縄文か）	
B区２	49号土坑	AE－73	楕円形	U字形	45	30	12	－（縄文か）	２号住と重複
B区２	50号土坑	AE－72	楕円形	不整形	92	－	19	－（縄文か）	
B区３	１面１号土坑	AD－80	－	箱形	65	－	17	－（縄文か）	
B区３	１面２号土坑	AE－80・81	不整形	袋状	82	81	41	－（縄文か）	
B区３	１面３号土坑	AE－75・76	－	U字形	－	71	18	－（縄文か）	
B区３	２面１号土坑	AG－89・90	円形	箱形	73	70	22	－（縄文か）	
B区３	２面２号土坑	AG－88	円形	U字形	91	82	18	－（縄文か）	
B区３	２面３号土坑	AF－88	楕円形	U字形	82	71	30	－（縄文か）	
B区３	２面４号土坑	AH－89・90	不整形	不整形	320	170	72	－（縄文か）	
B区３	２面５号土坑	AH・AG－87	楕円形	不整形	139	82	32	－（縄文か）	
B区３	２面６号土坑	AG－86・87	不整形	V字形	340	298	72	－（縄文か）	
B区３	２面７号土坑	AE－86・87	－	不整形	100	－	26	－（縄文か）	
B区３	２面８号土坑	AE－83	円形	箱形	77	76	19	縄文前期中葉	釈迦堂Z3式
B区３	２面９号土坑	AE－84・85	不整形	不整形	222	－	31	－（縄文か）	
B区３	２面10号土坑	AE－86・87	－	不整形	－	68	16	－（縄文か）	
B区３	２面11号土坑	AF－84	円形	U字形	75	64	37	縄文前期中葉	釈迦堂Z3式
B区３	２面12号土坑	AF－84	楕円形	U字形	86	62	22	－（縄文か）	
B区３	２面13号土坑	AF・AG－85・86	不整形	不整形	273	220	35	縄文前期末	埋甕。土壌分析
B区３	２面14号土坑	AF－86	楕円形	U字形	97	80	15	－（縄文か）	
B区３	２面15号土坑	AF－85	不整形	不整形	213	140	47	－（縄文か）	
B区３	２面16号土坑	AF－82	楕円形	U字形	97	71	18	縄文前期中葉	黒浜式
B区３	２面17号土坑	AE・AD－81・82	不整形	不整形	462	264	178	－（縄文か）	
B区３	２面18号土坑	AD－81	－	U字形	－	109	15	－（縄文か）	
B区３	２面19号土坑	AD－80	楕円形	U字形	134	102	14	縄文前期中葉	釈迦堂Z3式
B区３	２面20号土坑	AD－79	不整形	不整形	－	－	21	－（縄文か）	
B区３	２面21号土坑	AE－79	楕円形	U字形	123	85	27	－（縄文か）	
B区３	２面22号土坑	AE－78	不整形	不整形	92	42	38	－（縄文か）	
B区３	２面23号土坑	AF・AE－79	円形	袋状	85	75	24	－（縄文か）	
B区３	２面24号土坑	AF・AE－79	－	－	70	－	25	－（縄文か）	
B区３	２面25号土坑	AE－76	－	箱	74	－	40	－（縄文か）	
B区３	２面26号土坑	AE－82・83	不整形	袋状	142	70	32	－（縄文か）	土壌分析
B区３	１面１号ピット	AE－76	不整形	不整形	41	22	38	－（縄文か）	周囲炭化・酸化
B区３	１面２号ピット	AE－76	不整形	不整形	28	26	－	－（縄文か）	
B区３	１面３号ピット	AE－76	－	U字形	－	－	15	－（縄文か）	
B区３	２面１号ピット	AH－88	楕円形	不整形	47	34	12	－（縄文か）	
B区３	２面２号ピット	AG－87	楕円形	不整形	64	30	12	－（縄文か）	
B区３	２面３号ピット	AF－88	円形	U字形	34	3	8	－（縄文か）	
B区３	２面４号ピット	AF－86	不整形	不整形	53	48	－	－（縄文か）	
B区３	２面５号ピット	AF－81・82	楕円形	箱形	79	48	35	－（縄文か）	周囲炭化・酸化
B区３	２面６号ピット	AF－85	不整形	不整形	49	41	24	－（縄文か）	
B区３	２面７号ピット	AG－85	不整形	U字形	54	46	20	－（縄文か）	
B区３	２面８号ピット	AE－83	不整形	U字形	33	21	19	－（縄文か）	周囲炭化・酸化
B区３	２面９号ピット	AD・79・80	不整形	不整形	65	59	31	－（縄文か）	
B区３	２面10号ピット	AD－78	円形	－	43	34	10	－（縄文早期か）	屋外炉か
B区３	２面11号ピット	AF－79	－	不整形	－	－	16	－（縄文か）	

調査区	遺構名	位置（ｸﾞﾘｯﾄﾞ）	平面形	断面	長軸cm	短軸cm	深さcm	時期	備考
B区４	1号土坑	AH－95	円形か	U字形	110	－	22	－	2･3号土坑, 1号ピット, 1号溝と重複
B区４	2号土坑	AH－95	円形か	U字形	48	－	7	－	1･3号土坑, 1号ピットと重複
B区４	3号土坑	AH－95	楕円形か	U字形	－	50	6	－	1･2号土坑, 1号ピットと重複
B区４	4号土坑	AH－95	楕円形	U字形	57	43	25	－	
B区４	5号土坑	AI－95	円形か	箱形	135	－	29	弥生前期か	
B区４	6号土坑	AG－95	－	箱形	107	－	23	－	
B区４	7号土坑	AG－94・95	－	U字形	74	－	13	－	
B区４	8号土坑	AH－94	円形	箱形	119	109	36	弥生前期か	
B区４	9号土坑	AH－92	円形	箱形	148	145	67	弥生前期	
B区４	10号土坑	AG－94	－	箱形	－	57	53	－	
B区４	11号土坑	AI－94・95	－	箱形	107	－	48	－	10号溝と重複
B区４	12号土坑	AI－94	－	箱形	107	－	105	－	2号住と重複
B区４	13号土坑	AH－92	－	楕円形	U字形	117	67	－	
B区４	14号土坑	AI－94	楕円形	U字形	95	75	9	弥生前期か	
B区４	15号土坑	AI－94	楕円形	箱形	116	74	40	弥生前期か	2号住と重複
B区４	16号土坑	AH－93	円形	－	60	50	8	－	12号溝と重複
B区４	17号土坑	AG－90・91	－	不整形	212	－	53	弥生前期	
B区４	18号土坑	AG－90・91	－	袋状	151	－	52	弥生前期	
B区４	19号土坑	AG・AH－91・92	不整形	－	－	－	－	－（縄文か）	9号溝と重複
B区４	20号土坑	AI－92	－	不整形	77	－	7	縄文中期中葉	井戸尻式
B区４	21号土坑	AG－92	不整形	－	100	98	－	－	
B区４	22号土坑	AI・AH－91	不整形	U字形	75	80	22	－	
B区４	23号土坑	AJ－93	円形	－	95	90	－	－	
B区４	24号土坑	AI・AJ－93・94	円形	－	－	－	－	－	
B区４	25号土坑	AJ－94	－	－	－	－	－	－	調査区壁面
B区４	1号ピット	AH－95	不整形	U字形	36	31	30	－	1～3号土坑, 1溝と重複
B区４	2号ピット	AH－91	不整形	－	40	31	－	－	
B区４	3号ピット	AH－94	不整形	－	36	28	－	－	
B区４	4号ピット	AI－92	不整形	不整形	39	35	37	－	

第３表　溝状遺構一覧表

調査区	遺構名	位置（ｸﾞﾘｯﾄﾞ）	主軸	断面	長さcm	幅cm	深さcm	時期	備考
B区２	1号溝状遺構	AF-70	東西	箱形	－	75	50	不明	4号住上層から検出
B区３	1号溝状遺構	AD～AG-81～83	東西	箱形	－	450	140	不明	
B区４	1号溝状遺構	AH-95	東西	U字形	－	56	23	不明	1～3号土坑, 1号ピットと重複
B区４	2号溝状遺構	AI-93・94	東西	U字形	276	59	26	不明	2号住と重複
B区４	3号溝状遺構	AF・AG-91	東西	箱形	237	59	15	不明	
B区４	4号溝状遺構	AG-91	東西	箱形	－	54	13	不明	2号焼土と重複
B区４	5号溝状遺構	AH・AI-91	東西	箱形	－	76	31	不明	
B区４	6号溝状遺構	AH-93・94	南北	箱形	472	87	39	不明	7号溝と重複
B区４	7号溝状遺構	AH-93・94	南北	不整形	375	21～63	41	不明	6号溝と重複
B区４	8号溝状遺構	AH-91	東西	U字形	186	50	5	不明	
B区４	9号溝状遺構	AG・AH-91・92	南北	U字形	287	74	9	不明	19号土坑と重複
B区４	10号溝状遺構	AI-94	南北	U字形	－	65	13	不明	2号住, 11号土坑と重複
B区４	11号溝状遺構	AH-93	南北	箱形	279	78	47	不明	12号溝と重複
B区４	12号溝状遺構	AH-93	東西	箱形	－	81	30	不明	16号土坑, 11号溝と重複

第４表　土器・土製品観察表

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高（cm）（　）：復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
BE１	１住	49	1	１住P33	縄文	中期後半	壺	10.0・18.6・－	口縁～底部	肩部に二重の隆帯。隆帯間に斜位の沈線。隆帯を基点に４単位の把手（残存するのは１箇所）。	黄褐色	長石、雲母	曽利Ⅳ式
BE１	１住	49	2	１住P24・25 他	縄文	中期後半	深鉢	－・－・－	胴部	隆帯による渦巻文。隆帯間に放射状の沈線。	褐色		曽利Ⅳ式
BE１	１住	49	3	１住P2～4、埋甕P?	縄文	中期後半	浅鉢	26.5・－・－	口縁～胴部	無文。底部を欠く。外面を丁寧に磨く。	にぶい黄褐色		曽利Ⅳ式、埋甕P?
BE１	１住	49	4	ツル井倉B-15T散石	縄文	中期後半	深鉢	－・－・－	胴部	隆帯による区画、区画内に縦位の沈線。	暗褐色		曽利Ⅳ式
BE１	１住	49	5	１住P3・６他	縄文	前期	深鉢	－・－・－	口縁部	波状口縁。無文	黒褐色		
BE１	１住	49	6	１住P18	縄文	前期後半	深鉢	－・－・－	口縁部	波状口縁。口唇部に刻み。波頂部下に小突起。単節縄文。	明褐色		諸磯b式
BE１	１住	49	7	１住P7 他	縄文	前期後半	浅鉢	－・－・－	胴部	竹管状工具による区画。区画内および下半部に単節縄文。	褐色		諸磯a式
BE１	１住	50	8	C-４P16、C-５P40・55・56・61・62	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文。胴部上方に横位と斜面状の沈線。	褐色	雲母	釈迦堂Ｚ３式か
BE１	１住	50	9	１住P11、C-４P13・23	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	褐色	繊維	黒浜式
BE１	１住	50	10	１住P29、C-４P17 他	縄文		深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	褐色	石英	
BE１	１住	50	11	１住P5・14	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	黄褐色	雲母	釈迦堂Ｚ３式か
BE１	１住	50	12	１住P20	縄文	前期後半	深鉢	－・－・－	胴部	横位の沈線。縦方向の磨き。	にぶい赤褐色		諸磯式か
BE１	１住	50	13	１住P1	縄文	中期後半	深鉢	－・－・－	把手	X字把手	褐色		曽利Ⅳ式
BE１	１住	50	14	１住P22・23	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	黄褐色	雲母	釈迦堂Ｚ３式か
BE１	１住	50	15	１住P28	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	明褐色	雲母	釈迦堂Ｚ３式か
BE１	１住	50	16	１住P32	縄文	前期	深鉢	－・－・－	底部	単節縄文	灰黄褐色	石英	
BE１	１集土	50	1	１集2・3・20・58	縄文	前期初頭	深鉢	－・－・－	口縁～胴部	口縁部：横位（波状か）の状痕文。口縁下部に隆帯が廻る。胴部：斜位の状痕文。内面：横位の状痕文。	にぶい黄橙色	繊維	下吉井式
BE１	１集土	50	2	１集土P3・５	縄文	前期初頭	深鉢	－・－・－	口縁	横位と弧状の状痕文。	にぶい褐色	繊維	下吉井式
BE１	１集土	50	3	１集P1、C-５P35・45	縄文	前期後半	深鉢	－・－・－	胴部	浮線文で上下対弧となるモチーフ。弧線文と下部の横位浮線文との間に縦位の浮線文。浮線文に綾杉状の刺み。地文単節縄文。	橙色		諸磯b式
BE１	４土	51	1	４土P1	縄文		深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	にぶい褐色	長石	表面磨耗
BE１	35土	51	1	35土P1、C-3P15 他	縄文	早期後半～前期	深鉢	－・－・－	胴部	撚糸文	にぶい赤褐色	繊維	
BE１	５焼	51	1	５焼P2・3	縄文	早期	深鉢	－・－・－	口縁部	口唇部：刻み。口縁部：横位の鋸歯状連続刺突文。	赤褐色	雲母	判ノ木山西タイプ
BE１	５焼	51	2	５焼P4	縄文	早期	深鉢	－・－・－	口縁部	口唇部：刻み。口縁部：横位の鋸歯状連続刺突文。	にぶい褐色	雲母	判ノ木山西タイプ
BE１	遺構外	51	1	B-７P11	縄文	早期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	横位の沈線。列点状刺突文。	赤褐色	雲母	田戸下層式
BE１	遺構外	51	2	B７P5・14・15	縄文	早期	深鉢	－・－・－	口縁部	口唇部：刺突文。口縁部：縦位の波状沈線。	赤褐色		判ノ木山西タイプ
BE１	遺構外	51	3	C-５P23、C-６P4	縄文	前期後半	深鉢	－・－・－	口縁部	口唇部：竹管状工具による刺突。口縁部：横位の条線。	にぶい褐色	雲母	諸磯a式
BE１	遺構外	51	4	C-４P4	縄文	早期	深鉢	－・－・－	口縁部	口唇部：刻み。口縁部：横位の沈線。	褐色	長石、雲母	判ノ木山西タイプか
BE１	遺構外	51	5	C-４P42 他	縄文	早期	深鉢	－・－・－	胴部	縦位の沈線。	褐色	雲母	判ノ木山西タイプ
BE１	遺構外	51	6	B-７P4、C-６一括	縄文	早期	深鉢	－・－・－	胴部	縦位の波状沈線。	赤褐色	長石、雲母	判ノ木山西タイプ

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高 (cm) ( )：復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
B区1	遺構外	51	7	B-3P13、C-5P65	縄文	早期末	深鉢	―・―・―	口縁部	外面：貝殻（サルボウ）圧痕。内・外側：貝殻腹縁による条痕（ナデ）。	赤褐色	雲母、石英	打越式
B区1	遺構外	51	8	C-3P6	縄文	早期末	深鉢	―・―・―	口縁部	外面：貝殻（サルボウ）圧痕。内・外側：貝殻腹縁による条痕（ナデ）。	赤褐色		打越式
B区1	遺構外	51	9	B-3P16、C-3P43	縄文	早期末	深鉢	―・―・―	胴部	外面：貝殻（サルボウ）圧痕。内・外側：貝殻腹縁による条痕（ナデ）。	赤褐色	雲母、石英	打越式
B区1	遺構外	51	10	C-4P10	縄文	早期末	深鉢	―・―・―	胴部	外面：貝殻（サルボウ）圧痕。内・外側：貝殻腹縁による条痕（ナデ）。	赤褐色	石英	打越式
B区1	遺構外	51	11	C-3P8	縄文	早期末	深鉢	―・―・―	胴部	外面：指頭圧痕。内・外面：貝殻腹縁による条痕（ナデ）。	赤褐色		打越式
B区1	遺構外	51	12	B-3P4	縄文	早期末	深鉢	―・―・―	胴部	外面：貝殻（サルボウ）圧痕。内側：指頭圧痕。内・外側：貝殻腹縁による条痕（ナデ）。	赤褐色	雲母、石英	打越式
B区1	遺構外	51	13	C-6P5	縄文	早期末	深鉢	―・―・―	胴部	内面：指頭圧痕。内・外面：貝殻腹縁による条痕（ナデ）。	赤褐色		打越式
B区1	遺構外	52	14	C-6P9・10	縄文	早期	深鉢	―・―・―	口縁部	口唇部：刻み。口縁部：横位の鋸歯状連続刺突文。	褐色	雲母、石英	判ノ木山西タイプ
B区1	遺構外	52	15	C-6P11	縄文	早期	深鉢	―・―・―	口縁部	口唇部：刻み。口縁部：横位の鋸歯状連続刺突文。	赤褐色	雲母	判ノ木山西タイプ
B区1	遺構外	52	16	C-4P32	縄文	早期末	深鉢	―・―・―	胴部	外面：貝殻（サルボウ）圧痕。内・外側：貝殻腹縁による条痕（ナデ）。	赤褐色	雲母、石英	打越式
B区1	遺構外	52	17	C-3P7	縄文	早期末	深鉢	―・―・―	胴部	外面：貝殻（サルボウ）圧痕。貝殻腹縁による条痕（ナデ）。	赤褐色		打越式
B区1	遺構外	52	18	C-3P47	縄文	早期末	深鉢	―・―・―	胴部	外面：貝殻（サルボウ）圧痕。内・外側：貝殻腹縁による条痕（ナデ）。	赤褐色		打越式
B区1	遺構外	52	19	C-3P44・45・47・60	縄文	早期後半～前期	深鉢	―・―・―	胴部	撚糸文	赤褐色	繊維	
B区1	遺構外	52	20	C-3P48	縄文	早期後半～前期	深鉢	―・―・―	胴部	撚糸文。	赤褐色	繊維、長石	
B区1	遺構外	52	21	C-3P12	縄文	早期後半～前期	深鉢	―・―・―	胴部	外面：撚糸文。内面：指頭圧痕	赤褐色	繊維	
B区1	遺構外	52	22	C-3P58	縄文	早期後半～前期	深鉢	―・―・―	胴部	外面：撚糸文	褐色	繊維、長石	
B区1	遺構外	52	23	C-5P66・67、70	縄文	早期後半か	深鉢	―・―・―	胴部	外面：条痕文。	にぶい褐色	雲母、長石、石英	
B区1	遺構外	52	24	C-6P14	縄文	早期後半か	深鉢	―・―・―	胴部	外面：条痕文。	にぶい褐色	雲母、石英	
B区1	遺構外	52	25	C-6一括	縄文	早期後半か	深鉢	―・―・―	胴部	外面：条痕文。	にぶい褐色	雲母	
B区1	遺構外	52	26	B-9P1	縄文	前期後半	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文。鋸歯状の沈線。	褐色	雲母	釈迦堂Z3式か
B区1	遺構外	52	27	C-3P3	縄文	前項中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文	明赤褐色	雲母	釈迦堂Z3式
B区1	遺構外	52	28	C-3P3	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・6.1	底部	単節縄文	橙色	雲母	釈迦堂Z3式か
B区1	遺構外	52	29	C-6P1	縄文	前期後半	深鉢	―・―・―	口縁部	口唇部：竹管状工具による刺突。口縁部：縦位の結節沈線。斜位の沈線（米字状か）。	赤褐色	雲母、長石	諸磯a式
B区1	遺構外	52	30	C-5一括	縄文	前期後半	深鉢	―・―・―	口縁部	口唇部：竹管状工具による刺突。口縁部：横位の沈線。	褐色	雲母	諸磯a式
B区1	遺構外	52	31	C-5P26	縄文	前期後半	深鉢	―・―・―	胴部	斜位と横位の沈線（米字状か）。	褐色	雲母	諸磯a式
B区1	遺構外	52	32	C-6P3、C-5一括	縄文	前期後半	深鉢	―・―・―	胴部	縦位の結節沈線。斜位と横位の沈線（米字状か）。	褐色	雲母、石英	諸磯a式
B区1	遺構外	52	33	C-2P2　他	縄文	前期後半	深鉢	―・―・―	口縁部	連続爪形文による木葉文。	にぶい黄褐色	雲母、長石	諸磯b式

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高 (cm) ( )：復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
B区1	遺構外	52	34	B-15T埋土	縄文	前期後半	深鉢	―・―・―	口縁部	横位の連続爪形文。円形竹管文。	褐灰色	雲母、長石	諸磯b式
B区1	遺構外	52	35	C-3・4P2～4	縄文	前期後半	浅鉢か	(16.0)・―・―	口縁部	木葉文	橙色	雲母	諸磯a式
B区1	遺構外	53	36	C-5P29	縄文	前期後半	深鉢	―・―・―	口縁部	刻みのある浮線文。地文縄文。	にぶい褐色		諸磯b式
B区1	遺構外	53	37	C-5P36・38・46・47	縄文	前期後半	深鉢	―・―・―	胴部	刻みのある浮線文。地文縄文。	赤褐色		諸磯b式
B区1	遺構外	53	38	C-5P8・11	縄文	前期後半	深鉢	―・―・―	胴部	刻みのある浮線文。地文縄文。	赤褐色	雲母	諸磯b式
B区1	遺構外	53	39	C-5P41	縄文		深鉢	―・―・―	胴部	刻みのある浮線文。地文縄文。	赤褐色	雲母	諸磯b式
B区1	遺構外	53	40	C-4・5P5・10・11	縄文	前期後半	深鉢	―・―・―	胴部	刻みのある浮線文。地文縄文。	赤褐色		諸磯b式
B区1	遺構外	53	41	C-5P9・15	縄文	前期後半	深鉢	―・―・―	胴部	刻みのある浮線文。地文縄文。	にぶい黄褐色	雲母、長石	諸磯b式
B区1	遺構外	53	42	C-5P3・52 他	縄文	前期後半か	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	赤褐色	長石、雲母	
B区1	遺構外	53	43	C-5P42・44・53・63	縄文	前期後半か	深鉢	―・―・10.4	胴～底部	単節縄文	赤褐色		
B区1	遺構外	53	44	C-5P24・33 他	縄文	前期後半か	深鉢	―・―・(10.5)	胴～底部	単節縄文	赤褐色	長石	
B区1	遺構外	53	45	C-3P2	縄文	硫気後半か	深鉢	―・―・―	胴部	横位の結節縄文。	にぶい黄橙色		
B区1	遺構外	53	46	C-5P49	縄文	前期後半か	深鉢	―・―・―	胴部	横位の結節縄文。	にぶい赤褐色	石英	
B区1	遺構外	53	47	C-4P22・24	縄文	前期後半か	深鉢	―・―・―	胴部	横位の結節縄文。	にぶい褐色		
B区1	遺構外	53	48	C-5P7 他	縄文	硫気後半か	深鉢	―・―・―	胴部	横位の結節縄文。	橙色		
B区1	遺構外	53	49	E-4P1	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	口縁部	隆帯による区画。区画内に縦位の沈線。	明黄褐色	雲母	曽利Ⅳ式
B区1	遺構外	53	50	D-4P1	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	隆帯による区画。区画内に縦位の沈線。	にぶい黄褐色	雲母	曽利Ⅳ式
B区1	遺構外	53	51	E-2P1	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	隆帯による区画。区画内斜位の沈線。	褐色	雲母	曽利Ⅳ式
B区1	遺構外	53	52	B-7P3	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	隆帯による区画。区画内に縦位の沈線。	褐色		曽利Ⅳ式
B区1	遺構外	53	53	E-5P1	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	縦位の隆帯。縦位と斜位の沈線。縦位の波状沈線。	橙色	石英	曽利Ⅳ式
B区2	2住	54	1	2住P18・20・21・28	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁～胴部	口縁部：格子状沈線。胴部：単節縄文。	明黄褐色	繊維、長石	黒浜式
B区2	2住	54	2	2住P10	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	灰黄褐色	繊維、長石	黒浜式
B区2	2住	54	3	2住P16	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	橙色	繊維	黒浜式
B区2	2住	54	4	2住P8・30	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文か	褐色	雲母	釈迦堂Z3式
B区2	2住	54	5	2住P38	縄文	前期	深鉢	―・―・―	底部	単節縄文	にぶい赤褐色	雲母、白色砂礫	
B区2	2住	54	6	2住pit10・2～4・6	縄文	前期	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	赤褐色	雲母、白色砂礫	
B区2	2住	54	7	2住P25	縄文	前期	浅鉢か	―・―・―	底部		橙色	雲母、白色砂礫	
B区2	2住	54	8	2住P13	縄文	前期後半	深鉢	―・―・―	胴部	連続爪形文による木葉文。	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	諸磯b式
B区2	2住	54	9	2住P5	縄文	前期中葉	ミニチュア土器か	―・―・―	胴部	外面：死闘圧痕。	褐色	繊維、石英	黒浜式か
B区2	2住	54	10	P22	縄文	前期後半	深鉢	―・―・(13.6)	底部	刻みのある浮線文。	褐色	雲母、石英	諸磯b式
B区2	2住	54	11	2住P19、23土P3	縄文	前期後半	深鉢	―・―・―	胴部	刻みのある浮線文。	褐色	雲母	諸磯b式
B区2	2住	54	12	2住P14・15・24・27・29・31・32	縄文	前期後半	浅鉢	―・―・―	肩部	沈線による入組木葉文。屈曲部に刻み。	赤褐色	雲母	諸磯b式か
B区2	3住	54	1	3住P1	縄文	前期後半	深鉢	―・―・―	胴部	横位の沈線。単節縄文。	橙色	雲母、白色砂礫	諸磯a式
B区2	4住	55	1	4住P5	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	縦位の沈線。単節縄文。	褐色	白色砂礫	曽利Ⅳ式か
B区2	4住	55	2	4住P10、G-26P33	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	沈線による区画。単節縄文。	褐色	白色砂礫	曽利Ⅳ式か
B区2	4住	55	3	4住P4・11	縄文	中期後半	広口壺	(16.4)・―・―	口縁～肩部	肩部：沈線で楕円などを描く。	暗褐色	白色砂礫	曽利Ⅳ式か
B区2	4住	55	4	4住P8	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	沈線による区画。	にぶい赤褐色	白色砂礫	曽利Ⅳ式か
B区2	4住	55	5	4住P9	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	縦横に細い沈線。縦位の波状沈線。	にぶい褐色	白色砂礫	曽利Ⅳ式か
B区2	4住	55	6	4住P12	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	にぶい黄褐色	白色砂礫	曽利Ⅳ式か
B区2	4住	55	7	4住P6	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位と斜位の沈線。	にぶい黄褐色	白色砂礫	
B区2	4住	55	8	4住P7	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	沈線による弧状の区画。区画内を格子目状沈線。	にぶい黄褐色	白色砂礫	
B区2	4住	55	9	4住P3	縄文	中期後半	広口壺	―・―・―	口縁部	縦位の磨き。	褐色	白色砂礫	曽利Ⅳ式か
B区2	4集土	55	1	4集P2	縄文	前期	深鉢	―・―・(8.6)	底部	単節縄文	明赤褐色	長石	

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高 (cm) ( ) : 復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
B区2	1溝	55	1	1溝P1	弥生か		甕	ー・ー・ー	胴部	斜位の条痕文。	明褐色	白色砂礫	
B区2	遺構外	55	1	F-28P1、F-29P8・14	縄文	前期中葉	深鉢	ー・ー・ー	胴部	無節縄文	橙色	雲母	貯蔵穴Z3式
B区2	遺構外	55	2	F-30P24	縄文	前期中葉	深鉢	ー・ー・ー	胴部	無節縄文	褐色	雲母	貯蔵穴Z3式
B区2	遺構外	55	3	F-31P29	縄文	前期中葉	深鉢	ー・ー・ー	胴部	単節縄文	明赤褐色	繊維	黒浜式
B区2	遺構外	55	4	F-30P50・57	縄文	前期中葉	深鉢	ー・ー・ー	胴部	単節縄文	明褐色	繊維	黒浜式
B区2	遺構外	55	5	F-31P16	縄文	前期中葉	深鉢	ー・ー・ー	胴部	単節縄文	橙色	繊維	黒浜式
B区2	遺構外	55	6	E-31P31・32・34～36・40・50	縄文	前期後半	深鉢	ー・ー・ー	口縁～胴部	口縁部：半截竹管状工具で横位と弧状の沈線。胴部：単節縄文。	にぶい褐色	白色砂礫	諸磯a式か
B区2	遺構外	55	7	F-31P3・4・9・40、E-31P6・7、29・31	縄文	前期後半	深鉢	ー・ー・ー	口縁～胴部	口唇部：刻み。口縁部：横位の沈線。地文単節縄文。	褐色	雲母	諸磯a式か
B区2	遺構外	55	8	E-31P9・10・30・31・45・49	縄文	前期か	深鉢	ー・ー・ー	胴部	無節縄文	褐色	雲母	
B区2	遺構外	56	9	G-28P15	縄文	前期後半	深鉢	ー・ー・ー	口縁部	波状口縁。口唇部の一部に短い粘土紐を貼り付ける。連続爪形文。	明褐色	雲母	諸磯b式
B区2	遺構外	56	10	G-28P18	縄文	前期後半	深鉢	ー・ー・ー	胴部	弧状の連続爪形文。	明赤褐色	雲母	諸磯b式。No 8と同一個体か。
B区2	遺構外	56	11	G-28P14	縄文	前期後半	深鉢	ー・ー・ー	胴部	斜位と弧状の連続爪形文。	褐色	雲母	諸磯b式。No 8と同一個体か。
B区2	遺構外	56	12	E-31P19	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ー	口縁部	口縁部がやや内側に屈曲。横位の結節浮線文。地文単節縄文。	にぶい橙色	白色砂礫	
B区2	遺構外	56	13	F-30P5・8	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ー	胴部	横位の結節浮線文。地文単節縄文。	にぶい黄褐色	白色砂礫	
B区2	遺構外	56	14	F-30P4	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ー	胴部	横位の結節浮線文。地文単節縄文。半実測図は縦横逆	暗褐色	白色砂礫	
B区2	遺構外	56	15	F-30P29	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ー	口縁部	横位・波状の浮線文。地文単節縄文。	赤褐色	白色砂礫	
B区2	遺構外	56	16	E-30P7・F-30P45	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ー	胴部	平行沈線で区画し、区画内を集合沈線で埋める。空白部を半肉彫り。逆V字の空白部に単節縄文。	黒褐色	雲母	
B区2	遺構外	56	17	F-29P7	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ー	胴部	平行沈線で弧状に区画し、区画内に集合沈線。	褐色	白色砂礫	
B区2	遺構外	56	18	F-30P33	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ー	胴部	横位の集合沈線。空白部を半肉彫り。	華燭	白色砂礫	
B区2	遺構外	56	19	E-31P42	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ー	胴部	横位の平行沈線で区画。縦位と弧状の集合沈線。空白部を半肉彫り。	暗褐色	白色砂礫	
B区2	遺構外	56	20	E-31P27	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ー	胴部	平行沈線で横位・V字・弧状の区画。区画内に斜位の集合沈線。	明褐色	雲母、白色砂礫	
B区2	遺構外	56	21	F-31P20	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ー	胴部	縦位の鋸歯状平行沈線。横位の集合沈線。空白部を半肉彫り。	褐色	雲母、白色砂礫	
B区2	遺構外	56	22	F-31P12	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ー	胴部	横位の平行沈線、格子目状の集合沈線。	褐色	雲母、白色砂礫	
B区2	遺構外	56	23	E-31P48	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ー	胴部	V字状の平行沈線。斜位の集合沈線。空白部を半肉彫り。	明褐色	雲母、白色砂礫	
B区2	遺構外	56	24	F-29P1・11	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ー	胴部	横位の平行沈線、格子目状の集合沈線。	褐色	白色砂礫	
B区2	遺構外	56	25	E-31P22	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ー	胴部	V字状の平行沈線。斜位の集合沈線。	明褐色	雲母、白色砂礫	
B区2	遺構外	56	26	E-30P15	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ー	胴部	横位・鋸歯状の平行沈線。鋸歯状の平行沈線には条をまたいで刻み目が薄く入る。	褐色	雲母	
B区2	遺構外	56	27	E-30P17・18	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ (13.3)	底部	横位の平行沈線で区画し、区画内に格子目状の集合沈線。	褐色	雲母	
B区2	遺構外	56	28	E-30P1	縄文	前期末	深鉢	ー・ー・ー	胴部	呪医の平行沈線。地文単節縄文。	褐色	雲母、白色砂礫	

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高（cm）（ ）：復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
B区2	遺構外	56	29	F-30P23	縄文	前期末	深鉢	―・―・（12.8）	底部	横位・斜行の平行沈線。斜位の集合沈線。	明褐色	雲母、白色砂礫	
B区2	遺構外	56	30	G-26P17・18・26・44	縄文	中期後半	深鉢	（23.6）・―・―	口縁～胴部	口縁部：横位の沈線。胴部：蛇行沈線が垂下。綾杉上の斜位条線。	明褐色	雲母、白色砂礫	曾利Ⅳ式
B区2	遺構外	56	31	G-26P41	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	横S字状文。隆帯脇に幅広の沈線。	明赤褐色	白色砂礫	曾利Ⅳ式
B区2	遺構外	57	32	G-26P31・51	縄文	中期後半	広口壺	（11.2）・―・―	口縁～肩部	肩部：楕円・弧状の沈線。単節縄文。内外面：磨き。	暗赤褐色	雲母	曾利Ⅳ式
B区2	遺構外	57	33	G-26P57	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	斜位の沈線。地文単節縄文。	褐色	雲母、白色砂礫	曾利Ⅳ式か
B区2	遺構外	57	34	G-26P9	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	縦位の沈線・蛇行沈線。単節(表文。内面：磨き。	褐色	白色砂礫	曾利Ⅳ式
B区2	遺構外	57	35	G-26P20	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	沈線で蕨手文。単節縄文。内面：磨き。	暗赤褐色	雲母、白色砂礫	曾利Ⅳ式
B区2	遺構外	57	36	G-26P3・45・50	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	隆帯と沈線による区画。区画内に単節縄文。	暗赤褐色	雲母、白色砂礫	曾利Ⅳ式
B区2	遺構外	57	37	G-26P22	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	縦位の沈線。単節縄文。内面:磨き。	暗赤褐色	雲母、白色砂礫	曾利Ⅳ式
B区2	遺構外	57	38	G-26P36	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	横位と縦位の沈線。単節縄文。	明褐色	雲母、白色砂礫	曾利Ⅳ式
B区2	遺構外	57	39	G-26P37	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	弧状の幅広い沈線。端切除文。	にぶい黄橙色	雲母、白色砂礫	曾利Ⅳ式
B区2	遺構外	57	40	G-26P7	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	弧状の隆帯。隆帯脇に沈線。把手部欠損・調整。	褐色	雲母、白色砂礫	曾利Ⅳ式
B区2	遺構外	57	41	G-26P4	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	横位の隆帯。	にぶい黄褐色	雲母、白色砂礫	曾利Ⅳ式
B区2	遺構外	57	42	G-26P2・42	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	縦位の隆帯。縦位の条線。	黄褐色	雲母、白色砂礫	曾利Ⅳ式
B区2	遺構外	57	43	D-25P1	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	弧状の隆帯（横S字状文か）。	褐色	雲母、白色砂礫	曾利Ⅳ式
B区2	遺構外	57	44	G-26P15	縄文	中期後半	深鉢	―・―・―	胴部	縦位と弧状の隆帯。隆帯脇に沈線。	橙色	白色砂礫	曾利Ⅳ式
B区2	遺構外	57	45	G-26P11・39	縄文	中期後半	台付土器	―・―・―	脚部	弧状の沈線。	にぶい黄橙色	雲母、白色砂礫	曾利Ⅳ式か
B区2	遺構外	57	46	E-31P25　他	縄文		深鉢	―・―・―	口縁部	横位の条線と隆帯。	暗褐色	雲母、白色砂礫	
B区2	遺構外	57	47	E-28P1	縄文		石匙状土器片	―・―・―	底部	底部破片。くびれ部に挿孔のような痕跡がみられるが、その他の破断面に加工痕はみられない。底部内面部を磨く。	暗赤褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	1面1集	58	1	1集5・28	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文。口縁部外面に輪積痕が残る。	にぶい黄褐色	雲母	
B区3	1面1集	58	2	1集3	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文。口縁部外面に輪積痕が残る。	にぶい黄褐色	雲母	
B区3	1面1集	58	3	1集29・33	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	橙色	雲母、長石	
B区3	1面1集	58	4	1集56・59	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文	明褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	1面1集	58	5	1集14	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	口縁部	無節縄文	赤褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	1面1集	58	6	1集8・30	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	橙色	長石	
B区3	1面1集	58	7	1集4	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文	にぶい赤褐色	雲母、長石	
B区3	1面1集	58	8	1集24	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	にぶい黄褐色	長石	
B区3	1面1集	58	9	1集18	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	にぶい赤褐色	雲母、長石	
B区3	1面1集	58	10	1集13	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	橙色	雲母、長石	
B区3	1面1集	58	11	1集21	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	にぶい褐色	雲母	
B区3	1面1集	58	12	1集61	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	底部	内面なで。	橙色	長石	
B区3	1面1集	58	13	1集61	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位、縦位・弧状の平行沈線。区画内に集合沈線。	橙色	雲母、長石	
B区3	1面1集	58	14	1集5	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	平行沈線区画。地文無節縄文。	にぶい赤褐色	雲母、長石	
B区3	1面1集	58	15	1集11	縄文	前期末	深鉢	―・―・（8.5）	底部	造切り沈線文。上方は縦位、底部付近は横位。	橙色	雲母、長石	
B区3	1面3集	59	1	3集7	縄文	前期中葉～後半か	深鉢	―・―・―	口縁部	口唇部に刻み。平行沈線？で区画もしくはモチーフを描く。地文無節縄文。	暗褐色	雲母	
B区3	1面3集	59	2	3集12	縄文	前期中葉～後半か	深鉢	―・―・―	胴部	横位の平行沈線。地文無節縄文。	暗褐色	雲母、白色砂礫	

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高 (cm) ( ) : 復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
B区3	1面3集	59	3	3集9	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	褐色	繊維、長石	黒浜式
B区3	1面3集	59	4	3集3・4	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文。内面：指頭圧痕。	褐色	雲母	釈迦堂Z3式か
B区3	1面3集	59	5	3集5	縄文	前期中葉～後半か	深鉢	―・―・―	胴部	横位・斜位の沈線。地文無節縄文。	褐色	雲母	
B区3	1面3集	59	6	3集13	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	3段の押圧隆帯。地文単節縄文。	にぶい黄褐色	繊維	黒浜式
B区3	1面4集	59	1	4集71	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	無節縄文。内面指頭圧痕。	にぶい褐色	雲母	釈迦堂Z3式
B区3	1面4集	59	2	4集22	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	波状口縁。単節縄文。	褐色	繊維	黒浜式
B区3	1面4集	59	3	4集72	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	波状口縁。単節縄文。	にぶい橙色	繊維	黒浜式
B区3	1面4集	59	4	4集	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	褐色	繊維	黒浜式
B区3	1面4集	59	5	4集25	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	無節縄文。斜位の沈線？。	暗褐色	雲母	釈迦堂Z3式
B区3	1面4集	59	6	4集一括	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文（縦位の羽状か）。	暗赤褐色	白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面4集	59	7	4集8・54 他	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	半裁竹管状工具による横位の沈線・刺突。単節縄文。内面指頭圧痕。	赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式か
B区3	1面4集	59	8	4集6	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	暗褐色	繊維	黒浜式
B区3	1面4集	59	9	4集5・40・41・53・69-80 他	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	橙色	繊維、5mm以下の砂礫	黒浜式
B区3	1面4集	59	10	4集26・45・99	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	橙色	繊維	黒浜式
B区3	1面4集	59	11	4集50	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	暗褐色	繊維	黒浜式
B区3	1面4集	59	12	4集52	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面4集	59	13	4集12・29	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	橙色	繊維	黒浜式
B区3	1面4集	59	14	4集42	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	羽状無節縄文	褐色	雲母	釈迦堂Z3式
B区3	1面4集	59	15	4集75	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	暗褐色	繊維	黒浜式
B区3	1面4集	60	16	4集20	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	羽状単節縄文	暗褐色	繊維	黒浜式
B区3	1面4集	60	17	4集51	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	羽状無節縄文	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面4集	60	18	4集4	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文。補修孔。	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面4集	60	19	4集14	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	底部	底部外面：丁寧に磨かれ、内側に窪む。	にぶい褐色	繊維	黒浜式
B区3	1面5集	60	1	5集17	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文。内面指頭圧痕。	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面5集	60	2	5集88	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	無節（反か）縄文。内面指頭圧痕。	赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面5集	60	3	5集45	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	暗褐色	繊維	黒浜式
B区3	1面5集	60	4	5集57	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	無節（反か）縄文。内面指頭圧痕。	赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面5集	60	5	5集23	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面5集	60	6	5集75	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	暗褐色	繊維	黒浜式
B区3	1面5集	60	7	5集19	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	無節縄文。内面指頭圧痕。	にぶい赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面5集	60	8	5集87	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	羽状無節縄文	赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面5集	60	9	5集13、全体523・553・554・	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	くびれ部に押圧隆帯。上部に半裁竹管状工具による結節沈線。下部に単節縄文。内面指ぎ。	にぶい褐色	繊維	黒浜式
B区3	1面5集	60	10	5集85	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文。内面指頭圧痕。	赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面5集	60	11	5集86	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	橙色	繊維	黒浜式
B区3	1面5集	60	12	5集90	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	橙色	繊維	黒浜式
B区3	1面5集	60	13	5集7	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文。内面指頭圧痕。	赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面5集	60	14	5集41	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	羽状単節縄文。内面指頭圧痕。	暗赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面5集	60	15	5集66	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文。内面指頭圧痕。	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面5集	60	16	5集27	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節（反か）縄文。内面指頭圧痕。	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面5集	60	17	5集74	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文。内面指頭圧痕。	赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面5集	61	18	5集26	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文（羽状か）	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	1面5集	61	19	5集20	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	明黄褐色	繊維	黒浜式

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高（cm）（ ）：復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
B区3	1面5集	61	20	5集67	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	無節（反か）縄文、内面指頭圧痕。	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Ｚ３式
B区3	1面5集	61	21	5集34	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・（7.6）	底部	単節縄文、外部底面が内側に窪む。	にぶい黄橙色	繊維	黒浜式
B区3	1面5集	61	22	5集8	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・（7.5）	底部	単節縄文、外部底面が内側に窪む。	赤褐色	繊維	黒浜式
B区3	1面焼土	61	1	焼土1・6・8・9・14・16～18・39 他	縄文	前期後半	浅鉢	（29.0）・（14.8）・（8.8）	口縁～底部	くびれ部に2重の横位連続爪形文。地文単節縄文。	橙色	雲母、白色砂礫	諸磯b式
B区3	1面焼土	61	2	焼土24	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	橙色	繊維	黒浜式
B区3	1面焼土	61	3	焼土28	縄文	前期後半か	深鉢	－・－・（8.0）	底部	単節縄文か（不明瞭）。底部は輪積み部分で剥離か。	赤褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	1面遺物1	61	1	1焼土	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・7.2	底部	単節縄文、内面指頭圧痕。底面木葉痕。	赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Ｚ３式
B区3	1面遺物2	61	1	4 焼土1～3	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	口縁部	無節縄文、穿孔痕（未貫通）。内面指頭圧痕。	暗赤褐色	白色砂礫	釈迦堂Ｚ３式
B区3	1面遺物2	61	2	4焼土4	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	無節縄文。内面指頭圧痕。	明褐色	白色砂礫	釈迦堂Ｚ３式。No1と同一個体か。
B区3	1面遺物2	61	3	4焼土5	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	無節縄文。内面指頭圧痕。	褐色	白色砂礫	釈迦堂Ｚ３式。No1と同一個体か。
B区3	2面1住	62	1	1住2・3	縄文	前期末	深鉢	－・－・－	胴部	横位、縦位・弧状の平行沈線。空白部を半肉彫り。	明赤褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	2面1住	62	2	1住9	縄文	前期末	深鉢	－・－・－	胴部	押圧隆帯。	橙色	白色砂礫	
B区3	2面３土	62	1	3土1	縄文	前期か	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	にぶい褐色	雲母	
B区3	2面4土	62	1	4土6	縄文	前期末か	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	2面4土	62	2	4土9	縄文	前期後半～末か	深鉢	－・－・－	胴部	横位と渦巻状の沈線。	赤褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	2面4土	62	3	4土4	縄文	前期末	深鉢	－・－・－	胴部	横位と斜位の平行沈線。空白部を半肉彫り。	暗褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	2面4土	62	4	4土2	縄文	前期末か	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	明褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	2面5土	62	1	5土2	縄文	前期中葉か	深鉢	－・－・－	口縁部	横位の結束縄文。内面磨き。	明褐色	繊維	
B区3	2面5土	62	2	5土1	縄文	前期末か	深鉢	－・－・－	胴部	やや幅広の矢羽状沈線。三角（？）印刻文。	暗褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	2面5土	62	3	5土2	縄文	前期末か	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	2面６土	62	1	6土一括	縄文	前期後半か	深鉢	－・－・－	口縁部	横位の沈線。	褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	2面６土	62	2	6土7	縄文	前期中葉～後半か	深鉢	－・－・－	胴部	無節縄文、横位の沈線。	赤褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	2面６土	62	3	6土6	縄文	前期中葉～後半か	深鉢	－・－・－	胴部	無節縄文	褐色	白色砂礫	
B区3	2面６土	62	4	6土5	縄文	前期中葉か	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文か（不明瞭）。	橙色	繊維	
B区3	2面６土	62	5	6土1	縄文	前期中葉～後半か	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	にぶい赤褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	2面8土	63	1	8土1・9	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	口縁部	無節羽状縄文。内面指頭圧痕。	赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Ｚ３式
B区3	2面8土	63	2	8土一括	縄文	前期か	深鉢	－・－・－	胴部	単節羽状縄文。上部に刺突。※8土上層より出土	赤褐色	白色砂礫	
B区3	2面8土	63	3	8土10	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	無節縄文。内面指頭圧痕。	暗赤褐色	白色砂礫	釈迦堂Ｚ３式
B区3	2面９土	63	1	9土1	縄文	前期か	深鉢	－・－・－	胴部	無文。	にぶい黄褐色	白色砂礫	
B区3	2面11土	63	1	11土3	縄文	前期中葉	深鉢	（30.0）・－・－	口縁～胴部	羽状単節縄文。補修孔。内面指頭圧痕。	暗赤褐色	雲母	釈迦堂Ｚ３式。
B区3	2面11土	63	2	11土4	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	口縁～胴部	羽状単節縄文。内面指頭圧痕。	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Ｚ３式。No1と同一個体か。
B区3	2面11土	63	3	11土2	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	口縁部	単節縄文	暗褐色	雲母	釈迦堂Ｚ３式。No1と同一個体か。

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高（cm）（ ）：復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
B区3	2面11土	63	4	11土3	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式、No1と同一個体か。
B区3	2面11土	63	5	11土3		前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式、No1と同一個体か。
B区3	2面13土	64	1	13土9	縄文	前期末	深鉢	(31.6) ・－・－	口縁～胴部	口唇部：6単位の波状口縁。波頂部に楕円形の突起。口縁部：外面は三角形と円形の印刻文。内面は隆帯で縁取りし、波（三角形）状のモチーフ。胴部：逆切り沈線文で渦巻状・鋸歯状のモチーフを描き、隙間を半肉彫りする。胴部下半：単節縄文（縦位の羽状か？）	橙色	雲母、長石	
B区3	2面13土	65	2	13土4	縄文	前期末	深鉢	－・－・－	口縁部	単節縄文。内外面輪積痕。	にぶい黄褐色	雲母	1面1集No1・2と同一個体か。
B区3	2面13土	65	3	13土1	縄文	前期末	深鉢	－・－・－	口縁部	端部が内側に屈曲する。	にぶい褐色	雲母	
B区3	2面13土	65	4	13土14	縄文	前期末	深鉢	－・－・－	口縁部	端部が内側に屈曲する。三角印刻文。	にぶい赤褐色	雲母	
B区3	2面13土	65	5	13土5	縄文	前期末	深鉢	－・－・－	胴部	押圧隆帯が4条廻る。	褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	2面13土	65	6	13土12	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	橙色	繊維	
B区3	2面13土	65	7	13土2	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	無節縄文。内面指頭圧痕。	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	2面13土	65	8	13土6	縄文	前期か	深鉢	－・－・－	底部	外面：横方向の磨き。	明赤褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	2面14土	65	1	14土1	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	橙色	繊維	黒浜式
B区3	2面15土	65	1	15土2	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	にぶい黄橙色	繊維	黒浜式
B区3	2面15土	65	2	15土1	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	無節縄文	にぶい褐色	白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	2面16土	65	1	16土1～3	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・6.6	底部	単節縄文。底面が内側に窪む。	橙色	繊維	黒浜式
B区3	2面17土	65	1	17土5	縄文	前期中葉か	深鉢	－・－・－	口縁部	単節縄文。内面条痕文。	暗褐色	雲母	
B区3	2面17土	65	2	17土4	縄文	前期中葉か	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	暗褐色	雲母	
B区3	2面17土	65	3	17土2	縄文	前期中葉か	深鉢	－・－・－	胴部	無節縄文	暗褐色	雲母	
B区3	2面17土	65	4	17土1	縄文	前期中葉か	深鉢	－・－・－	胴部	無節（反か）縄文。内面指頭圧痕。	褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	2面17土	65	5	17土3	縄文	前期中葉か	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	暗褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	2面18土	65	1	18土2・3	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	単節縄文	橙色	繊維	黒浜式
B区3	2面18土	65	2	18土1	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	無節（反か）縄文。内面指頭圧痕。	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	2面19土	66	1	19土	縄文	前期中葉	深鉢	32.4・(33.3)・(8.9)	口縁～底部	反の縄文。内面指頭圧痕（口縁部に調整）。	明赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	2面20土	66	1	20土1	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	無節縄文。内面指頭圧痕。	暗赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	2面20土	66	2	20土2	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	胴部	反の縄文。内面指頭圧痕。	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	2面20土	66	3	20土3	縄文	前期中葉か	深鉢	－・－・－	胴部	外面なで。	褐色	白色砂礫	
B区3	遺構外	66	1	1059	縄文	前期か	深鉢	－・－・－	口縁部	横位の平行沈線。	明赤褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	66	2	920	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	口縁部	単節縄文。内面指頭圧痕。	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	66	3	606・814・872	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	口縁部	単節縄文。内面指頭圧痕。	赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	66	4	650・651	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	口縁部	小波状口縁か。単節縄文。補修孔。内外面輪積痕。	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	66	5	455	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	口縁部	単節縄文。補修孔。	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	66	6	312	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	口縁部	単節縄文。内面指頭圧痕。	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	66	7	637	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	口縁部	無節縄文。内面指頭圧痕。	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	66	8	630	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	口縁部	単節縄文	暗褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	67	9	612	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	口縁部	単節縄文。内面指頭圧痕。	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	67	10	646・925	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	口縁部	無節縄文。内面指頭圧痕。	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	67	11	559	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	口縁部	単節縄文。内面指頭圧痕。	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	67	12	564	縄文	前期中葉	深鉢	－・－・－	口縁部	単節縄文。内面指頭圧痕。	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高（cm）（ ）：復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
B区3	遺構外	67	14	413	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文，内面指頭圧痕。	暗褐色	雲母，白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	67	14	921	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文，内面指頭圧痕。	褐色	雲母，白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	67	15	877	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文，内面指頭圧痕。	赤褐色	雲母，白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	67	16	451	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	無節（反か）縄文，内面指頭圧痕。	褐色	雲母，白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	67	17	843	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	羽状無節縄文，内面指頭圧痕。	褐色	雲母，白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	67	18	927	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文，内面指頭圧痕。	赤褐色	雲母，白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	67	19	850	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	波状口縁，単節縄文。	暗褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	67	20	142	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁～胴部	波状口縁，単節縄文，胴部に押圧隆帯。	にぶい橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	67	21	511	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	暗褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	67	22	678	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	にぶい褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	67	23	673	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	繊維痕	暗褐色	繊維，白色砂礫	黒浜式
B区3	遺構外	67	24	974	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	にぶい黄橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	67	25	942	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	波状口縁か，単節縄文。	にぶい褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	67	26	21	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	にぶい黄橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	68	27	829・830	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	68	28	183	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	にぶい黄褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	68	29	240	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	正反の合	褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	68	30	608・863	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	羽状単節縄文	にぶい黄褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	68	31	935・937	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	明黄褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	68	32	1033	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	暗褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	68	33	127	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	明黄褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	68	34	956	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	にぶい黄橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	68	35	655	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	横位の沈線と格子状沈線。	にぶい橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	68	36	704・900	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	横位と斜位の沈線。端切除文。	にぶい黄橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	68	37	74	縄文	前期末か	深鉢	―・―・―	口縁部	口唇部：刻み。口縁部：縦位の沈線が並び，その間に円形の刺突。下方に横位の沈線。	明黄褐色	雲母，白色砂礫	
B区3	遺構外	68	38	581・1032	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	口縁部	口唇部：刻み。口縁部：横位の平行沈線で区画し，区画内に斜位の集合沈線。下方は横位の集合沈線が一部格子目状になる。	暗褐色	雲母，白色砂礫	
B区3	遺構外	68	39	587・832	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	口縁部	口唇部：刻み。口縁部：横位の平行沈線で区画し，区画内に斜位の集合沈線（薄く蛇切り）。	暗褐色	雲母，白色砂礫	
B区3	遺構外	68	40	584	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	口縁部	口唇部：刻み。口縁部：横位の平行沈線で区画し，区画内に斜位の集合沈線（薄く蛇切り）。	暗褐色	雲母，白色砂礫	
B区3	遺構外	68	41	428	縄文	前期末～中期初頭か	深鉢	―・―・―	口縁部	横位の沈線。平行沈線でモチーフを描く。地文単節縄文。	暗褐色	雲母，白色砂礫	
B区3	遺構外	68	42	一括	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	口縁部	口唇部：内外面に単節縄文。口縁部：横位の結節浮線文。	にぶい褐色	雲母，白色砂礫	
B区3	遺構外	68	43	415	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	口縁部	口唇部：細かい刻み。口縁部：横位の結節浮線文・連続爪形文。地文縄文（口唇部内面まで施文）。	橙色	白色砂礫	
B区3	遺構外	68	44	一括	縄文	前期末か	深鉢か	―・―・―	口縁部	横位の平行沈線で区画し，区画内に斜位の集合沈線。空白部を半肉彫り。	暗褐色	雲母	
B区3	遺構外	68	45	486	縄文	前期末か	深鉢	―・―・―	口縁部	口唇部：粘土紐。口縁部：横位の沈線。	黄褐色	雲母，白色砂礫	

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高 (cm) ( ) : 復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
B区3	遺構外	68	46	779	縄文	前期末か	深鉢	―・―・―	口縁部	口唇部：刻み。口縁部：欠:羽状沈線、下方に横位の沈線。	褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	68	47	59	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	口唇部：刻み。口縁部：横位の条痕文。	にぶい黄褐色	雲母、5mm以下の白色砂礫	
B区3	遺構外	68	48	59	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	横位の条痕文	暗褐色	雲母	
B区3	遺構外	69	49	687・694・896・898・899・917	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	羽状単節縄文。内面指頭圧痕。	暗赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	50	432・437・439・733	縄文	前期後半か	深鉢	―・―・―	胴部	横位の結節縄文。内面指頭圧痕。	赤褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	69	51	539	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	羽状無節縄文。内面指頭圧痕。	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	52	291	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	羽状無節縄文。内面指頭圧痕。	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	53	444	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節（反か）縄文。内面指頭圧痕。	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	54	633	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文。内面指頭圧痕。	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	55	644・914	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	羽状単節縄文。内面指頭圧痕。	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	56	818・859	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文。内面指頭圧痕。	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	57	875	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文。内面指頭圧痕。	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	58	641	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文。内面指頭圧痕。	赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	59	753	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	羽状単節縄文。内面指頭圧痕。	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	60	724	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	羽状単節縄文。内面指頭圧痕。	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	61	551・553	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文。内面指頭圧痕。	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	62	933	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節（反か）縄文。内面指頭圧痕。	赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	63	874	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	羽状単節縄文。内面指頭圧痕。	明赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	64	840・856	縄文	前期か	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文。内面磨き。	にぶい黄褐色	長石、白色砂礫	
B区3	遺構外	69	65	775	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文	暗褐色	雲母、白滑砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	66	959	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文	にぶい橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	69	67	740	縄文	前期後半か	深鉢	―・―・―	胴部	横位の結節縄文	褐色	白色砂礫	
B区3	遺構外	69	68	682	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	羽状単節縄文。内面指頭圧痕。	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	69	429	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	羽状無節縄文	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	69	70	65	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文。内面指頭圧痕。	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	70	71	465・467	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式か
B区3	遺構外	70	72	438	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文。横位の沈線。	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	70	73	788	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	70	74	352	縄文	前期中葉か	深鉢	―・―・―	胴部	羽状単節縄文。内面指頭圧痕。	褐色	白色砂礫	
B区3	遺構外	70	75	146・565	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	暗赤褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	70	76	797・799	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	にぶい橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	70	77	64	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	にぶい橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	70	78	994	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文。横位隆帯剥離か。	橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	70	79	774	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	70	80	939	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	付加縄文	明黄褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	70	81	625	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節と単節の羽状縄文	橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	70	82	184	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	明褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	70	83	508	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文	にぶい橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	70	84	877	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	付加縄文	にぶい褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	70	85	881・932	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節・単節縄文	にぶい黄褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	70	86	649	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	赤褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	70	87	562	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	格子状沈線。単節縄文。	にぶい黄褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	70	88	878	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文	にぶい橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	70	89	759	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文。横位の刺突列。	にぶい黄橙色	繊維	黒浜式

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高（cm）（ ）：復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
B区3	遺構外	70	90	861	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文	にぶい黄橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	71	91	66	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	にぶい黄橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	71	92	869	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	反の縄文か	にぶい黄褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	71	93	403	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	71	94	35	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	横位と斜位の沈線	暗褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	71	95	534	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	縦位と渦巻状の平行沈線	にぶい褐色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	71	96	540	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	渦巻状と波状の平行沈線	橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	71	97	1012	縄文	前期後半	（有孔）浅鉢	―・―・―	肩部	結節沈線による入組木葉文	赤褐色	雲母、白色砂礫	諸磯a式
B区3	遺構外	71	98	191	縄文	前期後半	（有孔）浅鉢か	―・―・―	肩部か	結節沈線による入組木葉文。穿孔（文様に重なる）。	赤褐色	雲母、白色砂礫	諸磯a式
B区3	遺構外	71	99	90・192	縄文	前期後半	（有孔）浅鉢か	―・―・―	胴部屈曲部	屈曲部から下方に単節縄文。	赤褐色	雲母、白色砂礫	諸磯b式
B区3	遺構外	71	100	577	縄文	前期後半	（有孔）浅鉢か	―・―・―	胴部屈曲部	屈曲部から下方に単節縄文。屈曲部に刻み。	赤褐色	雲母、白色砂礫	諸磯b式
B区3	遺構外	71	101	802	縄文	前期末か	深鉢	―・―・―	胴部	横位の平行沈線。	にぶい橙色	白色砂礫	
B区3	遺構外	71	102	363	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位の平行沈線。斜位の集合沈線（一部蛇行）。	暗褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	71	103	94・316	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	平行沈線で区画。区画に蛇行沈線・鋸歯状沈線。空白部を半肉彫り。	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	71	104	783	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	平行沈線。集合沈線。単節縄文。	明褐色	白色砂礫	
B区3	遺構外	71	105	1041	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	平行沈線で区画し、区画内に蛇行沈線。空白部を半肉彫り。	暗褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	71	106	963	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	斜位・横位・縦位の平行沈線。	褐色	白色砂礫	
B区3	遺構外	71	107	1001	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	平行沈線による区画。区画内に蛇行沈線。空白部を半肉彫り。	明褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	71	108	970	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	平行沈線による区画。区画内に格子状・縦位のソーメン状浮線文。	明褐色	長石、白色砂礫	
B区3	遺構外	71	109	658・659	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	平行沈線による区画。区画内に蛇行沈線。空白部を半肉彫り。	明褐色	雲母、長石、白色砂礫	
B区3	遺構外	71	110	164	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	平行沈線による区画。区画内に蛇行沈線。空白部を半肉彫り。	明褐色	長石、白色砂礫	
B区3	遺構外	71	111	846	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	斜位・縦位・横位の平行沈線。	にぶい褐色	長石、白色砂礫	
B区3	遺構外	71	112	852	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	平行沈線による区画。区画内に蛇行沈線。	暗褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	71	113	582	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	平行沈線による区画。区画内に蛇行沈線。空白部を半肉彫り。	暗褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	71	114	206	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	平行沈線で三角形モチーフ。蛇行沈線。	明褐色	白色砂礫	
B区3	遺構外	72	115	847	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	平行沈線による区画。区画内に蛇行沈線。	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	72	116	402	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	平行沈線による区画。区画内に蛇行沈線。空白部を半肉彫り。	明褐色	長石、白色砂礫	
B区3	遺構外	72	117	173	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	平行沈線で三角形モチーフ。蛇行沈線。空白部を半肉彫り。	明褐色	長石、白色砂礫	
B区3	遺構外	72	118	82	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位・鋸歯状平行沈線（鋸歯状の空白部を半肉彫り）。集合沈線。	橙色	長石、白色砂礫	
B区3	遺構外	72	119	586	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位の平行沈線。矢羽状の集合沈線。	橙色	白色砂礫	
B区3	遺構外	72	120	398	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位の平行沈線。矢羽状・縦位の集合沈線。	橙色	白色砂礫	

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高（cm）（ ）：復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
B区3	遺構外	72	121	667	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位・弧状の平行沈線．地文無節縄文．	褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	72	122	215	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	平行沈線による区画．区画内に隆切り沈線．空白部を半肉彫り．	暗褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	72	123	1029	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位・弧状平行沈線（弧状の空白部を半肉彫り）．隆切り沈線．	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	72	124	196	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	矢羽状の集合沈線．	褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	72	125	541	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	平行沈潜による区画．区画内に集合沈線．	橙色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	72	126	668	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位の結節浮線文．地文単節縄文．	にぶい黄褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	72	127	995	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位の結節浮線文．地文単節縄文．	にぶい黄橙色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	72	128	73	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位・弧状の結節浮線文．	にぶい黄橙色	白色砂礫	
B区3	遺構外	72	129	―結	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位の結節浮線文．地文単節縄文．	橙色	白色砂礫	
B区3	遺構外	72	130	991	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位の結節浮線文．地文単節縄文．	橙色	白色砂礫	
B区3	遺構外	72	131	288	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	半裁竹管状工具による連続刺突（結節沈線か）．	褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	72	132	399	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	押圧隆帯、地文単節縄文．	橙色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	72	133	90	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	押圧隆帯、地文単節縄文．	にぶい橙色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	72	134	49	縄文	中期中葉か	深鉢	―・―・―	胴部	横位と斜めに垂下する隆帯．垂下する隆帯の脇部に刺突．隆帯脇に沈線．	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	
B区3	遺構外	72	135	55	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	斜位の条痕文	暗褐色	白色砂礫	
B区3	遺構外	72	136	228	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	斜位の条痕文	にぶい黄橙色	白色砂礫	
B区3	遺構外	72	137	1055	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	斜位の条痕文	にぶい黄褐色	白色砂礫	
B区3	遺構外	72	138	1053	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	斜位の条痕文	暗褐色	白色砂礫	
B区3	遺構外	72	139	161	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・6.9	底部	無節縄文	明褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	72	140	679	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・(9.5)	底部	無節縄文、木葉痕．	明褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	72	141	85	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・(9.8)	底部	単節縄文、木葉痕．	明褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	73	142	496	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	底部		明褐色	白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	73	143	1029	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・(5.6)	底部	無節縄文	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	73	144	619	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・(8.0)	底部	単節縄文	褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	73	145	901	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	底部	単節縄文	暗褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	73	146	490	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	底部	単節縄文	明褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	73	147	598・895	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	底部	無節縄文	にぶい橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	73	148	901	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・(7.8)	底部	無節（反か）縄文．内面指頭圧痕．木葉痕．	赤褐色	雲母、白色砂礫	釈迦堂Z3式
B区3	遺構外	73	149	757	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	底部	単節縄文	橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	73	150	820	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・6.9	底部	単節縄文	橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	73	151	70	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	底部	底面を内側に窪ませ、磨く．	橙色	繊維	黒浜式
B区3	遺構外	73	152	542	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	底部	平行沈線による区画．区画内に集合沈線．	橙色	白色砂礫	
B区3	遺構外	73	153	982	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	底部	縦位の集合沈線	明赤褐色	白色砂礫	
B区3	遺構外	73	154	574	縄文	前期末	深鉢	―・―・(7.1)	底部	縦位と斜位の集合沈線．空白部を半肉彫り．	暗赤褐色	白色砂礫	
B区3	遺構外	73	155	585	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	底部	横位の平行沈線．斜位の集合沈線．	にぶい黄褐色	雲母、白色砂礫	
B区4	1住	74	1	1住P1・2他	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁～胴部	屈曲部に隆帯（下方は刻み目）．鎖状の隆帯が垂下し、下方の隆帯を境に斜めとなり、交互刺突（刻み目）が施される．	橙色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	1住	74	2	1住P16	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高 (cm) ( )：復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
B区4	1住	74	3	1住P36	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	上部が渦巻状の隆帯が垂下する（渦巻の直下に交互刺突）。縦位の押圧隆帯・綾杉上刺突隆帯。隆帯脇に沈線。	にぶい橙色	白色砂礫	井戸尻式
B区4	1住	74	4	1住P20・25	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	横位の綾杉状刺突隆帯。隆帯脇に平行沈線、さらに三角押文。	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式か
B区4	1住	74	5	1住P747、P445	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文斜位施文	赤褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	1住	74	6	1住P13	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	縦位の隆帯（綾杉状の刺突と刻み）。縦位の集合沈線。	褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	1住	74	7	1住P22	縄文	中期中葉	浅鉢	―・―・―	口縁部	口縁端部が内側に屈曲する。口縁部に隆帯で扁平な楕円文。楕円内部に三角押文。上面に三叉文。	褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式か
B区4	1住	74	8	1住P24	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	塔状把手	円形の透かしの周囲を三叉文で囲む。	暗褐色	白色砂礫	井戸尻式
B区4	2住	75	1	2住P757、P441	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文斜位施文	褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	2住	75	2	2住P10・747	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文斜位施文	褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	2住	75	3	2住P16・780	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文斜位施文	にぶい黄褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	2住	75	4	2住P1	縄文	中期中葉	有孔鍔付土器	―・―・―	口縁部	横位の隆帯に刻み。隆帯間に穿孔。	暗赤褐色	白色砂礫	井戸尻式
B区4	2住	75	5	2住P8	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・(14.1)	底部	立ち上がり部分で剥離。	赤褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式か
B区4	2住	75	6	2住一括	縄文	中期中葉	浅鉢	10.3・10.0・10.6	口縁～底部	口縁部：強く内側に屈曲。眼鏡状の突起。刻み目入りの隆帯と沈線で装飾したイノシシ状の突起（4単位か）。屈曲部に扁平な連鎖文と刻み目入り隆帯。内面底部：煤付着。	褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	2住	75	7	2住P778	縄文	中期中葉	土偶	―・―・―	脚部	足首上部で欠損。欠損部付近に横位沈線状の工具痕。	明褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式か
B区4	3住	76	1	3住一括	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	突起部片面に刻み。隆帯による渦巻文。横位沈線の間に交互刺突。	にぶい赤褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	3住	76	2	3住一括	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文斜位施文	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	3住	76	3	3住一括、ドウロ下ドキ1・4	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文斜位施文	明赤褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	3住	76	4	3住一括	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	端部が内側に突出する。	暗赤褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	3住	76	5	3住炭化材	縄文	中期中葉	有孔鍔付土器か	―・―・―	口縁部	横位の隆帯に刻み。	褐色	白色砂礫	井戸尻式
B区4	3住	76	6	3住一括	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	口縁部から隆帯が垂れる。	暗褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	3住	76	7	3住一括	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	くびれ部に横位の刻み隆帯。上方は縦位の隆帯（一部に刻み）と沈線。下方は撚糸文。	明赤褐色	白色砂礫	井戸尻式
B区4	3住	76	8	3住一括	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	縦位の平行沈線間に綾杉状刺突。横位の沈線間に縦位の平行（集合）沈線。	明褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	3住	76	9	3住炭化材	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	斜位の隆帯に断面V字状の刻み。	にぶい赤褐色	白色砂礫	井戸尻式
B区4	3住	76	10	3住一括	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	縦位の隆帯。隆帯の上下に刻み目を入れ、その間に縦位の平行沈線。沈線によるП・逆U状のモチーフ。	明褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	3住	76	11	3住一括	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴～底部	隆帯に刻み。下方の屈曲部まで撚糸文。	暗赤褐色	白色砂礫	井戸尻式
B区4	3住	76	12	3住一括・炭化材	縄文	中期中葉	浅鉢	(37.0)・―・―	口縁～胴部	無文。内外面磨き。	橙色	白色砂礫	井戸尻式
B区4	1土	77	1	1土一括	平安		須恵器壺	―・―・―	胴部	内外面ろくろなで	明オリーブ灰色	白色砂礫	
B区4	5土	77	1	5土P1	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	外面薄い条痕文。内面指頭圧痕。	にぶい黄橙色	雲母、白色砂礫	
B区4	8土	77	1	8土p24	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	口唇部に刻み。条痕文。	暗褐色	雲母、白色砂礫	
B区4	9土	77	1	9土P110・117・120・151・178～180・182	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁～胴部	口唇部刻み。条痕文。内面横なで。	明褐色	雲母、白色砂礫	

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高（cm）（ ）：復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
BⅠ4	9土	77	2	9土P98・121	弥生	前期	壺・甕	―・―・―	胴部	斜位の条痕文。上部に縦位の条痕文。	明褐色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	9土	77	3	9土P325	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	条痕文	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	9土	77	4	9土P306	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	口唇部刻み。条痕文。	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	9土	77	5	9土P106	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	横位の波状沈線、条痕文。	明黄褐色	白色砂礫	
BⅠ4	9土	77	6	9土P41	弥生	前期	壺	―・―・―	口縁部	横位隆帯に刻み。横位の断続する沈線。	にぶい黄褐色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	9土	77	7	9土P278	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	条痕文	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	9土	77	8	9土P287	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部（底部付近）	条痕文か	褐色	雲母、白色砂礫	表面不鮮明
BⅠ4	9土	77	9	9土P50	弥生	前期	壺	―・―・―	頸部	横位の矢羽状沈線。横位の沈線間を縦位の沈潜で埋める。	暗褐色	白色砂礫	
BⅠ4	9土	78	10	9土P54・57・88・101・102・104・150・155他	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	縦位の矢羽状条痕	黄褐色	白色砂礫	
BⅠ4	9土	78	11	9土P75・94・95・123・153他	弥生か	前期	甕	―・―・―	胴部	横位・斜位の条痕文	黄褐色	白色砂礫	
BⅠ4	9土	78	12	9土P332	弥生か			―・―・（7.8）	底部	横位・斜位の条痕文	赤褐色	白色砂礫	
BⅠ4	9土	78	13	9土P13	弥生	前期	壺・甕	―・―・（7.8）	底部	底面網代痕	にぶい黄褐色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	9土	78	14	9土P18	弥生	前期	壺・甕	―・―・―	底部	底面網代痕	にぶい黄褐色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	9土	78	15	9土P185	弥生	前期	壺・甕	―・―・―	底部	底面網代痕	黄褐色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	10土	78	1	10土P6	弥生か			―・―・―	胴部	条痕文	褐色	白色砂礫	
BⅠ4	10土	78	2	10土P4	平安		皿	―・―・―	底部	底面糸切り痕	橙色	白色砂礫、赤色粒子	
BⅠ4	14土	78	1	14土P156	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	暗褐色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	15土	78	1	15土P223	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	口唇部に刻み	褐色	白色砂礫	
BⅠ4	15土	78	2	15土P224	弥生	前期	壺・甕	―・―・―	胴部	円形突起上および周辺に三重の円形沈線。斜位の沈線。	褐色	白色砂礫	
BⅠ4	17土	78	1	17土P131・134・163・164	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	口唇部に刻み。横位の条痕文。	褐色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	17土	78	2	17土P7・27・28・107	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	外面ヘラなで。内面なで。口唇部小突起か。	極暗褐色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	17土	78	3	17土P46	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	条痕文	暗褐色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	17土	78	4	17土P24・73・105	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	押圧隆帯、条痕文。	暗赤褐色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	17土	78	5	17土P97・126	弥生	前期	壺	―・―・―	口縁部	隆帯に刻み	にぶい黄褐色	白色砂礫	
BⅠ4	17土	79	6	17土P3・58・89・95・109・127・129・157他	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	横位の条痕文	明褐色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	17土	79	7	17土P36・100・106・117	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	上方：横位の沈線。下方：縦位の綾杉状沈線（下向きで二重）。縦位の綾杉状条痕文。	暗褐色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	17土	79	8	17土P165・167	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	横位の条痕文	褐色	白色砂礫	
BⅠ4	17土	79	9	17土P67・136	弥生	前期	壺・甕	―・―・―	胴部	横位の沈線間に横位の綾杉状沈線。	にぶい黄褐色	白色砂礫	
BⅠ4	17土	79	10	17土P119	弥生	前期	壺	―・―・―	胴部	横位の沈線間を縦位の沈潜で埋める。	橙色	白色砂礫	
BⅠ4	17土	79	11	17土P132	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	横位と縦位の序痕文。	橙色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	17土	79	12	17土P118	弥生	前期	壺・甕	―・―・（7.6）	底部	外面ヘラなでか。底面網代痕。	にぶい黄色	白色砂礫	
BⅠ4	17土	79	13	17土P77・104	弥生	前期	壺・甕	―・―・（7.8）	底部	外面条痕文。底面網代痕。	明褐色	白色砂礫	
BⅠ4	18土	79	1	18土P17	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	口縁端部に横位の沈線。縦位の綾杉状条痕文。	明褐色	白色砂礫	
BⅠ4	18土	79	2	18土P14	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	口縁端部に横位の押圧隆帯。条痕文。	暗褐色	雲母、白色砂礫	
BⅠ4	18土	79	3	18土P20	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	口唇部に刻み。	褐色	白色砂礫	
BⅠ4	18土	79	4	18土P9	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	条痕文	暗褐色	白色砂礫	
BⅠ4	18土	80	5	18土P32・33	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	明褐色	雲母、白色砂礫	

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高（cm）（ ）：復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
B区4	18土	80	6	18土P5	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	暗褐色	雲母、白色砂礫	
B区4	18土	80	7	18土P3	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	明褐色	雲母、白色砂礫	
B区4	18土	80	8	18土P8	弥生	前期	壺・甕	―・―・―	胴部	横位・斜位の沈線。	明褐色	白色砂礫	
B区4	19土	80	1	19土P8	縄文	前期か	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	橙色	白色砂礫	
B区4	20土	80	1	20土P27	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	小突起から隆帯が垂下、縦位の隆帯に刻み。弧状（楕円もしくは渦巻か）の隆帯脇に爪形文。	明褐色	白色砂礫	井戸尻式
B区4	20土	80	2	20土P1・10・12・44	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	口縁下部に横位の沈線。	黄褐色	白色砂礫	井戸尻式
B区4	20土	80	3	20土P5・45・443・781他	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	縦位の隆帯に綾杉状・交互刺突。縦位の沈線間に数条おきに刻み。沈帯で渦巻文。	明褐色	白色砂礫	井戸尻式
B区4	21土	80	1	21土P	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	縦位の隆帯に刻み。	明褐色	白色砂礫	井戸尻式
B区4	1焼土	80	1	1焼P3	縄文	中期中葉か	深鉢	―・―・―	口縁部	無文（縦方向のヘラなで。）	明褐色	雲母、白色砂礫	
B区4	1焼土	80	2	1焼P2	縄文	中期中葉か	深鉢	―・―・―	胴部	無文（横方向のヘラなで。）	橙色	雲母、白色砂礫	
B区4	1溝	81	1	1ミゾP4	弥生か			―・―・―		外面磨き	灰黄色	白色砂礫	
B区4	1溝	81	2	1ミゾP2	弥生か			―・―・―		外面ヘラなで	黒褐色	雲母	
B区4	2溝	81	1	2ミゾP1	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	にぶい橙色	雲母	
B区4	5溝	81	1	5ミゾP129	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	条痕文	暗褐色	白色砂礫	
B区4	5溝	81	2	5ミゾP130	中世か		すり皿	―・―・―		すり面に櫛歯。	にぶい黄褐色		
B区4	6溝	81	1	6ミゾP207	縄文	中期か	深鉢	―・―・―	胴部	横位と縦位の沈線。	にぶい橙色	雲母、白色砂礫	
B区4	6溝	81	2	6ミゾP2	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	にぶい黄褐色	雲母	
B区4	6溝	81	3	6ミゾP126	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	にぶい橙色	雲母、白色砂礫	
B区4	6溝	81	4	6ミゾP216	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	橙色	雲母、白色砂礫	
B区4	6溝	81	5	6ミゾP122	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	褐色	雲母、白色砂礫	
B区4	6溝	81	6	6ミゾP4	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	にぶい黄褐色	雲母、白色砂礫	
B区4	6溝	81	7	6ミゾP124	平安		須恵器甕	―・―・―	胴部	外面たたき目	灰色		
B区4	7溝	81	1	7ミゾ	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	押圧隆帯、条痕文。	にぶい橙色	白色砂礫	
B区4	7溝	81	2	7ミゾP210	縄文		深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	灰褐色	雲母	
B区4	7溝	81	3	7ミゾP171	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	褐色	雲母、白色砂礫	
B区4	7溝	81	4	7ミゾP191・222	縄文	前期後半か	深鉢	―・―・―	胴部	横位と弧状の沈線。地文単節縄文。	橙色	白色砂礫	
B区4	10溝	81	1	10ミゾP163	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	灰褐色	雲母、白色砂礫	
B区4	10溝	81	2	10ミゾP162	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	橙色	雲母、白色砂礫	
B区4	10溝	81	3	10ミゾP176	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	にぶい橙色	白色砂礫	
B区4	11溝	81	1	11ミゾP214	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	にぶい橙色	白色砂礫	
B区4	11溝	81	2	11ミゾP233	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	にぶい橙色	雲母、白色砂礫	
B区4	11溝	81	3	11ミゾP213	平安		須恵器甕	―・―・―	胴部	外面たたき目	灰白色		
B区4	遺構外	81	1	ﾄﾞｶｸ下一括	縄文	中期中葉	深鉢	(19.0)・―・―	口縁～胴部	口縁部：渦巻状の突起。眼鏡上突起。縦位の隆帯がくびれ部の横位刻み目隆帯に繋がる。胴部：垂下する隆帯に綾杉状刺突。縦位の沈線に交互の刻み目（胴部全面）。	褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	遺構外	81	2	ﾄﾞｶｸ下周辺ﾄﾞｷ4	縄文	中期中葉	深鉢	(11.8)・―・―	口縁～胴部	口縁部に横位沈線。胴部単節縄文斜位施文。	橙色	白色砂礫	井戸尻式
B区4	遺構外	82	3	ﾄﾞｶｸ下周辺ﾄﾞｷ1	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	縦位隆帯に綾杉状刺突。横位隆帯に刻み。屈曲部下方に単節縄文。	にぶい褐色	雲母	井戸尻式
B区4	遺構外	82	4	ﾄﾞｶｸ下周辺ﾄﾞｷ1	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	口縁部突起。隆帯で装飾。突起裏側に二又文。	にぶい赤褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	遺構外	82	5	ﾄﾞｶｸ下周辺ﾄﾞｷ1	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・(12.0)	底部		橙色	雲母	井戸尻式

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高（cm）（ ）：復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
B区４	遺構外	82	6	ﾄﾞｸﾛ下周辺ﾄﾞｸ4	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・（8.2）	底部		明褐色	白色砂礫	井戸尻式
B区４	遺構外	82	7	ﾄﾞｸﾛ下ﾄﾞｸ3	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	眼鏡状突起。隆帯に刻み・綾杉状刺突。縦位の螺旋状隆帯。縦位の沈線。三叉文。	橙色	白色砂礫	井戸尻式
B区４	遺構外	82	8	ﾄﾞｸﾛ下一括	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	縦位の沈線が並列して垂る。リング状の隆帯。	暗赤褐色	雲母	井戸尻式
B区４	遺構外	82	9	ﾄﾞｸﾛ下一括	縄文	中期中葉	浅鉢か	―・―・―	口縁部	横位の隆帯に刻み。	にぶい橙色	白色砂礫	井戸尻式
B区４	遺構外	82	10	ﾄﾞｸﾛ下一括	縄文	中期中葉か	深鉢	―・―・―	口縁部	外面斜め方向のなで。	黄橙色	雲母、白色砂礫	
B区４	遺構外	82	11	ﾄﾞｸﾛ下一括	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	横位隆帯に交互刺突。下方単節縄文。	橙色	白色砂礫	井戸尻式
B区４	遺構外	82	12	ﾄﾞｸﾛ下一括	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	隆帯に刻み。弧状の沈線。	にぶい赤褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区４	遺構外	82	13	P122	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁～胴部	条痕文	にぶい黄色	白色砂礫	
B区４	遺構外	83	14	ﾄﾞｸﾛ下一括	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	隆帯に刻み。角押文。	暗褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区４	遺構外	83	15	ﾄﾞｸﾛ下一括	縄文	前期か	深鉢	―・―・―	胴部	結束縄文	暗褐色	雲母、白色砂礫	
B区４	遺構外	83	16	P663	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	口縁部	棒状工具による幅広の刺突が垂る。	赤褐色	雲母、白色砂礫	
B区４	遺構外	83	17	P743	縄文	中期中葉か	深鉢	―・―・―	口縁部	外面横方向のなで。	橙色	雲母、白色砂礫	
B区４	遺構外	83	18	P137・349・718・736・AI91P2	縄文	前期後半か	深鉢	―・―・―	口縁～胴部	口縁端部が内側に屈曲する。横位の条線。くびれ部に円形竹管文が垂る。	褐色	雲母、白色砂礫	諸磯a式か
B区４	遺構外	83	19	一括	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・9.6	胴から底部	上方くびれ部に横位の隆帯（交互刺突）。J字状隆帯（刻み）・鎖状隆帯が垂下。区画内に連続刺突文・斜位の集合沈線。沈線による人体文モチーフ。	褐色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区４	遺構外	83	20	P607・665・666・682・866	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	口縁～胴部	口縁部：棒状工具による幅広の刺突が垂る。胴部：斜位に交わる（横位欠羽状）沈線。	橙色	雲母、白色砂礫	
B区４	遺構外	83	21	P739	縄文	中期中葉	深鉢	（19.0）・―・―	口縁部	円形の突起に沈線で渦巻文・三叉文。	橙色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区４	遺構外	83	22	P660	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	口縁部	棒状工具による幅広の刺突が垂る。	橙色	雲母、白色砂礫	
B区４	遺構外	84	23	P520	縄文	前期中葉か	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	橙色	雲母、白色砂礫	
B区４	遺構外	84	24	P206	縄文	中期中葉	浅鉢	―・―・―	口縁部	口縁部に交互刺突。	にぶい橙色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区４	遺構外	84	25	P370	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	口縁下部に横位の沈線。	褐色	雲母、白色砂礫	
B区４	遺構外	84	26	P720	縄文	中期中葉か	深鉢	―・―・―	口縁部	単節縄文	にぶい橙色	雲母、白色砂礫	
B区４	遺構外	84	27	P204	弥生	前期か	甕	―・―・―	口縁部	口唇部に刻み。条痕文。	褐色	雲母、白色砂礫	
B区４	遺構外	84	28	P374	縄文	前期末か	深鉢	―・―・―	口縁部	口唇部に刻み。横位の平行沈線で区画し、区画内に斜位の沈線。地文単節縄文。	褐色	雲母、白色砂礫	
B区４	遺構外	84	29	P401・453	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	内側に屈曲する部分で矢羽。横位の沈線。沈線から下方に単節縄文。	橙色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区４	遺構外	84	30	P437	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	横位と弧状の沈線。	褐色	白色砂礫	井戸尻式
B区４	遺構外	84	31	P115	弥生	前期	甕	―・―・―	口縁部	横位の条痕文。	褐色	雲母、白色砂礫	
B区４	遺構外	84	32	P697	縄文	前期末か	深鉢	―・―・―	口縁部	口唇部に刻み。横位の平行沈線と斜位の沈線。地文単節縄文。	褐色	雲母、白色砂礫	
B区４	遺構外	84	33	P147	縄文	中期中葉か	深鉢	―・―・―	口縁部	2条の横位沈線、沈線下に単節縄文。	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	
B区４	遺構外	84	34	P574	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	突起部分、口縁下部に弧状（U字状か）の隆帯（刻み）。	橙色	白色砂礫	井戸尻式
B区４	遺構外	84	35	P421	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	隆帯によるヘビ状モチーフ。	灰黄色	白色砂礫	井戸尻式
B区４	遺構外	84	36	P272	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	口縁部	波状口縁波頂部、端部に結節沈線。裏側に結節浮線文。波頂部にボタン状の貼付文（周囲に刻み）。	褐色	雲母	

地区	遺構	図版番号	遺物番号	注記番号	時代	時期	器種	口径・底径・器高（cm）（ ）：復元値	部位・形態	整形・施文技法	色調	胎土	備考
B区4	遺構外	84	37	P711	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	口縁部	口唇部に耳状突起。屈曲部下方に押圧隆帯。	橙色	白色砂礫	
B区4	遺構外	84	38	P559・735	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	把手部分。把手上に小突起（刻み）。沈線。三叉文。	にぶい黄橙色	白色砂礫	井戸尻式
B区4	遺構外	84	39	P125	弥生	前期	甕	―・―・5.9	胴～底部	外面条痕文。底面網代痕。	褐色	雲母、白色砂礫	
B区4	遺構外	85	40	P287	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	底部	横位のの結節浮線文。地文単節縄文。	橙色	白色砂礫	
B区4	遺構外	85	41	P705	縄文	前期中葉か	深鉢	―・―・―	底部	単節縄文	にぶい黄褐色	雲母、白色砂礫	
B区4	遺構外	85	42	P547・548	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文	橙色	繊維、3mm以下の砂礫	黒浜式
B区4	遺構外	85	43	P344	縄文	前期末か	深鉢	―・―・―	胴部	横位の結節沈線文。単節縄文。	褐色	雲母	
B区4	遺構外	85	44	P685	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	弧状の隆帯に刻み（一部綾杉状）。隆帯脇と区画内に沈線。	暗褐色	雲母	井戸尻式
B区4	遺構外	85	45	P373	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	沈線による方形区画か。破断部近辺に弧状の沈線。	にぶい褐色	白色砂礫	井戸尻式
B区4	遺構外	85	46	P742	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	斜位・弧状の筒切り平行沈線でモチーフを描く。空白部を半肉彫り。	橙色	白色砂礫	
B区4	遺構外	85	47	P742	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	無節縄文	橙色	繊維	黒浜式
B区4	遺構外	85	48	P496・657	縄文	前期後半	深鉢	―・―・―	胴部	縦位・横位・弧状の浮線文。浮線文に斜めの刻み。地文単節縄文。	にぶい橙色	白色砂礫	諸磯b式
B区4	遺構外	85	49	P710	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位の結節浮線文。	褐色	雲母、白色砂礫	
B区4	遺構外	85	50	P528	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位の隆帯。斜位の浮線文。単節縄文。	暗褐色	白色砂礫	
B区4	遺構外	85	51	P715	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	矢羽状集合沈線。集合沈線間に幅広の沈線。空白部を半肉彫り。	褐色	雲母、白色砂礫	
B区4	遺構外	85	52	P505	縄文	中期後半	壺	―・―・―	胴部	くびれ部に横位の沈線。沈線による三角形区画。磨消状沈線。区画内に懸垂文。	褐色	雲母、白色砂礫	曾利IV式か
B区4	遺構外	85	53	P580	縄文	前期中葉か	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	褐色	雲母、白色砂礫	
B区4	遺構外	85	54	P328	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位の結節浮線文。	暗褐色	白色砂礫	
B区4	遺構外	85	55	P340	縄文	前期末か	深鉢	―・―・―	胴部	斜位の平行沈線。単節縄文。	にぶい褐色	雲母	
B区4	遺構外	85	56	P19	縄文	前期か	深鉢	―・―・―	胴部	格子状の沈線。	暗褐色	雲母	
B区4	遺構外	85	57	P420	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	渦巻状隆帯。縦位の隆帯（刻み）。	灰黄色	白色砂礫	井戸尻式
B区4	遺構外	85	58	P585	縄文	前期中葉	深鉢	―・―・―	胴部	単節縄文	暗褐色	繊維	黒浜式
B区4	遺構外	85	59	P653	縄文	前期末	深鉢	―・―・―	胴部	横位の結節浮線文。単節縄文。	にぶい褐色	雲母、白色砂礫	
B区4	遺構外	85	60	P658	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	にぶい橙色	雲母	
B区4	遺構外	86	61	AJ-94一括	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	横なで	明黄橙色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	遺構外	86	62	AH-93一括	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁部	口縁下部に横位の沈線。沈線下から単節縄文。	橙色	雲母、白色砂礫	井戸尻式
B区4	遺構外	86	63	AH-93一括	縄文	中期中葉か	深鉢	―・―・―	口縁部	横位の隆帯（突起か）。	橙色	白色砂礫	
B区4	遺構外	86	64	表土剥ぎ一括	弥生	前期	甕	―・―・―	胴部	条痕文	にぶい橙色	雲母、白色砂礫	
B区4	遺構外	86	65	試掘B-10T	縄文	前期後半	有孔浅鉢	―・―・―	口縁～胴部	口縁部に１～2cm間隔で径3mmの穿孔が廻る。内外面横方向の磨き。	橙色	雲母	諸磯b式
B区4	遺構外	86	66	AH-93一括	縄文	中期中葉か	深鉢	―・―・―	胴部	横位の隆帯。縦位の集合沈線。	橙色	雲母	
B区4	遺構外	86	67	試掘B-10T	縄文	前期後半	有孔浅鉢	―・―・―	口縁部	口縁部に径4mmの穿孔。弧状の沈線（入組木葉文か）。一部の沈線幅に細かい刻み。	明褐色	白色砂礫	諸磯b式
B区4	遺構外	86	68	一括	縄文	中期中葉	深鉢	―・―・―	口縁～胴部	くびれ部に横位の隆帯（綾杉状刺突）。胴部に沈線による人体文モチーフ。	橙色	雲母、白色砂礫	井戸尻式

第５表　美通遺跡Ｂ区石器・石製品観察表

器種	図版番号	遺物番号	地区	遺構	時代	時期	遺物No.	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	所見
石鏃	87	1	Ｂ区２	２号住居跡	縄文	前期	SE19	黒曜石	20.5	12.6	3	0.6	
石鏃	87	2	Ｂ区２	２号住居跡	縄文	前期	SE22	黒曜石	17.9	14.8	3.6	0.6	
石鏃	87	3	Ｂ区２	２号住居跡	縄文	前期	SE29	チャート	20.2	14.9	3.5	0.8	
石鏃	87	4	Ｂ区２	２号住居跡	縄文	前期	SE32	チャート	15.5	11.2	2.8	0.4	
石鏃	87	5	Ｂ区２	４号住居跡 ガ¹	縄文	中期後半	SE１	黒曜石	24.8	16.6	5.2	1.6	
石鏃	87	6	Ｂ区２	F-30グリッド	縄文		SE22	黒曜石	27.4	20	3.5	1.1	
石鏃	87	7	Ｂ区２	G-26グリッド	縄文		SE15	凝灰岩	16.4	14.9	3.8	0.5	
石鏃	87	8	Ｂ区３	焼土	縄文	前期後半	29	黒曜石	17.7	14.5	3.9	0.6	
石鏃	87	9	Ｂ区３	全体	縄文		67	チャート	22.9	15.2	5	1.2	
石鏃	87	10	Ｂ区３	全体	縄文		123	黒曜石	15.4	11	3.7	0.4	
石鏃	87	11	Ｂ区３	全体	縄文		126	黒曜石	13.1	10.2	2.2	0.3	
石鏃	87	12	Ｂ区３	全体	縄文		339	黒曜石	17.6	13.7	3.8	0.7	
石鏃	87	13	Ｂ区３	全体	縄文		816	黒曜石	12.6	13.1	2.7	0.3	
石鏃	87	14	Ｂ区３	全体	縄文		824	黒曜石	13.6	11.7	3.9	0.4	
石鏃	87	15	Ｂ区４	３号住居跡	縄文	中期中葉	一括	黒曜石	12.3	10.6	1.7	0.2	
石鏃	87	16	Ｂ区４	17号土坑	弥生	前期	S7	頁岩	24.5	14.5	3.6	0.7	
石鏃	87	17	Ｂ区４	全体	縄文		S42	凝灰岩	25.4	21.5	3.6	1.2	
石鏃	88	18	Ｂ区４	全体	縄文		S88	凝灰岩	40.6	23.9	9.3	8.3	
石鏃	88	19	Ｂ区４	全体	縄文		S102	黒曜石	14.7	15.4	4.1	0.6	
石鏃	88	20	Ｂ区４	全体	縄文		S202	黒曜石	15.2	16.9	3.6	0.8	
石匙	88	21	Ｂ区２	２号住居跡	縄文	前期	SE８	凝灰岩	46.2	78	13.8	33.7	横長剥片を素材とし、素材打面側に山形状に加工している。摘み部を作出していると思われるので、石匙と思われる。
石匙	88	22	Ｂ区２	全体	縄文		SE１	黒曜石	17.9	38.2	8.5	3.8	
石匙	88	23	Ｂ区４	２号住居跡	縄文	中期中葉	S207	凝灰岩	82.7	96.7	19.0	137.1	
石匙	88	24	Ｂ区４	３号住居跡	縄文	中期中葉	一括	砂岩	112.3	45.0	12.4	70.5	右辺刃部に摩滅みられる。
削器	89	25	Ｂ区１	１号住居跡	縄文	中期後半	SE12	凝灰岩	68.3	37.4	21.6	53.4	
削器	89	26	Ｂ区３	全体	縄文		144	安山岩	57.2	116	18.4	153.1	横長剥片素材
削器	89	27	Ｂ区３	全体	縄文		一括	チャート	51.7	25.1	13.4	15.4	縦長剥片素材
削器	89	28	Ｂ区４	２号住居跡	縄文時代	中期中葉	S18	凝灰岩	85.1	55.7	29.4	166.4	
打製石斧	89	29	Ｂ区１	１号住居跡	縄文	中期後半	SE14	ホルンフェルス	73.1	44.6	13.4	49.3	刃部欠損
打製石斧	89	30	Ｂ区２	F-30グリッド	縄文		SE2	ホルンフェルス	126.4	66.8	13.3	128.8	
打製石斧	90	31	Ｂ区２	F-30グリッド	縄文		SE4	ホルンフェルス	74	45.6	27.6	63.7	刃部欠損
打製石斧	90	32	Ｂ区２	F-30グリッド	縄文		SE18	ホルンフェルス	134	57	15	120.4	土掘痕
打製石斧	90	33	Ｂ区２	F-31グリッド	縄文		SE2	ホルンフェルス	164	41.4	19	86.0	刃部欠損
打製石斧	90	34	Ｂ区２	F-31グリッド	縄文		SE4	ホルンフェルス	110.3	45.4	14.7	82.4	土掘痕

器種	図版番号	遺物番号	地区	遺構	時代	時期	遺物No	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	所見
打製石斧	90	35	B区2	F-31グリッド	縄文		SE5	ホルンフェルス	196	76.5	14.7	219.0	土掘痕？
打製石斧	91	36	B区3	1号集石	縄文	前期末	70	ホルンフェルス	107.8	53.1	14.4	70.0	
打製石斧	91	37	B区3	B-7トレンチ	縄文		一括	ホルンフェルス	118	50.9	17.8	114.9	
打製石斧	91	38	B区3	全体	縄文		233	ホルンフェルス	123.4	60.2	18.8	175.1	土掘痕
打製石斧	91	39	B区4	1号住居跡	縄文	中期中葉	S3	粘板岩	127.9	45.9	15.8	108.1	
打製石斧	91	40	B区4	2号集石	縄文	中期中葉	S5	フォルンフェルス	122.4	51.1	17.3	117.0	
打製石斧	91	41	B区4	3号住居跡	縄文	中期中葉	一括	フォルンフェルス	89.8	46.9	12.8	57.0	
打製石斧	92	42	B区4	9号土坑	弥生	前期	S11	フォルンフェルス？	84.3	83.4	31.9	289.8	
打製石斧	92	43	B区4	9号土坑	弥生	前期	S12	フォルンフェルス	82.5	95.4	22.5	214.4	
打製石斧	92	44	B区4	9号土坑	弥生	前期	S15	フォルンフェルス	146.1	71.5	15.7	260.7	
打製石斧	92	45	B区4	9号土坑	弥生	前期	S41	フォルンフェルス	104.8	74.5	31.9	277.3	
打製石斧	93	46	B区4	18号土坑	弥生	前期	S19	フォルンフェルス	127.3	100.9	35.8	486.5	
打製石斧	93	47	B区4	7号溝	不明		S19	フォルンフェルス	71.8	71.7	23.6	172.7	
打製石斧	93	48	B区4	AJ94グリッド	縄文		一括	フォルンフェルス	75.3	54.8	21.0	117.0	
打製石斧	93	49	B区4	P395周辺	縄文		S1	フォルンフェルス	137.9	60.5	23.2	189.1	
打製石斧	93	50	B区4	P395周辺	縄文		S3	フォルンフェルス	110.4	59.7	17.9	111.3	
打製石斧	94	51	B区4	P395周辺	縄文		S8	粘板岩	54.9	28.2	8.6	13.3	
打製石斧	94	52	B区4	全体	縄文		S127	砂岩	62.9	43.3	14.8	38.1	
打製石斧	94	53	B区4	表採	縄文			フォルンフェルス	66.6	69.2	19.5	126.1	
礫器	94	54	B区4	3号住居跡	縄文		一括	頁岩	93.3	73.7	41.7	320.2	
礫器	95	55	B区4	17号土坑	弥生	前期	S21	頁岩	85.3	96.7	39.4	341.6	
磨製石斧未製品?	95	56	B区4	2号住居跡	縄文	中期中葉	S22	凝灰岩	65.4	21.3	14.0	25.5	
磨製石斧未製品?	95	57	B区4	2号住居跡	縄文	中期中葉	S206	凝灰岩	130.1	55.7	33.2	361.9	右側面に研磨痕
石きり	96	58	B区4	9号土坑	弥生か			黒曜石	27.5	9.5	8.8	2.1	錐部に摩滅
石スイ	96	59	B区4	15号土坑	不明		S1	砂岩	87.7	62.8	24.4	209.0	
石錐？	96	60	B区4	3号住居跡	縄文		一括	凝灰岩	71.1	50.3	19.3	94.8	裏面に研磨痕？
異形石器	96	61	B区3	全体	縄文		112	黒曜石	20.4	20.2	3.4	0.8	
敲石	96	62	B区4	1号住居跡	縄文	中期中葉	S2	礫岩	106.2	76.0	40.8	447.7	
棒磨石	96	63	B区4	3号住居跡	縄文	中期中葉	一括	礫岩	106.6	60.0	61.5	415.5	
くぼみ石+磨石	96	64	B区4	1382グリッド	縄文時代		S80	砂岩	88.8	80.5	43.0	405.1	
磨石	97	65	B区3	5号集石	縄文	前期中葉	S2	凝灰岩	105.0	87.0	51.0	824.0	
磨石	97	66	B区3	5号集石	縄文	前期中葉	S5	安山岩	165.0	81.0	46.0	1329.0	
磨石	97	67	B区3	焼土遺構	縄文	前期後半	S1	凝灰岩	115.0	75.0	48.0	523.0	
磨石	97	68	B区3	1号住居跡	縄文	前期末	S4	安山岩	126.0	74.0	49.0	782.0	
磨石	97	69	B区3	全体	縄文		S3	凝灰岩	68.0	83.0	35.0	383.0	
棒磨石	98	70	B区2	2号住居跡	縄文	前期	S6	安山岩	148.0	71.0	57.0	1011.0	

器種	図版番号	遺物番号	地区	遺構	時代	時期	遺物No.	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	所見
棒磨石	98	71	B区3	全体	縄文		S7	凝灰岩	158.0	72.0	64.0	1064.0	
台石	99	72	B区3	13号土坑	縄文	前期末	S9	石英閃緑岩	290.0	327.0	100.0	15kg	
台石	99	73	B区4		縄文		S10	石英閃緑岩	472.0	346.0	77.0	20kg	
石柱	100	74	B区2	4号住居跡	縄文	中期後半	S8	石英閃緑岩	267.0	160.0	125.0	8.1kg	

第４章　自然化学分析

第１節　美通遺跡（B区1･B区2）の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

美通遺跡（山梨県都留市井倉地内）は、桂川右岸の河岸段丘面に立地し、桂川の支流である朝日川と管野川に挟まれた地点に立地する。本遺跡の発掘調査の結果、縄文時代および弥生時代の遺構・遺物を中心として、平安時代以降の遺構などが確認されている。

本報告では、B区1、B区2より検出された縄文時代の竪穴住居跡および集石土坑の年代、これらの遺構から出土した住居構築材や燃料材とみられる炭化材の樹種の検討を目的として、自然科学分析調査を実施した。

Ⅰ．放射性炭素年代測定

1.試料

試料は、縄文時代中期後半（曽利Ⅳ式期）の敷石住居であるB区1_1号住居跡 埋甕炉覆土より採取された炭化物混じり土壌（試料№1）、縄文時代前期～中期と推定されるB区2_2号集石土坑の土坑壁面より採取された炭化物混じり土壌（炭化物①;試料№2）、5号集石土坑の集石と土坑底部の間の堆積土（黒褐色土）中より採取された炭化材（CA1;試料№3）の3点である。このうち、B区1_1号住居跡の埋甕炉とB区2_2号集石土坑の炭化物混じり土壌は、それぞれ水洗選別を実施し、炭化材（炭化物）の抽出を行っている。

測定試料は、B区1_1号住居跡 埋甕炉（試料№1）が1cm角未満の炭化材片、B区2_2号集石土坑 炭化物①（試料№2）が炭化材の微細片、B区2_5号集石土坑 CA1（試料№3）が1cm角程度の炭化材片である。

2.分析方法

試料は、超音波煮沸洗浄と酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N）により、不純物を取り除いた後、グラファイトを合成し、測定用試料とする。測定機器は、NEC製コンパクトAMS・1.5SDHを用いる。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い（14Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正結果は、測定誤差σ、2σ（σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲）双方の値を示す。表中の相対比（確率分布）とは、σ、2σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

3.結果および考察

各遺構から出土した炭化材の同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）は、B区1_1号住居跡 埋甕炉（試料№1）の炭化材が4,205±20yrBP、B区2_2号集石土坑 炭化材①（試料№2）が5,080±25yrBP、B区2_5号集石土坑 CA1（試料№3）が6,475±25yrBPである。これらの補正年代に基づく暦年較正結果（σ）は、B区1_1号住居跡 埋甕炉の炭化材（試料№1）がcalBC2,887-calBC2,763、B区2_2号集石土坑 炭化材①（試料№2）がcalBC3,949-calBC3,806、B区2_5号集石土坑 CA1（試料№3）がcalBC5,480-calBC5,384である（表1）。

小林（2008）は、東日本の各地から出土した多数の縄文土器の付着物の放射性炭素年代測定結果を集成し、

表１．放射性炭素年代測定結果および暦年較正結果

試料名	補正年代 (yrBP)	δ13C(‰)	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)		暦年較正年代（cal）	相対比	測定機関 Code No.
試料№1 B区1_1号住居跡 埋甕炉内 炭化材(クリ)	4,205± 20	-23.37±0.12	4,207± 20	σ	cal BC 2,887 - cal BC 2,867 cal BC 2,804 - cal BC 2,776 cal BC 2,769 - cal BC 2,763	0.431 0.493 0.077	PLD-16869
				2σ	cal BC 2,891 - cal BC 2,859 cal BC 2,809 - cal BC 2,753 cal BC 2,721 - cal BC 2,702	0.370 0.541 0.088	
試料№2 B区2_2号集石土坑 炭化材① 炭化材(-)	5,080± 25	-25.26±0.15	5,080± 24	σ	cal BC 3,949 - cal BC 3,933 cal BC 3,875 - cal BC 3,806	0.176 0.824	PLD-16870
				2σ	cal BC 3,957 - cal BC 3,895 cal BC 3,881 - cal BC 3,800	0.349 0.651	
試料№3 B区2_5号集石土坑 CA1 炭化材(ケンポナシ属)	6,475± 25	-23.87±0.14	6,477± 23	σ	cal BC 5,480 - cal BC 5,466 cal BC 5,438 - cal BC 5,424 cal BC 5,405 - cal BC 5,384	0.399 0.178 0.423	PLD-16871
				2σ	cal BC 5,483 - cal BC 5,461 cal BC 5,452 - cal BC 5,375	0.328 0.672	

型式ごとにその暦年代（暦年較正年代）を提示している。それを参考とすると、B区1_1号住居跡 埋甕炉（試料№1）の炭化材の暦年代は、縄文時代中期後半の曽利Ⅰ式～Ⅲ式とされた時期に相当する。B区1_1号住居跡の年代観とされる曽利Ⅳ式期は、概ねcalBC2,700-calBC2,500とされており、それに比べると、若干古い年代と言える。B区2_2号集石土坑 炭化材①（試料№2）の暦年代は、縄文時代前期後半の年代に相当し、前期～中期とした発掘調査所見をほぼ支持する結果である。B区2_5号集石土坑 CA1（試料№3）の暦年代は、縄文時代早期末頃に相当し、発掘調査所見よりも有意に古い値と言える。

Ⅱ．炭化材同定

1.試料

試料は、B区1_1号住居跡から出土した炭化材25点（試料№4～28）、B区2_2号住居跡から出土した炭化材1点（炭化材③；試料№29）、B区2_2号集石土坑から出土した炭化材（炭化材①;試料№30）、B区2_5号集石土坑から出土した炭化材1点（CA1;試料№31）である。なお、B区2_2号集石土坑 炭化材①は、微細片で同定不能であったことから、予備試料のB区1_1号住居跡 注記№1（予1）を代替として分析対象としている。試料の詳細は、結果とともに表2に示す。

2.分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）やWheeler他（1998）を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

3.結果

結果を表2に示す。炭化材は、落葉広葉樹3分類群（クリ・キハダ・ケンポナシ属）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

表2. 樹種同定結果

試料　№	地区	遺構	注記　№	形状	樹種	備考
4	B1	1号住居跡	埋甕炉内	破片	クリ	＊（試料№1）
5	B1	1号住居跡	6	破片	クリ	
6	B1	1号住居跡	8	破片	クリ	
7	B1	1号住居跡	9	破片	クリ	
8	B1	1号住居跡	10	破片	クリ	
9	B1	1号住居跡	11	破片	クリ	
10	B1	1号住居跡	18	破片	クリ	
11	B1	1号住居跡	24	破片(板状)	クリ	
12	B1	1号住居跡	27	破片	クリ	
13	B1	1号住居跡	31	破片	クリ	
14	B1	1号住居跡	37	微細片	クリ	
15	B1	1号住居跡	42	破片	クリ	
16	B1	1号住居跡	45	破片	クリ	
17	B1	1号住居跡	46	破片	クリ	
18	B1	1号住居跡	47	破片	クリ	
19	B1	1号住居跡	48	破片	クリ	
20	B1	1号住居跡	51	破片	クリ	
21	B1	1号住居跡	52	破片	クリ	
22	B1	1号住居跡	57	破片	キハダ	
23	B1	1号住居跡	61	ミカン潮状(半径2.3cm)	クリ	
24	B1	1号住居跡	63	破片	クリ	
25	B1	1号住居跡	65	破片	クリ	
26	B1	1号住居跡	68	破片	クリ	
27	B1	1号住居跡	69	破片(角棒状)	クリ	
28	B1	1号住居跡	70	破片	クリ	
29	B2	2号住居跡	炭化材③	破片	ケンポナシ属	
30	B2	2号集石土坑	炭化材1		同定不能	＊（試料№2）
31	B2	5号集石土坑	CA1	微細片	ケンポナシ属	＊（試料№3）
予1	B1	1号住居跡	1	破片	クリ	試料№2.30の代替

＊放射性炭素年代測定試料

・キハダ（Phellodendron amurense Ruprecht）　ミカン科キハダ属

環孔材で、孔圏部は3-5列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち塊状に複合して接線・斜方向に紋様状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-5細胞幅、1-40細胞高。

・ケンポナシ属（Hovenia）　クロウメモドキ科

環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-5細胞幅、1-40細胞高。

4.考察

縄文時代中期後半（曽利Ⅳ式期）の敷石住居であるB区1_1号住居跡から出土した炭化材は、住居跡壁際付近から多く出土したほか、床面、埋甕炉内からも出土している。分析に供された炭化材は、角棒状や板状を呈する試料が確認されたが、いずれも破片であり本来の形状や木取りを推定できるものは認められなかった。

B区1_1号住居跡から出土した炭化材の樹種は、落葉広葉樹のクリを主体とし、この他に落葉広葉樹のキハダが認められた。確認された樹種の材質についてみると、クリは重硬で強度や耐朽性に優れており、キハダは強

度がやや低いが、耐朽性は高いとされる。炭化材の出土状況および分析結果から、住居構築材には主に強く腐りにくいクリ材が選択的に利用されたことが推定され、耐朽性の高いキハダも利用されたことが考えられる。また、埋甕炉内から出土した炭化材もクリであったことから、クリは燃料材等にも利用されていたと考えられる。一方、B区2_2号住居跡の炭化材は、落葉広葉樹のケンポナシ属であった。ケンポナシ属の木材は、強度は中程度、切削加工は容易で狂いや割れは少ないとされる。B区1_1号住居跡には認められなかった樹種であることや材質的特徴などから、用途等については出土状況を含めた検討が望まれる。

本地域では、中谷遺跡の堀之内Ⅰ式や曽利Ⅲ式土器が出土した住居跡の炭化材が全てクリに同定されている（パリノ・サーヴェイ株式会社,1996）。今回の分析結果は、中谷遺跡の縄文時代後期の住居跡の調査事例と同様であり、縄文時代中期後半～後期頃には住居構築材にクリ材が多用されていたことを示す資料として注目される。

また、B区2_5号集石土坑から出土した炭化材は、落葉広葉樹のケンポナシ属であった。出土状況から、燃料材として利用された樹種と推定される。郡内地域では、縄文時代前期の木材利用に関する調査事例がほとんど無く、当該期の木材利用を考える上で重要な資料と言える。

引用文献

林　昭三,1991,日本産木材　顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載I.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載II.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載III.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載IV.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載V.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

小林謙一,2008,縄文土器の年代（東日本）.「総覧　縄文土器」（小林達雄編）,「総覧　縄文土器」刊行委員会,896-903.

パリノ・サーヴェイ株式会社,1996,中谷遺跡における自然科学分析.「中谷遺跡　山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書」,山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第116集,山梨県教育委員会・日本鉄道建設公団,180-183.

島地　謙・伊東　隆夫,1982,図説木材組織,地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998,広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）,海青社,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

第２節　美通遺跡（B区3）の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

山梨県都留市井倉地内に所在する美通遺跡は、桂川右岸に位置し、吉村ほか（1987）よる地形分類図によれば、桂川の支流である朝日川が形成したとみられる谷底平野および河岸段丘面に立地する。本遺跡のA～C区の各調査区の発掘調査の結果、縄文時代早～中期の竪穴住居跡や集石土坑などが確認されている。また、放射性炭素年代で約8,500年前頃（遠藤・村井,1978）に発生したとされる猿橋溶岩なども確認されている。

本報告では、美通遺跡B区3の発掘調査成果から課題とされた遺構の年代、縄文時代の植物資源利用の検討、さらに、縄文時代前期とされる土坑堆積物および集石周辺の土壌の化学性による用途推定に関わる資料の作成を目的として、自然科学分析調査を実施する。

Ⅰ．遺構の年代

1.試料

試料は、B区3_1号集石土坑、B区3_6号土坑より採取された炭化材（炭化物）混じり土壌である。

発掘調査所見によればB区3_1号集石土坑は、縄文時代前～中期の遺構と推定されており、覆土上層（A地点）、中層（上部;B地点、下部;C地点）、下層（D地点）より土壌（炭化物混じり）が採取されている。B区3_6号土坑は、直径約2.8～3.4m、深さ約70cmを測る大型の土坑である。覆土の観察では、この他の土坑の埋積物と異なることが指摘されている。

分析試料は、B区3_1号集石土坑（A地点）が約1cm角程度の炭化材片、B区3_1号集石土坑（D地点）が約0.5cm角の炭化材片、B区3_6号土坑が約2cm角程度の炭化材片である。

放射性炭素年代測定試料とした炭化材については、試料の履歴（由来）の検討を目的として、後述する樹種同定と併せて分析を行っている。結果は、Ⅱを参照されたい。

2.分析方法

試料は、超音波煮沸洗浄と酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム1N, 塩酸1.2N）により、不純物を取り除いた後、グラファイトを合成し、測定用試料とする。測定機器は、NEC製コンパクトAMS・1.5SDHを用いる。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い（14Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正結果は、測定誤差σ、2σ（σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲）双方の値を示す。表中の相対比（確率分布）とは、σ、2σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

3.結果および考察

各遺構から出土した炭化材の同位体効果による補正を行った測定結果（補正年代）は、B区3_1号集石土坑A地点の炭化材が5,095±25yrBP、B区3_1号集石土坑D地点の炭化材が5,050±25yrBP、B区3_6号土坑の炭化材が5,085±25yrBPである。また、暦年較正結果（σ）は、B区3_1号集石土坑A地点の炭化材がcalBC3,956-calBC3,911、B区3_1号集石土坑D地点の炭化材がcalBC3,938-calBC3,797、B区3_6号土坑の炭化材が

calBC3,951-calBC3,809である。

以上の結果、また、B区3_1号集石土坑A,D地点の炭化材の暦年代範囲（calBC3,956-calBC3,797）は、小林（2008）によれば、縄文時代前期後半頃に相当する。一方、時期不明とされたB区3_6号土坑も、今回の分析結果ではB区3_1号集石土坑出土炭化材より得られた暦年代範囲に収まっており、ほぼ同時期の遺構の可能性がある。

表1. 放射性炭素年代測定結果および暦年較正結果

試料名	補正年代 (yrBP)	δ13C(‰)	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)	暦年較正年代(cal)		相対比	測定機関 Code No.
B区3_1面 1号集石土坑炭化材A	5,095±25	-23.51±0.22	5,094±25	σ	cal BC 3,956 - cal BC 3,938	0.255	PLD-15546
					cal BC 3,870 - cal BC 3,911	0.745	
				2σ	cal BC 3,964 - cal BC 3,906	0.349	
					cal BC 3,880 - cal BC 3,800	0.651	
B区3_1面 1号集石土坑炭化材D	5,050±25	-23.31±0.11	5,049±24	σ	cal BC 3,938 - cal BC 3,860	0.831	PLD-15547
					cal BC 3,812 - cal BC 3,797	0.169	
				2σ	cal BC 3,946 - cal BC 3,787	1.000	
B区3_2面 6号土坑炭化材	5,085±25	-23.66±0.16	5,084±23	σ	cal BC 3,951 - cal BC 3,936	0.178	PLD-15549
					cal BC 3,873 - cal BC 3,809	0.822	
				2σ	cal BC 3,959 - cal BC 3,902	0.325	
					cal BC 3,900 - cal BC 3,895	0.011	
					cal BC 3,881 - cal BC 3,800	0.665	

Ⅱ．植物利用

1.試料

試料は、放射性炭素年代測定の対象とされた各遺構より出土した炭化材と、B区3_26号土坑覆土から採取された土壌からなる。以下に、各試料の概要を記す。

（1）炭化材

試料の詳細は結果とともに表2に示す。

（2）土壌

試料は、B区3_26号土坑覆土より採取された土壌4点である。土壌試料は、上層（A地点）、中層（B,C地点）、下層（D地点）と層位別に採取されている。発掘調査所見によれば、本遺構は、縄文時代前期前半～前期末の遺構確認面より検出されていることから、同時期の遺構と想定されている。また。断面形状が袋状（フラスコ状）を呈することから、貯蔵穴の可能性お示唆されている。

これらの試料のうち、炭化材試料を対象に樹種同定、種実遺体および土壌試料を対象に種実分析および微細物分析を行う。

2.分析方法

（1）樹種同定

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称と特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

（2）微細物分析

微細物分析は、土壌試料を容器に広げ、常温で数日乾燥させる。乾燥後の試料を肉眼やルーペで観察し、目に付いた炭化物を拾い出す。乾燥抽出後の試料を水を満たした容器に投入し、浮いた炭化物をすくい取って回収す

る。容器を傾斜させて浮いた炭化物を粒径0.5mmの篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く撹拌した後、容器を傾斜させて回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す（20-30回程度）。残土を粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定可能な種実や炭化材（主に径4mm以上）を抽出する。

抽出された種実遺体および種実同定試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）等との対照から、種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。炭化材、不明炭化物と分析残渣は、70℃48時間乾燥後の重量を表示し、炭化材は最大径を併せて表示する。分析後は、種類毎に容器に入れて保管する。ヒエ近似種、イネ科は、70％程度のエタノール溶液で液浸し、保管する。

3.結果

（1）樹種同定

結果を表2に示す。炭化材は、針葉樹1分類群（モミ属）と広葉樹3分類群（クリ・ヤマグワ・バラ属）に同定された。以下に、各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

試料はいずれも年輪界で割れており、2年分以上の組織を観察できる試料はない。環孔材で、孔圏部は3-4列以上、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

なお、1号集石土坑Cは、2-3mm角の微細片であり、クリによく似た組織を有するコナラ節の可能性も残るため、クリ近似種としている。

・ヤマグワ（Morus australis Poiret）　クワ科クワ属

環孔材で、孔圏部は3-5列、孔圏外への移行は緩やかで、晩材部では単独または2-4個が複合して斜方向に配列し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。

（2）種実分析・微細物分析

結果を表3に示す。B区3_26号土坑覆土の微細物分析では、B地点から草本2分類群（ヒエ近似種、イネ科）2個の種実が検出されたほか、各試料から炭化材、木材組織が確認されない部位・種類不明の炭化物（0.01g未満）が検出された。炭化材はB地点で最も多く検出され、乾燥重量0.06g（最大径9.13mm）を測る。種実は、栽培種の可能性がある炭化したヒエ近似種の胚乳1個と、草本のイネ科の果実1個が確認された。イネ科は、明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する分類群で、調査区周辺域の草地環境に由来すると考えられる。ただし、保存状態から、後代の混入の可能性が高いと判断されるため、考察からは除外している。以下に、種実の形態的特徴等を記す。

・ヒエ近似種（Echinochloa cf. utilis Ohwi et Yabuno）　イネ科ヒエ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色、長さ1.7mm、幅1.2mm、厚さ0.8mm程度の半偏球体で、背面は丸みが

表2. 樹種同定結果

地区	遺構	地点	樹種	備考
B区3	1号集石土坑	A	ヤマグワ	
B区3	1号集石土坑	B	ヤマグワ	
			ヤマグワ	年代測定試料
B区3	1号集石土坑	C	クリ近似種	
B区3	1号集石土坑	D	クリ	
			クリ	年代測定試料
B区3	6号土坑	−	クリ	
			クリ	年代測定試料

表3. 微細物分析結果

分類群	部位	状態	B区3 26号土坑 A	B	C	D	備考
<未炭化>							
イネ科	果実	完形	-	1	-	-	
<炭化>							
ヒエ近似種	胚乳	完形	-	1	-	-	
不明			<0.01	<0.01	<0.01		[g]乾燥重量
炭化材			0.03	0.06	0.05	0.03	[g]乾燥重量
			6.29	9.13	4.58	4.72	[mm]最大径
残渣			12.62	10.46	8.31	9.35	[g]乾燥重量
分析量			203.01	302.61	251.54	254.55	[g]重量

あり腹面はやや平ら。基部正中線上に、胚乳の長さの2/3以上を占める縦長で馬蹄形の胚の凹みがある。胚乳表面はやや平滑で、発泡している。

・イネ科（Gramineae）

果実が検出された。淡灰褐色、長さ2.7mm、径0.8mm程度の半狭卵体で背面は丸みがあり腹面は偏平。果皮表面は平滑で微細な縦長の網目模様が縦列する。

4.考察

（1）木材利用

各遺構から出土した炭化材試料からは、広葉樹のクリ、ヤマグワが確認された。また、放射性炭素年代測定に供した炭化材と、この他に抽出した炭化材はいずれも同じ分類群が確認された。

発掘調査所見および放射性炭素年代測定結果から、縄文時代前期頃の遺構と考えられるB区3_1号集石土坑および6号土坑からは、クリ（近似種を含む）とヤマグワが確認された。B区3_1号集石土坑では、クリとヤマグワが確認されたことから、少なくとも2種類の木材の利用が推定される。層位と確認された分類群についてみると、上～中層（A,B地点）と下層（D地点）とで樹種が異なる傾向にあり、土坑を埋積する土壌や炭化材の由来が注目される。なお、クリとヤマグワは、いずれも二次林や河畔林等に普通に見られる種類であることから、周辺に生育した入手可能な木材が利用されたと考えられる。

本遺跡周辺における縄文時代の木材利用をみると、中谷遺跡の縄文時代後期の竪穴住居跡から出土した炭化材が全てクリに同定されている（パリノ・サーヴェイ株式会社,1996）、また、大月遺跡（大月市）では、縄文時代中期末の住居跡から出土した炭化材にクリと種類不明の広葉樹が確認されている（パリノ・サーヴェイ株式会社,2000）。郡内地域では、集石土坑から出土した炭化材の調査事例がなく、木材利用の比較はできないが、今回の分析結果からクリおよびヤマグワの利用が明らかとなった。

また、集石土坑から出土した炭化材の調査事例では、館町遺跡（東京都八王子市）、宮ヶ谷戸遺跡・雨間地区遺跡・松海道遺跡（東京都あきる野市）、木曽森野遺跡（東京都町田市）等で縄文時代中期のの事例があり、クリを主体とした種類構成が確認されている（千野,1987;パリノ・サーヴェイ株式会社,1992,1997,1998,2001）。

（2）微細植物片

26号土坑覆土の微細物分析結果では、上～下層試料（A～D地点）より少量の炭化材が検出されたほか、中層（B地点）でイネ科とヒエ近似種が各1個確認されたのみである。今回の分析結果からは、当土坑の機能・性格を検討することは困難である。なお、B地点で確認されたヒエ近似種は、1個体のみの検出であるため、当該期の栽培や利用については慎重な評価が必要である。

Ⅲ．土壌理化学分析

1.試料

試料は、B区3_13号土坑覆土およびB区3_3号集石周辺より採取された土壌である。以下に、各遺構の概要および採取試料の詳細を記す。

(1) B区3_13号土坑

B区3_13号土坑は、平面が長軸約2.7m、短軸約2.2mの不整形を呈し、深さ約25cmを測る。出土遺物は、縄文時代前期末の土器が出土している。当土坑では、土坑中央部付近の床面に底部を欠く深鉢が正位で埋設される状況が確認されている。

土壌試料は、深鉢内より採取された土壌（A地点）と、深鉢周辺の覆土より採取された土壌（B,C地点）、さらに、深鉢よりやや離れた箇所（E地点）および土坑北東のやや掘込みが深い箇所（D地点）より採取された土壌の5点である。

(2) B区3_3号集石

B区3_3号集石は、長さ約50cm、幅約15cm、厚さ約13cmおよび長さ約30cm、幅約17cm、厚さ約11cmの長方形を呈する礫と径5cm前後の礫から構成され、集石周辺および長方形の礫下部からは、縄文時代前期前半の土器が出土している。

土壌試料は、上記した長方形の礫を中心として外縁（約60～70cm程度）より土壌4点（A～D地点）、内縁（約30cm程度）より土壌4点（E,F,H,I地点）、長方形の礫下位より土壌1点（G地点）の計9点が採取されている。

2.分析方法

リン酸含量は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、カルシウム含量は硝酸・過塩素酸分解－原子吸光法、腐植含量はチューリン法（土壌標準分析・測定法委員会,1986）でそれぞれ行った。以下に各項目の操作工程を示す。

(1) 分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に

表4. 土壌理化学分析結果

地区	遺構	地点(試料)	土性	土色	腐植含量(%)	P2O5(mg/g)	CaO(mg/g)	備考
B区3	13号土坑	A	LiC	10YR2/3 黒褐	2.86	1.63	16.37	土器内土壌
		B	HC	10YR2/2 黒褐	5.03	2.80	17.01	
		C	HC	10YR2/2 黒褐	4.67	2.56	15.83	
		D	HC	10YR2/2 黒褐	4.64	2.85	15.34	
		E	HC	10YR2/2 黒褐	5.57	3.26	16.40	
	3号集石	A	HC	10YR2/2 黒褐	5.03	2.80	16.59	
		B	HC	10YR2/2 黒褐	5.14	2.93	17.23	
		C	HC	10YR2/2 黒褐	4.10	2.60	16.82	
		D	HC	10YR2/2 黒褐	3.76	2.41	17.07	
		E	HC	10YR2/2 黒褐	3.81	2.34	16.80	
		F	HC	10YR2/2 黒褐	4.48	2.56	17.38	
		G	HC	10YR2/2 黒褐	4.97	2.78	17.49	
		H	HC	10YR2/2 黒褐	3.88	2.28	17.48	
		I	HC	10YR2/2 黒褐	3.43	2.11	17.27	

1）土色:マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修,1967)による。
2）土性:土壌調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編,1984)の野外土性による。
LiC:軽埴土(粘土25～45%、シルト0～45%、砂10～55%)
HC:重埴土(粘土45～100%、シルト0～55%、砂0～55%)

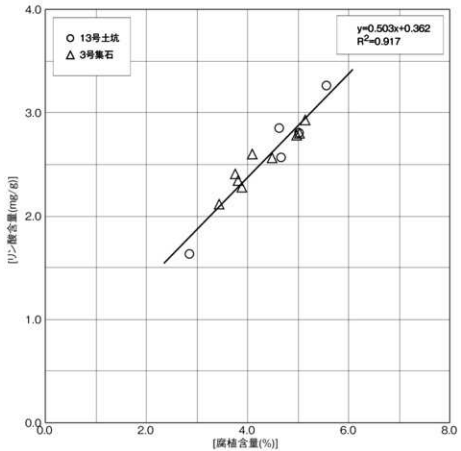


図1. 腐植含量とリン酸含量の相関

供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉砕し、0.5mm篩を全通させ、粉砕土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

(2) リン酸、カルシウム含量

粉砕土試料1.00 g をケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（HNO_3）約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（$HClO_4$）約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P_2O_5）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P_2O_5mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。

(3) 腐植含量

粉砕土試料0.100～0.500 g を100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液 10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第一鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C 乾土%）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（%）を算出する。

3.結果

結果を表4に示す。以下、遺構別に結果を示す。

(1) B区3_13号土坑

試料は、いずれも粘質土であり、国際法区分における野外土性（ペドロジスト懇談会編，1984）は深鉢内部の土壌（A地点）がLiC（軽埴土）であるほかはHC（重埴土）に分類される。土色は、A地点のみが10YR2/3

（黒褐色）であるのに対し、他は10YR2/2（黒褐色）とやや黒色味が強い。腐植含量は、A地点が2.86%、他では4.64～5.57%であり、腐植集積量の差異が土色に反映されていることが看取される。これら試料のリン酸含量は、腐植含量が多いB～E地点が2.56～3.26mg/g、A地点が1.63mg/gと低い値を示し、基本的に腐植含量に応じた推移を示す。カルシウム含量は、各地点で15.0～18.0mg/gの範囲にある。

(2) B区3_3号集石

試料は、いずれも粘質土であり、野外土性はいずれもHC（重壌土）に分類される。土色は、いずれの試料も10YR2/2（黒褐色）とやや黒色味が強く、腐植含量は3.43～5.14%である。これら試料のリン酸含量は、2.11～2.93mg/gの範囲に収まり、腐植含量に応じた推移を示す。カルシウム含量は、16.0～18.0mg/gの範囲にある。

4.考察

リンは生物にとって主要な構成元素であり、動植物中に普遍的に含まれる元素であるが、特に人や動物の骨や歯には多量に含まれている。生物体内に蓄積されたリンはやがて土壌中に還元され、土壌有機物や土壌中の鉄やアルミニウムと難溶性の化合物を形成する。特に活性アルミニウムの多い火山灰土壌ではリンの保持能力が高いため、遺跡での生物起源残留物の痕跡確認などに有効である。

土壌中に普通に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例がある（Bowen, 1983;Bolt・Bruggenwert,1980;川崎ほか,1991;天野ほか,1991）。これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0P2O5mg/g程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では5.5P2O5mg/g（川崎ほか,1991）という報告例があり、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壌では6.0P2O5mg/gを越える場合が多い。一方、カルシウムの天然賦存量は普通1～50CaOmg/g（藤貫,1979）と言われている。含量幅がリン酸よりも大きいため絶対量による評価は難しいが、骨片が残存するような状況においては、リン酸に追従した含量の変化が見られることから、遺体痕跡を検証する上での補助的な役割をなす。

各遺構の分析結果をみると、B区3_13号土坑のE地点で天然賦存量を僅かに上回るリン酸含量が確認されたほかは、この他のB区3_13号土坑試料および3号集石試料はいずれも天然賦存量の範囲内と考えられる。なお、土壌中に含まれるリン酸の給源としては、人為的な影響を除けば、土壌腐植の元となる植物遺体などによるところが大きく、腐植集積量に応じてリン酸含量も増加し、比例的な関係を示す。今回の腐植含量とリン酸含量の相関関係（図1）をみると、両者の間には正の相関が認められ、その相関は0.917（決定係数R2）と高い。このことは、これら試料のリン酸が土壌腐植の元となる植物遺体を給源として自然蓄積したものであることを支持する。したがって、土壌の化学性の観点では、埋納や廃棄等に由来する動植物遺体成分が土壌に富化されている可能性を想定することは難しい。

引用文献

天野洋司・太田 健・草場 敬・中井 信,1991,中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量.土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発.農林水産省農林水産技術会議事務局編,28-36.

Bowen,H.J.M.,1979,Environmental Cemistry of Elements.［浅見輝男・茅野充男（訳）,1983,環境無機化学,元素の循環と生化学,博友社,297p.］

Bolt,G.H. & Bruggenwert,M.G.M.,1976,SOILCHEMISTRY.［岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽 捷行（訳）,1980,土壌の化学.学会出版センター,309p.］

土壌標準分析・測定法委員会編,1986,土壌標準分析・測定法.博友社,354p.

遠藤邦彦・村井公一,1978,山梨県大月市における猿橋溶岩直下の腐植土の14C年代.地球科学,32,107-108.

藤貫 正,1979,カルシウム.地質調査所化学分析法,52,57-61.

千野裕道,1987,第1・7・12地点の植物遺体.館町遺跡III,八王子市館町遺跡調査会,397-404.
林　昭三,1991,日本産木材　顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載I.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載II.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.
伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載III.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載IV.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載V.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
小林謙一,2008,縄文土器の年代(東日本).小林達雄編　小林達雄先生古希記念企画　総覧　縄文土器.株式会社アム・プロモーション,896-903.
川崎　弘・吉田　滓・井上恒久,1991,九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量. 土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発.農林水産省農林水産技術会議事務局編,23-27.
中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑.東北大学出版会,642p.
農林省農林水産技術会議事務局監修,1967,新版標準土色帖.
パリノ・サーヴェイ株式会社,1992,自然化学分析報告.宮ヶ谷戸遺跡　秋川市野辺地内における主要地方道杉並五日市線改修工事にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書,宮ヶ谷戸遺跡調査会,96-102.
パリノ・サーヴェイ株式会社,1996,中谷遺跡における自然科学分析.中谷遺跡　山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書,山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第116集,山梨県教育委員会・日本鉄道建設公団,180-183.
パリノ・サーヴェイ株式会社,1997,集石土坑の燃料材について.東京都町田市　木曽森野遺跡Ⅳ　旧石器・縄文時代編2,町田市木曽森野地区遺跡調査会,168-172.
パリノ・サーヴェイ株式会社,1998,燃料材および住居構築材の用材選択.東京都あきる野市　雨間地区遺跡群,雨間地区遺跡調査会,367-373.
パリノ・サーヴェイ株式会社,2000,大月遺跡10次調査の自然科学調査.山梨県大月市　大月遺跡（第10次調査）－県立都留高等学校体育館周辺整備に伴う発掘調査報告書－,山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第174集,山梨県教育委員会,14-23.
パリノ・サーヴェイ株式会社,2001,炭化材同定.東京都あきる野市　松海道遺跡,あきる野市松海道遺跡調査会,266-268.
ペドロジスト懇談会,1984,土壌調査ハンドブック,156p,
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006,針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）,海青社,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.
島地　謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998,広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）,海青社,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.
吉村　稔・平川一臣,1987,I　地形分類図.土地分類基本調査　都留　5万分の1　国土調査,山梨県農務部農村整備課,15-23.

第３節　美通遺跡（B区4）の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

美通遺跡（山梨県都留市井倉地内）は、桂川右岸の河岸段丘面に立地し、桂川の支流である管野川と朝目川に挟まれた地点に位置する。本遺跡の発掘調査の結果、縄文時代および弥生時代の遺構・遺物を中心として、平安時代以降の遺構等が確認されている。

本報告では、B区4遺構の年代観、縄文時代の住居跡から出土した炭化した大型植物化石の種類、土坑埋積物（覆土）の理化学性および赤色物質の性状の検討を目的として、自然科学分析調査を実施した。

Ⅰ．放射性炭素年代測定

1.試料

試料は、B区4_2号住居跡内の焼土付近から出土した炭化材（C-16）と、B区4_9号土坑より出土した炭化材（C-13）の2点である。B区4_2号住居跡は、井戸尻式の香炉形土器を模倣したとみられる浅鉢や土偶が出土している。B区4_9号土坑からは、弥生時代の条痕文土器や打製石斧が出土している。

試料の観察では、B区4_2号住居跡 炭化材（C-16）は本来の形状が不明な多数の炭化材細片、B区4_9号土坑炭化材（C-13）は炭化した種実遺体であった。測定試料は、B区4_2号住居跡 炭化材（C-16）が試料中で比較的大型の破片（長さ約2cm、幅約0.5cm、高さ約0.5cm）、B区4_9号土坑 炭化材（C-13）が炭化種実の破片の一部を対象としている。なお、測定試料とした炭化材、炭化種実については、試料の履歴（由来）に関する情報を得るため、測定試料の一部を分割し、それぞれ同定を行っている。

2.分析方法

試料は、土壌など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、ピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClによる炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHによる腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（II）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃（30分）850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX-II）とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いてδ13Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。測定年代は1,950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い（14Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正は、CALIB 6.0のマニュアルにしたがい、1年単位まで表された同位体効果の補正を行った年代値および北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。暦年較正結果は、$\sigma \cdot 2\sigma$（σは統計的に真の

表1. 放射性炭素年代測定結果および暦年較正結果

試料名	補正年代 (yrBP)	δ 13C(‰)	補正年代 (暦年較正用) (yrBP)		暦年較正年代 (cal)	相対比	測定機関 Code No.
B区4_2号住 C-16 炭化材(クリ 近似種)	4,370± 30	-26.01±0.56	4,366± 29	σ	cal BC 3,012 - cal BC 2,977 cal BC 2,972 - cal BC 2,947 cal BC 2,945 - cal BC 2,921	0.427 0.286 0.286	IAAA-101865
				2σ	cal BC 3,086 - cal BC 3,062 cal BC 3,029 - cal BC 2,907	0.075 0.925	
B区4_9号土坑 C-13 炭化種実 (オニグルミ 核)	2,140± 30	-26.05±0.81	2,144± 28	σ	cal BC 346 - cal BC 321 cal BC 206 - cal BC 158 cal BC 134 - cal BC 116	0.224 0.624 0.152	IAAA-101866
				2σ	cal BC 353 - cal BC 293 cal BC 230 - cal BC 218 cal BC 213 - cal BC 90 cal BC 73 - cal BC 59	0.245 0.019 0.718 0.018	

値が68%、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲）の値を示す。表中の相対比は、σ、2σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

3.結果および考察

結果を表1に示す。住居跡および土坑から出土した炭化材、炭化種実の同位体効果による補正を行った測定年代（補正年代）は、B区4_2号住居跡 炭化材（C-16）が4,370±30yrBP、B区4_9号土坑 炭化種実（C-13）が2,140±30yrBPである。また、これらの補正年代に基づく暦年較正結果（σ）は、B区4_2号住居跡 炭化材（C-16）がcalBC3,012-calBC2,921、B区4_9号土坑 炭化種実（C-13）がcalBC346-calBC116である。

小林（2008）によれば、B区4_2号住居跡 炭化材（C-16）は、縄文時代中期中葉頃の暦年代に相当する。また、B区4_9号土坑の炭化種実（C-13）は、小林（2009）を参考とすると、弥生時代前期末～中期頃に相当する暦年代と言える。各遺構から出土した炭化物より得られた暦年代は、いずれも出土遺物から想定される年代観を支持する結果と言える。

Ⅱ．炭化材同定・種実遺体分析

1.試料

試料は、B区4_2号住居跡から出土した炭化材2点（C-14、C-39）と、B区4_3号住居跡の炭化した堅果類集中部より採取された土壌（堅果類一括）、さらに、放射性炭素年代測定試料に供したB区4_2号住居跡 炭化材（C-16）およびB区4_9号土坑の炭化材（C-13）の計4点である。

2.分析方法

（1）炭化材同定

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）やWheeler他（1998）を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

（2）種実遺体分析

土壌試料（炭化物混じり灰褐色土）501.82gを容器に広げて常温で数日乾燥後、肉眼やルーペで観察して目に付いた炭化物を拾い出す。乾燥抽出後の試料を水を満たした容器に投入し、浮いた炭化物をすくい取って回収する。容器を傾斜させて浮いた炭化物を粒径0.5mmの篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く撹拌した後、

容器を傾斜させて回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す（20-30回程度）。残土を粒径0.5mmの篩を通して水洗する。篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定が可能な種実遺体を抽出する。

種実遺体の同定は、現生標本と石川（1994）、中山ほか（2000）等との対照より実施し、個数（オニグルミ核破片は径2mm以上）と40℃60時間乾燥後の重量、容量、最大径を表示する。分析後は、種実遺体等を容器に入れて保管する。なお、B区4_9号土坑から検出されたオニグルミ 核の最大片1個（径2.1cm,図版1-3）は、放射性炭素年代測定試料としている。

3.結果

(1) 炭化材同定

B区4_2号住居跡から出土した炭化材2点（C-14、C-39）と、放射性炭素年代測定試料とした炭化材1点（C-16）は、全てクリ近似種に同定された。以下に、解剖学的特徴等を記す。

・クリ近似種（cf. Castanea crenata Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

試料は小片で、年輪界で割れており、早材部の多くが観察できない。道管径の変化から環孔材と考えられる。孔圏外の小道管は、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

以上の特徴から、クリと考えられるが、観察範囲が狭く、組織が似たコナラ節の可能性もあるため、クリ近似種としている。

(2) 種実遺体分析

結果を表2に示す。B区4_3号住居跡 堅果類集中部分より採取された土壌試料（3住 堅果類一括）からは、炭化したオニグルミの核の破片2151個以上（32.06g;74cc）と、炭化したキハダの種子の破片1個、炭化したミズキの核の破片3個が検出された。種実以外では、炭化材0.01g（0.1cc）、未炭化の植物片0.01g未満、岩片2個（1.63g）が確認された。分析残渣は、砂礫主体（31.88g）であった。

一方、放射性炭素年代測定試料とされたB区4_9号土坑 炭化材（B区4_ 9土 C13）からは、炭化したオニグルミの核の破片50個（0.60g）と、炭化材2個（0.01g）が検出された。

以下に、各分類群の形態的特徴等を記す。

・オニグルミ（Juglans mandshurica Maxim. var. sachalinensis (Miyabe et Kudo) Kitamura）　クルミ科クルミ属

核は炭化しており黒色。完形ならば、径3～4cm程度の頂部が尖る広卵体で縦に1周する縫合線がある。核は硬く緻密で、表面には縦方向に溝状の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある。

・キハダ（Phellodendron amurense Rupr.）　ミカン科キハダ属

種子は炭化しており黒色。完形ならば、長さ5mm、幅3mm、厚さ1.5mm程度のやや偏平な半楕円体。破片の大きさは1.4mm程度。種皮は薄く、表面には浅く微細な縦長の網目模様が配列する。

・ミズキ（Swida controversa (Hemsl.) Sojak）　ミズキ科ミズキ属

核（内果皮）は炭化しており黒色。完形ならば、径4～5mm程度の偏球体。基部に大きく深い孔がある。内果皮は硬く、表面には一周する1本のやや幅広く深い縦溝と、やや深い縦溝が数本走る。

4.考察

縄文時代中期中葉頃の暦年代が得られたB区4_2号住居跡では、炭化材が円形に回るように出土したほか、焼土付近からも確認されている。今回の分析に供された炭化材は、焼土付近から出土したもの（C-16）と壁際付近より出土したもの（C-14、C-39）からなり、いずれも落葉広葉樹のクリ近似種であった。

本地域では、美通遺跡B区1の縄文時代中期後半（曽利IV式期）の敷石住居（1号住居跡）や中谷遺跡（都留

表2. 種実遺体分析結果

地区	遺構名	試料名	分類群	部位	状態		粒径	数量[個]	重量[g]	容量[cc]	最大径[mm]	備考
BIX4	3号住居跡	BIX4 3住堅果類一括	オニグルミ	核	炭化	破片	水洗前抽出	88	4.09	14	17.4	土壌付着
							4mm以上	162	4.27	14	13.2	
							4-2mm	1901	11.80	25	9.8	
			オニグルミ主体	核	炭化	破片	2-1mm	-	6.29	13	-	
							1-0.5mm	-	5.60	8	-	
			キハダ	種子	炭化	破片	-	1	<0.01	<0.1	-	
			ミズキ	核	炭化	破片	-	3	<0.01	<0.1	-	
			炭化材		炭化	破片	-	-	0.11	0.1	10.5	
			植物片					-	<0.01	<0.1	-	後代の可能性
			岩片					2	1.63	<0.1	20.7	
			残渣(砂礫主体)					-	31.88	40	-	
			分析量					-	501.82	-	-	湿重
BIX4	9号土坑	BIX4 9土	オニグルミ	核	炭化	破片	-	50	0.60	1	21.3	*
		C13	炭化材		炭化	破片	-	2	0.01	<0.1	4.8	

*放射性炭素年代測定試料

市）の堀之内Ⅰ式や曽利Ⅲ式土器が出土した住居跡の炭化材の分析調査（パリノ・サーヴェイ株式会社,1996）などで、重硬で強度・耐朽性が高いクリ材を主体とする傾向が確認されている。また、これらの調査事例から、縄文時代中期後半頃には住居構築材として重硬で強度・耐朽性が高いクリ材が多く利用されていた可能性が示唆されている。今回の分析試料は、本来の形状が分かるものは確認できなかったが、炭化材の出土状況や樹種構成から住居構築材に由来する可能性がある。

一方、BIX4_3号住居跡の堅果類集中部分からは、炭化した多量のオニグルミの核（破片）のほか、炭化したキハダ、ミズキの種実が検出された。また、BIX4_9号土坑 C-13 からは、オニグルミの核と微量の炭化材が確認された。3号住居跡、9号土坑試料から検出されたオニグルミは、可食部である種子や完形の核は確認されず、非可食部である核の破片のみが確認される状況であった。

オニグルミ、キハダ、ミズキは、川沿いなどの湿潤な肥沃地に生育する落葉高木である。本遺跡が河岸段丘上の小河川沿いに立地していた可能性を考慮すると、検出された分類群は周辺域の森林に生育していたものに由来すると考えられる。また、検出された炭化種実の多数を占めるオニグルミは、核内部の種子が生食可能な有用植物である。オニグルミの検出状況および遺存状況を考慮すると、植物質食糧として可食部を取り出した後の残滓の利用、あるいは廃棄の痕跡と考えられる。

Ⅲ. 土壌理化学分析

1.試料

試料は、美通遺跡で多く確認されている円形土坑であるBIX4_5号土坑と、弥生時代の土器や石器が出土した9号土坑、17号土坑埋積物（覆土）より採取された土壌13点、さらに、対照試料としてBIX4_5号土坑、17号土坑の周辺の遺構確認面より採取された土壌2点の計15点である。各試料の詳細は、結果とともに表3に示す。

2.分析方法

リン酸含量は、硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法（土壌標準分析・測定法委員会,1986）で行った。以下に操作工程を示す。

(1) 分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉砕し、0.5mm篩を全通させ、粉砕土試料を作成する。風乾細土試

料については、105℃で4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

(2) リン酸含量

粉砕土試料1.00ｇをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（HNO_3）約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（$HClO_4$）約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P_2O_5）濃度を測定する。測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P_2O_5mg/g）を求める。

3.結果

(1) B区4_5号土壌

国際法区分における野外土性（ペドロジスト懇談会編，1984）は、土壌サンプル№1、2、3、4がCL（埴壌土）、比較試料の土壌サンプル外-3がSiL（シルト質壌土）とややシルト分に富む。土色は、いずれも黒褐色を呈するが、土壌サンプル№1～4が10YR2/3であるのに対し、土壌サンプル外-3が7.5YR2/2と色相・彩度をやや異にする。リン酸含量は、土壌サンプル外-3が2.47P_2O_5mg/gであるのに対し、土壌サンプルNo.1～4が3.74～4.08P_2O_5mg/gと比較的高い水準にある。

(2) B区4_9号土壌

野外土性は、中心部土サンプル1、3、5がCL、中心部土サンプル8、11がLiC（軽埴土）とやや粘質となる。土色は、いずれの試料も10YR2/3（黒褐色）と比較的黒色味が強い。リン酸含量は、中心部土サンプル1、3、5が2.41～2.82P_2O_5mg/g、中心部土サンプル8、11が1.87～1.89P_2O_5mg/gである。

(3) B区4_17号土壌

野外土性は、土壌サンプル1層（上）、3層（下）、5層（下）がCL、6層（下）および№2（南）がLiCとやや粘質となる。土色は、いずれの試料も10YR2/2（黒褐色）と比較的黒色味が強い。リン酸含量は、比較試料の土壌サンプル№2（南）が2.17P_2O_5mg/g、土壌サンプル1層（上）、3層（下）、5層（下）、6層（下）が1.66～2.28P_2O_5mg/gと同等以下である。

4.考察

リンは生物にとって主要な構成元素であり、動植物中に普遍的に含まれる元素であるが、特に人や動物の骨や歯には多量に含まれている。生物体内に蓄積されたリンはやがて土壌中に還元され、土壌有機物や土壌中の鉄やアルミニウムと難溶性の化合物を形成する。特に活性アルミニウムの多い火山灰土壌ではリンの保持能力が高いため、遺跡での生物起源残留物の痕跡確認などに有効である。

土壌中に普通に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、いくつかの報告事例（Bowen,1983;Bolt･Bruggenwert,1980;川崎ほか,1991;天野ほか,1991）がある。これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約3.0P_2O_5mg/g程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では5.5P_2O_5mg/g（川崎ほか,1991）という報告例があり、当社におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壌では6.0P_2O_5mg/gを越える場合が多い。

美通遺跡における既存調査では、C区65号土坑の土坑外試料で最大3.15P_2O_5mg/g、B区3の13号土坑では植物遺体を給源として自然蓄積したリン酸の最大値が3.26P_2O_5mg/gであることが確認されている。また、今回の調査で供された対照試料では、B区4_5号土坑の土壌サンプル外-3が2.47P_2O_5mg/g、B区4_17号土坑の土壌サンプル№2（南）が2.17P_2O_5mg/gであった（図1）。

B区4の各土坑のリン酸は、9号土坑では中心部土サンプル8、11と比べ中心部土サンプル1、3、5でやや多い特徴が認められた。ただし、本遺跡におけるリン酸の天然賦存量は、上記した既存の調査結果および今回の対照試料の値から2～3P_2O_5mg/gとみられること、野外土性による土質的な違いが認められることから、土坑内にリン酸を富化するような内容物が存在した可能性を指摘するには至らない。また、B区4_17号土坑も、土壌サンプル

表3. リン分析結果

地区	遺構名	層位(地点)	試料名	土性	土色	P2O5 (mg/g)	備考
B区4	5号土坑	1層	土壌サンプル №1	CL	10YR2/3 黒褐	3.96	
		2層上部	土壌サンプル №2	CL	10YR2/3 黒褐	3.74	
		2層下部	土壌サンプル №3	CL	10YR2/3 黒褐	4.08	
		3層	土壌サンプル №4	CL	10YR2/3 黒褐	4.02	
		-	土壌サンプル 外-3	SiL	7.5YR2/2 黒褐	2.47	対照試料
	9号土坑	1層	中心部土サンプル1	CL	10YR2/3 黒褐	2.82	
		3層	中心部土サンプル3	CL	10YR2/3 黒褐	2.46	
		5層	中心部土サンプル5	CL	10YR2/3 黒褐	2.41	
		7層	中心部土サンプル8	LiC	10YR2/3 黒褐	1.89	
		13層	中心部土サンプル11	LiC	10YR2/3 黒褐	1.87	
	17号土坑	1層上部	土壌サンプル 1層(上)	CL	10YR2/2 黒褐	2.28	
		1層下部	土壌サンプル 3層(下)	CL	10YR2/2 黒褐	1.91	
		5層下部	土壌サンプル 5層(下)	CL	10YR2/2 黒褐	1.66	
		6層下部	土壌サンプル 6層(下)	LiC	10YR2/2 黒褐	1.79	
		-	土壌サンプル №2(南)	LiC	10YR2/2 黒褐	2.17	対照試料

1）土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修,1967)による。
2）土性：土壌調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編,1984)の野外土性による。
SiL:シルト質壌土(粘土0～15%、シルト45～100%、砂0～55%)、 CL:埴壌土(粘土15～25%、シルト20～45%、砂3～65%)、
LiC:軽埴土(粘土25～45%、シルト0～45%、砂10～55%)

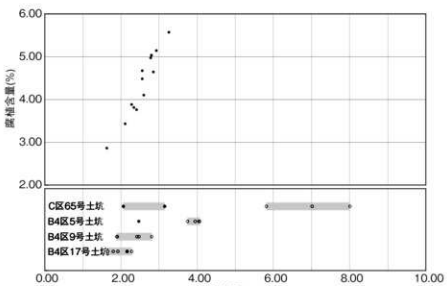


図1.A区2,B区3の腐植含量･リン酸含量の相関(上段)および
C区65土坑、B区4各土坑のリン酸含量(下段)

1層（上）、3層（下）、5層（下）、6層（下）のリン酸は、本遺跡の天然賦存量の範囲内にあることから、内容物の痕跡を支持することはできない。一方、B区4_5号土坑については、土壌サンプル№1～4のいずれも本遺跡の天然賦存量を上回る値のリン酸が検出された。さらに、比較試料の土壌サンプル外-3との間に有為差を認めることができることから、土坑内にリン酸を富化する内容物の存在が示唆される。

今回の土坑埋積物（覆土）の理化学分析では、対象とした土坑3基のうちB区4_5号土坑についてリン酸を富化する物質が存在した可能性が示唆された。なお、今回の分析調査では、腐植含量の挙動調査を実施していないことや、土地利用の履歴によっては施肥の影響も考えられるため、遺体成分の痕跡と判断するには慎重な評価が望まれる。

Ⅳ．X線回折分析

1.試料

試料は、縄文時代中期の井戸尻式の土器が伴うB区4_1号住居跡の1号炉周辺から出土した赤色物質（C赤-1）である。赤色物質（C赤-1）は、発掘調査時に周辺の焼土と色調が異なることから採取されており、試料の観察では径5mm程度の塊状をなす鮮やかな赤褐色を呈する物質が認められた。

2.分析方法

土塊から採取した赤色物質の小塊を空気乾燥し、メノウ乳鉢で磨砕した後、アセトンを用いて無反射試料板に塗布し、測定試料とする。作成したX線回折測定試料について表4の条件で測定を実施する。なお、検出された物質の同定解析は、Materials Data,Inc.のX線回折パターン処理プログラムJADEを用い、該当する化合物または鉱物を検索する。

表4. 分析条件

装置：理学電気製MultiFlex	Divergency Slit：1°
Target：Cu（Kα）	Scattering Slit：1°
Monochrometer：Graphite湾曲	Recieving Slit：0.3mm
Voltage：40KV	Scanning Speed：2° /min
Current：40mA	Scanning Mode：連続法
Detector：SC	Sampling Range：0.02°
Calculation Mode：cps	Scanning Range：3～45°

3.結果および考察

X線回折図を図2に示す。図中上段に赤色物質（B区4_1住 C赤-1）のX線回折図、下段に検出された鉱物の回折パターンを呈示した。文中で括弧内に示したものは、X線回折図で同定された鉱物名である。固溶体やポリタイプを有する鉱物については、X線回折試験では正確な同定は困難であるため、最終的な検出鉱物名としては、それらを包括する大分類の鉱物名を使用している。

赤色物質（B区4_1住 C赤-1）からは、顔料鉱物である赤鉄鉱（hematite）が検出されたほか、石英（quartz）および斜長石（曹長石:anorthite）が検出された。赤色を呈する代表的な顔料鉱物にはベンガラ（赤鉄鉱；hematite[α-Fe2O3]）のほか、水銀朱（辰砂；cinnabar[HgS]）、鉛丹（鉛丹；minium[Pb3O4]）などがある。調査結果では、採取試料では赤鉄鉱の明瞭な回折が認められたことから、ベンガラであると判断される。この他に

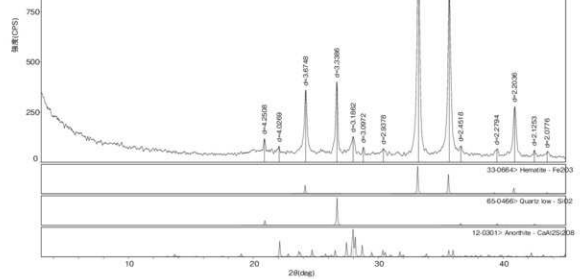


図2. 赤色物質(B区4_1号住 C赤-1)のX線回折図

検出された石英や斜長石は試料採取時に混入した土壌由来の鉱物と見られる。

なお、ベンガラには、天然の赤鉄鉱を利用する場合のほか、含水水酸化鉄を焼成して得られる赤鉄鉱を利用する場合がある。赤鉄鉱にはパイプ状構造をなすものと、非パイプ状（塊状、球状、不定形など）構造のものとがあり、前者については沼沢地などにおいて鉄バクテリアが生成する含水水酸化鉄が出発物質であることが判明している（岡田,1997;織幡・沢田,1997）。今後、確認されたベンガラの由来の検討においては、電子顕微鏡など利用してパイプ状構造の有無を観察することも有効と思われる。

引用文献

天野洋司・太田　健・草場　敬・中井　信,1991,中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量.土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発.農林水産省農林水産技術会議事務局編,28-36.

Bowen,H.J.M.,1979,Environmental Cemistry of Elements.［浅見輝男・茅野充男（訳）,1983,環境無機化学,元素の循環と生化学,博友社,297p.］

Bolt,G.H. & Bruggenwert,M.G.M.,1976,SOILCHEMISTRY.［岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽　捷行（訳）,1980,土壌の化学.学会出版センター,309p.］

土壌標準分析・測定法委員会編,1986,土壌標準分析・測定法.博友社,354p.

林　昭三,1991,日本産木材　顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

藤貫　正,1979,カルシウム.地質調査所化学分析法,52,57-61.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

小林謙一,2008,縄文土器の年代（東日本）.「総覧　縄文土器」（小林達雄編）,「総覧　縄文土器」刊行委員会,896-903.

小林謙一,2009,近畿地方以東の地域への拡散.「新弥生時代のはじまり　第4巻　弥生農耕のはじまりとその年代」（西本豊弘編）.雄山閣,55-82.

石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.

川崎　弘・吉田　澪・井上恒久,1991,九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量. 土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発.農林水産省農林水産技術会議事務局編,23-27.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑.東北大学出版会,642p.

農林省農林水産技術会議事務局監修,1967,新版標準土色帖.

織幡順子・沢田正昭,1997,酸化鉄系赤色顔料の基礎的研究.日本文化財科学会第14回大会研究発表要　旨集,76-77.

岡田文男,1997,パイプ状ベンガラ粒子の復元.日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集,38-39.

パリノ・サーヴェイ株式会社,1996,中谷遺跡における自然科学分析.「中谷遺跡　山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書」,山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第116集,山梨県教育委員会・日本鉄道建設公団,180-183.

ペドロジスト懇談会,1984,土壌調査ハンドブック,156p,

島地　謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998,広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）,海青社,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

第５章 総括

美通遺跡Ｂ区からは、縄文時代早期～前期初頭・前期中葉・前期後半・前期末・中期中葉・中期後半、弥生時代前期末～中期初頭の遺構・遺物が発見された。時期の特定できる遺構としては、縄文時代早期の焼土遺構１基、縄文時代早期末の集石土坑１基、縄文時代前期初頭の集石土坑１基、縄文時代前期中葉の住居跡１軒、土坑４基、集石遺構３基、縄文時代前期後半の住居跡１軒、集石土坑１基、土坑１基、焼土遺構１基、縄文時代前期末の住居跡１軒、土坑１基、集石遺構１基、縄文時代中期中葉の住居跡３軒、土坑１基、縄文時代中期後半の住居跡（敷石住居跡）２軒、弥生時代前期末～中期初頭の土坑２基を発見した。遺構からの遺物出土量が非常に少ないため、これらの遺構には遺構内から採取した炭化材を試料とした炭素14年代測定の結果によって判断したものも含まれる。

南側の美通遺跡Ａ区や北側の美通遺跡Ｃ区では奈良・平安時代の住居跡や近世・近代の土坑なども発見されており、縄文時代から現代に至るまで、この地が集落を営む上において恵まれた環境にあったことを示していると言えよう。

本章では、発見された遺構・遺物の分布を時期別にまとめ、美通遺跡Ｂ区の状況を概観する。今回の調査地点は朝日川の左岸に沿って南北方向に細長く位置していることから、北側の菅野川と東側の朝日川に挟まれた台地上に立地する美通遺跡の東側縁辺部の状況を示していると考えられる。

１．縄文時代早期・前期初頭

Ｂ区１の猿橋溶岩による溶岩帯を除いた北東部一帯に集中している。

縄文時代早期の遺構はＢ区１の５号焼土で、焼土とともに判ノ木山西タイプの深鉢口縁部が出土している。縄文時代早期末の遺構はＢ区１の５号集石土坑で、土坑の底部から採取した炭化材の年代測定によって、6,475±25yrBPとの結果が出ている。縄文時代前期初頭の遺構はＢ区１の１号集石土坑で、土坑底部付近の覆土から下吉井式の深鉢口縁部が出土している。遺構外から出土した遺物も、量は少ないもののＢ区１に集中しており、縄文時代早期末の打越式土器が見られる。

２．縄文時代前期中葉

Ｂ区２からＢ区３中央やや南側の範囲に分布している。

Ｂ区２では、２号住居跡から黒浜式の深鉢口縁部が床面付近から出土している。２号住居跡からは前期後半諸磯ｂ式の深鉢・有孔浅鉢の破片も出土しているが、これらは住居跡を切る形で重複する23号土坑に関係する遺物であると考えられる。遺構外からは釈迦堂Ｚ3式や黒浜式の土器片が出土している。

Ｂ区３では、２面８・11号土坑から釈迦堂Ｚ3式の深鉢口縁部～胴部が、２面19号土坑からは口縁部の一部と底部を欠くもののほぼ完形の深鉢が押しつぶされた状態で出土している。２面16号土坑からは黒浜式の深鉢底部が出土している。これらの土坑は土坑墓であると考えられ、土坑内からは在地系である釈迦堂Ｚ3式土器が多く出土する傾向が見られる。また、２面11号土坑の約10cm上層からは1面３号集石を検出しており、11号土坑の一部（上部）である可能性が高いと考えられる。この他、１面４・５号集石からは釈迦堂Ｚ3式と黒浜式の土器片が集石とともに出土している。４号集石は礫の分布範囲が広く、集石の下層から土坑等の遺構は検出されなかった。５号集石の下層からは焼土・炭化物の堆積と形状が判然としない深さ10cm前後の窪みを検出しており、火を使用した祭祀行為の痕跡である可能性が考えられる。遺構外からは釈迦堂Ｚ3式・黒浜式の土器片が出土しており、黒浜式の土器片は２面４・５号集石周辺のＢ区３北側部分に集中する傾向にある。

３．縄文時代前期後半

Ｂ区１の北東部とＢ区２からＢ区３北端部、Ｂ区３南側の一部の範囲に分布している。Ｂ区３では南側の１面１号集石土坑の年代測定で縄文時代前期後半に相当する結果が出ているが、Ｂ区３では１面１号集石土坑を含め、遺構外からも該期の遺物がほとんど出土していない。

Ｂ区１では、該期に特定される遺構は発見されなかったものの、１号住居跡・１号集石土坑の覆土や遺構外か

ら諸磯ａ・ｂ式の土器片が出土している。

Ｂ区２では、３号住居跡から１点ではあるものの諸磯a式の土器片が出土している。23号土坑からは諸磯ｂ式の土器片が出土している（２号住居跡と重複しているため、２号住居跡出土遺物として取り上げられている。）。また、２号集石土坑は、土坑壁面から採取した炭化物の年代測定によって、5,080±25yrBPとの結果が出ている。この他に遺構外からは諸磯ａ・ｂ式の土器片が出土している。

Ｂ区３では、北西端部から検出した焼土（１面焼土遺構）に伴って、諸磯ａ式の浅鉢が出土している。また、１面１号集石土坑では、集石とともに検出した炭化物の年代測定によって、5,095±25yrBP（Ａ地点）、5,050±25yrBP（Ｄ地点）との結果が出ている。

４．縄文時代前期末

Ｂ区２南端部からＢ区４にかけて分布している。

Ｂ区２では、南端部の遺構外を中心に深鉢の破片が出土している。

Ｂ区３では、２面１号住居跡や１面１号集石・２面13号土坑から該期の遺物が出土している。２面１号住居跡では、深鉢口縁部の破片や磨石が出土している。１面１号集石では、集石とともに深鉢の口縁部や底部が出土しいる。１面１号集石の約10cm下層からは２面13号土坑を検出している。土坑内覆土からも礫が検出されたことから、１面１号集石は２面13号土坑の一部（上部）である可能性が高いと考えられる。２面13号土坑は竪穴状の形状をしており、底面中央付近から口縁部の一部と底部を欠いた深鉢が埋設された状態で出土した。深鉢内部から焼土や炭化物は検出されなかったが、この土器を埋甕炉とする竪穴建物（住居跡）であった可能性も考えられる。

Ｂ区４では、遺構は発見されなかったものの、該期の深鉢口縁部～胴部の破片が出土している。

５．縄文時代中期中葉

Ｂ区４に集中している。

Ｂ区４の１～３号住居跡・20号土坑で井戸尻式の深鉢や浅鉢などが出土している。また、２号住居跡からは該期のものと考えられる土偶の足部が出土した。３号住居跡は調査区外の西側へ延びており、遺構外遺物も西側に多く分布する傾向にある。

６．縄文時代中期後半

Ｂ区１の北東部とＢ区２の北西部に分布している。

Ｂ区１・２ともに敷石住居跡とその周辺から曽利Ⅳ式の深鉢や浅鉢、壺などが出土している。Ｂ区１の１号住居跡では、南側の壁面付近から床面中央の石囲い炉にかけて長方形に敷石を配置している。石囲い炉の中に浅鉢の底部を欠いた埋甕炉を持つ。この時期に埋甕炉を持つ住居跡は珍しいタイプである。Ｂ区２の４号住居跡は壁面に沿って敷石が配置され、敷石とともに加工が施された石柱も出土している。

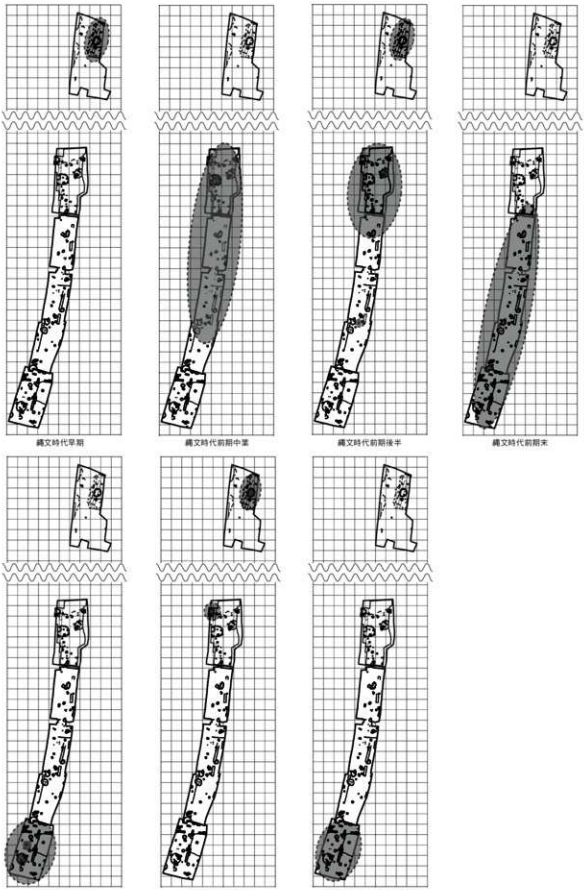
７．弥生時代前期末～中期初頭

Ｂ区４に集中している。

Ｂ区４の９・17号土坑で該期の壺や甕が出土している。また、９号土坑では打製石斧が、17号土坑では石鏃が出土しており、土坑墓であると考えられる。この他にも５・８・14・15・18号土坑から壺・甕の小破片が出土している。遺構外からは南側へ谷状に傾斜するＢ区４南西部を中心に壺・甕の口縁部～底部破片が出土している。

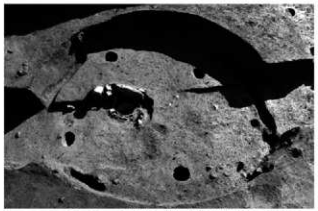
参考文献

・小野正文　1986『釈迦堂遺跡Ⅰ』
・小野正文　1992「縄文時代の編年」『山梨県史』資料編２原始・古代２　山梨県
・櫛原功一　1992「縄文時代の住居と集落」『山梨県史』資料編２原始・古代２　山梨県
・櫛原功一　2004「敷石住居の発生－柄のない敷石住居の存在－」『山梨県考古学論集』Ⅴ　山梨県考古学協会
・中山誠二　1992「弥生時代の編年」「弥生時代の信仰と葬制」『山梨県史』資料編２原始・古代２　山梨県

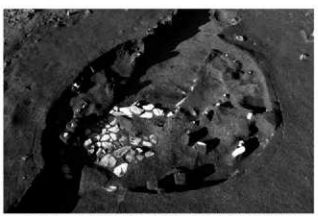


第101図　美通遺跡Ｂ区の時期別遺構・遺物分布

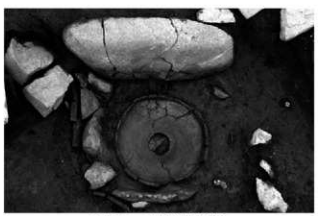
B区1　1号住居跡（敷石住居跡）



B区1　1号住居跡（完堀状況）



B区1　1号住居跡（焼土・炭化物検出状況）

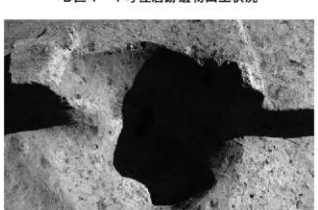


B区1　1号住居跡 炉

B区1　1号住居跡 方形石囲い

B区1　1号住居跡遺物出土状況

B区1　1号集石土坑（集石断面）



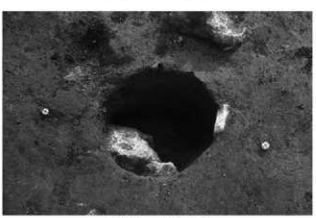
B区1　1号集石土坑（完堀状況）

B区1　5号集石土坑（集石断面）

B区1　5号集石土坑（集石検出状況）

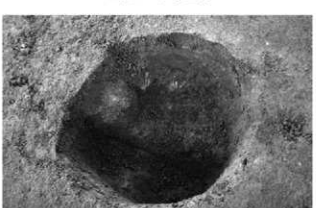
B区1　1号土坑

B区1　調査区西壁・2号土坑セクション

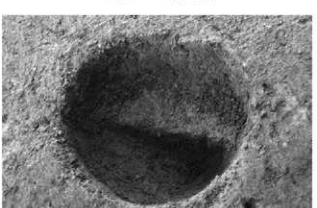


B区1　3号土坑

B区1　4号土坑

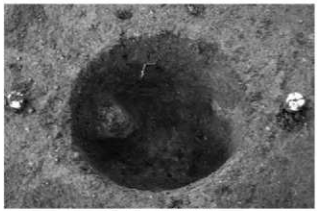


B区1　26号土坑

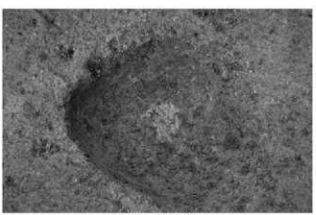


B区1　27号土坑

B区1　28号土坑



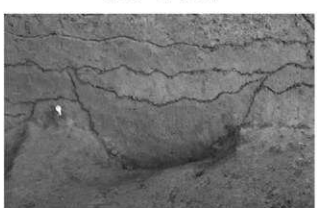
B区1　29号土坑



B区1　30号土坑

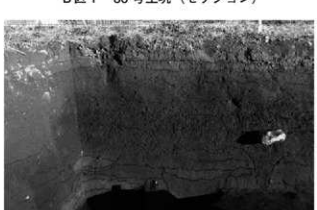
B区1　34号土坑

B区1　35号土坑



B区1　36号土坑（セクション）

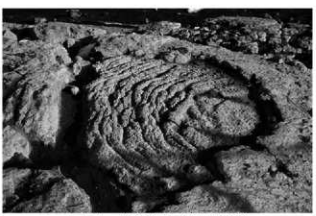
B区1　調査区北壁・37・38号土坑セクション



B区1　4・5号焼土セクション

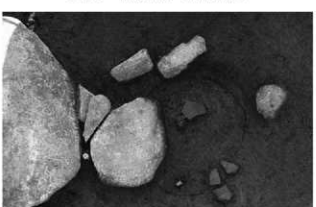
B区１　５号焼土遺物出土状況

B区１　調査区西壁セクション



B区１　猿橋溶岩（縄状溶岩）

B区２　２号住居跡



B区２　２号住居跡内ピット遺物出土状況

B区２　３号住居跡

B区２　３号住居跡・48 号土坑セクション

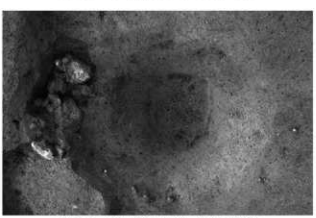
B区２　４号住居跡（敷石住居跡）

B区２　４号住居跡（完堀状況）

B区２　４号住居跡 炉

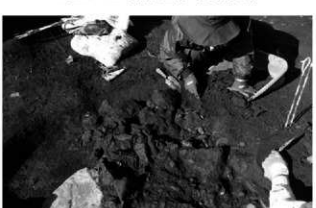
B区２　４号住居跡 炉セクション

B区２　２号集石土坑（礫・炭化物検出状況）



B区２　２号集石土坑（完堀状況）

B区２　３号集石土坑（礫検出状況）



B区２　３号集石土坑（調査風景）

B区２　３号集石土坑（完堀状況）

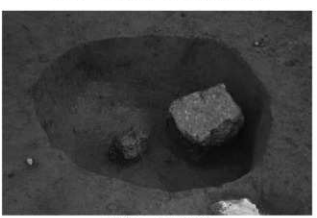
B区２　４号集石土坑（礫検出状況）

B区２　４号集石土坑（最下層礫検出状況）

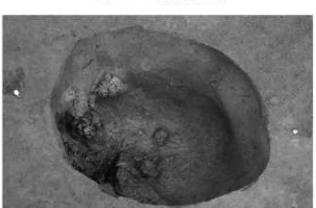
B区２　４号集石土坑（完堀状況）

B区２　６号集石土坑（礫検出状況）

B区２　７号集石土坑

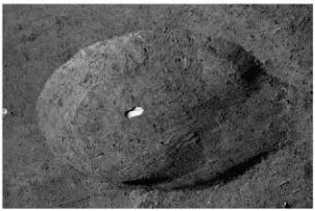


B区２　５号土坑

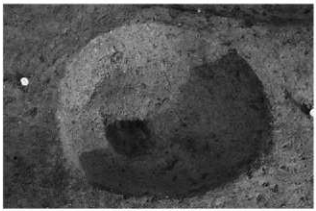


B区２　６号土坑

B区２　７号土坑

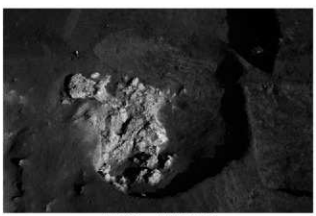


B区2　8号土坑



B区2　9号土坑

B区2　10号土坑

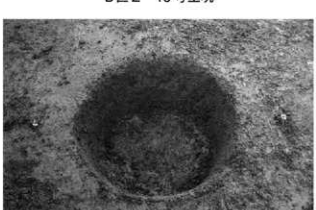


B区2　11号土坑

B区2　12号土坑

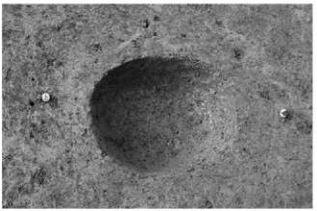
B区2　13号土坑

B区2　14号土坑

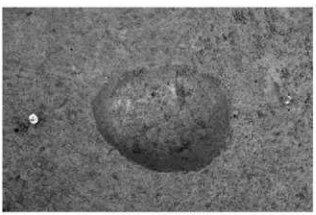


B区2　15号土坑

B区２　16号土坑

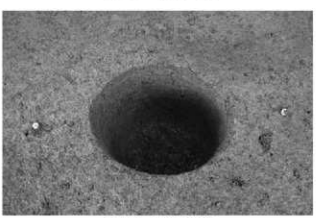


B区２　17号土坑

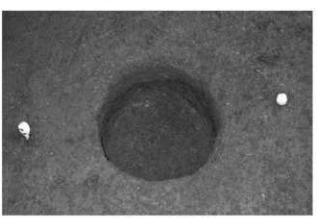


B区２　18号土坑

B区２　19号土坑

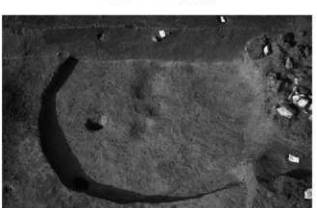


B区２　20号土坑



B区２　21号土坑

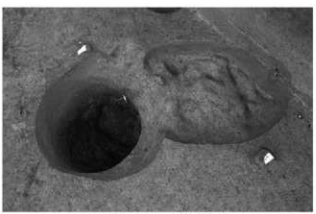
B区２　22号土坑セクション



B区２　23号土坑

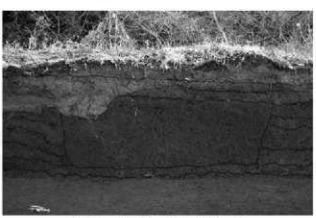
B区２　24 号土坑

B区２　25 号土坑



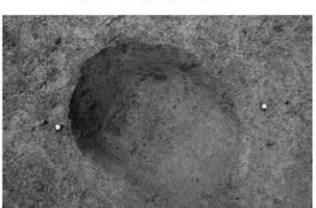
B区２　31 ～ 33 号土坑

B区２　39 号土坑

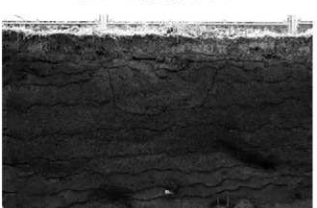


B区２　40 号土坑セクション

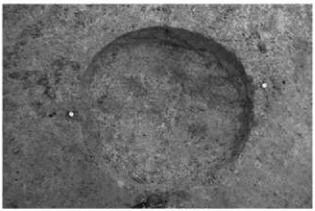
B区２　41 号土坑セクション



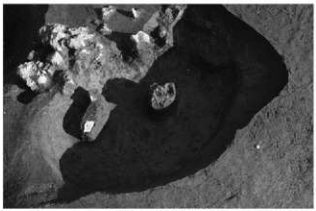
B区２　43 号土坑



B区２　44 号土坑セクション



B区２　46号土坑



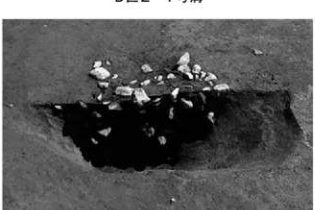
B区２　47号土坑

B区２　49号土坑

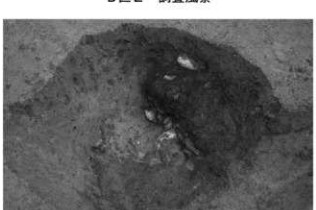
B区２　50号土坑

B区２　１号溝

B区２　調査風景



B区３　１面１号集石土坑（集石断面）



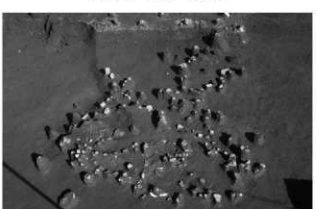
B区３　１面１号集石土坑（下層炭化物検出状況）

B区３　１面１号集石

B区３　１面２号集石

B区３　１面３号集石

B区３　１面４号集石



B区３　１面５号集石

B区３　１面５号集石下層の掘り込み

B区３　１面１号土坑

B区３　１面２号土坑

B区３　１面焼土遺構

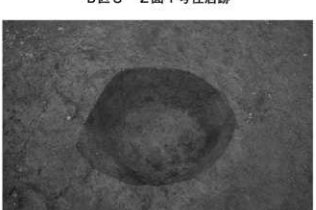
B区３　１面遺物出土状況１

B区３　１面遺物出土状況２

B区３　１面礫検出状況１

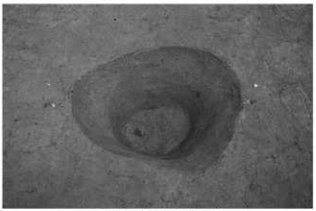
B区３　２面１号住居跡

B区３　２面１号住居跡 炉

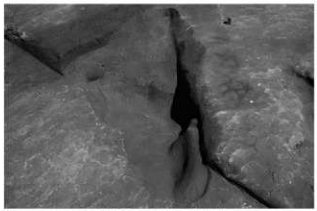


B区３　２面１号土坑

B区３　２面２号土坑

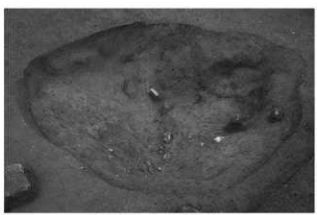


B区３　２面３号土坑



B区３　２面４号土坑

B区３　２面５号土坑



B区３　２面６号土坑

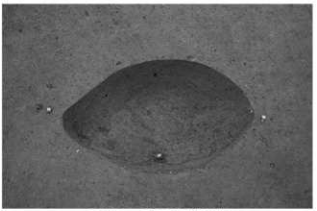
B区３　２面７号土坑

B区３　２面８号土坑（遺物出土状況）

B区３　２面９号土坑

B区３　２面 10 号土坑

B区3　2面11号土坑（遺物出土状況）



B区3　2面12号土坑

B区3　2面13号土坑

B区3　2面13号土坑（遺物出土状況）

B区3　2面13号土坑（埋甕断面）

B区3　2面15号土坑

B区3　2面16号土坑

B区3　2面17号土坑

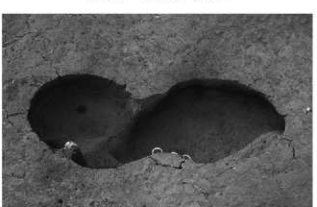
B区3　2面18号土坑

B区3　2面19号土坑（遺物出土状況）

B区3　2面19号土坑（下層礫・遺物出土状況）

B区3　2面20号土坑

B区3　2面21号土坑



B区3　2面23・24号土坑

B区3　2面25号土坑

B区3　2面26号土坑

B区３　調査区西壁・溝状遺構セクション

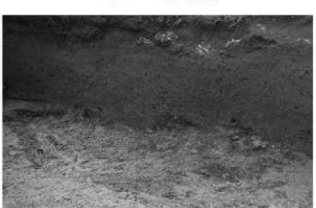
B区３調査風景

B区４　１号住居跡

B区４　１号住居跡遺物出土状況

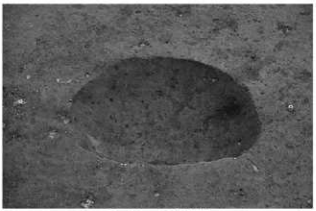
B区４　２号住居跡

B区４　２号住居跡土偶出土状況



B区４　３号住居跡

B区４　１～３号土坑・１号溝・１号ピット

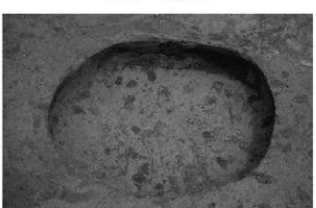


B区４　４号土坑

B区４　５号土坑

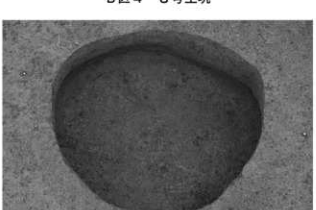
B区４　６号土坑

B区４　７号土坑



B区４　８号土坑

B区４　９号土坑遺物出土状況

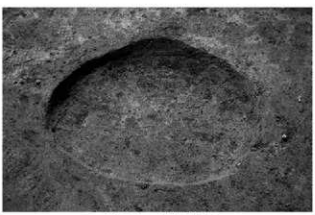


B区４　９号土坑（完堀状況）

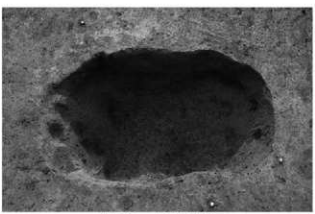
B区４　調査区東壁・10号土坑セクション

B区4　11号土坑

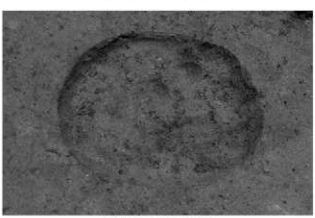
B区4　12号土坑



B区4　14号土坑



B区4　15号土坑



B区4　16号土坑

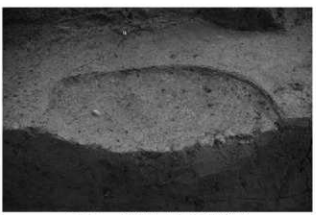
B区4　17号土坑

B区4　17号土坑遺物出土状況

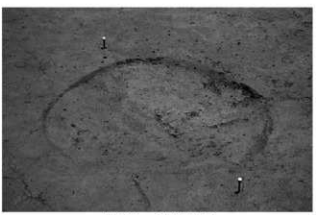
B区4　18号土坑

B区4　19号土坑

B区4　20号土坑遺物出土状況

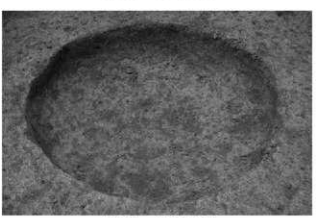


B区4　20号土坑（完堀状況）

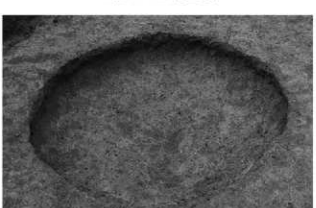


B区4　21号土坑

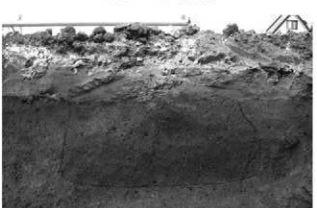
B区4　22号土坑



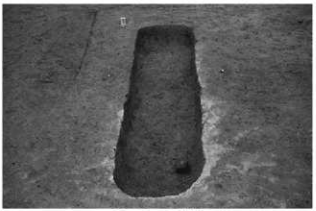
B区4　23号土坑



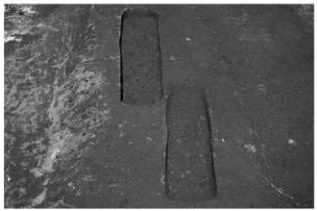
B区4　24号土坑



B区4　工事用道路下・25号土坑セクション



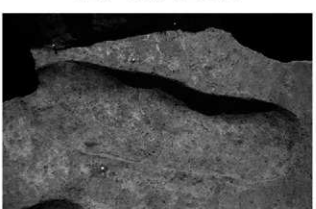
B区４　２号溝



B区４　３・４号溝

B区４　５号溝・２号ピット

B区４　６・７・11号溝



B区４　10号溝

B区４遺物出土状況（遺構外）

B区４遺物出土状況（遺構外）

B区４調査風景

B区１　１号住居跡出土遺物１（№１）

B区１　１号住居跡出土遺物２（№２）

B区１　１号住居跡出土遺物３（№３）

B区１　１号住居跡出土遺物４

B区１　１号集石土坑出土遺物

B区１　４号土坑出土遺物

B区１　35 号土坑出土遺物

B区１　５号焼土出土遺物

B区１　遺構外出土遺物１

B区１　遺構外出土遺物２

B区１　遺構外出土遺物３

B区１　遺構外出土遺物４

B区１　遺構外出土遺物５

B区１　遺構外出土遺物６

B区２　２号住居跡出土遺物１（№１）

B区２　２号住居跡出土遺物２（№12）

B区２　２号住居跡出土遺物３

B区２　３号住居跡出土遺物

B区２　４号住居跡出土遺物

B区２　４号集石土坑出土遺物

B区２　１号溝出土遺物

B区２　遺構外出土遺物１

B区２　遺構外出土遺物２

B区２　遺構外出土遺物３

B区２　遺構外出土遺物４

B区２　遺構外出土遺物５

B区２　遺構外出土遺物６

B区２　遺構外出土遺物７

B区２　遺構外出土遺物８

B区２　遺構外出土遺物（台付土器裏側）

B区２　遺構外出土遺物（石匙状土製品）

B区２　遺構外出土遺物（石匙状土製品裏面）

B区３　１面１号集石出土遺物１

B区３　１面１号集石出土遺物２

B区３　１面３号集石出土遺物

B区３　１面４号集石出土遺物１（No.９）

B区３　１面４号集石出土遺物２

B区３　１面４号集石出土遺物３

B区３　１面５号集石出土遺物１（No.９）

B区３　１面５号集石出土遺物２

B区３　１面５号集石出土遺物３

B区３　１面焼土遺構出土遺物１（No.１）

B区３　１面焼土遺構出土遺物２

B区３　１面遺物出土状況１出土遺物

B区３　１面遺物出土状況２出土遺物

B区３　２面１号住居跡出土遺物

B区３　２面３・４号土坑出土遺物

B区３　２面５号土坑出土遺物

B区３　２面６号土坑出土遺物

B区３　２面８号土坑出土遺物１（№１）

B区３　２面８号土坑出土遺物２

B区３　２面９号土坑出土遺物

B区３　２面 11 号土坑出土遺物

B区３　２面 13 号土坑出土遺物１

B区３　２面 13 号土坑出土遺物１- ２

B区３　２面 13 号土坑出土遺物２

B区３　２面 14・15 号土坑出土遺物

B区３　16 号土坑出土遺物

B区３　２面 17 号土坑出土遺物

B区３　２面 18 号土坑出土遺物

B区３　２面 19 号土坑出土遺物

B区３　２面 20 号土坑出土遺物

B区３　遺構外出土遺物１

B区３　遺構外出土遺物２

B区３　遺構外出土遺物３

B区３　遺構外出土遺物４

B区３　遺構外出土遺物５

B区３　遺構外出土遺物６

B区３　遺構外出土遺物７

B区３　遺構外出土遺物８

B区３　遺構外出土遺物９

B区３　遺構外出土遺物 10

B区３　遺構外出土遺物 11

B区３　遺構外出土遺物 12

B区３　遺構外出土遺物 13

B区３　遺構外出土遺物 14

B区３　遺構外出土遺物 15

B区４　１号住居跡出土遺物１（No.１）

B区４　１号住居跡出土遺物２

B区４　２号住居跡出土遺物１（No.６）

B区４　２号住居跡出土遺物２

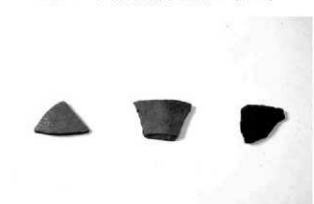
B区４　２号住居跡出土土偶足部１

B区４　２号住居跡出土土偶足部１-２

B区４　３号住居跡出土遺物１（No.11）

B区４　３号住居跡出土遺物２（No.12）

B区４　３号住居跡出土遺物３



B区４　１・５・８号土坑出土遺物

B区４　９号土坑出土遺物１（No.２）

B区４　９号土坑出土遺物２

B区４　９号土坑出土遺物３

B区４　10 号土坑出土遺物

B区４　14・15 号土坑出土遺物

B区４　17 号土坑出土遺物１（No.１）

B区４　17 号土坑出土遺物２（No.６）

B区４　17 号土坑出土遺物３（No.７）

B区４　17 号土坑出土遺物４

B区４　17号土坑出土遺物５

B区４　18号土坑出土遺物

B区４　19号土坑出土遺物

B区４　20号土坑出土遺物

B区４　１号焼土出土遺物

B区４　１・２・５号溝出土遺物

B区４　６号溝出土遺物

B区４　７号溝出土遺物

B区４　10・11号溝出土遺物

B区４　遺構外出土遺物１

B区４　遺構外出土遺物２

B区４　遺構外出土遺物２-２

B区４　遺構外出土遺物３

B区４　遺構外出土遺物４

B区４　遺構外出土遺物５

B区４　遺構外出土遺物６

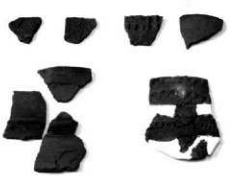
B区４　遺構外出土遺物７

B区４　遺構外出土遺物８

B区４　遺構外出土遺物９

B区４　遺構外出土遺物 10

B区４　遺構外出土遺物 11



B区４　遺構外出土遺物 12

B区４　遺構外出土遺物 13

B区４　遺構外出土遺物 14

B区４　遺構外出土遺物 15

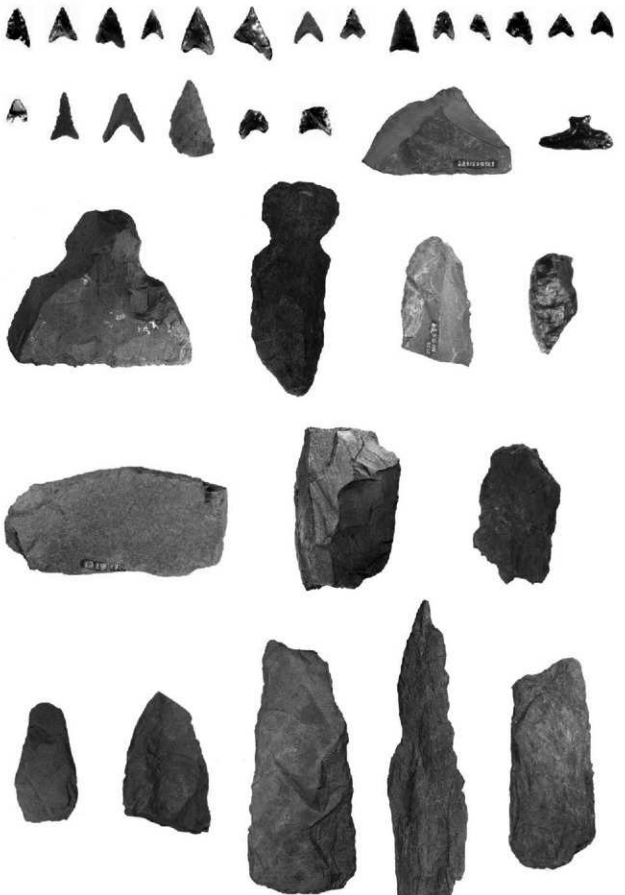
B区４　遺構外出土遺物 16

B区４　遺構外出土遺物 17

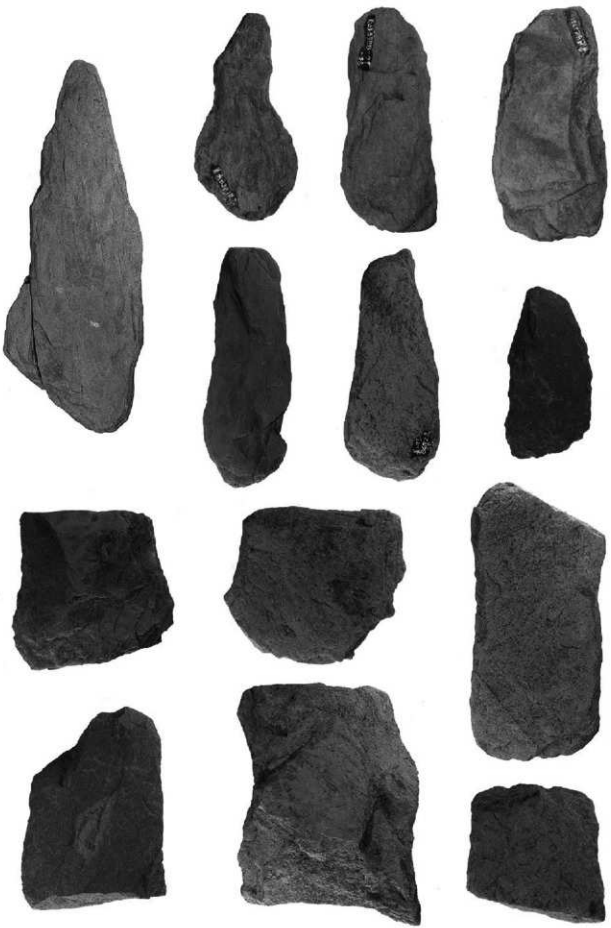
磨石・稜磨石（S 65 ～ 71）

台石（S 72･73）

石柱（S 74）

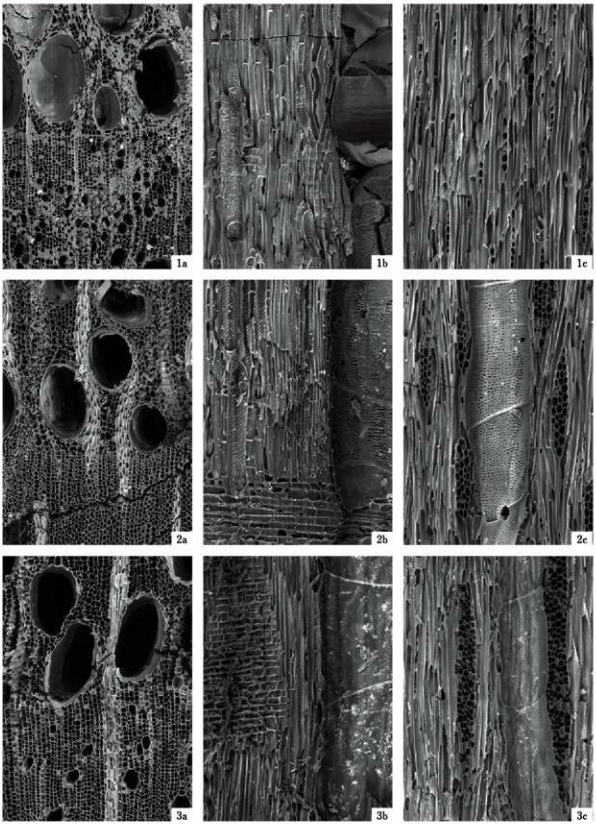


石鏃・石匙・削器・打製石斧（S 1 ～ 34）



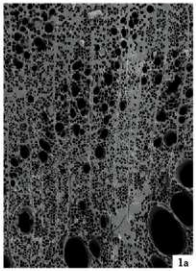
打製石斧（S 35～47）

打製石斧・礫器・摩製石斧未製品・石錐・石錘・石篦・異形石器・敲石・稜磨石・くぼみ石（S 48～64）



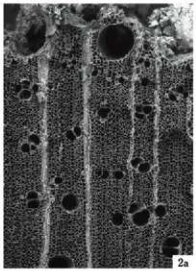
1.クリ(B区1 1号住居跡;№61)
2.キハダ(B区1　1号住居跡;№57)
3.ケンポナシ属(B区1　5号集石土坑;CA1)
a:木口,b:柾目,c:板目

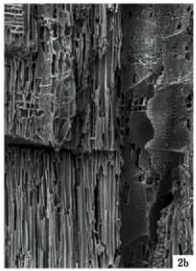
200μm:a
200μm:b,c


1a

1b

1c


2a


2b

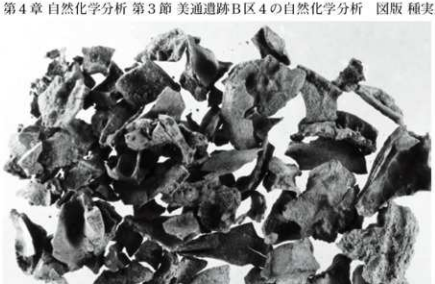
2c

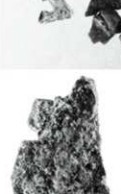
3a　3b

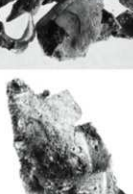
4a　4b

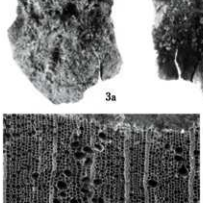
200 μm:1-2a
200 μm:1-2b,c
2mm:3,4

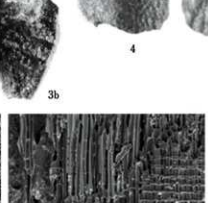
1.クリ(B区3 1号集石;D)
2.ヤマグワ(B区3 1号集石;A)
　a:木口,b:柾目,c:板目
3.ヒエ近似種 胚乳(B区3 26号土坑;B)
4.イネ科 果実(B区3 26号土坑;B)

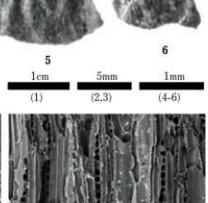












1.オニグルミ 核(B区4 3住 堅果類一括)　2.オニグルミ 核(B区4 3住 堅果類一括)
3.オニグルミ 核(B区4 9土 C-13)　4.キハダ 核(B区4 3住 堅果類一括)
5.ミズキ 核(B区4 3住 堅果類一括)　6.ミズキ 核(B区4 3住 堅果類一括)
7.クリ近似種(B区4 2号住 C-39) a:木口,b:柾目,c:板目

報 告 書 抄 録

ふりがな	みとおしいせきびーく
書名	美通遺跡B区
副書名	国道139号（都留バイパス）建設に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第275集
編著者名	依田幸浩、笠原みゆき、塩谷風季、パリノ・サーヴェイ株式会社
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地	〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町923　TEL055-266-3016
発行者	山梨県教育委員会、国土交通省 関東地方整備局
発行年月日	2011年3月25日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯（新）	東経（新）	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
みとおしいせきびーく 美通遺跡B区	やまなしけんつるしいぐら 山梨県都留市井倉地内	19204	都留31	35° 34′ 22″	138° 55′ 59″	20081016 ～ 20090115 20090803 ～ 20091030 20100527 ～ 20100818	2,620	国道139号（都留バイパス） 建設工事

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡	縄文時代早期～前期初頭	集石土坑２基 焼土遺構1基	縄文土器、石器	焼土遺構から判ノ木山西タイプの土器が出土。 集石土坑から下吉井式土器が出土。
集落跡・墓域	縄文時代前期中葉	竪穴住居跡１軒 土坑４基 集石遺構３基	縄文土器、石器	竪穴住居跡および土坑から黒浜式土器が出土。 土坑および集石遺構から釈迦堂Ｚ３式土器が出土。
集落跡・墓域	縄文時代前期後半	竪穴住居跡１軒 集石土坑２基 土坑１基、焼土遺構１基	縄文土器、石器	竪穴住居跡および焼土遺構から諸磯ａ式土器が出土。 土坑から諸磯ｂ式土器が出土。
集落跡・墓域	縄文時代前期末	竪穴住居跡１軒 土坑１基、集石遺構１基	縄文土器、石器	竪穴住居跡および土坑（建物跡か）、集石遺構から 縄文時代前期末の土器が出土。
集落跡・墓域	縄文時代中期中葉	竪穴住居跡３軒 土坑１基	縄文土器、石器	竪穴住居跡および土坑から井戸尻式土器が出土。
集落跡・墓域	縄文時代中期後半	竪穴住居跡（敷石住居） ２軒、	縄文土器、石器	竪穴住居跡（敷石住居）から曽利Ⅳ式土器が出土。
墓域	弥生時代前期末～中期初頭	土坑７基	弥生土器、石器	土坑から弥生時代前期末～中期初頭の土器・石器が出土。
	時期不明	集石土坑４基 （縄文時代早期末～前期） 土坑90基 ピット18基 焼土遺構5基 溝状遺構12条		

要約

美通遺跡は山梨県都留市井倉地内に位置する遺跡で、本書はそのＢ区の調査報告書である。調査の結果、Ｂ区からは縄文時代早期～前期初頭、前期中葉、前期後半、前期末、中期中葉、中期後半、弥生時代前期末～中期初頭の遺構・遺物が発見された。縄文時代早期～前期初頭では、焼土遺構から判ノ木山西タイプの土器が、集石土坑から下吉井式土器が出土した。前期中葉では、住居跡や土坑から釈迦堂Ｚ３式土器や黒浜式土器が出土した。前期後半では、住居跡や土坑、焼土遺構から諸磯ａ・ｂ式土器が出土した。前期末では、住居跡や土坑から該期（十三菩提式期）の土器が出土した。中期中葉では、住居跡や土坑から井戸尻式土器が出土した。中期後半では、住居跡（敷石住居）から曽利Ⅳ式土器が出土した。弥生時代前期末～中期初頭では、土坑から該期の土器や石器が出土した。

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第275集

美通遺跡 B区

国道139号（都留バイパス）建設工事に伴う発掘調査報告書

印刷日　2011年3月20日
発行日　2011年3月25日

編　集　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県甲府市下曽根町923
TEL 055－266－3016
発　行　山梨県教育委員会
国土交通省 関東地方整備局
印　刷　港北出版印刷株式会社